マンモスかなピー!! マット界にも薬物ショック!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WR

enterbrain MOOK

2009
138
特別定価940yen

拝啓 ダナ・ホワイト様 最強ですが何か? エメリヤーエンコ・ヒョードル

ヒョードルvsジョシュ戦消滅!!
永遠のロマンはどこへゆく——?

特集 最強

拝啓 格闘技団体の皆さま
視聴率やポリシーとかは
ごちゃごちゃ言わんと
一番強いヤツを観せたらいいんや! 敬具

ブロック・レスナー
GSP
長谷川穂積
永田裕志
桜井章一

日本格闘技の未来、いざ!
8.2『戦極』が大爆発でござる!!

廣田端人
金原正徳
小見川道大
國保尊弘

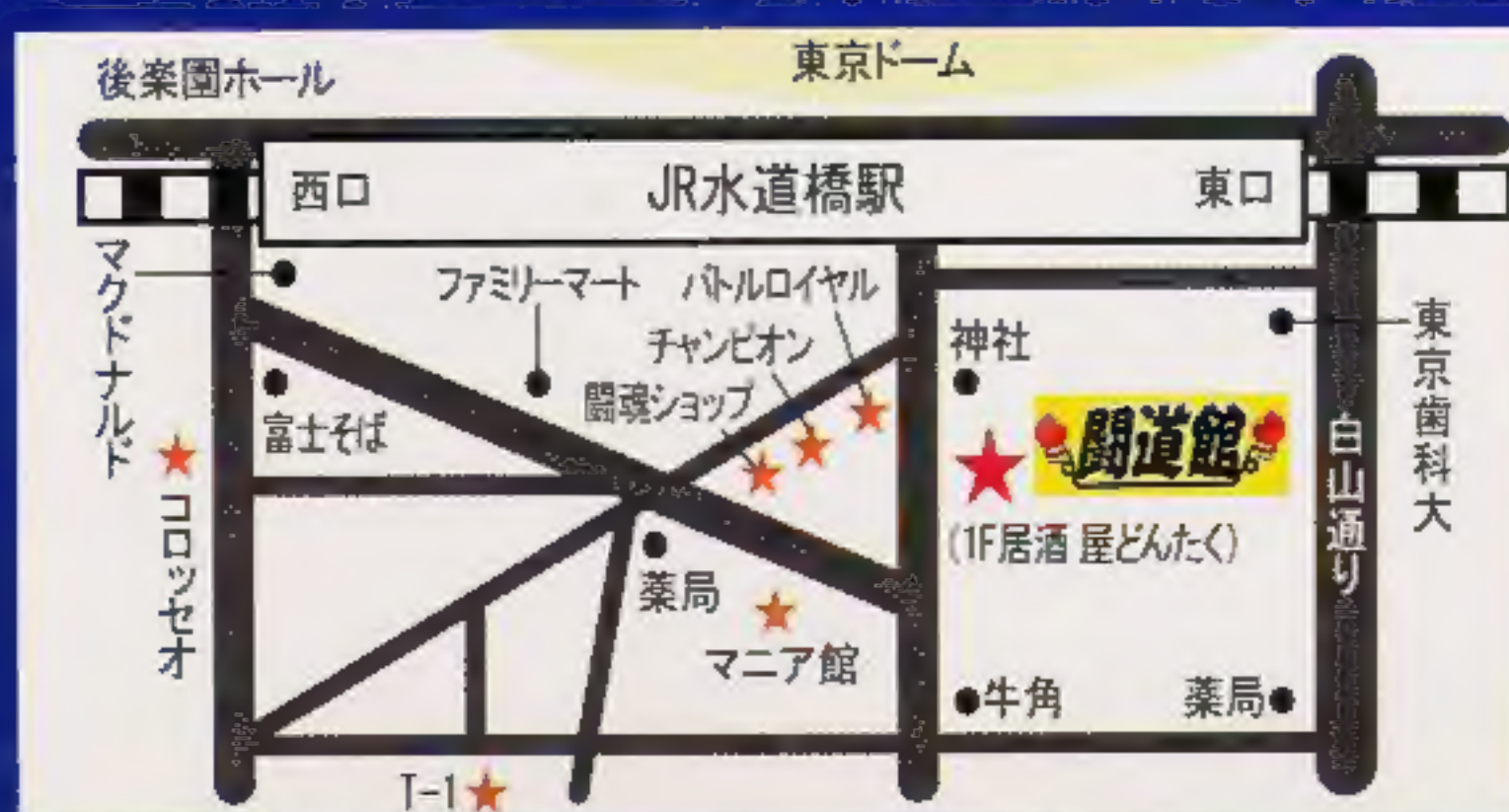
2009 No.138 CONTENTS

kamipro

表紙写真／菊池茂夫

今月のお題も中2病!?

特集 最強!

おつかれさまでしたっ!

SAIKYO

004 kamipro認定 MMAランキング
008 エメリヤーエンコ・ヒョードル
014 ブロック・レスナー
018 ジョルジュ・サンピエール
022『UFC101』座談会
024 青木真也が見たBJペンの強さとは!?
028 長谷川穂積 WBC世界バンタム級王者
048 055 080 最強考察コラム①②③
049 伝説の雀鬼 桜井章一
056 相原コージの地上最強生物論!
060 新堂冬樹『虫皇帝』総帥が語る「最強の虫」!
065 ブロック・レスナー最強論
WWE時代のレスナー／マサ斎藤／ケイン・ヴェラスケス／永田裕志
081 武道幻想はどこへ行く?
大槻ケンヂ／堀辺正史／夢枕獏／沖縄空手
094 高瀬大樹のポジティブ最強論!

MMA

033 アフリクション崩壊の真相
ジョシュ・バーネット／アスレチックコミッション／スコット・コーカー／シュウ・ヒラタ／ドクター
114 “キモ強”を破った『戦極』ライト級新王者・廣田瑞人
120 金原正徳『戦極』フェザー級王者
124 小見川道大、『戦極』GPに怒り心頭!
128 菊田早苗の“ゴールドメダリストハンター”宣言
132 國保尊弘『戦極』広報
136 嵐の8月マット界座談会

kamipro Special

097 ハッスル座談会 with 選手“去就”名鑑
108 kamipro大賞“ほぼ上半期”結果発表!
141 熱闘K-1甲子園!

Columns

103 掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』
104 椎名基樹の『サムライ三昧』
105 花くまゆうさくの『豆リングの汁』／金原弘光の『どこまでやるの!?』

特集 最強

〃最強〃を観ずにビールが飲めるか!!

世界最強――それは永遠のロマンである。
ヒョードルvsジョシュ戦が消滅したため、そのロマンは再び混沌の中へと転がり始めてしまった。

世界最強――それは永遠のロマンである。
ヒョードル vs ジョシュ戦が消滅したため、そのロマンは再び混沌の中へと転がり始めてしまった。
いいや、その〝答え〟はこのままわからなくともかまわない。
我々はそのはてしなきロマンに酔いしれるために闘いを観続けてきたのだから。

「地上最強の空手」――押忍！　極真空手!!
「世界一強いアントニオ猪木」――ダーッ!!（ヨダレ）。
「キング・オブ・スポーツ」――いいんだね？　やっちゃって！　新日本プロレス。
「世界最強の男はリングスが決める」――リングス！　よっ、前田日明！
「最強」――高田高田高田高田――っ!!!!!!!!!!
「最強は、10年かけて強くなった」――PRIDE最終興行……。
「『HERO'S』世界最強王座決定戦」――TBS（笑）。

日本の格闘技界から〝最強〟のにおいが漂わなくなってからずいぶんと経つ。
「最強」「最強」とうるさいのは、いまやTBSくらいだ。
締め切りの時間に迫られているからシンプルに書こう。
日本の格闘技界が沈滞しているのは「最強」のロマンが失なわれたからだ！　うん。
え？　暴論ですか。でも、最強を観ずにはごはんも進まなければ、
ビールを飲んで酔うこともできない。格闘技に酔いたい、ロマンに酔いしれたい。
「ゴチャゴチャ言わんと、誰がいちばん強いか決めればいいんや!!」
……と前田日明が叫んでから22年――、最強のロマンはまだ転がり続けている。

MMA WORLD RANKING

21世紀の最強幻想

kamiproがほぼ独断で選定!

階級別世界最強ランキング

いま世界のMMAシーンで、誰が一番強いのか。これだけMMAが世界に広まったいま、そして“世界最高峰”が日本になくなったいま、世界に目を向けずしてMMAは語れない。というわけで、一応提携関係にある米国老舗MMAサイト『MMA WEEKLY』の協力も得て、本誌がほぼ独断でMMA各階級のワールドランキングを制定。世界最強の男は『kamipro』が勝手に決める!(なぜだ)。

構成／堀江ガンツ　写真／乾真也、Josh Hedges(UFC)

HEAVY WEIGHT
OVER 205 POUND
ヘビー級

1 EMELIANENKO FEDOR
エメリヤーエンコ・ヒョードル[30勝1敗1NC]

2 BLOCK LESNAR
ブロック・レスナー[4勝1敗]

3 JOSH BARNETT
ジョシュ・バーネット[24勝5敗]

4 FRANK MIR
フランク・ミア[12勝4敗]

5 ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ[35勝5敗1分 1NC]

6	RANDY COUTURE ランディ・クートゥアー	16勝9敗
7	BRETT ROGERS ブレット・ロジャース	10勝1敗
8	CAIN VELASQUEZ ケイン・ヴェラスケス	6勝0敗
9	ANDREI ARLOVSKI アンドレイ・アルロフスキー	15勝7敗
10	MIRKO CRO COP ミルコ・クロコップ	25勝6敗2分 1NC

事実上の世界最強であるヘビー級ランキング1位は、もちろん"皇帝"ヒョードル。また、UFC所属選手以外で、唯一のランキング1位でもある。それだけにダナ・ホワイトが血眼になったほしがるのもわかるだろう。これに続くのが現UFC王者レスナー。怪物揃いのヘビー級にあって、現在はこの二人が飛び抜けていると言っていい。本来ならここに食い込むのがジョシュだが、ドーピングで失格選手扱いとなったため、大きく評価を下げ、MMA WEEKLYではベスト10圏外となっている。ギリギリ10位のミルコは『UFC103』でのドスサントス戦で今後の評価が完全に決まるだろう。

LIGHT HEAVY WEIGHT
205 POUND LIMIT
ライトヘビー級

1 LYOTO MACHIDA
リョート・マチダ[15勝0敗]

2 RASHAD EVANS
ラシャド・エヴァンス[13勝1敗1分]

3 QUINTON RAMPAGE JACKSON
クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン[30勝7敗]

4 ANDERSON SILVA
アンデウソン・シウバ[25勝4敗]

5 FORREST GRIFFIN
フォレスト・グリフィン[16勝6敗]

6	MAURICIO SHOGUN RUA マウリシオ・ショーグン	18勝3敗
7	ANTONIO ROGERIO NOGUEIRA アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ	17勝3敗
8	KEITH JARDINE キース・ジャーディン	14勝5敗1分
9	RICH FRANCRIN リッチ・フランクリン	25勝4敗 1NC
10	WANDERLEI SILVA ヴァンダレイ・シウバ	32勝10敗1分 1NC

UFCのスター選手がズラリと揃うライトヘビー級。その中で頂点に立つのは、ひたすら勝利を積み重ね、チャンスをものにしたUFCライトヘビー級王者リョート・マチダ。この群雄割拠の中、無敗を続けるのは大変な実力といえるだろう。注目はアンデウソン・シウバ。一階級下のミドル級王者ながら、元ライトヘビー級王者グリフィンに完勝したことで、一気にこの階級でも4位に登場。それどころか事実上のトップコンテンダーといってもいいほどだ。非UFCでは日本でもおなじみのホジェリオとババルがランクイン。"角番"のヴァンダレイはミドル級転向が濃厚だ。

MIDDLE WEIGHT 185 POUND LIMIT ミドル級

1 ANDERSON SILVA
アンデウソン・シウバ[25勝4敗]

2 YUSHIN OKAMI
岡見勇信[23勝4敗]

3 NATO MARQUARDT
ネイサン・マーコート[28勝8敗2分]

4 DAN HENDERSON
ダン・ヘンダーソン[25勝7敗]

5 JORGE SANTIAGO
ジョルジ・サンチアゴ[21勝7敗]

6	DEMIAN MAIA デミアン・マイア	10勝0敗
7	ROBBIE LAWLER ロビー・ローラー	16勝5敗 1NC
8	KAZUO MISAKI 三崎和雄	23勝9敗2分 1NC
9	VITOR BELFORT ビクトー・ベウフォート	18勝8敗
10	YOSHIHIRO AKIYAMA 秋山成勲	13勝1敗 2NC

問答無用の絶対王者にアンデウソン・シウバが君臨するミドル級。あまりに王者が強すぎるため、UFCタイトルマッチの興味が薄れるほどだが、その中でアンデウソンの次に位置するのが、日本が誇るメジャーリーガー岡見勇信。しかし、アンデウソンのライトヘビー級進出で、タイトル挑戦のチャンスはいつになったら来るのやら……。マーコート、ダンヘンに次ぐ存在が戦極ミドル級王者サンチアゴ。三崎と秋山もトップ10には入る“世界クラス”の選手だ。なおDREAMミドル級GP王者ゲガール・ムサシはライトヘビー級転向が決まっているため、ランクから外している。

WELTER WEIGHT 170 POUND LIMIT ウェルター級

1 GEORGES ST.PIERRE
ジョルジュ・サンピエール[19勝2敗]

2 JOHN FITCH
ジョン・フィッチ[19勝3敗 1NC]

3 JAKE SHIELDS
ジェーク・シールズ[23勝4敗1分]

4 THIAGO ALVES
チアゴ・アウベス[16勝4敗]

5 JOSH KOSCHECK
ジョシュ・コスチェック[12勝4敗]

6	MATT HUGES マット・ヒューズ	43勝7敗
7	MARTIN KAMPMANN マーティン・ケイプマン	15勝2敗
8	CARLS CONDIT カーロス・コンディット	22勝5敗
9	MIKE SWICK マイク・スウィック	14勝2敗
10	MARIUS ZAROMSKIS マリウス・ザロムスキー	11勝2敗

最も競技人口が多く、“神の階級”と言われるウェルター級。その中で、文字どおり“神”のような位に位置するのが、UFCウェルター級王者GSPことジョルジュ・サンピエール。GSPもアンデウソン同様、あらゆるチャレンジャーを倒してしまい、挑戦者が不足しているほどの実力を見せている。それでもベスト10は、とんでもない実力者がズラリ。日本の桜井“マッハ”速人、郷野聡寛、長南亮らには、なんとかここに食い込んでいってほしいが……。DREAMウェルター級GP出場メンバーが、ほとんどベスト10に入ってこない現実からも、日本と世界には厚い壁が感じられる。

LIGHT WEIGHT
155 POUND LIMIT
ライト級

1 B.J.PENN
BJペン［14勝5敗1分］

2 SHINYA AOKI
青木真也［21勝4敗 1NC］

3 EDDIE ALVAREZ
エディ・アルバレス［18勝2敗］

4 JOACHIM HANSEN
ヨアキム・ハンセン［19勝7敗1分］

5 TATSUYA KAWAJIRI
川尻達也［24勝5敗2分］

順位	選手		戦績
6	KENNY FLORIAN	ケニー・フロリアン	11勝4敗
7	JOSH TOMSON	ジョシュ・トムソン	16勝2敗
8	J.Z.CALVAN	J.Z.カルバン	14勝3敗1分 1NC
9	MIZUTO HIROTA	廣田瑞人	12勝3敗1分
10	FRANKIE EDGAR	フランキー・エドガー	10勝1敗

日本で最もホットな階級であり、最も世界に通用するファイターが揃っているのがライト級だ。1位にこそ“天才”の名をほしいままにするUFCライト級王者BJペンがデンと居座っているが、2位に青木真也、5位に川尻達也、9位に廣田瑞人がランクイン。このほかにも北岡、五味、石田、宇野、菊野など、日本人実力者が控えている。このホットな階級は、DREAMとストライクフォースの提携強化により、7位のストライクフォース王者トムソンやメレンデスが加わり、今後さらに盛り上がっていきそう。また、この中から“打倒BJ”に立ち上がる日本人が現れることを期待したい！

FEATHER WEIGHT
145 POUND LIMIT
フェザー級

1 MIKE BROWN
マイク・ブラウン［22勝4敗］

2 URIJAH FABER
ユライヤ・フェイバー［22勝3敗］

3 WAGNNEY FABIANO
ワグニー・ファビアーノ［12勝1敗］

4 HATSU HIOKI
日沖 発［20勝3敗2分］

5 LEONARD GARCIA
レオナルド・ガルシア［13勝4敗］

順位	選手		戦績
6	JOSE ALDO	ホセ・アルド	15勝1敗
7	DOKONJYONOSUKE MISHIMA	三島☆ド根性ノ助	19勝6敗2分
8	LION TAKESHI	リオン武	16勝3敗
9	MASANORI KANEHARA	金原正徳	14勝6敗5分
10	MICHIHIRO OMIGAWA	小見川道大	7勝8敗1分

今年、DREAMと『戦極』がともにグランプリを開催したフェザー級。ただ、同じヴェザー級でも『戦極』が世界基準である145ポンド（約65キロ）以下なのに対し、DREAMは135ポンド（約62キロ）以下で行なわれたため、ここではDREAMフェザー級GPの戦績は、除外させてもらった。この階級最大のスターは“カリフォルニアキッド”ユライヤ・フェイバーだが、1位はそのユライヤを二度下したWEC王者ブラウン。日本の日沖もそれに次ぐ位置につけ、金原正徳と小見川も先のグランプリで大きく評価を上げた。修斗王者リオンとDEEP王者の三島もランクインしている。

ＰＲＩＤＥが消滅しても〝60億分の1世界最強の男〟という称号だけは、この男か

EMELIANENKO FEDOR

独占インタビュー

「最強を証明するために闘っているわけではありません」

エメリヤーエンコ・ヒョードル

with ワジム・フィンケルシュタイン M-1グローバル代表

「最強」特集に絶対に欠かせないファイターといえば、やはりこの男しかいないだろう。
“60億分の1最強の男”エメリヤーエンコ・ヒョードル。UFCの軍門に下らず、頂点に君臨し続ける“皇帝”は、
『アフリクション』消滅を機にストライクフォースと契約した。はたしていまヒョードルは何を考えるか。
独占インタビューでお届けしよう。

聞き手／堀江ガンツ　通訳／EKATERINA KORSAKOVA　協力／M-1グローバル

PRIDEが消滅しても〝60億分の1世界最強の男〟という称号だけは、この男から誰も奪うことはできない。UFCが隆盛を極め、世界中のトップファイターがすべてオクタゴンに集まっても、ヘビー級ランキング1位の座だけは、決して譲らない。まさに〝ロシアン・ラストエンペラー〟それがエメリヤーエンコ・ヒョードルだ。

本来なら8月1日『アフリクション』で、ジョシュ・バーネットとヘビー級頂上対決を闘うはずだったヒョードルだが、ジョシュがドーピングテストで陽性反応が出てしまい出場停止となったために、試合は中止。これを受けて『アフリクション』の大会自体も中止となり、またアフリクションはこれを機にMMA興行から撤退を表明。ヒョードルは急遽、次なる戦場を求めることとなった。

これによってついにヒョードルのUFC参戦が実現するかと思われたが、あくまで「イベント共催」を求めるM―1グローバル側と、選手契約のみを求めるUFC側の意見は平行線をたどり、交渉決裂。その後、「イベント共催」の条件を飲んだ米国第2のMMA団体ストライクフォースとの契約締結に至った。

はたしてヒョードル本人は、ジョシュ・バーネット戦消滅、UFCとの交渉決裂、そしてストライクフォース参戦をどう考えているのか？

本誌は協力者を通じてM―1グローバルとコンタクトを取り、ヒョードルとM―1グローバルのワジム代表にインタビューを了承してもらった。

『アフリクション』中止からストライクフォース参戦決定まで、どんなことがあったのか。そして今後のヒョードルはどう

いった闘いを見せていくのか？　世界最強の男は、いつものように微笑みながら静かに語ってくれた。

――では、M―1グローバルのワジム代表に同席していただき、ストライクフォース参戦が決定したヒョードル選手にインタビューしていきたいと思います。まずは今秋よりストライクフォースへの参戦が決定しましたが、いまの心境を聞かせてください。

ヒョードル　ストライクフォースと素晴らしい契約が結べて、非常にうれしく思います。これによって、再びファンの前で闘う姿が見せられることを楽しみにしています。

ワジム　今回の契約はM―1グローバルとしても、大変満足しています。この同盟関係は、MMAというスポーツをさらに発展させることになるでしょう。

――今回、ヒョードル選手の新たな戦場として、またM―1の新しいパートナーとしてストライクフォースを選んだ理由を教えてください。

ヒョードル　ストライクフォースは、非常に優れたシリーズであり、UFCよりよい条件を提示してくれたことが理由です。

ワジム　ストライクフォースは急速に発展している組織です。私の考えでは、UFCに負けないどころか、より大きくなる可能性を秘めていると感じています。大手ケーブルテレビのSHOWTIMEと、米国4大ネットワークの一つであるCBSテレビという素晴らしいテレビディールを持っていることが、その大きな理由の一つと言えるでしょう。そしてM―1もヨーロッパやアジアで多くのテレビ局との契約を持っています。そういった意味でも、我々の同盟は、アメリカだけでなく、世界レーベルでのMMA発展の大きなステップになると思っています。

――今回のストライクフォースとの契約前、8月1日に予定されていたジョシュ・バーネット戦が、ジョシュのドラッグテスト失格により中止になってしまったわけですが、この件についてどう思っていますか？

ヒョードル　試合が中止となってしまったことについて、非常に残念に思っています。バーネットは強い選手であり、私自身、この試合を楽しみにしていましたからね。また、世界中の多くのファンをガッカリさせてしまいました。

ワジム　私もヒョードルもステロイドを使って能力を向上させる選手をよく思っていません。バーネットが今回、その過ちを犯してしまったのなら、とても残念に思います。

――今回の試合中止により、ヒョードル選手とジョシュ・バーネット選手の友情にヒビが入ることはありますか？

ヒョードル　いいえ。プライベートな感情と試合は別です。私たちのフレンドシップはこれからも続きます。

――バーネット戦中止はいつどのようなかたちで知りましたか？

ヒョードル　試合出場のためにアメリカに着いてから知りました。

　それは驚いたでしょうね。かなりガッカリしたんじゃないですか？

ヒョードル　もちろん残念な気持ちでいっぱいでした。それでも、違う相手と闘うものだと思い、気持ちを入れ替えて試合に挑むつもりでしたが、その後になって『アフリクション』の大会自体が中止になると弁護士から聞かされ、あらためて驚くと同時に残念に思いましたね。

ワジム　今回の大会中止は、我々に対してなんの相談もなく、アフリクションが独断で決めてしまったものなんです。我々は今回の試合について、世界数カ国のテレビチャンネルとの契約を持っていましたから、非常に困惑しました。

――あ、ワジムさんすら知らなかったんですか。では、今回の大会中止に対して、アフリクション、もしくはジョシュ・バーネットに対して損害賠償を求める考えはありますか？

ワジム　いま、我々の弁護士がその件を調べています。訴える相手が誰になるかはともかく、賠償責任を求めることになるでしょう。

大富豪ドナルド・トランプらも記者会見に登場し、華々しくスタートした「アフリクション」。しかし、ファイトマネー払いすぎ問題などもあり、軌道に乗らぬまま、わずか２大会で終了することとなった。

ヒョードル契約までの経緯

７月22日
ジョシュ・バーネットがドーピングテストで陽性反応が出たため、カリフォルニア州アスレチックコミッションからMMAライセンスが降りず、8.1『アフリクション』欠場が決定。ヒョードルvsジョシュ戦が消滅する。

その後、急遽ヒョードルの代替選手探しが始まり、ビクトー・ベウフォート、ブレット・ロジャースら、さまざまな選手の名前が挙がる。

７月24日
「アフリクション」の大会自体の中止が決定。母体となるアパレル企業アフリクションは、MMA興行からの撤退も表明し、UFCのスポンサーに復帰を発表する。これによってヒョードルの試合は消滅。

７月27日
M-1グローバルがロサンゼルスで記者会見を開く。今後について、具体的な発表はなく、UFCを含めたパートナー探しの最中であることが明かされる。

７月28日
ロサンゼルスタイムスが「ヒョードル、UFC参戦」と報じる。「金曜日（31日）のUFC会見で発表」という記事に、MMA界は騒然。

７月30日
ヒョードルはロシアに帰国。ロサンゼルスタイムスが報じた「金曜日の会見」には事実上出席が不可能となる。

７月31日
ダナ・ホワイトがテレカンファレンスで、ヒョードル参戦交渉が決裂したことを激白。「ヒョードルは世界のトップファイターと闘いたがってない」「大会の共催なんてバカげた要求は飲めない」とまくしたてた。

８月４日
ストライクフォースがヒョードルとの３試合契約を正式発表。

8.1『アフリクション』の中止を受けて、7月29日にロサンゼルスで行なわれたM-1グローバルの会見では、UFC参戦が発表されるかと思われたが、具体的な発表はなし。このあと交渉は決裂し、ストライクフォースとの契約が締結された。

EMELIANENKO FEDOR

試合とプライベートの感情は別です。今後もジョシュとの友情は続きます

――アフリクションはMMAイベントから撤退し、UFCのスポンサーに復帰しましたが、今後、M-1とアフリクションの関係はどうなりますか?

ワジム　アフリクション・エンターテインメント(アフリクションのMMA興行部門)は、もう存在しません。ライバル(UFC)に対し何もできずに、一切の活動を中止しました。ですから、アフリクションとの関係はもう何もありません。そして、この一方的な契約破棄に対して、我々の弁護士が現在、交渉を行なっています。

――協力関係は完全に解消されてしまったんですね。ヒョードル選手とバーネット選手の試合は、いまでも多くのファンが実現を望んでいるカードです。ストライクフォースや日本の大晦日等で、このカードがあらためて実現する可能性はありますか?

ワジム　もちろん、いつか実現する可能性はあります。ただ、いますぐではありません。今回のドラッグテスト失格により、バーネットには向こう1年間、カリフォルニア州からのライセンスが発行されないと聞いています。そうなった場合、ほかの州も追随するようですから、少なくともアメリカ国内で近々行なわれることはありません。

――ヒョードル選手自身は、バーネット選手との対戦実現について、どう思っていますか?

ヒョードル　まだこの試合については、どこからもオファーはありませんが、対戦が組まれたら、ぜひ闘いたいと思います。今回も私自身、ジョシュとの対戦を楽しみにしていましたからね。

――ストライクフォースで闘ってみたい相手は誰ですか?

ヒョードル　相手は誰でもいいです。ストライクフォースにもいい選手がたくさんいると聞いていますから、ベストな相手を選んでくれると思います。

――UFCとの契約がまとまらなかったために対戦は実現しませんでしたが、ヒョードル選手はブロック・レスナーをどう評価していますか?

ヒョードル　いい選手です。彼の試合のビデオを観ましたが、とても興味深い闘いをする選手ですね。

――もし、将来的にレスナーとの試合が実現したら、あなたのキャリアで最も厳しい闘いになると思いますか?

ヒョードル　私はすべての試合に対して準備しているとき、それが最も厳しい試合になると思ってトレーニングを行ないます。ですから試合に向けての気持ちは、レスナーであろうと、誰であろうと変わりません。

――UFCのダナ・ホワイト代表は「ヒョードルは世界のトップファイターと闘いたくないから、UFCと契約をしなかった」と言っていますが、こういった発言についてどう思いますか?

ヒョードル　彼のそうした発言はいつものことですし、いまさら誰も信用しないでしょう(微笑)。UFCと契約しなかったのは、単に条件がよくなかったからです。

彼（ダナ）の悪口はいつものことですし誰もその発言を信用しないでしょう

EMELIANENKO FEDOR

——「世界最強を証明するためには、UFCのオクタゴンに上がるしかない」とも言っていますが、その意見についてはどう思いますか？

ヒョードル　私は世界最強を証明するために闘っているわけではありません。強い選手との素晴らしい試合をファンに見せたい、それだけです。

ワジム　ヒョードルが世界最強を証明する必要はないでしょう。逆に私は言いたいですね。「ヒョードルを倒さずして、世界最強は名乗れない」と。そして、世界中のファンが私と同じことを思っていることでしょう。

——一部でUFCから巨額のオファーがあったように報道されましたが、そういった事実はなかったようですね？

ヒョードル　はい。UFCがインターネットを使い、デマを流したと聞いています。もし噂どおりの条件（総額30億円契約）が提示されていたら、サインしていた可能性もあります。

ワジム　じつを言うと、ファイトマネーだけでなく、UFC側がインタビューなどで言いだしている契約内容について、我々はなんの提案もされていません。彼らは我々をピエロにしようとして、デタラメばかりを言っているのです。そもそもヒョードルは、すでに5人のUFC王者を倒しています。4勝1敗という平凡な記録しか持っていない選手（レスナー）を相手に実力を証明する必要は本来ありません。しかし、ファンがヒョードルとUFC現役王者との対戦を望むのなら、その試合に反対はしません。

——実績で考えたら、ヒョードル選手がわざわざ出向く理由は何もないわけですよね。

ワジム　ハッキリさせておきたいのですが、我々はUFCに入りたいわけではないんです。UFCがヒョードルをほしがっているんです。UFCはヒョードルの世界的価値をじつはよくわかっています。UFCはヨーロッパ、ロシア、日本ではあまり人気がありません。そして、それらの地域でヒョードルは、たった一人でUFC全体以上の人気を誇っています。ですから、今回の交渉も、我々からUFCに対して提案したり、サポートをお願いしたりしたことはありません。UFCから提案があったんです。そして、UFCが提案した向こうのチャンピオンとヒョードルを闘わせることには反対ではありません。一緒にその試合を行なうためのイベントを行ないたいと思い、我々もそのイベントに投資したいというだけです。共催と言っても、UFCのDVDやTシャツの権利に興味があるわけではありません。あくまで一緒に大会を開きましょう、というだけです。

——UFCとの契約でネックとなったのは、そのイベントの共同開催だったと思いますが、M-1が共催にこだわる理由と、UFCがなぜその条件が飲めないのか、説明していただけますか？

ストライクフォースのケージで闘うことに対してまったく不安はありません

ワジム　まずヒョードルはフリーエージェントの選手とは立場が違います。ヒョードルはM―1契約選手であると同時に、M―1グローバル（という団体）の共同オーナーの一人なのです。

――だからこそ、UFCという興行会社とヒョードルという個人の契約ではなく、団体間の交渉になる、というわけですね。

ワジム　ですから、我々はUFCからの「ヒョードルをオクタゴンに上げたい。UFCのチャンピオンと闘わせたい」という提案に対して、UFC、M―1の両者が同じ条件で出資して、イベントを行うことを提案しました。しかし、UFCはそれにには興味がないようです。UFCはMMAのすべてを独占することしか考えていないのです。

――UFCは他の団体と協力するという発想自体がない、と。

ワジム　MMAはすでに世界各国で行なわれているスポーツです。一企業が独占で行なうものではありません。ですから我々、M―1グローバルは今回ストライクフォースと契約を結びましたが、それだけでなく、世界各国の様々なシリーズと交流を持っているのです。だから、世界各国の団体、プロモーターは、我々にとって〝ライバル企業〟ではなく、ともにMMAを世界で開催するためのパートナーたちだと思っています。ところが、UFCだけは、世界中の団体の存在は認めず、自分たちでMMAを独占することしか頭にありません。事実、UFCはPRIDEシリーズを潰しました。そして、それによってあれほどの隆盛を誇った日本のMMA市場自体を冷え込ませました。ダナ・ホワイトはUFCが日本に進出できないことを日本人のせいにしていますが、責任はUFC自身にあります。UFCが日本の市場自体を壊してしまったのです。

――そういった面は確かにあるでしょうね。

ワジム　以上のことから、私はUFCのやり方が、MMAを発展させるものとは思えません。ですから、ストライクフォースやDREAMを始めとした協力者とともに、これからもMMAの発展に尽くしたいと思っているのです。

――なるほど。では、将来的にもヒョードル選手がUFCに上がることはなさそうですか？

ワジム　UFCが戦略を変えて、世界のMMA団体と交流を行なうようになれば可能です。ただ、いま現在はヒョードルもストライクフォースでの試合に集中しています。

――アメリカのメディアの中には「ヒョードルはワジムの操り人形だ」といった論調で、今回の決定を否定する記事を書いているところもあります。

ヒョードル　それはまったくデタラメな記事ですね。私の試合についての最終決定権は私自身にあります。私はワジムを信頼しているから、交渉をまかせているにすぎません。

ワジム　そういった記事は、すべてUFC側の発言を鵜呑みにしたものでしょう。今回わかったことは、彼らは我々をおとしめるためには、平気でデタラメな嘘をつくということです。

EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ウクライナ出身。2000年にリングスでデビュー。ヘビー級と無差別級の二冠王となったのち、02年よりPRIDE参戦。PRIDEヘビー級王者となる。現在はWAMMA世界ヘビー級王者に君臨。182cm、104kg。

――では、今後の試合についてうかがいたいのですが、ストライクフォースではリングではなくケージ（金網）での試合になりますが、ヒョードル選手はケージで闘うことへ不安はありませんか？

ヒョードル　不安はありませんね。私にとって、リングでもケージでも構いません。

――秋にストライクフォースで闘うために、ケージで練習する予定はありますか？

ヒョードル　はい。サンクトペテルブルグにあるM―1のジムには、ケージがありますから、そこでスパーリングをすることになります。

ワジム　ご存知のとおり、M―1はケージでの試合を開催したこともありますから、ヒョードルの周りにはケージを経験している選手もたくさんいます。ヒョードル自身、これまでもケージで練習はしていましたから、リングからケージに変わることをそれほど心配してはいません。

――今年の大晦日、ヒョードル選手が日本で試合をする可能性はありますか？

ワジム　先ほども言ったように、我々、M―1グローバルは様々な団体と交流ができるオープンな状態にあります。ですから、それが実現するかどうかは、DREAM次第でしょう。ただ、私もヒョードルも日本での試合がとても好きですし、大晦日に試合をすることは、すでに伝統にもなっています。ですから、今年の大晦日も日本で『M―1 YARENNOKA（やれんのか！）』のようなイベントを共同開催できることを楽しみにしています。

――では、ヒョードル選手。最後に日本のファンにメッセージをお願いします。

ヒョードル　日本のみなさん、おひさしぶりです。いつも応援していただき、ありがとうございます。このところ、みなさんにお会いできなく、寂しく思っています。ぜひ、近いうちに日本でも試合をしたいと思いますので、再会を楽しみにしています。日本は大変、蒸し暑いと思いますが、お体に気をつけて（微笑）。

――では、ストリクフォースでの試合、そして日本マットへの再登場を期待しております！

【09年8月8日／ロシア・サンクトペテルブルグのM―1レッドデビル本社と国際電話をつなぎ収録】

21世紀の

その圧倒的強さ、破天荒な発言、そして強烈なオーラにより、トップファイター揃いのUFCの中でも、最大級の存在感を見せているブロック・レスナー。

BROCK LESNER

独占インタビュー

「UFCヘビー級こそ最強 つまり最強とは俺のことだ!」

UFC世界ヘビー級王者
ブロック・レスナー

**昨年2月のUFCデビュー以来、その巨体とパワーを武器に暴れ回り、
あっという間にUFCの頂点である、ヘビー級王座に君臨したブロック・レスナー。
この強さと存在感、そして幻想を兼ね揃えた男を『kamipro』が独占キャッチ!
WWE、UFC、そしてヒョードルについて語ってもらった。**

聞き手／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　撮影／Josh Hedges(UFC)

その圧倒的強さ、破天荒な発言、そして強烈なオーラにより、トップファイター揃いのUFCの中でも、最大級の存在感を見せているブロック・レスナー。

MMAキャリアわずか5戦で、UFCヘビー級王座に君臨するそのポテンシャルは底知れず、いま最も幻想を抱かせるファイターでもある。

また元WWEスーパースターというキャリアも興味深い。

プロレスラーからMMAに転向したレスナーの目に、UFCはどう映っているのか。逆にWWEでのキャリアをどうとらえているか。そしてヒョードルについては、どう評価しているのか。聞きたいことは山ほどある。

しかし、レスナーはUFCファイターの中でもインタビューが最も難しい選手の一人。マネージメントのメディアコントロールが厳しく、独占取材となると、コメント一つ取るのにも苦労する存在なのだ。

それでもマネージメント側と粘り強く交渉した結果、ついにレスナーの電話インタビューに成功!

怪物ブロック・レスナーの貴重な生の声を独占でお届けしよう!

――ミスター・レスナー、インタビューを受けていただき光栄です!　まずは、あなたの友人であるマサ斎藤、ミチ斎藤夫妻から「世界チャンピオン、おめでとう」という言葉を預かってきたので、それを伝えさせてください。

レスナー　オー、マサ&ミチからのメッセージ、とてもうれしいよ。ぜひ「ありがとう!」と伝えてくれ。マサとミチは素晴らしい人間だし、俺にとっても最高の友だちなんだ。

08年2月のUFCデビュー以来、その巨体を活かしたド迫力の闘いぶりで、毎試合、強烈なインパクトを残しているレスナー。元WWEスーパースターらしく、ファイトだけでなく、パフォーマンスやオーラもほかのMMAファイターとはひと味もふた味も違う。この異物感と存在感もレスナーの魅力だ。

ヒョードル？ 誰だい、そいつは？ 俺を倒すことしか最強は証明できない

——しっかり伝えておきます。

レスナー　よろしく頼むよ。

——では7・11『UFC100』でのフランク・ミア戦の話から聞かせてください。パーフェクトな試合運びだったと思いますが、タックルでテイクダウンして、グラウンドでハーフガードからのパウンドというのは作戦どおりでしたか？

レスナー　ああ、作戦どおりの展開になったね。試合に向けてのインタビューで、メディア連中に公言していたとおりのゲームプランだよ。テイクダウンして、すぐにフィニッシュできるようにミアをコントロールしてね。まさにそのとおりだと思うだろう？

——そうですね。それにしても、あれだけのワンサイドゲームになるとは驚きでした。一回目のミア戦では、あなたは高熱を出していたというのは本当ですか？

レスナー　俺はミアとの最初の試合について、言い訳をするためにこのインタビューを受けた訳じゃないよ。あの敗戦にはほかの要因があったのは事実だけど、誰にだってそういうことはあるだろうし、それはファイトゲームの一部なんだ。あの試合では、俺がどうしようもないミスを犯してしまって、ミアにつかまってしまったのさ。単純な話だよ。まあ、ミスをして「敗北」なんていう屈辱的な結果を突きつけられたおかげで、あの試合から得たものは大きかったけどね。

——では今回、『UFC100』という記念大会で、メインイベントを務めたことについて、どう感じていますか？

レスナー　『UFC100』は最高のイベントになったね。すべてのファイトカードが、ファンに伝わるものがあったんじゃないか？　とにかく、その記念すべき大会に参加でき、しかもメインイベントを務められたことは、とても光栄なことだよ。

——ところが、ミア戦後のあなたのマイクでの発言を多くの人が批判しています。僕たちはエンターテインメントとしての発言だと思っていますが、あなたはどのような考えのもと、過激な発言をしているのですか？

レスナー　どんなことを言ったって、そういうヤツらには批判されるものさ。だから何を言われようが、俺はまったく気にしてない。

——では、どういった考えで過激な発言をしているのでしょう？

レスナー　過激な発言？　べつに俺はそうは思ってない。俺が試合のこと以外に考えていることなんてないさ。試合前は相手をぶっ倒すことだけにフォーカスしていたし、その試合に関して言いたいことは全部試合前に言ったんだ。まあ、試合後の発言については、この17カ月間、ミアにリベンジすることしか考えてしなかったこともあって、アドレナリンも伴なって、気持ちが高揚していたんだろうな。それだけのことさ。

——こういったことがあると、必ず「UFCはWWEとは違うんだ」というようなことを言われます。あなたがUFC王者に

レスナー　だから、ダナも俺と契約したんだろう。これだけの肉体を持ち、スピードも兼ね揃えたファイターはいない。MM

たいし、またベストのUFCヘビー級チャンピオンであったと、ファンのみんなの記憶に永遠に残るようになりたいね。

なったいまでも、〝元WWEスーパースター〟と呼ばれることについて、どう思いま

毎週試合をする経験をしたことがあるMMAファイターなんて、いないわけですもんね。

なったいまでも、"元WWEスーパースター"と呼ばれることについて、どう思いますか？

レスナー　好きなように呼んでくれればいいさ。俺は「ブロック・レスナー」だ。そこさえ間違ってくれなければね。

——WWEでのキャリアは、競技者としてのあなたには関係のないことかもしれませんが、プロフェッショナルとしてのあなたには、多大な助けになっていると思います。WWEでのキャリアはあなたにとって必要な経験でしたか？　それとも回り道でしかありませんでしたか？

レスナー　MMAファイターになるのに、WWEのキャリアは必要ないことだろう。でも、俺は後悔してないさ。もし大学を卒業したときに、UFCが自分の"本物"の選択肢としてあったのなら、すぐにMMAファイターになっていただろうし、成功も収めていたと思う。しかし、当時の自分にはWWEだけが"間違いないもの"に見えたんだ。そしてプロレスリングをやったおかげで、カメラの前でパフォーマンスすることにも、また大勢のファンに試合を楽しんでもらうことにも慣れた。今後のことを考えても、俺にとってかけがえのない経験になっているとは思うよ。

——あれだけの大観衆の前で、毎週試合をする経験をしたことがあるMMAファイターなんて、いないわけですもんね。

レスナー　ああ。毎週毎週、テレビを通じて、世界中の億単位の人間が俺の試合を観ていたんだ。こんなMMAファイターは世界中探しても俺しかいないだろうし、だからこそ俺は特別なんだ。単なるMMAファイターじゃなくて、「ブロック・レスナー」なんだよ。

——あなたの世界中での知名度は、UFCの世界進出にも大きな助けになりそうですね。

俺は単なるMMAファイターじゃない。「ブロック・レスナー」なんだよ！

7/11「UFC100」でミアを破ったあと、オクタゴン上でのインタビューで「(UFCスポンサーの)バドライトは俺に何もしてくれないから、今日はこれからクアーズライトを飲むぞ！」と発言し、大問題に。その直後のプレスカンファレンスでは、ご覧のようにバドライト片手に現われ、「朝までバドライト飲むから、さっきの発言は許してくれ」と笑顔で発言。いちいち嵐を巻き起こす男だ。

BROCK LESNER

レスナー　だから、ダナも俺と契約したんだろう。これだけの肉体を持ち、スピードも兼ね揃えたファイターはいない。MMAを知らない国の人々も、俺のファイトを観たら、誰だって驚くはずさ。

——あなたが真のヘビー級最強であることを証明するために、倒さなければいけない相手がいると思いますか？

レスナー　俺はUFC統一世界ヘビー級チャンピオンだよ。俺が世界でベストのファイターなんだ。もし、ほかの誰かが「ベストのヘビー級ファイターだ」って言いたいなら、UFCに来るしかないし、UFCのオクタゴンで俺を倒すことしか、証明する方法はないんだよ。

——エメリヤーエンコ・ヒョードルについて、どう評価していますか？

レスナー　ヒョードル？　誰だい、そいつは？

——多くのMMAサイトやMMAファンが、UFC世界王者のあなたではなく、MMAワールドランキングの1位としている選手です。この現状についてどう思いますか？

レスナー　そういうことは、一切気にも留めていない。世界ナンバーワンのファイターは、闘って決めるものであって、メディアが頭の中で決めるもんじゃないんだ。

——もしヒョードルがUFCに来たら、闘う準備はありますか？

レスナー　俺はUFCが組んだ相手と試合をするだけだ。誰が相手であろうと関係ないし、誰が相手でも倒す自信は当然ある。

——UFCヘビー級の統一王者となったあなたの次の目標はなんですか？

レスナー　これからもUFC世界ヘビー級チャンピオンとして連勝を重ねていきたいし、またベストのUFCヘビー級チャンピオンであったと、ファンのみんなの記憶に永遠に残るようになりたいね。

——現時点での世界最強のファイターは誰だと思いますか？

レスナー　さっきも答えただろう？　UFCヘビー級チャンピオンである俺のことさ！

——では最後に。日本のファンは、あなたがWWEスーパースターだったときから知っています。ファンへメッセージをお願いします。

レスナー　WWE時代から数えて、10年近くも自分のことを気にかけてくれて、とても感謝している。日本のファンは、いつでも我々に敬意を払ってくれるし、サポートしてくれている、本当にありがとう。この勢いで、UFCがもっと巨大なプロモーションとなれば、近い将来、日本のファンの前で、ライブで試合を見せることができるかもしれないんだ。その日が来るまで、今後も引き続きサポートしてくれることを祈っているよ。

【09年8月7日　電話取材にて収録】

BROCK LESNER■1977年7月12日、米国サウスダコタ州出身。ミネソタ州立大学時代にNCAAレスリング王者となり、大学卒業後、プロレスラーとなり02年にWWE登場。世界王者となるが、04年にWWEを退団。07年の「Dynamite!! USA」でMMAデビュー。08年2月からUFCに参戦。同年11月「UFC91」でランディ・クートゥアーを破りUFCヘビー級王座奪取。今年7月の「UFC100」では、暫定ヘビー級王者フランク・ミアを破り、ヘビー級統一王者となった。MMA戦績4勝1敗。193センチ、120キロ。

——『kamipro』はMMAと一緒にプロレスも扱っている雑誌なんですけど、子どもの頃、プロレスは観てましたか?

GSP　もちろん!　カナダはプロレスが盛んだったからね。

——じゃあ、カナダのスーパースター、〝ヒットマン〟ブレット・ハートもご存知なんですか?

GSP　知ってるどころか、大ファンだったよ!　いつもワクワクしながら、テレビを観ていたんだ。

——そうなんですか。サンピエール選手をプロレスファン向けには、「MMA界のブレット・ハート」だと紹介しようと思ってたんですよ。

GSP　それは本当に嬉しいね!　ただ、もっと正直に言うと、ボクはヒットマンより、ハルク・ホーガンのほうが好きだったんだけどね(笑)。

——GSPは〝ハルカマニア〟でしたか(笑)。

GSP　そう。「神への祈り!　ビタミン!　トレーニング!」だよ(笑)。

[09.07.11UFC100。]
米国ネバダ州ラスベガス マンダレイベイ・イベントセンター
【UFC世界ウェルター級タイトルマッチ】
○ジョルジュ・サンピエール vs チアゴ・アウベス×
(5R終了 判定3-0)

UFCウェルター級の絶対王者GSPの3度目の防衛戦の相手は、打撃が得意なチアゴ・アウベス。そんな相手に、GSPはこれでもかとばかりにテイクダウンを繰り返し、全5ラウンドで圧倒。余裕の防衛をはたしたのだった!

GSP

相手の余裕を奪う戦略を立てることが大事。でもそれができるのは……

ハルカマニアの三原則(笑)。でも、いまのサンピエール選手の人気もホーガンとまでは言わずとも、かつてのヒットマン級じゃないですか?

GSP　アハハハ。そうかい?

——前回もアメリカで試合をしながら、アメリカ人のヒューズより、はるかに人気があるので驚きましたよ。「USA」コールを打ち消す「GSP」コールでしたからね。

GSP　確かに、あの「GSP」コールは嬉しかったよ。ボクはオクタゴンの中でいいファイターでありたいと思うのと同時に、オクタゴンを降りてからも誠実な人間であろうとしているから、そこが支持されているのかな。

——そのヒューズ戦はパーフェクトといってもいい試合でしたが、その中でもとくに大きな勝因はなんだと思いますか?

GSP　じつはヒューズ戦が決まるまで、ボクは北京オリンピック出場を目指して、レスリングの特訓をしていたんだ。その成果だね。

——もともとレスラーじゃないのに、オリンピックを目指すって凄いですね。

GSP　ボクはずっとオリンピック候補選手たちと練習してきたからね。でも、年末にウェルター級暫定王座決定戦のオファーがあったから、そっちを選んだけどね。ボクはMMAファイター。やはりオリンピックに出ることより、この競技でトップに立ちたいんだ。

——それにしても、UFCを代表するレスラーであるヒューズをレスリングで圧倒したのは驚きましたよ。

GSP　あの試合でレスリング勝負を選んだのは、彼が予想しない闘いをしようと思ったからなんだ。きっと彼は、ボクがスタンドにこだわって、打撃で勝負すると考えていた。そのための対策も練ってきていただろう。でも、ボクは彼の一番の得意分野で真っ向勝負を仕掛けた。だから、意表を突かれて、あっさりと負けてしまったんだよ。

——そういえばジョシュ・コスチェック戦もそうでしたよね。

GSP　そのとおりさ。いつも、そうやって油断を突いて相手の余裕を奪う戦略を立てることが大事なんだ。そういう作戦が取れるのは、ボクが打撃もレスリングもサブミッションもすべて自信があるからなんだけどね。

——毎回、対戦相手だけでなく、観客の予想も上回るパフォーマンスを見せていますよね。そういった意味で、GSP登場は桜庭和志以来の衝撃でしたよ。

GSP　それは嬉しいね。サクラバはボクのアイドルだった伝説的ファイターだし、ボクは極真空手がベースだから、精神の故郷である日本の人たちに評価してもらえるのは、本当に嬉しいよ。

——極真空手はどういったきっかけで始めたんですか?

GSP　ボクのお父さんが極真の師範なんだ。そういったこともあって、極真を始めて、もう10年も続けているよ。

——親子二代で極真空手家なんですね。

GSP　カナダで最も人気のあるスポーツはアイスホッケー。でも、ホッケーをや

を観たんだ。それがきっかけかな。まあ、そのあとも空手は続けていたけどね。

・ヘンゾ・グレイシーのトレーニング

ったことはありますか?

GSP　ボクはファイターだから、強い選手がいるところはもちろん気になるさ。

か?

GSP　チョーナンはこの前、カロ・パリジャンに負けてしまったよね。でも、彼に

—親子二代で極真空手家なんですね。
GSP　カナダで最も人気のあるスポーツはアイスホッケー。でも、ホッケーをやるには、お金がかかるんだ。だから空手を選んだということもあるね。空手なら、スティックもいらないし、空手着一枚あればできるからね（笑）。
—空手を始めたきっかけはイジメだったという記事を読んだことがあるんですが。
GSP　そうだね。ボクが子どもの頃、周りの環境もよくなかったんだ。田舎で、悪ガキがたくさんいて、ボクのお金を盗もうとしたりしてね。というのも、ボクは引っ越しが多かったから、一人でいることが多かった。それでどうしてもいじめられやすくて、5人の上級生に囲まれたりもしていたよ。でもボクは自分のプライドのために、絶対に負けたくなかったから、絶対に不利な状況でも闘ったんだ。だから、一度もお金を取られたことはないよ。
—そのためにも空手の鍛錬は必要だった、と。
GSP　空手がボクを守ってくれたんだ。だから、いまでもボクは空手家としてのプライドを持っている。
—プロ格闘家になる前は用心棒もしていたとか？
GSP　格闘家としてのキャリアを始めた頃に少しだけね。当時は大学生だったんだけど、週末はクラブでバウンサーをしていた。でも、その頃から絶対にプロになろうと思っていたよ。
—MMAを始めるきっかけはなんだったんですか？
GSP　93年のことなんだけど、ボクの空手の先生が残念ながらガンで亡くなってしまったあと、ホイス・グレイシーの試合を観たんだ。それがきっかけかな。まあ、そのあとも空手は続けていたけどね。
—ヘンゾ・グレイシーのトレーニングも受けたらしいですね？
GSP　彼からは多くのことを学んだよ。道場には多くの友だちもいるしね。
—同じくヘンゾの門下であるヒカルド・アルメイダとは面識がありますか？
GSP　彼とは面識はないけど、いいヤツだったってみんな言ってるね。明日（08年2月2日）試合があるけど、彼はいい試合をするんじゃないかな。
—サンピエール選手は、ほとんどのキャリアのUFCですごしていますが、PRIDEとかほかの団体に上がりたいと思ったことはありますか？

MMAを始めたきっかけは93年にホイスの試合を観たことなんだ

GEORGES ST-PIERRE■1981年5月19日、カナダ・ケベック州出身。UFCウェルター級王者。立ち技、寝技、レスリング、すべての面で秀で、全人類で最も厚い"神の階級"ウェルター級で頂点に君臨。08年4月マット・セラ戦でUFC王者になって以来、3度の防衛に成功している。178cm、77kg。

GSP　ボクはファイターだから、強い選手がいるところはもちろん気になるさ。だから、以前はPRIDEに上がりたいと思っていたけど、その頃のPRIDEはヘビー級やライトヘビー級が中心で、ウェルター級はあまり必要とされてなかった。だからUFCで闘い続けていたんだけど、いまのUFCは本当に世界の強豪が集まっているからね。しばらくここで闘い続けるつもりだよ。ただ、ボクは打撃だけの試合もやってみたいから、いつか日本のK—1に上がることがあるかもね。
—日本人で同階級の長南亮選手や郷野聡寛選手のことは、どう評価していますか？
GSP　チョーナンはこの前、カロ・パリジャンに負けてしまったよね。でも、彼にとってあの試合はUFCで初めての試合だったからね。オクタゴンに慣れて、勝ち星を重ねたら、ボクと闘うときもくるかもしれない。それぐらいになってから考えたい。いまはマット・セラのことで頭がいっぱいなんだ。
—次はいよいよ地元カナダで、マット・セラとのタイトル統一戦ですもんね。
GSP　楽しみでたまらないね。ボクのコンディションはいま100パーセントなんだ。必ず勝つと思っているよ。
—前回の敗因はなんだと思ってますか？
GSP　なんの言い訳もない。あの日はセラが上だったということさ。でも、次は違うよ。
—そういえば、セラもヘンゾのところでずっと練習していた愛弟子ですよね。
GSP　それが、いまボクがヘンゾのところで練習していない理由さ。だから、この試合が終わったら、またヘンゾのところで練習するかもね。まあ、いずれにせよ4月19日はボクの地元カナダで、カナダ人のチャンピオンが誕生する記念すべき日になるよ。
—ホントにヒットマンばりのカナダ人スーパースター誕生を期待してますよ。ただ、アメリカやカナダもいいですけど、いつか日本でも試合をしてください。
GSP　（日本語で）アリガトウ。それはボクの夢でもあるからね。UFCの日本大会が決まれば、真っ先に参戦を立候補するよ。
—その日を楽しみにしてます！
【08年2月1日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】

BJペン鬼ツヨ！ アンデウソン激スゴ!!

DREAM、戦極なんて誰が飲むか！ 俺は家に帰ってUFCを飲むぞ!!

座談会8.8『UFC101』編

7月の増刊号で好評だった、UFCを1000倍楽しむための座談会第2弾！
今回は8.8『UFC101』のBJペンとアンデウソンがいかに強いかを、UFC常連密航者の二人に語ってもらった。そして話の方向はなぜかナメック星に。なんで!?

聞き手／ジャン斉藤（非UFC編集者）　写真／Josh Hedges（UFC）

いまやUFCを語らせたら日本で一番うるさいと言われている二人に、今回も『UFC101』について語っていただきたいと思います。

ガンツ　ホントにただうるさいだけなんだけどね（笑）

松林　でも俺、こんなにUFC観てるのに、『UFC101』は何が起こったのかさっぱりわからない……、というくらい驚いたね。だって、今回BJペンに完敗したケニー・フロリアンって、そこそこのオールラウンダーで、三島（☆ド根性ノ助）に勝った07年以来6連勝中の選手だよ！

あ、さっそく訳のわからない呪文を唱えだした（笑）。え？ 三島がどうしたって!?

ガンツ　（無視して）今回はBJペンが最強のチャレンジャーを迎えたわけですよね。しかもBJは今年1月の『UFC91』で、階級上のGSPに挑戦して完敗に終わったあとだから、「はたしてBJは復活できるのか？」という見方も一部ではされていた。ところが、なんのことはない。終わってみたら全局面で完勝（笑）

松林　期待も込めてだけど、ケンフロだったらもうちょっと見応えのある試合になると思ったんだよ。BJと互角に闘える局面が何かしらあるのかと思ったら……、それがまったくのゼロだった（笑）

ガンツ　だから前回のGSP vs BJペンはおもしろくないという人もいるけど、俺があの試合で興奮したのは、"あのBJ"が何もできなくて「こんなBJ、初めて！」という驚きなんですよね。そして今回は……

松林　「こんなケンフロ、初めて！」だよね（笑）

ガンツ　そう。BJって前回はGSPとの階級を超えた闘いだったのに、たまにサーフィンとか行って遊んでたらしいんですよ。そのBJが「今回は本気で練習したよ」っていったら、ホントに本気で強かった（笑）。

松林　まあ、BJ勝利っていうのは戦前からの予想ではあるんだけど、それにしたって、あんな完勝はねえだろう！って思うよ。

ガンツ　あれだけケンフロのテイクダウンで倒れなかったBJが、4ラウンドで、「さ、そろそろ時間かな」って感じで豪快にテイクダウンをして、あっという間にポジションを取って、バックチョークで一本ですからね。バックチョークっていまどきなかなか極まらないじゃん。やられるほうが「ハロー・ジャパン！」とでも言わないかぎりさ（笑）。それがあっという間に極まっちゃうんだもん。「もう、ライト級でBJに勝てるヤツなんているのかよ！」って。

でも、青木真也が言うには、「BJよりボクシングがうまくて、BJよりレスリングがうまければ勝てる」って話でした（笑）。

松林&ガンツ　ダハハハハ！

「あたりまえだろ！」って感じなんですけど、それしかないって。

ガンツ　まあ、レスリングが鬼強だったマット・ヒューズをレスリングでコロコロ転がすGSPが出てきたからね。でも、いまのBJはケンフロがドンピシャのタイミングで片足タックルにいってるのにビクとも動かないんですよ。もう「おっとっと」という動きすらない。これは相手が気の毒ですよ。

チャンピオンは山の頂上じゃなくその上空にいたっていう状態

松林　今回のスーパーファイトもそうだったよね。アンデウソンに負けたフォレスト・グリフィンも、もう途中で「どうにもならない」って感じで。

ガンツ　このフィニッシュはホントにデコピンみたいな軽いジャブでKOですもんね。マンガみたいな試合だなって（笑）。

松林　あの試合、アンデウソンが距離を見切ったのって試合が始まって2分弱ぐらいでしょ。そのあとは好きなようにパンチを入れて、グリフィンのパンチはヒュッヒュッとよけまくって、まるで大人と子どもみたいな試合になっちゃって

ガンツ　写真で見てもわかるけど、グ

座談会出席者

松林 貴
うまいものとおもしろいことかある場所には、ぶらりと現われる本誌・編集次長。写真はロシア出張でへべれけになり、クマの置物を持ってなんだか楽しくなってるときの一枚

堀江ガンツ
本誌・編集部員。変態座談会主宰者であり、その変態道はUFCにまで通じている。隣は『UFC102』でのノゲイラとの大一番を控えた"鉄人"ランディ・クートゥアー。

宇野薫はクリリン、魔王・秋山はピッコロ大魔王にしか見えない

リフィンのパンチが目の前にきてるのにアンデウソンは真顔なんですよ「ん？ それじゃ全然届かないよ」っていう。だからどんなパンチでも当たらない距離があるというのがアンデウソンには全部わかってるってことですよ。昔、船木誠勝がモーリス・スミスのパンチをスウェーでよけてるのを見て「船木、凄い！」って思ってた自分がなつかしいよ（笑）。

松林 そして忘れてはいけないのは、グリフィンよりもアンデウソンのほうが一階級下だということだよ。アンデウソンってミドル級では圧倒的にリーチが長いということで強いと思われてたわけでしょう。でも、階級が上のグリフィンに勝ったことで、もう、どうにも「強さの説明」がつかなくなったよね（笑）。

ガンツ グリフィンってじつはライトヘビー級の中でもかなり身体はデカいほうで、ヘビー級の選手よりも身長が高かったりするんですよね。だからアンデウソンは自分より身長が上の選手と対戦するのは初めてだったからヤバいんじゃないかという雰囲気だったんだけど、まったく、なんてことはありませんでした（笑）。むしろ、そんなの関係ネエってのがわかっちゃったんで、より強さが果てしなくなってます。

松林 でも、あの試合でグリフィンはパンチをもらってアゴを脱臼したんだっけ？

ガンツ いや、そう言われてましたけど、どうやらしてないんですよね。要は「負傷したからすぐ病院に行きました」という感じでバックステージへ戻ったんだけど、本当は恥ずかしくてすぐ会場からいなくなりたかったってことじゃないかって。

松林 そうなんだ（笑）。じゃあ、完敗したグリフィンが救われる道はアンデウソンがライトヘビー級のチャンピオンになることくらいだなあ。

ガンツ もしくは、生き残るためにヘビー級に転向するかもしれないですよね。凄く険しい山があってみんなで競ってようやく頂点にたどり着いたと思ったら、チャンピオンは山の頂点じゃなくてその上空にいたっていう状態ですもん。文字どおり手が届かないというか（笑）。

松林 だから、今回はとにかく敗者に人の心のケアをしてあげないと。とくにグリフィンは。

ガンツ ケンフロもそうですよ。あそこからもう一回チャンピオンを目指そうと思っても、それはもう果てしない道ですよ。

——そう考えると、UFCって、敗の重みがハンパないですね。

ガンツ なぜかというと、UFCはチャンピオンに絶対の価値を置いてるからなんだよね。たとえばチャック・リデルなんかは、いま試合しても人気があるし、充分興行になるし、PPVだって売れると思うんですよ。でも、ダナが「チャック、引退しろ！」って言ってるのは、「もうこれ以上やっても、おまえの価値が落ちるだけだから」って意味なんですよ。

つまり、UFCには〝レジェンド枠〟はない、と。

ガンツ いや、レジェンド枠は何かしら作っていくかもしれないですけど、そこは「生活していくぞー！」ってギリギリのところで頑張ってる人たちもストイックですから。だって、マーク・コールマンだって負けたら終わりなわけだからね。

松林 でも、アメリカ人はそういう目で観てくれない気がするんだよなあ。

ガンツ やっぱりアメリカは敗者に目がいかずに、勝者に目がいく世界なんでしょうね。UFCはチャンピオンになったらとことん賞賛される世界だし、勝った人が総取りの世界だから。

そんな世界で日本人は活躍できないんですかね？

ガンツ ……うーん、いや、たとえば宇野薫って『UFC99』で素晴らしい動きをしてたし、あらためていい選手だなって思ったんですけど、ほかが怪物すぎて『ドラゴンボール』でいうところのクリリンにしか見えないんだよね。結局〝地球人最強〟というか（笑）。

松林 ああ、そんな感じはするな。

ガンツ 〝魔王〟秋山も文字どおりピッコロ大魔王というか、ナメック星人止まりだったし。唯一成功している岡見勇信は、作者の鳥山明がその存在を忘れてる感じはあるし（笑）。

——失礼ですよ！（笑）。

ガンツ だからもうUFCで勝つにはスーパーサイヤ人にならないと難しいよ！

——UFCという名のナメック星には、フリーザとギニュー特戦隊クラスがウジャウジャいるわけだから（笑）。

ガンツ いまの青木真也とか北岡悟とか五味隆典はUFCでもスーパーサイヤ人になれる可能性はあると思うよ。常にニューカマーというのは求められてるし、それに最強のBJペンがいるとはいえ、ライト級ってそこまで注目されてない階級だから日本人のトップで活躍してる選手にも凄くチャンスはありますよ。

松林 俺も単純に五味vsBJは観てみたいと思うからね。ただ、そこにたどり着くまでがもの凄く大変なんだろうけど（笑）。

——すぐにタイトルマッチができるような待遇にはならないんですね。

松林 とんでもなくいい待遇で2試合目というのはありえるかもしれないけど、必ず1試合目はほかの選手と試合するのが通例だよね。で、その1試合目に〝金魚〟を用意してくれるような甘い団体じゃないっていうのが、UFCの怖さだからね。

——このままだと文化的にも競技的にも日本格闘技界が取り残されてしまいそうだから、まだなんとかなりそうなライト級で存在感を示してほしいんですけどね。

ガンツ 日本を救うためにみんなで宇宙船に乗って、ナメック星という名のUFCに向かってほしいよ（笑）。

【09年8月11日／都内・エンタープレインにて収録】

［09.8.8 UFC101 ］
米国ペンシルバニア州フィラデルフィア・ワコビアセンター
【UFC世界ライト級タイトルマッチ】
○BJペンvsケニー・フロリアン×
（4R 3分54秒 リアネイキト・チョーク）
UFC6連勝中という最強の挑戦者ケニー・フロリアンを迎えたBJだが、序盤はテイクダウンを狙ってくるフロリアンのタックルをことごとく切り、体力を奪ったところで4ラウンド、今度は自らテイクダウンを奪い、あっという間にポジションを移行してチョーク！ BJ鬼ツヨ!!

［09.8.8「UFC101」］
米国ペンシルバニア州フィラデルフィア・ワコビアセンタ
○アンデウソン・シウバvsフォレスト・グリフィン×
（1R 3分23秒 KO）
ライトヘビー級の規定でグリフィンと闘ったミドル級王者アンデウソン。パンチをブンブン振り回すグリフィンを尻目に、アンデウソンはヒョイヒョイとこれをかわし、真正面に拳がきてもこの表情！ 完全に距離を見切り、最後は軽いジャブふうのパンチ一発でKOだ！

フォ木さんが観た世界最強の男とは!?

「BJがケンフロに完勝？だから素人って言われるんですよ！」

——もしも～し、青木さんですか？
青木　はいはい。青春18きっぷを使って

よー!」。
——ケハハハハ！　ヨアキム・ハンセン戦

ていったほうがいいと思うし。
——いま、UFCファイターってボクシン

DREAMのデビルマン

青木真也

なぜか青春18きっぷで九州を旅行中のワオ木さんを電話でキャッチ!
その一挙手一投足でよくも悪くも注目を集めるワオ木さんに、
今回は「UFC101」に見る"世界最強"について聞いちゃったぞ!
さらにあのちょっと波紋を呼んだ素人発言の真相も激語り!

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／Josh Hedges(UFC)、乾晋也

――もしも～し、青木さんですか？

青木　はいはい。青春18きっぷを使って九州を絶賛旅行中の青木真也です！

――酒井法子の逃亡劇と同じタイミングですけど。

青木　僕は逃亡中でもシ●ブ中でもないですからね！（笑）。

――その模様は『kamipro』携帯サイトの「青木真也の謝罪下車の旅」でレポートされてますけど、全然謝罪になってないって話もありますね。

青木　だから今夜は『公武堂TV』で謝罪会見をするんですよ（アドレス→http://www.stickam.jp/profile/koubudotv）。そのためにスーツもちゃんと持ってきたんですから。

――ああ、そうやってまた"アンチ青木"を小馬鹿にするわけですねぇ。さすがだなあ。

青木　そうやって煽らないでくださいよ！　まぁ、謝るっていうか言い訳をするんですけど（笑）。

――皆さん、青木真也の言い訳を聞いてやってください！　というわけで、今回は「青木真也が観た世界最強の男」というテーマでお話を聞きたいんですが、青木さんと同じライト級の絶対王者BJペンvsケニー・フロリアン（以下、ケンフロ）はどうでしたか？

青木　いや～、ケンフロは頑張りましたね。

――あれで頑張ったんですか？　完敗じゃないんですか？

青木　……『kamipro』があえて使ってくれそうなセリフを言ってもいいですか？

――なんですか？

青木　「だから素人って言われるんですよ」

――ダハハハハ！　ヨアキム・ハンセン戦発表会見で笹原EPに言い放ったセリフだ。あの試合展開でケンフロが頑張ったんなら、BJって相当ヤバくないですか？

青木　ヤバい（キッパリ）。いままでのBJの試合って相手を半殺しじゃないですか？　ちゃんと試合になった相手はいないんですから、ケンフロは凄いですよ。

――そういえばそうですね。

青木　実質的にはBJが圧倒してるんですけど、いままでにBJ相手にあそこまで頑張れた選手はいないんです。だって、ショーン・シャークですらぜんぜん相手にならなかったんだから。

――あれでも善戦したほうだった、と。

青木　要はあの試合って、ケンフロはBJの左ジャブにやられたんですよ。ケンフロは構えがサウスポーで左ミドルが得意な選手なんですけど、BJはそれを左ジャブで距離を制したんです。一度だけケンフロにパーンといい蹴りを入れられてましたけど、すぐにパンチを返してダウンも取ってたし。あと、あの試合で見ものだったのは首相撲をめぐる攻防ですね。BJが組まれないようしのぐあたりがとくに最高ですね！　たとえ組まれても倒されないようにいなしてたし、ケンフロのタックルも小手を押さえてしっかり切って。

――どうしてケンフロはドンピシャのタイミングでタックルをしてるのに、テイクダウンできないんですか？

青木　やっぱりBJは首相撲のバランスと、金網を使うのが相当うまいですよ。もしBJからテイクダウンするなら、もっとタックルに固執したほうがいいと思いますよ。たとえば片足タックルに入るなら、そのあとは両足、バックとか入り方も変えていったほうがいいと思うし。

――いま、UFCファイターってボクシング&レスリングが主流スタイルだと思うんですけど、そういうタイプだとBJには太刀打ちできないんじゃないかなって気がするんですけど。

青木　そんなことないですよ。勝てる方法はありますよ。

――どうすればいいんですか？

青木　BJよりボクシングが強くなって、BJをテイクダウンできるタックルを持って、それでBJより寝技が上になればいいんです。

――ダハハハハ！　そりゃそうなんでしょうけど。

青木　単純にあらゆる点でBJより完成度が高くないとダメってことですよね。それができたのはGSPなんですよ。

――あ～、なるほど。

青木　GSPの場合は、さらに高い完成度のためにフィジカルを駆使してるっていうか。まぁ、今回の試合はケンフロが、やりようによってはもうちょっとなんとかなるんじゃないかなって思ったんですけどね。

――青木さんがもし闘ったらどうなるんですかね？

青木　う～ん……まだ分は悪いですねぇ。

――珍しく謙虚ですね（笑）。

青木　いやいや、ホントに。映像を観ながら、自分ならどうBJと闘うかシミュレーションしてみたんですよ。僕だったらケンフロほど高い左ハイじゃなく、もうちょっと腕を狙ってミドルを蹴っていきますね。それから前足のインローでとにかく自分の距離を保っていけば勝てるかなって。逆にいえばそれしかないし。それでもいまの僕では相当、分は悪いと思いますけ

どね。

——は〜、そんなに高い壁なんですか。

青木　まあ、ブロック・レスナーだったらフィジカルで勝つんじゃないですかね（笑）。

——階級が全然違いますよ（笑）。青木さんはBJからテイクダウンする自信はあります？

青木　う〜ん、それはなんとも言えないですけど、ちょっと楽しみですね。壁を使ったらテイクダウンできるかもしれない。僕、ロープより壁のほうがいいんですよ。この前のシャオリン戦も、コーナーをうまく壁として使ったんですよ。そうすれば相手のタックルも切りやすいし、こっちもテイクダウンしやすいし。

——また素人っぽい質問なんですけど、BJをガードポジションに引き込んだらどうなるんですかね？　ヒジありのUFCで下に引き込む選手ってあんまりいないですけど。

青木　それは相当、危ないと思う。でも、おもしろいとも思うなぁ〜。引き込んで展開を作ることも可能だと思いますよ。あのルールではみんな引き込む習慣がないからこそ、逆に引き込んだらチャンスも出てくると思うんですよね。いや〜、しかしこうやって考えてるだけでもおもしろすぎますよ、BJペン！

——自分で想像するだけで興奮してきますか（笑）。

青木　やっぱりMMAの一つの完成形ですから。寝ても立っても強い。それにずっとトップに立ち続けて、誰とでも闘うでしょ。かっこいいなあ。

——青木さんがUFCファイターと比べて足りないところってなんですか？　人間性以外で（笑）。

青木　でも、日本のMMAのことを考えたら〝童貞狩り〟をしてるわけにもいかない

青木　やっぱりパンチでしょ。

——寝技は？

青木　寝技はトップレベルの自信はあります。テイクダウンも大丈夫かな。打撃は「中の下」って感じで、とくにパンチはまだまだですね。

——ボクシングの練習はしてるんですよね？

ミドル級絶対王者のアンデウソンは、まさに"蝶のよう舞い、蜂のように刺す"動きで、元ライトヘビー級王者グリフィンをまるで子ども扱い！　パウンド・フォー・パウンドの名にふさわしい盤石ぶりを見せた。

青木　してますけど、あまり打たれて、おかしくなるのはイヤなんですよね。打たれないかたちを作りたいというか。そういう意味ではアンデウソン・シウバもヤバいですね。

——アンデウソンも凄かったですね〜、あのフォレスト・グリフィンに完勝で。

青木　アンデウソンはハンパじゃないですよ！　でも、彼はBJと違った意味での完成度ですね。

——と言いますと？

青木　アンデウソンは打撃に特化した完成度なんですよ。でも、BJはレスリングから打撃からすべてにおいてコンプリートだから芸術性が高いっていうか。僕みたいな技術オタクはBJのほうが好きですけど。

——同じ最強でもタイプが違う、と。

青木　アンデウソンもタックルを切ることはできるんだけど、相手から寝技に持ち込まれないことを考えてるっていうか。でもBJは寝技に自ら持ち込めるし、持ち込まれても大丈夫なんです。なおかつ、常に自分が主導権を握り続ける。

——イヤすぎますよ（笑）。

青木　アンデウソンもグリフィンを倒しちゃったわけですからねぇ。グリフィンは前にラシャド・エバンスにも負けましたけど、僕からするとMMAとしての完成度では「グリフィン、負けてもなお強し！」って思ってたんですよね。

——確かにグリフィンはあまりスキがなかったですよね。

青木　でも、アンデウソンはそのグリフィンをあんな簡単にKOしちゃうんですから。今回のアンデウソンのフィニッシュもたまらなかったですね。右の手首の手打ちだけっていう。

——最後のパンチなんか手打ちなのに、あんなに効くんですね。

青木　というか、当たる瞬間にアンデウソンは「ガッ！」って手を握ってるんですよ。だから、彼はボクシングでいう遊びのパンチが少ないんですよね。あれは凄い技術ですよ！

あのときの〝素人〟発言は僕自身に対するアンチテーゼでもあるんです

——さて、ヨアキムとのタイトルマッチが発表されましたけど、発表会見での発言でまたちょっと波紋を呼び起こってますね。

青木　え？　何も聞こえないし。べつにどうってことないっすよ（しれっと）。

——会見では主催者サイドともかなりヒリヒリしたやりとりがありましたけど。

青木　あのとき言った「だから素人だって言われるんだよ！」っていうのは、僕自身に対するアンチテーゼでもあるんですよ。「いやいや、オレたちは勝負論のあることをやるから。それをもっと伝わるようにしようぜ」みたいな。ただ、勘違いしてほしくないのは、べつにこっちだって〝つまらない試合〟をするつもりはないですよ。勝負にこだわったうえでおもしろくなればいいかなって。

——ボクが青木さんなら主催者に「じゃあ、寝技のできない金魚を呼んでこい！　勝敗を超えた闘いをしてやるから！」って要求しますけど（笑）。

青木　あ〜、僕だって〝童貞狩り〟ができるんだったら、それだけしてたいですよ。佐伯さんが言うところの「オバさんの童貞狩り」ですよ。

——なんですか、それ？

青木　佐伯（繁DEEP代表）さんが借りてきたエロビデオのタイトル（笑）。

——知るか（笑）。

——極端な話、負けて心も身体も傷つかないんだったらどんな選手も殴り合います

選手がUFCにいるんですから。それはやっぱり意識はしますよ。

界に胸が張れるファイターになりたいし、それを目指してますから。

——修行みたいなもんですか、いまは？

王者にならないと〝川尻様〟に挑戦できないのもどうなんだろう（笑）

問性以外で（笑）。

青木 でも、日本のMMAのことを考えたら〝童貞狩り〟をしてるわけにもいかないじゃないですか？

——そういう姿勢は正しいと思うんですけど、青木さんの場合は口が減らないという部分で誤解を招くところがあるというか。

青木 それはしょうがないじゃん！ 単純にしゃべってないと生きてけないんですよ。

——「しゃべらないと死んじゃう」って感じなんですね（笑）。

青木 あと、北岡悟の言葉を借りるわけじゃないですけど、僕には言うだけの資格や権利があると思ってるんで。

——大黒柱としてDREAMを背負っていきたいという気持ちはありますか？

青木 もちろんありますよ。でも、それは僕の背負い方で背負います。だから僕は〝童貞狩り〟はやらない。茶番はやりたくない。

——「勝敗を超えた何かを」を求める主催者の気持ちって理解できますか？

青木 わかりますよ、もちろん。でも、なぜ僕が「勝敗を超えた何か」っていう表現を好きじゃないかっていうと、選手にとって「勝っても負けてもおもしろい試合をしよう」っていうのが、じつはいちばん楽だからなんですよ。選手にとっていちばん難しいことは「勝つ」ことなんです。そこをゴールに目指して闘ってるんです。負けてもいいんだったら、僕だっていくらでも打ち合ってやりますよ！

青木 アンデウソンはハンパじゃないで

——極端な話、負けて心も身体も傷つかないんだったらどんな選手も殴り合いますよね。

青木 うん。でも、実際はそんなわけない。だからおもしろいんですよ、格闘技って。

——そういった格闘技の本質が軽んじられている危機感はありますか？

青木 凄くありますね。

——僕は主催者も青木さんも誰も悪くないと思うんですね。そのときどきによって、時代に合ったり合わなかったりするだけで。そんな日本を離れて、UFCを目指したいっていう気持ちはないんですか？

青木 行くとか行かないじゃなくて、一人のMMAファイターとしてUFCを意識しないのはおかしいですよね。だってボクの階級でいちばん強いBJペンという

青木真

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。03年11月にDEEPでプロデビュー。06年2月に修斗世界ミドル級王座奪取。同年6月よりPRIDE参戦。昨年はDREAMライト級GPで準優勝。今年7月のビトー・〝シャオリン〟・ヒベイロ戦で勝利を収めるも、その試合内容&マイクで物議を醸す。柔術黒帯、そしていまだに人間白帯（？）。180cm、70kg。

青木 というか、当たる瞬間にアンデウソ

選手がUFCにいるんですから。それはやっぱり意識はしますよ。

——いまUFCに行かない理由は？

青木 それは日本を盛り上げたいからですし、青木真也にしかできない仕事がある以上はDREAMで頑張りたいです。それにまだ勝負時じゃないですよね。もう一年、二年あったらもっと強くなると思うし、人生の中で絶対的に勝負しなきゃいけないときっていうのは自然にやってくるし。

——確かにいま青木さんがDREAMを飛び出してUFCに行くのは、修斗の防衛戦を行なうくらい不自然ですよね。

青木 べつに不自然じゃないですよ！ 修斗はオファーがないだけです！（笑）。とにかく、いまは青木真也なりの方法でDREAMを盛り上げていきたいですから。

——それは、自分のやるべきことをやって、そのうえで盛り上げていきたいってことですね？

青木 はい。そうやってれば絶対に盛り上がるんですよ！ そうなれば……だって、なんなきゃ困るじゃん！

——困りますよ！ DREAMのライト級って、これだけの魅力的な選手が揃ってるんですから、勝敗を超えなくても充分におもしろいと思うんですけどね。自分は、やっぱり国内のどの階級も（海外MMA団体の）二軍的なイメージにはなってほしくないんですよね。

青木 ボクもイヤですけど、なりかけてますよ！ でも、ボクはプライドを持って世

——知るか（笑）

界に胸が張れるファイターになりたいし、それを目指してますから。

——修行みたいなもんですか、いまは？

青木 人生、修行なんですよ。そして、「最強」と呼べるぐらいに強くなったら、またそこで考えればいいんで。まだ人生、修行なんですよ。

——まずはヨアキム戦ですね。3回目の対戦ですが、やりづらさは？

青木 関係ないです！ 相手がヨアキムだからどうとか、僕の中にはないんですよ。自分のやりたいことをやるだけで。

——青木真也を出すだけ。

青木 そう。自分の仕事です。前回、前々回のことはとくに考えずに全力で行きます！

——ヨアキム戦のあとには川尻戦なんて話もありますけど。

青木 そうですねえ、どうやらチャンピオンにならないと〝川尻様〟には挑戦できないみたいなんでね、それもどうなんですか ね（笑）。マジメな話、先のことなんてまだ考えてもないですよ。僕がヨアキムに勝った時点で思うことをやります。あとは北岡さんがしょぼくれてるんでね。

——なんか引退する、しないなんて話も挙がっているようで。

青木 うん。僕もそういうことを直接聞いたけど、あの人は絶対に辞められないから。だってほかにやることないし（笑）。

——ダハハハハ！

青木 あ、ごめんなさい。ほかにやることじゃなくて、ほかにできることないし、だ。

——フォローになってないですよ（笑）。

青木 あの人には格闘技しかないんだから大丈夫ですよ。引退せずにまだまだやってくれると思います。押忍！

【08年8月10日、電話インタビューにて収録】

お金も知名度もこんだけ勝ち続ければ自然とついてくるんですよ

――ロチャ戦は、ご自身としてはパーフェクトな試合でしたか?
長谷川　まあ、そうですね。一回も打たれ

格闘技の本場の座をアメリカに奪われてひさしい日本の格闘技界。最強の王者も海の向こうを主戦場とし、日本で〝世界

る!

格闘技の本場の座をアメリカに奪われてひさしい日本の格闘技界。最強の王者も海の向こうを主戦場とし、日本で〝世界最高峰〟の闘いが観られなくなってしまったが、ボクシング界に目を向けると、日本が世界に誇る最強王者が存在する。

WBC世界バンタム級チャンピオンの長谷川穂積だ。

長谷川は、あの辰吉丈一郎を破った〝バンタム級最強王者〟ウィラポン・ナコンルアンプロモーションを破りWBC世界バンタム級王座を奪取後、現在まで9度の防衛に成功。しかも、9度の防衛戦のうち、世界ランク1位との対戦がじつに4度。それ以外もすべてランキング上位ボクサーを相手に挑戦を退けてきた、本物中の本物だ。

現在は具志堅用高の持つ、世界戦13回連続防衛記録の更新、世界3階級制覇までも期待される日本ボクシング界のエースに、王者の哲学を語ってもらった。

ボクシング絶対王者の闘いに対する姿勢は、必ずや総合格闘家も学ぶところがあるはずだ。

——ちょっと前ですけど、まずはV9おめでとうございます!

長谷川　ありがとうございます。

——今回はとくに反響大きかったんじゃないですか?

長谷川　いや、そうでもないですよ。前回も前々回も前々々回も同じような感じです。逆に反応薄かったですよ。

——あ、そうなんですか?

長谷川　また1ラウンドで勝ったか、みたいな(笑)。

——1~2ラウンドでKO防衛があたりまえのように思われるって、それはまた凄いですね(笑)。このあいだの(ネストール・)ロチャ戦は、ご自身としてはパーフェクトな試合でしたか?

長谷川　まあ、そうですね。1回も打たれてないですからね。

——あっさり言いますけど、一発のパンチすら当てさせずに勝つって、とんでもないですよ。

長谷川　それを目指して練習してますし、実際に一発も打たれてないっていう部分では、結果的に100パーセントじゃないですかね。

——やはり理想は、打たせずに勝つことですか?

長谷川　そうですね。もちろん、あの短い試合時間の中でも「ああしたらよかった」っていう部分は絶対にありますけど、打たれんと試合を終わらすっていうのは、ボクシングでは最高級のかたちなんで。逆転勝ちとかだったら、お客さんは感動するんでしょうけどね。やってるほうとしたら、勝ってもダメージ残しますし。長いことボクシング続けるためには、そういう試合は避けたいですから。

——長谷川選手ってテレビの視聴率とかは気にしたりしますか?

長谷川　けっこう気にしますよ。

——テレビ局から何か言われたりもするんですか?

長谷川　いや、言われないですね。まあ、結局ボクの試合は早く終わっちゃうんで、視聴率獲れないんですよね。

——2分で終わっちゃいますからね(笑)。

長谷川　もっと長い試合なら視聴率も上がるんでしょうけど、視聴率のために長引かせるわけにもいかないし。テレビ局もそれは理解してくれてると思いますから。

——たとえ2分でも、もの凄く濃密で貴重な2分間なわけですしね。

世界王座9度防衛 現在4連続KO勝ち

日本が世界に誇る絶対王者がここにいる!

独占インタビュー

長谷川穂積

WBC世界バンタム級王者

**『kamipro』の「最強」特集に、日本が世界に誇る最強王者が登場!
日本ボクシング界のエース、WBC世界バンタム級王者の長谷川穂積がロングインタビューに応えてくれた。
世界王座9度防衛と無敵の強さを見せる絶対王者は、闘いに対してどんな哲学を持っているのか?**

聞き手/堀江ガンツ　撮影/タイコウクニヨシ　試合写真/産経新聞社

長谷川　自分らにとっては、試合っていうのはリングに上がってるときだけじゃなく、練習段階から始まってますからね。だから観てる人からしたら、「2分で終わっちゃった」と思う人もいるでしょうけど、俺らからしたら何ヵ月も前から死ぬ思いでやってますから。

――長谷川選手は、いまでこそ連続KO記録更新が期待されるぐらいになってますけど、世界チャンピオンになる前は、倒すボクシングではなかったとうかがってるんですが。

長谷川　はい。でも、いまも倒すボクシングじゃないですよ。

――えっ⁉　結果的に4連続KO防衛になってるってことですか？

長谷川　そうですね。まあ、打たせずに打つっていうのが僕のボクシングなんで、それでたまたまいま倒してるだけです。

――それは、自分のパンチが〝相手が倒れるパンチ〟になったっていう部分もあるんですか？

長谷川　なんでしょうね？　自分でもよくわからないですけど、パンチは当てるべきところに当てれば倒れますから。

――長谷川選手のパンチはスピードの速さが有名ですけど、ロチャ戦で最初にダウンを奪った右フックなんかは、凄く強烈でしたよね。

長谷川　あれは練習してたパンチですね。あれもパンチの力というより、相手にパンチを出させて、カウンターで入れるから倒れるんですけど。

――誘って倒す、という。

長谷川　そうですね。

――長谷川選手は、もともとボクシングを始めるとき、「世界チャンピオンになるぞ」と思って始めたんですか？

長谷川　そうですね、はい。

――でも、プロにもなれてない段階で、いきなり世界の頂を意識してたんですか？

長谷川　まあ、ボクシングの練習自体は、（父親に習って）小学校2年生からやってたんでね。ジムに来たときはもう、世界チャンピオン目指す気持ちでしたね。

――その目標が現実味を帯びてきたのは、いつ頃の段階ですか？

長谷川　それは世界タイトル挑戦が決まってからですね。

――実感したのはタイトルマッチが実際に決まってからですか。

長谷川　はい。やっぱり世界戦は簡単にはできるものではないので。実力や戦績はもちろん、ジムの問題もそうですし、タイミングもありますし、すべての面がドンピシャで揃わないとできないんで。

――じゃあ、そんなチャンスが巡ってきたのなら、獲るしかない、と。

長谷川　いや、獲るしかないってこともなかったですよ。でも、後悔だけはしないように練習はしましたね。

――その練習量には絶対的な自信があるわけですよね？

長谷川　そうですね。やっぱり臆病なんでね。臆病やからこそ、練習することで、その臆病を少しでもマシにするわけですから。そこが俺のいいとこじゃないかなって。

兵庫県神戸市にある長谷川が所属する真正ボクシンクジム。ここで専属トレーナーである真正ジム山下会長とともに、猛練習の日々を送っている。その練習量が長谷川の強さの源であることは言うまでもない。

――いまでも試合に向かうのは怖いですか？

長谷川　試合自体は怖くないですけど、負けるのは怖いですよね。

――負けたらすべてを失なうっていうことですか？

長谷川　すべてを失なうっていうのもありますし、やっぱりボクシングができなくなる可能性もありますからね。

――ボクサーの方って世界チャンピオンから一度落ちたら引退されるってケースが凄く多いじゃないですか。

長谷川　そうですね。

――それはどうしてなんですか？

長谷川　やっぱり、そこからもう一度這い上がるって、凄く難しいことなんですよ。年齢的なこともありますし。だから、這い上がることを想像すると、「ここでグローブ置いたほうがいいかな」って思う方もおられるんじゃないですかね。

――ようやく苦労して頂点まで登ったあと、谷底に落とされるわけですから。そこから、もう一度、頂点目指して登るというのは道が険しすぎるわけですね。

長谷川　そうですね、それはあります。

――長谷川選手もそうなるのが怖い。

長谷川　怖いっていうよりも、ボクシングできなくなるのが嫌ですよね。負けてもやればええやんって話ですけど、でも負けてやるのと、こうやって勝ってやるのとではまた違いますし。はたして負けたときに次やる気が起こるのかなっていうのもわからないし。

――世界タイトルマッチをいくつもやるって普通の人じゃ想像できないと思いますけど、肉体的にも精神的にも毎回極限なわけですよね？

長谷川　極限ですね。

――それが勝ち続けるかぎり、続いていくっていうのは、気持ち的にどうなんですか？　もう「負けて楽になりたい」とか思ったりしないんですか？

長谷川　たまにありますよ。「しんどいなあ、辞めたいな」とか思ったりしますけど、深く「辞めたい」って思ったことはないですね。また、なんかあったらすぐにやりたくなりますし。

――辞めたいと思っても、次の日はまた走ってる、みたいな。

長谷川　そうですね。やっぱり、世界タイトルマッチをやるっていうのは、苦しいですけど、楽しいですからね。極限まで追い込むのをマイナスで考えたら死ぬほどつらいですけど、プラスで考えたら、普通の人ができない経験をしてるわけですから。

はやりにくいですし。だから戦績もランキングもあてにならないんですけど、世界ランキングに入ってるヤツで弱いヤツはいないんでね。

長谷川穂積世界戦全戦績

▶2005年4月16日
ウィラポン・ナコンルアンプロモーション（タイ）
（12R終了 判定3-0）※WBC王座獲得

▶2005年9月25日
ヘラルド・マルチネス（メキシコ）
（7R 2分18秒 TKO）※WBC初防衛

▶2006年3月25日
ウィラポン・ナコンルアンプロモーション（タイ）
（9R 0分19秒 TKO）※WBC2度目の防衛

▶2006年11月13日
ヘナロ・ガルシア（メキシコ）
（12R終了 判定3-0）※WBC3度目の防衛

▶2007年5月3日
シンピウィ・ベトイェカ（南アフリカ共和国）
（12R終了 判定3-0）※WBC4度目の防衛

▶2008年1月10日
シモーネ・マルドロット（イタリア）
（12R終了 判定3-0）※WBC5度目の防衛

▶2008年6月12日
クリスチャン・ファッシオ（ウルグアイ）
（2R2分18秒 TKO）※WBC6度目の防衛

▶2008年10月16日
アレハンドロ・バルデス（メキシコ）
（2R 2分41秒 TKO）※WBC7度目の防衛

▶2009年3月12日
フシ・マリンガ（南アフリカ共和国）
（1R 2分37秒 TKO）※WBC8度目の防衛

▶2009年7月14日
ネストール・ロチャ（アメリカ合衆国）
（1R 2分28秒 TKO）※WBC9度目の防衛

[2009.7.14]
兵庫・神戸ワールド記念ホール
WBC世界バンタム級タイトルマッチ
○vsネストール・ロチャ
（1R 2分28秒 TKO）※WBC9度目の防衛
WBC世界バンタム級9度目の防衛戦として、同級4位のネストール・ロチャを迎え撃った長谷川は、1R、狙いすました右フックでダウンを奪うと、続けて連打で二度目のダウンを奪いTKO勝ち。国内初となる世界戦2試合連続初回KO。また世界戦148秒でのKOは、歴代2位のスピードKOと記録ずくめの圧勝劇を見せた。

1年に3回世界タイトル戦をやれば 1年に3回も人生が変わることが起こるんです

長谷川穂積

すけど、楽しいですからね、極限まで追い込むのをマイナスで考えたら死ぬほどつらいですけど、プラスで考えたら、普通の人ができない経験をしてるわけですから。自分は1年に3回試合してるんですけど、それは1年に3回も人生が変わるようなことが起こるんですよ。負ければ全部なくなるし、勝てばお金も入って次につながって。普通の生活してたら、人生が変わるようなことって、めったにないじゃないですか。

——そうですよね。一生に一度あるかないか、ぐらいかもしれませんね。

長谷川 普通に飯食って、普通に仕事したら、"この日に懸ける"っていうのがないじゃないですか。でもボクサー、とくに世界タイトルマッチなんて、この日に懸けて毎日を送って、もうあとのことなんて考えられないですから。その試合に勝つことだけを考えて練習して、勝ったら自分のためだけに世界が回ってるような感覚に陥るんですよ。そんなこと普通の生活してたら絶対にないんでね、それが味わえるっていうのは嬉しいですよね。

——なるほど。その味を知ってるからこそ練習も減量もできるしっていう。

長谷川 そうですね、勝ったときの喜びは大きいですよ。

——でも、その防衛戦の相手もホントに強い選手ばかりじゃないですか。

長谷川 まあ、ランキング上位の選手が多いですね。それはいいことですけどね。

——ぶっちゃけた話、たまにはもうちょっと違う相手用意してよ、みたいに思うことってないんですか？

長谷川 それはないですよ。強い相手のほうが燃えますし、ランキングが下でも強いヤツは強いんですよ。やりにくいヤツはやりにくいですし。だから戦績もランキングもあてにならないんですけど、世界ランキングに入ってるヤツで弱いヤツはいないんでね。

——どうせやるなら、強いと言われる人とやってやろう、と。

長谷川 それか闘ったことのない国の人とか。そのほうがおもしろいですよね。

——いま、9回防衛をはたして、周りからいろいろ言われていると思います。具志堅用高さんの13回を超える記録を作ってほしいとか、2階級、3階級制覇してほしいとか。その中で長谷川選手個人の目標というのはなんですか？

長谷川 防衛の回数にはあんまりこだわりはないんですけど、勝ち続けたいんで、それも挑戦したいですね。

——結果的にその回数を超えられたらいいって感じですか。

長谷川 そうですね。でも、もうバンタム級でやるのは身体がしんどいんでね、階級上げるのが身体的にはいいかなって。上げたほうが長いこと続けられるんじゃないかなと思いますね。

——ラスベガス進出も希望されてましたけど。

長谷川 いまは正直思ってないんですよ。

——あ、そうなんですか。

長谷川 3年前かな？ 海外に行ったときにリングが凄く光って見えたから、僕も一回あそこで闘いたいなと思ったんですけどね。あと、ラスベガスならビッグマッチを組みやすいというのもあったんですけど、もう僕も9回防衛してますから。ビッグマッチは組もうと思えば日本でも組めると思うんですよ。そういう意味では日本でも充分かなと思いますしね。

——ベガスまで行かなくても、ビッグマッ

チが組める存在に自分がなってきた、と。

長谷川　そうですね、9回防衛してたら言う権利もあると思いますけど。ラスベガスに行ったときはまだ2~3回の防衛しかしてなかったときですから。

――では、これからは2階級、ないしは3階級制覇というのも視野に入れているわけですね。

長谷川　3階級できればいいですね。

――3階級！　いま凄くサラリと言われましたけど、とんでもない記録ですよね。

長谷川　難しいことではないと思うんですよ。あとスーパーバンタムでチャンピオンになって、フェザーでチャンピオンになったら3階級ですからね。そういうチャンスがあればですけどね。

――いまのとおりやっていればって感じですか？

長谷川　はい。まだまだ伸びると思いますし。まだ自分で自分を「強いな」と思ったことはないですから。

――あんな勝ち方が続いてもですか？

長谷川　たまたまやと思ってるんで。たまたま続いてるだけで、次しょうもない試合したら、それが実力やなって思いますから。そんなもんですよ。ええ勝ち方してるときっていうのは、やっぱり評価も上がりますし人が群がるんですよね。でも、たとえば負けたりしょうもない試合したら、「やっぱり長谷川ってそんなもんや」とか、「たいしたことなかった」って人は言うんですよ。勝ってるときはいいこと言っても。それに左右されたくないんですよ。俺自身が俺の実力をわかってたらそれでいいだけで。

――なるほど。

長谷川　俺は自分で強いと思わないですから。たまたまこういう勝ち方が続いてるだけと思うんで。次しょうもない試合をして勝ったとしても「俺の実力はこんなもんですよ」って素直に言えると思うんで。

――同時に、まだまだこんなもんじゃない、とも思ってるわけですね。

長谷川　まだまだ強くなれると思ってるから、やってるんですよ。これはアカンなとか、これ以上は無理やなと思ったら辞めます。金稼ぎのためだけにはやりたくないんで。

まだまだ自分は強くなると思うし3階級制覇は難しいことじゃないと思う

長谷川穂積

はせがわ・ほづみ■1980年12月16日、兵庫■出身 99年にプロデビュー 05年に当時バンタム級最強王者と呼ばれていたウィラポン・ナコンルアンプロモーション（タイ）を破り、WBC世界バンタム級王座を奪取。その後、現在まで連続9度の防衛に成功している。身長167.5cm。左ボクサーファイター。

――いま防衛するたびにいろんなテレビに出る機会が増えてると思いますけど、ボクサーとしてよりも、タレント的に人気を得たいとか思ったりはしませんか？

長谷川　まったくないですね。ボクサーですからね、そこは間違えたくないですよね。テレビに出してもらうのも、勝ってて世界チャンピオンやから出してもらってるだけで。タレントでもないですし、負けても出してくれるかいうたら出してくれないですから。そこは俺も割り切っ[illegible]すね。むしろ、そのせいで練習ができ[illegible]なるのが、一番スト[illegible]になるんで。

――あくまで、勝[illegible]あとについてくる[illegible]みたいな感じですか[illegible]

長谷川　そうです[illegible]根っからのボクサ[illegible]んで。

――長谷川選手は総合[illegible]格闘技やK―1なんか[illegible]も、ご覧になられる[illegible]たいですね。

長谷川　ああ、観ま[illegible]ね。ほかの格闘技な[illegible]で、いちファンとして[illegible]観ておもしろいです[illegible]「もっと殴り合え！」とか言いながら観[illegible]ます。

――自分では一発も殴られない試合をするけど（笑）。

長谷川　ボクシングだと、やってる人間の気持ちがわかってしまって「殴り合え」とは思えないんですけど、違う格闘技だと、単純にファンとして観れますから、楽しいですよね。

――その総合やK―1は、いまいい選手がたくさんいるんですけど、長谷川選手と違って、テレビに出たいとか、そういう方向にいきがちな風潮がちょっとあるんですよね。

長谷川　でも、それがモチベーションになる人はいいんじゃないですか？

――長谷川選手はそういうモチベーションじゃないんですよね？

長谷川　俺はまったくちゃいますね。ボクシングを続けたいのと強くなりたいのと。[illegible]、こんだけ長いこと防衛して勝ち続け[illegible]ね、勝手に注目してくれるんですよ。

――ああ、なるほど。注目されたくないの[illegible]注目されてしまう（笑）。

長谷川　一生懸命なんかせんでも、勝手に[illegible]を覚えてくれるんですよ。いろんな取材なんかもくるようになるしね。ホント[illegible]俺は「知られたくない派」なんですけど。[illegible]タができなくなるんで。

――でも、有名になるのは、それが一番確実かもしれないですね。強くなって勝ち続けるっていうのが。

長谷川　勝ち続ければ勝手に名前は売れますから。名前売れてええんかっていったら、べつにええとも思わないですけど。

――大金を稼ぎたいという気持ちはないですか？

長谷川　それはありますね。金はほしいですよ。でもいまの俺に見合ったお金でいいです。評価以上のお金をもらっても浮わついてまいますし。

――大金が稼げるぐらい強くなって、ビッグファイトがやりたいって感じですね。

長谷川　そうですね。勝ち続ければ、お金もついてきますから。まだまだ上を目指しますよ。

――では、今後もあらゆる記録達成に期待してます！

【09年8月10日　兵庫県神戸市・真正ボクシングジムにて収録】

3階級制覇は難しいことじゃないと思う

たくさんいるんですけど、長谷川選手と違

【09年8月10日 兵庫県神戸市・真正ボクシングジムにて収録】

いったい何が起こったのか!?

ヒョードルvsジョシュ消滅！『アフリクション』崩壊!!

それでもボクはやってない!?

ジョシュ・バーネット

ステロイド陽性反応により、ヒョードルとの試合ができなくなってしまったジョシュ。その後、大会自体の中止が発表され、ヒョードルはストライクフォースと契約するなど、いまだにその余波は大きいが、そんな中、今回の騒動の発端ともいえるジョシュは、当初の予定どおりIGF有明大会へ参戦するため来日。大会翌日、なぜかジョシュから"マスター"と呼ばれる阿修羅チョロが渦中の男を直撃!

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／平工幸雄

冤罪か!? それとも確信犯か!? 渦中の男が徹底抗戦宣言!

　ジョシュさん、聞きたいことはたくさんあるんですが、とりあえず、昨日のIGFはお疲れさまでした!

ジョシュ　オツカレサマデシタ。

――早速ですが、ヒョードル戦が消滅して日本のファンはショックを受けています。PRIDE時代から待ち望まれていた試合だったので。

ジョシュ　それはボクも同じ気持ちさ。試合ができなかったのもそうだし、大会自体がなくなってしまったのも残念なことだよ。

　来日時の成田会見では、今回のステロイドの陽性反応が出て、ライセンスが許可されなかった件に関して、カリフォルニアのアスレチックコミッション（以下・CSAC）と話し合いをしている最中で、まだ結論が出ていないということでしたが、7月31日付でCSACからは第二検体の結果も陽性反応が出たというリリースが発表されているんですよ。

ジョシュ　そういったリリースがあったのはもちろん知ってるよ。

――第一検体に続いて、どちらも陽性反応ということで、日本のファンや関係者は、ジョシュさんは限りなくクロに近いという認識を持っている人が大多数というのが事実です。

ジョシュ　そう思っている人もいるかもしれない。でも、その検査結果には納得できない部分もあるので、いまはいろいろと手配をしたりして、問題を解決できるように弁護士と話を進めているところなんだ。

――ジョシュさんの主張としては、問題が表面化してから一貫して言っているように、ステロイドに関してはやっていないというスタンスは変わらないということですか?

ジョシュ　ボクはこの問題について闘っていこうと思っているんだ。ただ、この件に関して、自分にとってはそれほど大ごとではないんだよ。

　そうなんですか。実際に試合がなくなったわけですし、イメージ的にもよろしくはないですよね。

ジョシュ　ボクにとっては闘うこと、コーチングすること、そういうことのほうが全然大事なんだ。それはファンや、ボクのことをサポートしている人たちにとっても一緒だと思っている。もちろん、そのために早くCSACと話し合って問題を解決したいと思っているけどね。

――今回のドーピングチェックは出場選手の中からランダムに選ばれてテストを受けたという報道と、もう

一方で、現在カリフォルニア州でライセンスを持っていないジョシュさんがライセンスの再発行を申請する際に、義務づけられているドーピングチェックを受けて陽性反応が出たという報道もあります。今回ドーピングチェックを受けるということは事前に知っていたんでしょうか？

ジョシュ　それに関してはハッキリ言っておくよ。今回のテストはランダムではないんだ。真実ではない報道が多く流れてるみたいだけど。

——いわゆる、抜き打ち検査ではなかったということですか？

ジョシュ　そういうことだね。今回のテストを受ける前に、自分のほうからコミッションに「何かやらなきゃいけない検査はある？」と聞いて、検査をやることになったんだ。

——あ、そうなんですか。

ジョシュ　ボクはCSACの検査を受けたのは初めてじゃないしね。ライセンスも持っていたから。ただ、今回はこんなことになってしまったけど、またカリフォルニアでライセンスを取るつもりだし、また「検査を受けろ」って言われたら、いつでも受けるつもりもあるしね。

——そうですか。ジョシュさんとの試合が流れたあとにヒョードル選手を獲得したストライクフォースのスコット・コーカー代表は、当初ジョシュvsヒョードル戦が行なわれるはずだった8月1日の大会が『アフリクション』にとって最後の大会だったと明かしていましたが、そういった情報は事前に聞いていました？

ジョシュ　ボクにしろヒョードルにしろ、ほとんどの選手があの大会で契約が切れていたので、そのあと大会が行なわれないというのは気にしていなかった。でも、そう考えるとおかしいと思うことはあるよ。チャンピオンクラスの選手たちが複数契約していないという時点でおかしい気はするし、大会中止から1週間後に、それまで敵だったUFCのスポンサーに戻ってるわけだからね。

——そういう意味では、今回の件はUFCサイドが仕組んだんじゃないかとか、いろんな噂も出ていますが。

ジョシュ　そうみたいだね。大会がなくなるなんてありえないことだし、大会が中止になったのはボク以外に何か理由があるんだと思っている。詳しいことはわからないけどね。

——以前からジョシュさんはアフリクションからスポサードを受けていて、アフリクションの服とかもよく着ていましたけど、今回の件があって、そういった関係も今後変わってくるんでしょうか？

ジョシュ　いまの段階ではわからない。アフリクションサイドの判断になってくるからね。アフリクションが格闘技の世界で名前がなかった頃から付き合いがあったけど、ボクはアフリクションにとってプラスになるようなことをやってきたつもりだよ。アフリクションもいろいろとサポートしてくれたのは事実だし、お互いにメリットはあったんじゃないかな。

——今回『戦極』の國保広報とも会われたみたいですが、國保広報は11月の両国大会にジョシュさんを出したいと言っていましたが、ジョシュさんは出るつもりはありますか？

ジョシュ　日本のファンのために闘いたいと思っているし、今回の問題が片づけば闘うことになると思う。

——日本事情に詳しいジョシュさんですが、いま日本で騒がれている、のりピー問題はご存知でしょうか？

ジョシュ　のりピー？

——さすがのジョシュさんでも、のりピーのことは知らないか(笑)。

ジョシュ　いや、のりピーのことはよく知らないけど、のりピー問題については知ってるよ。覚醒剤で捕まったアイドルのことだよね。

——あ、知ってましたか(笑)。

ジョシュ　国民性の違いもあるけど、日本ではそういった事件を起こすとイメージはかなり悪くなるよね。もちろん、ドラッグをやることはいいとは言わないけど、アメリカと日本では考え方がかなり違うんだ。

——アメリカにはマリファナ好きを公言しているエディ・ブラボーみたいな選手もけっこういますからね。ちょっと脱線してしまいましたが、前号ではジョシュvsヒョードル戦の勝敗予想をさまざまな選手や関係者にしてもらってたんですよ。残念ながらヒョードルが勝利という声が圧倒的に多かったんですけど。

ジョシュ　その記事は読んだよ。

——それも知ってましたか。

ジョシュ　ボクが負けると言ってたヤツにはファ[illegible]・ユーって言ってやりたいね(笑)。

——アハハハハ！

ジョシュ　ジェイソン(・"メイヘム"・ミラー)もヒョードルが勝つって言ってたけど、アイツはスパーリングで何回も倒してるんで、ボクの実力を知ってるはずなんだけどね(笑)。

——そうでしたか(笑)。いまのところIGFは次回興行は未定らしいので、次の来日はどの団体になるかはわかりませんけど、一日も早く問題が解決することを願っています！

ジョシュ　アリガトウゴザイマス。もし『戦極』に出ることになったら、また大会前に"マスター"に『戦極』ポーズを指導してもらわなきゃね。

——いや〜、ステロイド同様、それもやらないほうがいいような……。

ジョシュ　(気にせず)一、十、百、センゴク！　センゴク!!

【09年8月10日　都内某所にて収録】

8・9IGF有明大会に出場したジョシュはメインで小川直也とタッグを結成し、高山善廣&ボブ・サップ組と激突。ジョシュは高山と仲間割れしたサップに勝利するも、試合後はやっぱり大乱闘。次はどうなっちゃうんでしょうねぇ。アントンと一騎打ち？

ジョシュvsヒョードル 消滅から、その後の経緯

7月23日　8・1『アフリクション』でヒョードルと対戦予定だったバーネットが、カリフォルニア州アスレチックコミッション(以下、CSAC)の薬物検査で陽性反応が出たため、ライセンスが発行されず、大会への出場ができないことが判明。

7月23日　ジョシュは世界最大のSNS「Myspace」上にて「私は困惑しています」と声明を発表。

7月25日　『アフリクション』のトム・アテンシオ副社長がヒョードルの対戦相手を探すことが困難なうえに、新たなカードをプロモーションする時間がないとの理由で8・1『アフリクション』の大会自体を中止にすることを発表。この後、アフリクションはMMAからの撤退を表明し、アパレルメーカーとしてUFCをスポンサードしていくことも発表した。

7月29日　ジョシュのマネージャーのシャノン・フーパーが騒動後、ジョシュサイドから初となる公式声明を発表。フーパーは「ジョシュが『意図的に禁止されている物質を8月1日の試合のために摂取した』ことは激烈に否定している」とし、「CSACに何度も依頼しているが、禁止されてる物質が確認されたという検査結果の書類を一切入手できておりません」とコメント。しかしその2日後…

7月31日　ジョシュサイドの声明を受けるかたちでCSACがリリースを発表。6月25日に実施したドーピングチェックでステロイドの陽性反応が確認され、第二検体のテストでも同様の結果が出たことを発表。また、その検査結果をジョシュ側に提供済みであることも表明した。

8月3日　ヒョードルがストライクフォースと契約を結んだことを、ストライクフォースサイドがリリースにて発表。

8月6日　ヒョードルがストライクフォース、M-1グローバル、SHOWTIMEの共同電話会見に出席し、あらためてストライクフォースと契約したことを報告し、交渉が決裂したUFCのダナ・ホワイトに関しては不快感を表した。

8月6日　IGF有明大会に参戦するためジョシュが騒動後、初めての来日。

──今回、ジョシュ・バーネットが8・1「アフリクション」を出場停止にいたるまでの経緯を説明してください。

ビル ジョシュが8月1日に開催予定であった「アフリクション」アナハイム大会に出場するためには、カリフォルニア州におけるMMAライセンスが必要となります。そのMMAライセンスを申請してもらう際に、ドーピングテストを行なうようCSAC（カリフォルニア州アスレチックコミッション）が依頼し、6月25日にテストに必要となる尿のサンプルをジョシュから採取し、テストを実施しました。しかし、残念なことに7月21日に出たそのテストの結果、アナボリックステロイドホルモン（筋肉増強剤）の使用が確認されたため、カリフォルニア州がすべてのボクサーやMMAファイター対して規定しているタイトルIV・ルール303の条項により、MMAライセンスの発行を認可することができませんでした。これによりジョシュが8月1日の大会に出場することができなくなったのです。

──今回、ジョシュからは、具体的にどんな禁止薬物が検出されてのですか?

ビル 2a-methyl-5a-androstan-3a-ol-17-one※というアナボリックステロイドホルモン（Anabolic steroid）筋肉増強剤でドーピングに使用されるステロイドホルモンです。

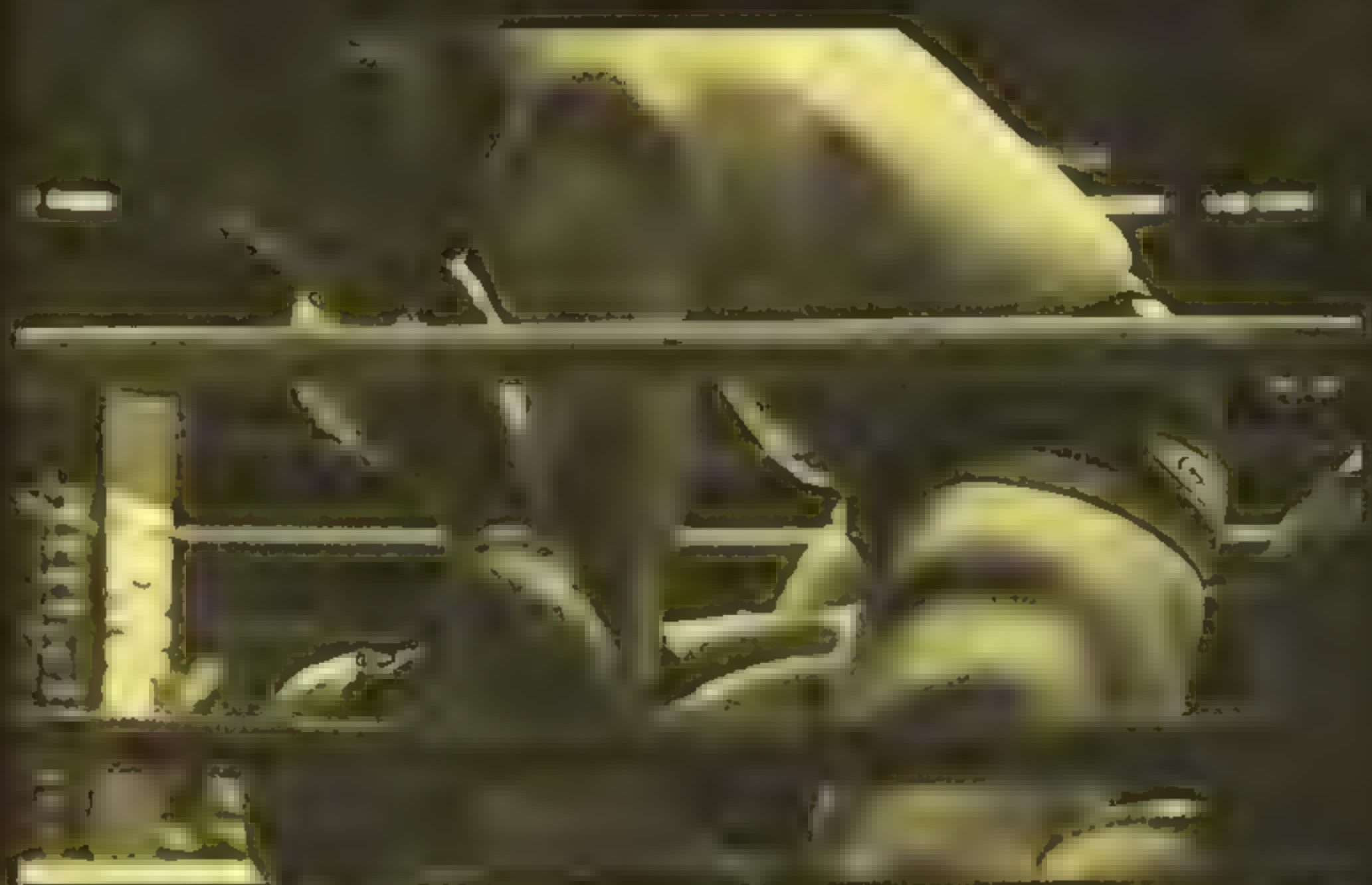
※アナボリックステロイドホルモン 蛋白同化ステロイドとも呼ばれる。多くは人工的に作られたテストステロンの合性誘導体（男性ホルモン類似物質）であり医薬品として使用される糖質コルチコイド成分のステロイドとは区別される。

──試合後ではなく、試合前にステロイド陽性反応が出て出場停止というのは、異例なことだと思いますが、大会前のドラッグテストというのはいつも行なわれているものなのでしょうか?

ビル 今回のテストは出場全選手に行なうものではなく、ランダムにピックアップされた特定選手に対して行なわれたものです。テストを要求する選手は、CSASのスタッフがその対象となる選手をリストアップするのですが、過去にドーピングの反応があった選手はその対象になりやすい傾向にあります。また、今回はジョシュが2008年7月に取得したライセンスが失効していたこともあり、事前でのテストとなりました。

──今回のテスト結果に対し、バーネット側から上訴は出されましたか?

ビル いいえ。ジョシュからの上訴は出て

請を却下したということを考慮し、発行を取りやめることがあるかもしれません

今年1月に同じくカリフォルニアで開催された「アフリクション」には問題なく出場しているジョシュ。しかし、その後ライセンスの有効期限が切れ、再申請の際のドーピングテストで陽性反応が出てしまった。

に

たのか?

知、ジョ
ョシュは
定し、問
いるが、
のか。カ
ッション
た。

ジョシュ・バーネットに何が起ったの

「バーネットのテストはドーピング検査の
最高機関で行なわれたものですから、
結果にはこの上ない自信を持っております」

カリフォルニア州アスレチックコミッション

アシスタント・エグゼクティブ・オフィサー ビル・ダグラス

ヒョードル戦を直前に控えて、突如、ジョシュを襲ったドーピング問題。ジョシュは現在でもステロイドの使用を否定し、問題解決への話し合いを主張しているが、はたしてジョシュに何が起こったのか。カリフォルニア州アスレチックコミッションにコンタクトをとり、詳細を取材した。

取材／石井史彦　構成／堀江ガンツ

ジョシュはライセンスが失効していたので罰金の対象にはなりません

トから上訴は出されましたか？

ビル　いえ、ジョシュからの上訴は出ていません。

——上訴された場合、過去、ドラッグテストの結果が覆った例はありますか？

ビル　いえ、そういった例は聞いたことがありません。7月21日のテスト結果は、尿サンプルをユニバーシティ・オブ・カリフォルニア、ロサンゼルス校（UCLA）にあるワールド・アンチドーピングテストラボに送ってテストしたものです。サンプルは2種類用意しますし、ワールド・アンチドーピングテスト・ラボは、オリンピック選手やメジャーリーガーのテストも行なう最高峰の機関ですから。テスト結果にはこの上ない自信を持っております。

——今回はジョシュへのライセンス発行拒否だけで、出場停止のサスペンドは与えられないと聞きました。なぜステロイド陽性反応が出ていながら、サスペンドはされないでしょうか？

ビル　ジョシュの場合はライセンスが2009年6月で失効していたため、そもそもライセンスを持っていないわけですから、サスペンドや罰金の対象とはなりません。

——ジョシュは今後、カリフォルニア州、もしくはほかの州や国で試合をすることは可能ですか？

ビル　論理上は今日にでもほかの州へライセンスの申請をすることは可能です。州によってはCSACがライセンスの申請を却下したということを考慮し、発行を取りやめることがあるかもしれませんが、ライセンスをすぐに許可する州もあるかもしれません。ライセンスの発行は、あくまでその州のコミッショナーの判断に委ねられているのです。また、アメリカ国外に関して、我々はまったく権限がないので、国外で試合をすることに反対することはありません。

——ジョシュが薬物テストで失格になったのは、これで2度目（前回は02年3月、ネバダ州）となりますが、これは今後の彼のキャリアに影響を与えますか？

ビル　我々が規定しているテスト等にパスすれば将来的にライセンスの発行は可能です。ただし、それが彼のキャリアに影響するかどうかは、コメントできる立場にありません。

——今回の「アフリクション」で、ジョシュ以外にテストにパスできなかった選手はいましたか？

ビル　今回のランダムテストで対象となったのはジョシュだけでした。

——カリフォルニア州は検査の基準が厳しいという声も聞きますが、州によって厳しさや基準が違ったりするのでしょうか？

ビル　各州のコミッショナーが基準を決めているので、ほかの州とカリフォルニア州のものとでは、同一ではありません。ただし、ほかの州でのテスト結果を尊重する方向にあるのは事実です。

〔09年7月29日 電話取材にて収録〕

MMA史上に残る大事件に
"陰謀"はあったのか？

アメリカ在住スポーツマネージャーが語る

アフリクション消滅、薬物汚染の実態

シュウ・ヒラタ

本誌No.136の「お金特集」で大大大好評だったシュウ・ヒラタ氏インタビュー。
アメリカ在住スポーツマネージャーの立場から、
ビッグマネーを生み出すMMAの舞台裏をたっぷりと語っていただいたが、
今回はジョシュ問題に端を発するさまざまな事象について!!

聞き手／ジャン斉藤（"裁判上等"編集者!?）

ジョシュが確信犯でステロイドを摂っていたとは言い難いと思う

――ジョシュ問題は日本でもあたりまえのように大騒動になってるんですけども、現地のシュウさんにお話を聞きたいと思います。

ヒラタ　わかりました。最初に言っておきたいのは、私はジョシュのプライベートをよく知っているわけではないってことなんです。その前提で聞いてください。

――了解です！

ヒラタ　じつはですね、カリフォルニア州のアスレチックコミッションというのは2006年3月にシステムを改善するまで、基本的にドーピングテストをしたことがなかったんですよ。

――あ、そうなんですか。

ヒラタ　そうなんです。ですから、しっかりとしたドーピングテストを始めたのは2007年からなんですよ。で、2006年から2007年までの1年間のあいだ、試験的にドーピングテストを実施したんです。で、驚くことにね、250人中25パーセントの選手がポジティブ（陽生）だったんです。

――うわ～！（笑）。

ヒラタ　それは資料にも残ってますけど、試験的な抜き打ちテストだったということもあるので、誰も罰せられなかったんですね。ただ、250人のうち25パーセントが陽性だったという厳しい現実があるわけなんです。

――それはMMAファイターだけなんですか？

ヒラタ　ボクシングとMMA両方ですね。これはおもしろいことに2006年3月まではドーピングテストではなくてドラッグテストだけだったんですけど、俗に言われるストリートドラッグといって、マリファナやコカインとかそういったもののテストであって、完璧なドーピングテストではなかったんです。

――なぜカリフォルニア州はドーピングテストをやってなかったんですか？

ヒラタ　そこまでの社会的必要性やプレッシャーを感じなかったからやってなかったんだと思うんですけど。まあ、ボクシングのビッグマッチは（ネバダ州の）ラスベガスが中心ですし。で、この結果だけを見てしまいますと「なんだ、みんなドーピングをやってるんじゃないか」と思われがちなんですけども、ボクが読者の皆さんにわかっていただきたいのは、アメリカって適当にいいかげんなところがありまして。

「この辱めをどうしてくれるの!?」――アフリクション副社長にしてMMA部門の実質的なリーダーだったトム・アテンシオ。大会消滅後は酒井法子ばりに失踪したとかしないとか。アフリクション本社に問い合わせたところ、しばらく出社はしていないそうだ

――なんとなくわかります（笑）。

ヒラタ　これはサプリメント関係にも同じことが言えるんですね。で、サプリメントって毎年のように新しいものが出てくるじゃないですか。ここでちょっとおもしろい話がありまして、非営利調査機関のインフォームド・チョイスが2007年に57種類のサプリメントをテストしたんですね。それはアスリートが普通に使うサプリメントなんですが、そうしたらなんと、そのうちの13種類に禁止物質が入ってたんですよ。

――うわ～（笑）。

ヒラタ　私は製薬会社で働いてるわけじゃないから、あまりこういうことは言えないんですけど、要はサプリメントを作る会社も、ギリギリの範囲でいけないものを加えたりするんでしょう。

――でも、問題ないものとして使用する選手からすれば、たまったもんじゃないですね。

ヒラタ　ホントですよ。だからこの250人の中にはイノセントに使ったけど、実際はパスできなかったという事実もあるということを考えなくちゃいけないと思うんですよね。

――そうなってくると「じゃあ誰がいけないんだ」という話になってくると思うんですけども（笑）。

ヒラタ　アメリカのジャーナリストはジョシュに関して「貧乏なアスリートでもないし、プロのトレーナーなり専門家を雇えば自分が摂ってるサプリメントがいいものか悪いかぐらいは判断できたはずだ」という厳しい意見は出ているんですけども。ただ、現実的に考えてですね、「普通にお店に売ってるサプリメントを、研究所に高いお金を払ってまで検査させますか？」って私は思うんですね。

――ちょっと現実味がないですよねぇ。

ヒラタ　私も非常に難しいと思います。ですから、そういう状況を考えたときにですね、100パーセント、ジョシュが確信犯でステロイドを摂ってたとは言い難いかなとは思うんですね。で、もう一つはコミッションが行なうテストに関してどのぐらいの精度があるのかっていう疑問はあると思うんですけども。どこの団体もドラッグテストに関してはワールド・アンチ・ドーピング・エージェンシーといって、WADAを使ってるんですけども。

――日本にはJADAという組織がありますね。

ヒラタ　2007年にカリフォルニア州のコミッションが独自に発表したリリースによると、ステロイドテストの精度は100パーセントだ、と。で、ストリートドラッグのテストの精度は98～99パーセントと宣言しているんです。ただ、それは自分たちが宣言しているだけですから、それがどこまでの信憑性があるのかわからないですけど、そこまで自信を持って発表するということは、それなりの精度はあるとボクは見ているんですよね。

――理由はともあれ、ジョシュからステロイドが検出されたことはほぼ間違いないだろう、と。

ヒラタ　いまアメリカの現地の声としては大きく二つに分かれてまして。ジョシュに関する非難の声、「億単位のお金がもらえるのに、なんでそんなものに手を出してしまったんだ」という声もあれば、「いや、ちょっと違うんじゃないか。普通に薬局で買えるものだって引っかかることがあるんだから、もう一回ちゃんと再テストするべきだ」と。だいたい半々に分かれ

ていますね。
――あの～、日本では陰謀論が流れてるんですけども。
ヒラタ　基本的に陰謀論は難しいと思うんですよね。あまりにもいろんな人が関わるわけじゃないですか。テストに使うコップから何から、いろんな人が携わるわけですから。その携わるすべての人を買収するのは非常に難しいと思うんですよ。
――誰か一人が口をすべらせてもおかしくないですし、この規模で裏工作すれば情報が漏れますよね。
ヒラタ　そのとおりだと思いますね。アメリカではありがちですけど、関わった人間の一人が、もっと金がほしいって言いだしたり（笑）。そんなに複数の人間をコーディネートできるのかなって疑問です。ただね、これはボクの個人的な意見なんですけども、アメリカって「精度100パーセント」とか偉そうなことを言ってるわりには、たとえばラスベガスだったら計量だって1パウンドオーバーでもオッケーだとか、たとえばアマチュアスポーツでも全米アマチュア選手権のドラッグテストだったら1回目に陽性が出ても再テストが3回目まで許されるんですよ。
――3回目まで（笑）。
ヒラタ　それはなぜかというと、やっぱり基本的に人間のやる作業にはミステイクがあるわけだから。100パーセントなんてありえないというコンセプトのうえにできているルールなんですよ。だからそれを考えると、ボクは陰謀説よりも、確率は低いかもしれないですけども、検査ミスのほうがまだ信憑性が高いと思いますね。
――なぜ陰謀に見えてしまうかというと、大会休止を決めたアフリクションが、UFCのスポンサーにすぐさま復帰したじゃないですか。ちょっと手際がよすぎるんじゃないか、と。
ヒラタ　それもボクは凄くよくわかるんですよ。ですけども、まず第一にわかっていただきたいのは、UFCはアフリクションがMMA興行から手を引くことを条件に『メインスポンサー復帰』のオファーを出してますよね。要するに、以前からそういったオファーがあったわけですし、たとえば会社が倒れそうになるときに、アメリカはホントに驚くべき速さでどこかと合併したりするんですよ。
――ああ、確かにアメリカにそういう話は多いですね。
ヒラタ　アメリカ人って、ここぞというときの動きが凄く速いんです。日本人の感覚からするとわかりにくいですけど、今回の件はアメリカ人の感覚からすると、凄くありえる話だと思うんですよ。手際のよさに疑問を感じるのはボクも日本人だからよくわかるけども、アメリカのビジネスを見た場合に、昨日まで大喧嘩してた2社がディナーを食べて、そのあとホテルでガンガン交渉して、翌朝に仲直りをしてるケースってメチャメチャあるじゃないですか。だからボクはそういう手際のよさに関しては、全然不可解さは感じてない。じつを言うと、絶対にこうなるんだろうなってボクは読んでましたね。ボクがアフリクションのボスだったらそうしたと思いますし。
――なるほど。では、今回メインが消滅したから大会を中止にせざるをえなかったというのはどうなんでしょうか？
ヒラタ　これもボクは内部の人間ではないんでわからないんですけども、正直なところチケットの売れ行きもかんばしくなかったっていう噂を聞いてるんですよね。
――開催したらもっと大赤字だったっていう話もありますよね。
ヒラタ　当然、そうでしょうね。ハッキリ言って、選手の2人もそんな、[illegible]が出たとは私は思ってないんですけども、やっぱり日本のファンの方はまだ[illegible]くいんだと思うんですけども、アメリカではヒョードルとジョシュの[illegible]って凄く低いんですよ。[illegible]るくらい知ってる[illegible]ニューヨークのイエローキャブにヒョードルvsジョシュの宣伝が出てたんですけども、そのキャッチフレーズが「Do you know who I am?」だったんですよ。要するに「俺のこと知ってるか？」っていうキャッチフレーズなんですね。そうなると、世間では無名の人[illegible]わけだから、アフリクションは最初から[illegible]MMAファンやハードコアファンの[illegible]力を期待してたとボクは思うんですね。
――求心力があるカードですよね。
ヒラタ　アフリクションもMMAが好きだからやってたんだと思いますし、いくら赤字になろうが、それに値するのがジョシュvsヒョードルだったと思うんです。そんな[illegible]が飛んでしまったというのは、プロモーターの精神的な面が折れてしまったとボクは思いますね。
――「もうやってられるか！」と。
ヒラタ　だからアフリクションを責めることはできないですよねぇ。
――ちょっと話を戻します。試合後にドーピング検査で陽性反応が[illegible]よく聞きますけど、試合前に出場停止になるのはよくあることなんですか？
ヒラタ　あんまり聞かないですよね。今回はボクもビックリしたんですけど。普通は試合後または試合前に抜き打ちでその日に尿を取られますよね。ジョシュの場合はライセンスの申請をしたそうです

「Dynamite!! USA」の桜庭和志戦で筋肉増強剤の一種ナンドロロンが検出されたホイス・グレイシー。ナンドロロンを含んだサプリメントを摂った説が有力だが…

アフリクション自爆、薬物検査の実態

が、そのときステロイドの検査をするか
どうかっていうのはランダムに決めるも
のなんです。ですから「ああ、ジョシュは
正直にやってバカを見なくちゃいけない
んだ」と憤る選手もいると思うんです
私は医学の専門家ではないんであまり
飛ばすわけですから。ステロイドを使
うことによって普通の人間では考えられ
ないような力を出すことが可能になるわ
て成績さえ残しておけば、副作用が起き
ようが何が起きようが、奨学金を稼げば
いいだろうという短絡的な考えもできち

「俺を雇えば大丈夫だ」検査には表れない薬を持ちかけられたこともある

が、そのときステロイドの検査をするかどうかっていうのはランダムに決めるものなんです。ですから「ああ、ジョシュは抜き打ちでやられたんだ」って。

――それは必ず検査すると決まっているものではないんですね。

ヒラタ　必ずとは決まってませんね。基本的に、試合前とか試合後にやるのだってランダムで選手が選ばれるわけですし。もちろんタイトルマッチでは必ず行なわれなくてはいけないですけども。

――しかし、こうなってくると選手も大変ですね。禁止薬物を摂ろうと思ってなくとも陽性になるかもしれないなんて。

ヒラタ　ボクも凄く大変だと思いますね。選手にとったら、普通に薬局で買えるものにも混ざってるかもしれない。ブラジルの選手なんでもっと貧しい状況で練習してる方が多いわけですよ。たとえばそこにサプリメント業者が営業に来て「新しいサプリメントをタダで1年分あげるから試してくれ」って言われたら、もうほとんどの選手が飛びつきますよ。

――おちおちサプリメントも摂れないですね。

ヒラタ　一方でどんなことをしてでも勝つという選手もいるんです。成長ホルモンを打ったりしてる選手もいっぱいいますしね。

――恐ろしいですねえ……。

ヒラタ　ギリギリにインチキなことやってるのに見つからずにいいお金を稼いでる。そういう選手を見て「なんで俺たちは正直にやってバカを見なくちゃいけないんだ！」と憤る選手もいると思うんです。私は医学の専門家ではないんであまりいいかげんなことは言いたくないんですけども、医学の専門家に言わせると「永久のイタチゴッコだ」って言いますし。

――オリンピックの舞台裏と同じなんですね。

ヒラタ　ボクがマネージメントをしてるカリーム・ダムという女性の選手がカリフォルニアでステロイドの陽性反応が出ちゃったんですよ。それはMMA史上、初めて陽性反応が出た女子の選手だったことで話題になっちゃって。そのとき私のところに医学の専門家から電話がかかってきて「いまの医学の世界でステロイドテストで陽性が出るってことは、アンタがバカなんだ」って言われたんですよ。

――ほほう（笑）。

ヒラタ　「俺を雇えばいろいろ薬を飲ませて検査には表われない」って。そんなことをするの嫌だなと思って、全部断ったんですけども。要は、そういうやり方もあるということですよね。

――う〜ん、いつのまにやら凄い世界になってきました（笑）。

ヒラタ　ステロイド問題に関してボクが凄く嫌なのは、ルール違反なのは当然なんですけども、まず選手の安全危険面の高さを考えていくべきだと思うんですね。やっぱり格闘技は殴ってヒジ打ちして蹴っ飛ばすわけですから、ステロイドを使うことによって普通の人間では考えられないような力を出すことが可能になるわけなんですね。そこでマウントを取られて、ボコンと殴られて頭部に打撃が入る。そういうスポーツのなかでそういったインチキをしていいのかなっていうのは、選手自身が自覚するべきだと思うんですよね。だって、もしもステロイドをやって相手が死んじゃったら後味も悪いじゃないですか。選手の安全性を考えると、格闘技なんてもしかしたら一番危ないかもしれないですよね。あともう一つは子どもに与える影響なんですよね。

しゅう・ひらた■アメリカ在住のスポーツマネージャー。本文中でも触れているドーピングチェックシステム、カリーム・ダムの陽性反応の件はブログでも詳しく触れているからさっそく読もう！ アドレス→http://ameblo.jp/shu1968/

――ああ、アメリカ一般社会の薬物汚染はホントにヒドイみたいですね。高校生が普通にステロイドを打ってるとか。

ヒラタ　アメリカの場合はとくに、貧民とか貧しいとこで育ってる子どもたちっていうのは、大学に行かないと良い仕事に就けないと思ってる人がほとんどなんですね。でも大学の授業料を払えないじゃないですか。じゃあ、どうするのかっていうと、スポーツの奨学金を獲得することを目指すんですよ。ステロイドをやって成績さえ残しておけば、副作用が起きようが何が起きようが、奨学金を稼げばいいんだろうという短絡的な考えもできちゃうわけなんですよね。

――MMAがビッグビジネスになったいまだからこそ、そういう思考の選手がどんどん出てくるわけですね。

ヒラタ　ボクはいま公の場でも言ってるんですけど、日本人選手に対してはもの凄く信用してるっていうか。そう言うと、日本人びいきだって言われるんですけども、日本ではそんなにステロイドの入手ルートがないじゃないですか。

――日本ってドーピング天国みたいなことが言われてますけど、日本人選手でやってる選手はほとんどいないって聞きますね。

ヒラタ　私はいないと信じてますね。

――いや、○○○○と△△△△はやってるかな（笑）。

ヒラタ　ノーコメントです（笑）。

――「日本はなんで検査しないんだ？」っていう声はいつもありますけど。

ヒラタ　ファンとしてはそういうふうに感じちゃいますよね。ステロイドをやるのもお金がかかりますけど、検査するにもけっこうなお金はかかりますから。

――それに公的機関が絡まないと難しいって話はありますよね。

ヒラタ　もの凄く大きなバックアップがないと難しい話ですよね。国とかドン・キホーテの安田会長とか（笑）。

――ダメダメ！　やっぱり安田会長にお願いするしかないのかな（笑）。

ヒラタ　とにかく日本はもっとそういうところに力を入れてくれるといいなってボクは思うんですよね。

（09年8月4日／電話取材にて収録）

リングドクターが現在のMMA界に

緊急警鐘！

「このままじゃ死人が出ます」

『戦極』&パンクラスリングドクター

齊藤直人

（武蔵村山さいとうクリニック）

ジョシュのステロイド陽性反応でヒョードル戦が消滅！ 数日後には大会自体もなくなり、大激震のMMA界。これまで『kamipro』でもドーピング問題については何度か取り上げてきたが、今回は『kamipro』の携帯サイト内の連載コラム「kamipro事件簿」で三沢さんの死について医学的見地から語ってくれたリングドクターの齊藤氏が登場。リングドクターが語るドーピング問題、さらにはステロイドよりも危ないMMA界の問題点をズバッと指摘！

聞き手／高橋計三　構成　阿修羅チョロ

――齊藤ドクター！　『kamipro Move』の連載コラム「kamipro事件簿」では三沢光晴さんの事故について語っていただきましたが、「まだまだ話したいことがある！」ということでお話を聞きに来ました！

齊藤　そうなんですよ。話したいことがあるんです。

――現在、齊藤ドクターはパンクラスと『戦極』のリングドクターを務められているんですよね。

齊藤　はい、パンクラスは2000年頃から、『戦極』は旗揚げ当初からやらせてもらっています。最近は、ほかのイベントにも声をかけてもらうことがありますね。

――メディカルな話題といえば、8月1日の『アフリクション』でジョシュ・バーネットに薬物反応が出たということでエメリヤーエンコ・ヒョードル戦が中止、大会も消滅したばかりです。ジョシュの日本の主戦場である『戦極』の國保尊弘氏が「日本でも本格的なドーピング検査を導入する」と発言しました。

齊藤　日本でのドーピング検査というと、JADA（日本アンチドーピング協会）という第三者機関がやっているのは、医師とか薬剤師の免許を持った人が数人でグループを作ってポンと抜き打ちで来て、検査をするという方法なんですね。アマチュア競技はそういう方法です。

――リングドクターとかは関わらず、競技とはまったく無関係の医療関係者が来るわけですね。

齊藤　そこでもいろいろとルールがあって、たとえば男性ならヒザまでズボンとパンツを下ろして、シャツは胸のところまでまくり上げて、試験官が真横についた状態で尿の採取をするんです。まして

自分で持ってもいけないんですよ
――なんですか、そのプレイは！（笑）。
――では、「次の大会からドーピング検査
をやります！」と言ってすぐできるよう
隠れてやってるものを見つけ出すのは、
僕らの本来の仕事ではないですよね、だ
なんですか？
齊藤　そうなんですよ！　みんな自分で

リングドクターの本分は選手の身体を守ること。捜査官とは違う

自分で持ってもいけないんですよ
　なんですか、そのプレイは！（笑）
齊藤　そうしないと、以前には陰茎の下に管を通して、力を入れたらその管からピュッと液体が出るような仕掛けを仕込んですり抜けようとした選手もいたらしいんですよね。当然、女子選手でも、同じ状況で尿の採取をするっていうぐらい厳格なんですよ。
――その検査で、ステロイドや興奮剤を検出するんですか？
齊藤　いや、そんなものはもうあたりまえすぎる話で、いまは〝むくみ〟などの症状で処方される利尿剤でも引っかかるんです。
――どうして利尿剤がダメなんですか？
齊藤　それ自体にはなんの興奮作用もないんですけど、尿と一緒にステロイドとか興奮剤を身体の外に出しちゃって体内の薬の濃度を薄めさせるからなんです。利尿剤以外にも不自然なビタミンとかミネラルもダメで、それこそ日常生活の食材とかでも引っかかる可能性があるくらいですから。
　想像以上に厳しいんですね。みんなアウトになっちゃうじゃないですか。
齊藤　だからテストにもいろんなレベルがあるんですね。そこで、これから導入するならステロイドと興奮剤だけを対象にするのか、それともオリンピッククレベルまでやるのかを決めて、これとこれはダメ、というのを何ヵ月も前からアナウンスしておかないと、ダメだと思うんです。

　では「次の大会からドーピング検査をやります！」と言ってすぐできるようなことではないんですね。
齊藤　厳しいと思います。だから現段階では尿検査のみをリングドクターがやっている状態なんですが、これもまたおかしな話だと思うんですよね。
――というと？
齊藤　JADAというのがアメリカでいえばアスレチックコミッションにあたると思うんですが、日本にはコミッションがちゃんとしているのはボクシングぐらいですよね。
――そうですね。
齊藤　日本ボクシングコミッション（JBC）は慈恵医大とかの学識者が中心になって検査しているんですが、僕らリングドクターの本分はあくまで選手の身体を守るためにいるんであって、違反者を見つける捜査官とは違うと思うんですよね。
　なるほど。
齊藤　禁止薬物を使っていても、それが危険なものでなければ、リングドクターの立場からは問題ないわけですよ。極端なことを言えば。リング上であきらかに危険な様子が見られるようなものは止めなきゃいけないですけど、そうでなくて隠れてやってるものを見つけ出すのは、僕らの本来の仕事ではないですよね。だから、今回、検査をやるということになって、実際に選手のセコンドからクレームがきたりしたんですけど、僕らに言われても困るんですよね。
――食ってかかられたりもするわけですね。検査をされると、よほどまずいことでもあったのか……（笑）。
齊藤　だから僕は、選手の身体を守るリングドクターという立場では依頼されてもそういう捜査官のような仕事をやるつもりはありません。ただ、試合前なのに異常な汗をかいていたりとか、おかしいと思う選手は見かけますけどね。
――身体つきを見ても、いかにもって感じの選手もいますからね。
齊藤　結局、日本には統一されたコミッションがないから、僕らが主催者に言われて、持ち出しで試薬を持っていって尿検査をしている状態ですよね。
――ちょっと待ってください。持ち出しなんですか？
齊藤　そうなんですよ！　みんな自分で持ってきて、一生懸命やってるんですよ。でも、アメリカのコミッションがやるテストには、リングドクターは関わらないですよね。
――日本にはそれがないから、主催者の近くにいる唯一の医療関係者にお鉢が回ってくる、と。
齊藤　だから、選手たちも僕らに言っておけば大丈夫なんだろうと思ってるんですよね。選手から電話がかかってくることもありますよ。たとえば「治療のためにステロイドを処方された」とか、「こういう注射をしたけど違反になりますか？」とか。ステロイドにもいろいろあって、治療にも一般的に使われたりしてるし、ただそれよりも僕らは違反をチェックしてるわけではないし、違反薬剤が書かれている契約書も見ていないですからね。
――いままで言っていた、違反薬剤としてのステロイドは「アナボリックステロイド」と呼ばれるものですね。
齊藤　簡単に言えば筋肉をガーッと膨らませて、一時的に筋力をアップさせるというものですね　治療に使われるステロイドは筋力をアップさせることも興奮作用を及ぼすことも絶対にないんですが、選手は引っかかるんじゃないかと心配になってしまう。ジョシュの場合も「ステロイド問題」と言っているけど、どこまでのものかはわからないじゃないですか。コミッションの検査レベルもわからないし。
――アロマターゼ阻害誘導物質、と報道されてますね。
齊藤　治療にも使われるものですね。なんのために飲んでいたのかわからないですけど。だから極端な話、コミッションな

今年5月、シュエルスに参戦したマネージャーのシャノン・フーバーの計量を見守るジョシュ。このときは無差別契約だったため、とくに減量をしたわけではないが、このページに合った写真かなと思い使ってみた次第です

りJADAなりが禁止している薬剤にしても、選手が治療のために必要としているものだったら主催者が認めていいと思うんですよね。だから主催者もそこまで考えて、選手に正しい知識を与える必要があると思います。それに、アナボリックステロイドを使っているからといって、総合格闘技で有利かどうかはわからないじゃないですか。

――確かに、それについての明確な根拠はないですよね。

齊藤 しっかりした科学的根拠があるなら禁止する必要がありますが、それはまだ出てないですからね。砲丸投げなんかであれば確実に有利になると思いますけど、15分間、総合格闘技で闘うのに有利かどうかはまだわからないと思うんですよ。人体にいいかどうかは別ですが、結局のところ興行だから、本人がそれでいいと思ってやるならかまわないとも思いますし。

――うーん……。ステロイドの副作用はよく伝えられますが、興奮剤も人体には悪影響があるものですか?

齊藤 あると思いますよ。興奮剤は交感神経を活発にさせるものですが、当然、血圧も心拍数も上がります。心拍数には上限があって、それを超えると心臓が停止してしまうんですね。血管もブチッといっちゃうでしょうし。ただですね、いま、総合格闘技の世界でそれ以上に危険なものがあるんですよ。

――ステロイドよりも危険なものですか?

齊藤 そうですね。それは何かというと、減量の問題なんですよ。あきらかに無理な減量をしている選手は、2ラウンドぐらいからもたなくなってるじゃないですか。

――あ～、確かに。

齊藤 ここが一番言いたいところなんですが、いまは減量がメチャクチャになってるんですよ。前日計量なんていうのは、僕に言わせれば主催者側の都合ではないかと思うんですよ。

毎回、試合前は過酷な減量を行なっている北岡。「大会当日はかなり体重は戻っている。そのぶんスタミナも切れやすいけど、パワフルに攻められる。それが自分の持ち味」と自ら分析する北岡だが、廣田戦ではかなりのスタミナ切れを起こしていた。

7.20『DREAM.10』でのウェルター級GPでは優勝が期待されながら準決勝で敗れたマッハ。以前から減量に苦しむことが多かったマッハだが今回は再々計量でようやくクリア。頬もこけ、見るからにしんどそうな感じだが、試合への影響も大きかったか?

ステロイドよりもはるかに危険なのは減量の問題です

――主催者側の都合というのは……。

齊藤 当日計量にしたら、オーバーした選手が出たときに代替の選手を用意できないし、それでメインやセミが中止になったら興行が成り立たなくなっちゃいますよね?

――少なくとも、そう言う主催者はいますね。DEEPの佐伯代表はそう明言していました。

齊藤 興奮剤を使おうがどうしようが、根本的な平等性って、僕は体重が同じであることだと思うんですよ。だから体重を同じにするには、極端な話、入場してきて体重計に乗ってから試合をするとかね。そうすれば試合中止になっても観客はどうにか納得するでしょう?

――まあ、確かにそうですが……。

齊藤 24時間以上前の一瞬にその体重をクリアしていればよくて、当日は何キロ戻っていてもOKなんて、そんなの平等でもなんでもないと思っているんですよ。極端に言えば計量後に体重を元に戻していいんだったら、ドーピング検査のあとに興奮剤を打ってもいいんですかってことですよね。

――そういうことになりますね(笑)。

齊藤 だから最低でも試合の1～2時間前に計量しないと本当の意味での平等にはならないですよね。

――なるほど。

齊藤 ただ、いまの話は僕の観客としての意見で、ドクターとしてもいまの減量はあまりにもナンセンスです。当日計量にしたら、選手もいまみたいな減量は絶対しないと思いますよ。もし10キロも落としたら、1時間後の試合で動けないじゃないですか。だから選手は動ける体重に持ってくるようになると思うんですよね。

動ける体重にエントリーするということですね。

齊藤 そうです。アップが終わったあとに計りますということにしたら、完璧に動ける状態に持ってきますよね。そしたら、まさに平等だと思うんですよ。ドクターからしても、そういう状態で体重計に乗ってもらいたいんです。だけどいまは絞るだけ絞って、最後は水分を抜くでしょう。血液内の血球の比率って、平常値は45パーセントぐらいなんですけど、計量時の選手って50～60パーセントぐらいになっちゃってるんです。

――血液からも水分が失なわれているん

7・13K—1MAX武道館大会の前日計量で、大会参戦選手の中で唯一、対戦相手の川尻の計量をしっかりとチェックしていたのが魔裟斗だ。大会前に魔裟斗は「総合の選手は試合当日に10キロとか体重を戻す選手もいるっていうけど、それでちゃんと動けるの?」と驚いていた

ですね。
齊藤 そうなんです。計量時には血液が

かに減量のほうが危ないです。あれだけ落とす選手たちは、前日計量のときは日

トーナメントで一日2試合とか

「このままじゃ死人が出ます」

トーナメントで一日2試合とか減量した選手には負担が大きすぎる

ですね。

齊藤　そうなんです。計量時には血液がドロドロになってて、今後、脳梗塞や腎不全で倒れちゃう選手が出てきてもおかしくない状況ですよ。

ボクシングが前日計量になったのは、当日計量でもそれぐらい落とす選手が出てくるから、せめて前日にして回復させようという意図と聞いています。またGCMの久保社長は気持ち的には当日計量なんですが、頭蓋骨の中で脳を取り囲んでいる水分も失なわれているから、その回復のために前日にしていると言っていました。

齊藤　だったら、もう減量自体をやめなきゃっていう話になりますよね。調整で1~2キロ落とすのはわかりますけど、いまは2階級ぐらい落とすのがあたりまえ。馬力差を出すために。戦極フェザー級GPなんかでも本来もう一つ下の階級の選手と、上から落としてきてる選手では あきらかに体重差、馬力差があって、公平も何もない状態でしたよね。

――確かにそう感じた試合もありましたね。齊藤ドクターとしては、ステロイドと同じぐらい、減量は危ないと。

齊藤　いや、ステロイドなんかよりはるかに減量のほうが危ないです あれだけ落とす選手たちは、前日計量のときは目も落ちくぼんで、ガリガリになってますよね。

――じゃあ、安全のためには、もっと階級の刻みを小さくすればいいということですか？　総合はだいたい5~10キロの幅ですが、ボクシングはそれこそ2~3キロ幅ですよね。

齊藤　いや、PRIDEの頃に比べたら、いまは幅が小さくなったじゃないですか。だから逆に、みんな落とすようになってきたと思うんですよ。これからも、落とす選手はもっと出てくるんじゃないですか。

――小刻みにすると適正体重に近くなるというよりも、小刻みだから落とすことを考えるわけですね。

齊藤　だから、下の階級になるほど悲惨ですよ。下の階級がないから無理矢理にでも上の階級に出ないといけなくなるし。いまの格闘技は技術も上がっちゃって、無差別級がほとんどありえないじゃないですか　だから階級制になってるわけですけど、そうなると当日にどれだけ戻したかで決まってきちゃう。どうしても勝ちたかったら、2週間で20キロ落とす選手も出てきますよ。それだけ命懸けてやってくることも考えられますよね。

――まあ、中にはそういう選手も出てくるでしょうね。

齊藤　そこまでしても勝ちたいという選手の気持ちもわからなくはないです。でも、ここまで来たら本当に限界ですよ。ホントに危ない。僕は警鐘を鳴らしますよ。

――確かに危ないですね。

齊藤　それから落とこしに落とした選手を相手にするときは、1~2ラウンドにネガティブファイトを取られるギリギリまで逃げに逃げれば、スタミナがガクンと落ちるから勝てることになる。そうなると、総合格闘技という競技そのものが変わってきちゃうと思ったんですよ。それとトーナメントでの試合も減量した選手には負担が大きすぎるので医者の立場からしたらやめるべきだと思います。

――日本では一日2試合とかメジャー団体でもありますからね。逆にUFCなんかは初期の頃とは違って、いまはトーナメントで一日2試合というのはやってないですけど。

齊藤　単純に観客の立場だったらおもしろいですけどね。船木誠勝さんと話をさせていただいたときに、船木さんは発想がおもしろいから「いまの格闘技をどう思いますか？」って聞いてみたんですよ。そしたら、「いまの総合はもうダメですよ。僕なら1分10ラウンドでやりたい」って言ってましたね。

――「よーい、ドン！」を10回繰り返す、と。

齊藤　5分でも（力を）抜く時間が出てくるから、1分で本当にお互い極めにかかればいいんじゃないかと。

――それをやるためには、動ける身体作りも要求されますね。

齊藤　まあちょっと話がそれちゃいましたけど、この前の『戦極』の試合を観てるとかわいそうですよね。選手はいくら次があるといっても、その1試合に勝つことに全力懸けてますからね。このあたりも考えていかなければいけないところなのかもしれませんよね。

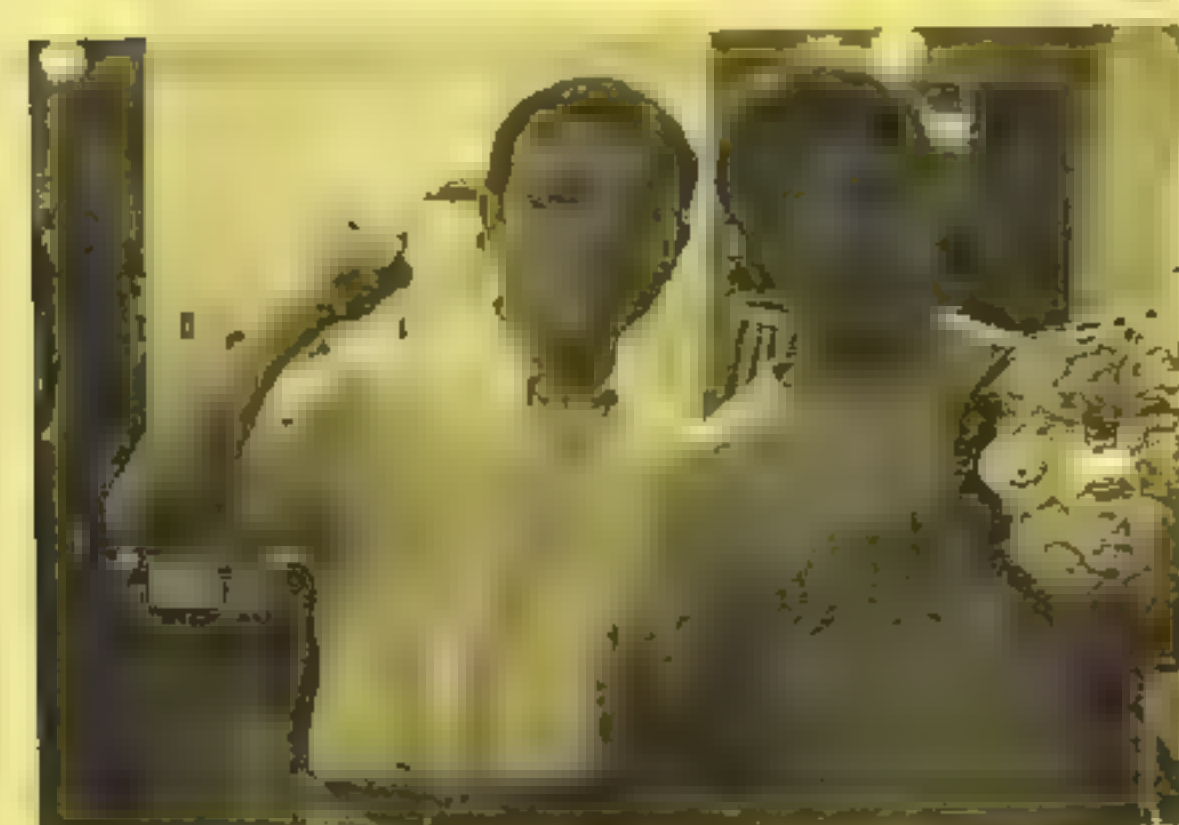
――まさに問題山積みですね。

齊藤　本当にそう思いますよ。何かが起きてからじゃ遅いですからね。僕たちもドクターの立場から、選手の身体を考えて言えることは言っていかないといけないと思ってます。

――いろいろ難しいこともあると思いますけど、格闘技界のためにお願いします！

【09年8月8日　都内・某所にて収録】

メインイベント
弘中邦佳 vs マーカス・ドナヒュー
は マーカス選手が 規定の体重を
オーバーしている為、中止となります。
深くお詫び申し上げます。
GCM

計量問題で記憶に新しいのが、今年4月25日のケージフォース・ディファ有明大会のメインイベントで予定されていた弘中邦佳vsマーカス・ドナヒュー戦で、マーカスの体重オーバーにより試合が中止となった件だ　大会当日にメインがなくなるのは主催者としては避けたいところだが、GCMでは選手の安全面を考慮し、ドナヒューの失格負けを宣告した

さいとう・なおと■都内・武蔵村山さいとうクリニックの院長を務めるかたわら、『戦極』やパンクラスのリングドクターとして活躍。選手からの信頼も厚く、パンクラスの近藤有己や北岡悟、グラバカの菊田早苗、佐々木有生、山宮恵一郎から、地元・武蔵村山出身の金原正徳など、多くの格闘家が来院している。ブログアドレス→http://d.hatena.ne.jp/naoto-s_dr/

最強考察コラム①

映画スター最強は誰だ!?

文　高橋ターヤン

アクション映画は世界中の観客のアドレナリンを沸騰させ、様々な幻想を抱かせてストレスを発散させる映画のジャンルだ。想像を絶する非現実的なスタントや、痛みすら感じさせる激しいアクションは、それだけで観る者のカタルシスを爆発させる上質なエンターテインメント足りえている。それだけにアクション映画の主人公が、現実の世界で女々しいゴシップを書きたてられるのは残念極まりない。本稿では、アクション俳優はやはり現実に強くあってほしいという身勝手な幻想のもと、様々な武勇伝を持つ古今東西の俳優を集めてみた。

まずは映画の都ハリウッドの俳優たち。『地獄のヒーロー』などで有名なチャック・ノリスは空手の元世界ミドル級王者。映画ではもっさりしたアクションだが、空手の試合では前へ前へとスピーディに突き進む好ファイトを展開していた空手の使い手で、ノリスとの古戦で名をあげたのが、『沈黙』シリーズのスティーブン・セガール。日本に住んで合気道道場の師範代にまでなった武道マスターなのは有名。また空手といえば『ロッキー4』のドルフ・ラングレンを忘れてはならないだろう。極真会館の第二回全世界空手道選手権では、その大会で優勝する中村誠選手と激戦を演じ、大山倍達総裁から、次の大会はラングレンが本命」とのお墨付きをもらうほどの逸材だった。昨年はエキシビションとして、元UFC王者のオレッグ・タクタロフとボクシングマッチを行い、久々に格闘技に復帰している。他にも世界各国でエメリヤーエンコ・ヒョードルの試合を観戦するストーキング行為で有名なジャン＝クロード・ヴァン・ダム（『ユニバーサル・ソルジャー』など）は、全欧プロ空手選手権ミドル級チャンピオンだし、ビリーズ・ブートキャンプで一世を風靡したビリー・ブランクス（『キング・オブ・ドラゴン』など）は、アメリカでは空手の殿堂入り選手となっている。

次に日本に目を向けてみよう。空手家系俳優としては、70年代から活躍するベテラン脇役俳優の石橋雅史は、大山総裁に請われて極真会館の師範代を務めたほどの猛者。また新Vシネの帝王・小沢仁志は空手の有段者で、田原俊彦をはじめ多くの芸能人をシメまくった武勇伝がある。また俳優で技斗師の高瀬将嗣も空手有段者で、国士舘高校時代は朝鮮高校との抗争で名をあげた強者だ。

また単純にケンカが強いことで有名な俳優を挙げると、石倉三郎はヤクザの組事務所をひとつ壊滅させたとの伝説を持つ（真偽不詳）ケンカの達人だし、コワモテの代表格である安岡力也（現・力也）は、キックボクサーとしてのキャリアもあり、「1ラウンドだけは最強」と言われていた（すぐスタミナが切れるため）。またこの手の話では必ず語られる渡瀬恒彦は、腕自慢が集まっていた東映大部屋の中でも抜きんでたケンカ上手として知られ、「芸能界ケンカ最強」を語る際に今でも筆頭に挙げられる俳優だ。

そしてカンフー映画の都・香港は、映画業界がマフィアと深い関係にあるせいか、パンチの利いた武勇伝を持つ俳優が沢山いる。現役のアクションスターの中ではドニー・イェンが一歩抜けている。1982年には『インサイド・クンフー』誌が選出する最優秀武術家に選ばれるほど優秀な武術家でありながら、アメリカではケンカ三昧の日々を送り、香港でもケンカ武勇伝は数知れずという男。他にも日本でボクシングの試合を行ったこともあるチャーリー・チャン（『プロジェクトA2』）は、現役のヤクザであることを公言するデンジャラスガイだし、格闘技経験はゼロながら香港・台湾の裏社会の顔役で、ジャッキー・チェンが契約問題で拉致監禁されたときにジャッキーをギャングの手から救い出したジミー・ウォング（『片腕ドラゴン』）は、中華圏最強の俳優と言っても過言ではないだろう。

しかし結局「最強の俳優」はブルース・リーに行きついてしまう。詠春拳という中国武術を学んだリーは高校時代はケンカに明け暮れ、ついには他校の生徒やギャングに命を狙われるようになり、アメリカに留学。大学を中退して道場を開いて多くの人々に中国武術を教えるようになった。しかし非中国人に中国武術を教えることを良しとしない中華街の長老たちから、刺客を差し向けられるがすべて返り討ちにしている。その後は様々な格闘技をミックスし、独自のミックスド・マーシャル・アーツであるジークンドーを創始。しかし俳優として成功したあとも、死ぬまで現役のイケイケであり続けたのは偉い。

ちなみにリーは、『燃えよドラゴン』で世界最初のオープンフィンガーグローブを登場させ、修斗のコンセプトである「打投極」に多大な影響を与えるなど、現在の総合格闘技の下地を作った最大の功労者でもあるのだ。

今回は代表的な「最強」俳優を紹介させて頂いたのだが、もちろん他にも多くの俳優が様々な武勇伝を持っている。また機会があればご紹介したい。

かつて本誌でヒョードルと対談が実現したこともあるジャン＝クロード・ヴァン・ダム。vsカンセコ戦は観てみたい!!

21世紀の
最強幻想

麻雀

20年間無敗とは何か?

伝説の雀鬼

桜井章一

雀鬼・桜井章一といえばヒクソン・グレイシーと親交があり、プロレス・格闘技界にも
顔が広い人物だ。"麻雀20年間無敗"を誇った勝負哲学から
"最強"のあり方を聞いてみました! ロンロンロ～ン!!

聞き手/ジャン斉藤 写真/北村泰弘

〝麻雀20年間無敗〟桜井章一。
昭和40年代の歌舞伎町で〝ジュクの桜井〟と恐れられていた伝説の男は、大学時代に麻雀を覚えてわずか半年足らずで大金を懸かった勝負の〝代打ち〟を任せられ、現役引退まで〝20年間無敗〟を誇った。現在は下北沢と町田に道場を構え、格闘家・プロレスラーとも親交が広く、ヒクソン・グレイシーとは親友の間柄である。
わたくし『kamipro』のジャン斉藤がその桜井章一の弟子だったことを知ると、たいてい人は怪訝そうな顔をします。とくに麻雀をやったことがあれば、「無敗なんて嘘でしょ」「裏技だからでしょ」と、その強さをまったく信じてくれません。
え～、疑いたくなる気持ちはよくわかります!!
ある程度の技術が介入する余地があるとはいえ、麻雀は4人で行なうこともあり、〝運〟が大きく左右するゲームです。しかもいまの麻雀は全自動卓で行なわれている。次局の牌山は機械内部にセットされており、結果が次の闘いに左右するわけがない。〝流れ〟なんてオカルトだ。常勝はありえないと考えるのは普通でしょう。
わたくし斉藤は、雀鬼のもとを離れてからも、そうやって怪訝そうな顔をする人たちに、その圧倒的な強さを口を酸っぱくして説明してきましたが、途中から凄く面倒くさくなってきた。
だいたい雀鬼の麻雀は人間離れしており、あらゆるエピソードが信じられないのはあたりまえなのだ（わたくしも実際に目のあたりにしなかったら取り合わなかったと思う）。
「待ち牌を当てる」（↑こんなのあたりまえ）
「次の局で何が起こるか当てる」（↑わたくし、見飽きました）
「40人参加の麻雀大会で8位になると宣言して本当に8位になる」（どうやって!?）
「強いヤツから点棒を直取りして、それをほかの二人にバラまく。それが延々と続き、その人間はノイローゼ気味になる」（↑わたくしのことです。ちなみにわたくし斉藤は麻雀プロと呼ばれる方々より強かったんですが……）。
そんな〝伝説の男〟に「最強」をテーマにお話を聞きましたが、そこには勝負の必勝法ではなく、勝負へ揺るぎない〝姿勢〟があったのでした。

昭和60年代頃、現役引退直後と思われる雀鬼。当時は相当近寄りがたいオーラを放っていたというが、写真からでもその〝強さ〟が伝わってくる。写真／中村龍生

歌舞伎町の雀荘で俺のことを「プロだ」なんていうヤツはぶっ飛ばしていた

――お疲れさまです。
桜井　おまえか。
――今日はよろしくお願いします。いま取材されていたのはどちらの方ですか？
桜井　『週刊現代』。落合の取材だって。
落合って、中日ドラゴンズ監督の落合博満ですか？
桜井　そう。あの人は〝勝負師〟だろ。それで勝負についていろいろと話をしたんだよ。まあ、俺なんかに聞いたってしょうがないんだけどな。
――いやあ、じつにピッタリのテーマだと思いますし、ボクも桜井会長にふさわしい〝最強〟というテーマでお話をうかがいます（笑）。
桜井　あ、そう（冷たく）。
――この企画会議のときに「最強とか無敗の人って誰かいないかな」と考えたら、ボクの身近にいらっしゃったことを思い出しまして。ウチの読者は桜井会長を知らない方がほとんどだと思うので、たいへん失礼なことを聞いちゃうかもしれないですけど。
桜井　もともとが失礼な雑誌だろ、『kamipro』は。しかし、今日はまた見当違いなところに取材に来ましたね。
――えっ、どういうところが見当違いですか？
桜井　最強なんてのはさ、俺にとっては関係のないことですから。見当違いだから道場の人間にも「断れ」って言っといたんだよ。でも、道場の人間って格闘技が大好きで『kamipro』も読んでるじゃん。
「どうしてもお願いします」って頼むんだよな。
――あ、どうりでなかなか取材日程が決まらなかったんですね。
桜井　だって俺なんかが〝最強〟なんて語れないよ。
――いやあ、いろんなジャンルごとに強い人はたくさんいますけど、桜井会長くらいズバ抜けた存在をボクは見たことがないんですよ。
桜井　俺の中では「オマエ、弱いだろ」って言われると「何!?」って思うけど、「強いですよね」って言われると「そうじゃないよ」って言いたくなるよ。
――でも、桜井会長は大学時代に麻雀牌を持ち始めてから「強いですね」って言われ続けてきたんじゃないですか？
桜井　……俺は現役時代、歌舞伎町の雀荘で誰かに「強いね」とか声をかけられると、そいつをぶっ飛ばしてたね。
――え～え!?（笑）。
桜井　凄くそういう感情があった。俺のことを「プロだ」なんて言って帰るヤツがいると、黙ってあとをつけてって「おい、ちょっと待て！」と。で、蹴り飛ばす。
――それはどうしてなんですかね？
桜井　なんでだかねぇ……。わからない。
――それは蹴っ飛ばされるほうも困りますね（笑）。もともと会長が麻雀に対してあまり良い感情を持ってなかったことに起因してるんですか？　会長が幼い頃、お父さんが麻雀をされてて、それでご家族が苦労されたとか。

桜井　だからかもしんないな。そういうもので「強い」って言われるのが、自分の中でイヤだったのかもしれないし、俺は
うのを遊びながら覚えちゃった。麻雀もそれと同じだよ。
――でも、麻雀というゲームは運の要素が
だ若かったから、そんな世界では凄く浮いてたんじゃないですか？
桜井　うん。〝大人の世界〟に子どもは俺
桜井　歌舞伎町でちょっと麻雀やれば稼げるから。
――まあ、そうですよねぇ。

20年間無敗とは何か?

雀鬼は表舞台に姿を見せる前から“伝説の男”としてその名は知られており、阿佐田哲也とも親交もあった。阿佐田氏の著作『麻雀放浪記』が映画化された際は“裏技”指導も行なっている。写真／中村龍生

桜井　だからかもしんないな。そういうもので「強い」って言われるのが、自分の中でイヤだったのかもしれないし、俺は「負けたら二度と麻雀をやらない」と決めて始めたんだよ。なぜかというと、俺たちの小さい頃、遊ぶっていうことは必ず何かしらを賭けてたもんなんだ。身体を危険にさらしたりしたし、メンコやベーゴマにしろ負けちゃったらもう遊べないだろ。

負けたら遊び道具を取られちゃうわけですからね。

桜井　だから絶対に勝たなきゃなんなかったの。そういう中で“勝つコツ”っていうのを遊びながら覚えちゃった。麻雀もそれと同じだよ。

―でも、麻雀というゲームは運の要素が強いから常勝はありえないと思ってる人がほとんどなんですよ。

桜井　俺なんかは最初から「なんでこんな簡単なものをみんな悩んでるんだろう」って感じ。

簡単でしたか(笑)。それで麻雀を始めてからわずか半年で“代打ち”を任されるようになったのも凄い話なんですけど。

桜井　いきなり“大人の世界”に入っちゃったんだよな。20代そこそこの若造には似合わないんだよ。政治家や一流企業の社長や筋者とかが絡む世界。リキ(力道山)さんが殺された赤坂のニューラテンクォーターにもしょっちゅう連れられていったよ。

当時からマット界の方と交流はあったんですか?

桜井　リキさんもそうだけど、遠藤(幸吉)さんとは親しかったけどね。よく遠藤さんと一緒に飲みに行ったりしてましたよ。俺はぜんぜん飲めないけど(笑)。あと猪木さんが新人の頃、渋谷のリキパレスで練習してんのも見てましたから。

―当時の会長はまだ若かったから、そんな世界では凄く浮いてたんじゃないですか?

桜井　うん。“大人の世界”に子どもは俺一人だから。そこに俺は「行きません」って言うんだけど、俺を世話してくれた人が「いいよ、いいよ」って席に座らせるんだ。ただ、そういう“大人の世界”を早く覗いたことで、人間のイヤな部分も、裏の世界のイヤなものも、世間のカラクリも見えて勉強になったことも多いから。

―反面教師になったというか。

桜井　それは小さい頃から自然と学んでいたんですよ。俺は、ちょっとした理由で将棋の某名人とつながりがあったんだけど、名人の普段の生活はとにかく破滅してましたよ。あれは異常だった。

―非常に豪快な時代だったとは思うんですけど。

桜井　まあ、「kamipro」的には豪快だよなあ。

―すいません(笑)。

桜井　でも、家族や周囲からすれば凄く迷惑なんだよ。俺は間近に見ててそう感じた。そんなんで強くたって、いくら名人になったって、素晴らしいとは思えなかった。小さい頃からああなってはいけないという思いができたのかもしれない。だから俺は大学を出たあと、普通に仕事して働いてたりしてたじゃん。

―でも、無給で働いてたんですよね。

桜井　うん。会社に縛られるのはイヤだったしな。

―じゃあ生活費のほうは。

桜井　歌舞伎町でちょっと麻雀やれば稼げるから。

―まあ、そうですよねぇ。

桜井　だからって麻雀で稼いでやろうとは思わなかったよ。

そこで「とにかく稼いでやろう」と思って麻雀にのめり込んでたら、どうなってたんでしょうね。

桜井　ほかのもんで負けてたんじゃないですか。

女だったり、酒だったり、ほかのギャンブルだったり。

桜井　そうそう。たとえば やっぱマイク・タイソンなんかも、ボクシングでいくら稼いでも結局、何もかも失なっちゃったっていうか。どの世界でもそういう方はいるじゃないですか。

―当時の歌舞伎町でいえば、将棋で「新宿の殺し屋」と言われた真剣師の小池(重明)さんもそんな感じですね。

桜井　あの人とよく麻雀をやったけど、弱かったねぇ。将棋はさすがに強かったけど。

で、桜井会長には、銀座の大勝負に勝ったあとに接待や謝礼を断り、一杯50円のラーメンをすすって帰ったという逸話がありますよね。会長の言葉で「上に還る」というのがありますけど、そうすることで自分を律していたんですか?

桜井　やっぱり、勝負のあとはそういう感覚になるんだよ。勝てば「ハイヤーで送ります」「接待します」「謝礼を受け取ってください」って甘い声はかかるけど、何も

「とにかく稼いでやろう」と麻雀にのめり込んでいたら、ほかのもので負けていた

かも振り払って無性に一人で帰りたくなるんだ。そこで金をもらったりすると、それなりに管理されてしまう。それが俺は嫌いだったんだよ。代打ちにしても義理絡みで引き受けていたし、小さい頃だってベーゴマ、メンコがほしいから遊んでいたわけじゃないだろ。もうそこは純粋に「勝負したい」ってことだよな。

——ああ、なるほど。どれくらい強いヤツがいるのか、と。

桜井 ベーゴマ、メンコの時代、地元ではいつも勝ってたから、ちょっと離れた町まで遠征に行くんだよ。それで稼いで帰ろうとすると、負けたヤツらに襲われる。小さい頃の勝負の世界ですら、ただ勝てばいいんじゃないんだよ。格闘技だって試合で勝ったヤツが大怪我してるときだってあるだろ？

——つまり、試合で勝ってもケンカで負けちゃしょうがないんですね。

桜井 ケンカでも勝たないといけないんだ。俺だって麻雀でずいぶん勝ったけど、負けた相手に恨まれて命を狙われてたもんだよ。

——会長の手にはナイフの刺し傷があるんですよね。

桜井 肩もやられた。だから勝ってる以上はいつなんどき襲われてもしょうがないっていう覚悟はあった。だって歌舞伎町で勝ってるとイケイケバンバンの連中が現われるわけだろ。そいつらと雀荘で会うわけじゃないですか。でも俺、どうも引けないのよ。

——桜井会長は路上でそういう集団に遭遇すると、わざわざ突っ込んでいきますよね（笑）。

桜井 わざと突っ込むことはないけど、向こうは態度で蹴散らしてくるからな。こっちも引かないから、いろんなことになっちゃうじゃないですか。

——〝いろんなこと〟ですか（笑）。そういう筋者が相手でも、麻雀で手を抜くことは一切しないんですか？

桜井 もちろん手は抜かないよ。

——そこで一歩引けば、うまく世渡りできないこともないですよね？

桜井 そんな姿を一度でも見せちゃうとさ、腕力で脅かせばいいとなるわけだよ。

——あ、そうなりますね。

桜井 そこで引いたらもう、麻雀で負けたも同じじゃん。それにさ、歌舞伎町あたりでいれば、もう毎日のようになんかトラブルに巻き込まれんじゃん。いちいちトラブルがあったくらいで慌てたりしちゃしょうがないだろ。それは麻雀も同じで、相手からリーチがかかるたびに逃げていたらダメなんだ。

——桜井会長が指導する麻雀には〝オリる〟（＝逃げる）という概念がないですね。

桜井 そうすると、いちいちトラブルに驚かなくなる。昔の歌舞伎町の雀荘って、ほとんどが筋者でそんな中で俺だけが一般人だったしな。そうすると真夏の歌舞伎町で花見ができるんだ。

——真夏なのに？

桜井 当時雀荘にクーラーなんかがないだろ？ みんな上半身裸になるから、右も左も〝桜〟だらけになってなあ（笑）。

——イ、イヤな花見ですねぇ……。話は変わりますが、桜井会長は40人参加の麻雀大会で事前に「15位になる」と宣言されて、実際に15位になるじゃないですか。凄く不思議なんですが、あれってどうやってコントロールしてるんですか？

桜井 わかんないだろ？

——はい。教えてください。

麻雀 20年間無敗とは何か？

いちいちトラブルがあったくらいで慌てたりしちゃしょうがない

桜井 俺だってわかんない（キッパリ）。

——そ、そうなんですか（笑）。

桜井 あたりまえだろ。だって計算のしようがねえじゃん。40人もいれば、自分の卓だけじゃなくて、ほかの麻雀卓でも試合があるわけだから。さすがにどうしようもできない。

——でも、いつも宣言どおりの順位になってますよね……。

桜井 うん。どう打てばいいのかは、感覚でなんとなくわかる。たとえばこの場でいま起きてることってのは……、こうやって話しててもわかるんだよ。（向こうの麻雀卓を指差して）「いまアイツ、パーソウを切ったな」とかね。

——えーっと……、ホントに切ってますね（汗）。

桜井 わかるんだよ。

——どういうことなんですか？ それはもう〝読み〟でもないですよね。

桜井 〝読み〟じゃない。俺は「そうなんだろうな」ってなんとなくわかってしまう。だいたい、読もうと思って読めるわけがないんだから。読めるほうがおかしい。

——ボクからしたら会長も充分にありえないんですけど……（笑）。

桜井 んなこと言ってもしょうがないだろ。わかってしまうんだから。

——麻雀って、目に見えない部分に惑わされることがあると思うんですけど、会長は目に見えないところが自然と見えてくるんですか？

桜井 目に見えないところを見ていくのがいちばんおもしろいんだけどね。それは麻雀にかぎった話じゃない。格闘技だってなんだってそうだよ。普通の人なんかは、見えてるものしか見ないから、物事にとらわれていっちゃう。

——それは「読もう」と思って読んでるんですか？

桜井 違う。その答えをどこで見つけるかはわからない。道を歩いてくるときに見つけてるかもしれないし、相手のちょっとしたしぐさから見えるときもあるし、牌を触った瞬間に見えたり、部屋の空気だったりすることもある。それをどこで見るかはわからない。逆にそれは固定化することがおかしい。物の見方っていうのは１００も２００も３００も５００だけじゃなくて無限にあるんだから、決まった方法論なんかはとくにないんだよ。

——それは麻雀を始めたときから、なんとなく感性としてあったんですか？

桜井 当時は言葉にできなかったもんでしょうね。いまは取材を受けたりするから、こうやってなんとなく説明できるけど。なんとなくね。

——では、現役時代の桜井会長が他人に麻雀を教えることはかなり難しかったんじゃないですか？

桜井 難しいというか、自分自身でもよくわからなかったからな。「そうなるだろうな」というのがたいていそうなっていく。「これってそうじゃないの？」ってことが実際にそうなってただけだから。

——それは世間でいう〝流れ〟というものですか？

ですか？

桜井 言葉で言うなら、流れが見えるんだ

んだよ。そういうときはヤバイでしょ。自

分で自分をコントロールできない。いつ

俺はついてる運を取り寄せる状態も知っ

てるけど、ということは、逆に運を離す状

った。「負けたらやめる」。それだけだから

桜井 俺の場合はレートはどうでもよか

ですか？

桜井　言葉で言うなら、流れが見えるんだろうね。運もそうだよ。運もやっぱ流れてるから、その流れや運をつかんじゃう。

――麻雀にかぎらず、最近はあらゆる分野のデジタル化が顕著でして「流れというものは存在しない」と断言する人もいるんですけど。

桜井　だって風は流れてないかい？　水は流れてないかい？　それは人間世界から見ればそういう見方をできるけども、自然を見ていれば自然が流れているのはすぐわかる。だから俺の場合は人間社会の感覚ではなくて、自然が流れてるのを見て「ああ、きっとこうなるんだろうなあ」と。自然を見てるだけ。

自分がビックリしたのが、ある日、桜井会長に何か凄く悲しいことがあったことで感情をコントロールできなくて、麻雀でずっと勝ち続けていたことなんですね。「いまの俺では、この流れはどうにも止められない」と。

桜井　まあ、そういうこともあるかもしれないね。

――流れや運を見るうえで、やっぱり感情というものも左右するもんなんですか？

桜井　感情というか、俺の場合は、強さというものを自分の中でコントロールするわけよ。俺が道場生と打つときなんかさあ、かわいいやつらじゃん。もう根っこに「こいつらに勝ったって……」という気持ちがあるわけじゃん。でも、そういうものがなんもなくなっちゃってるときがあるんだよ。そういうときはヤバイでしょ。自分で自分をコントロールできない。いつもの場合は強さをコントロールするんだけど……。歌舞伎町のときも同じなんだよ。俺はいつも自分でレベルを落とすわけ。なぜだかわかる？

――え〜っと、本気を出すと勝負にならなくて、みんな逃げちゃうからですよね。ボクもあまり打ちたくないんですが……（笑）。

桜井　そう。それじゃ麻雀にならないから自分で流れや運を調整をするんだよ。

雑誌の企画でヒョードルと対談したこともある[illegible]鬼　そ[illegible]強さを"資質"と指摘している、
写真／北村泰弘

欲があるために勝負の本質を見落としてしまう。欲なんてのは人間の都合なんだから

俺はついてる運を取り寄せる状態も知ってるけど、ということは、逆に運を離す状態も知っているということになる。

――「こういうふうにやればつかなくなる」と。

桜井　まず自分でつかない状態にするんだよ。そこから打ち始めると、自分が凄く苦しむんだ。やることや気をつけなきゃいけないこともいっぱいあるし。そうすることで、やっと場が成立するんだよな。

流れや運を狂わせる要素に"欲"というものがあると思うんです。

桜井　そうだな。欲があるために勝負の本質を見落としてしまう。欲なんてのは人間の都合なんだから、そこだけにとらわれていたら流れは見落とすだろうな。

――でも、やっぱり普通の人は欲を捨てきれないと思うんですが。

桜井　捨てる必要ないじゃん。捨てる必要ないというか、人間には欲があってあたりまえだろうし。ない人はいないわけだ。生きてるということは、生存してるということはそこでもう欲があるわけです。だって我々が毎日生きてるってことは連続でしょ。その連続性を保つということは欲を満足させてなかったら命がないはずじゃん。それを考えたら、欲がないということはありえない。ただ、必要以上に欲を持ってはいけない。

――欲があることで麻雀そのものが見えづらくなってるというところはあるんですね。

桜井　まあ、普通はそうだと思う。たとえば、たいていの人はレートに飲まれるな。

――1万円を賭けた麻雀で打てる牌が、100万円の麻雀でも打てるかというと、なかなかそうはいかなくなりますね。そこも欲が絡んできてます。

桜井　俺の場合はレートはどうでもよかった。「負けたらやめる」。それだけだからな。ただ、大きな勝負の前になると、熱がバーッと出てきたね。勝負熱。負けるかもしれない、勝つかもしれない。その二つの狭間を歩んでたんだろ。

――それはプレッシャーですか？

桜井　プレッシャーだな。だって当時の麻雀人口はいまの10倍はいたわけだから。なら、どっかに強いヤツがいるんじゃないかって思うでしょ。

――でも、世間で"麻雀プロ"と呼ばれてる人たちの中には、強い人はいなかったわけですよね？

桜井　いるわけないだろ。あそこらへんはプロでもなんでもないからな。裏にどっかに強いヤツがいるんだろう、と。

――表には出てこなかった"裏プロ"って、やっぱり強かったんですか？

桜井　強い。逆にいうと、裏で食ってるヤツなんかは、勝負が始まって俺が牌を切っただけで正座して「すいません」って言う人がいたよ。

――一打切っただけでですか（笑）。

桜井　そいつらはかなり打てるだろ。で、俺は笑って「いいですよ」ってやめたことがあるもん。

――逆にシロウトだと……。

桜井　シロウトはバカだから突っ込んでくる。強くて突っ込んでくるのか、弱くて突っ込んでくるのかって、すぐわかるのよ。熱いヤツなんか見たら俺らは「おいしいな」と思うしな。熱なんていうのは、いっときのもんだから。だって、熱しやすいもんは冷めやすいって言葉があるじゃん。それと同じように、格闘技でも熱してる選手は、そのうち冷めますよ。（エメリヤーエンコ・）ヒョードルなんて、そういう感じを見

せたことないでしょ。
——何があっても揺れないイメージがありますね。

桜井 対談の企画で会ったときも感じたけど、ヒョードルには自滅する空気がない。自滅したくないっていう思いが強いんでしょう。敗北はすべて自分のミスっていうか自滅です。だからヒョードルやヒクソンとか、あのレベルの選手はそのことをよう知っとるんです。勝負とは自滅であることをしっかりわかってるんです。

——そういうたたずまいを持つ格闘家って、いままでほかにいましたか？

桜井 俺が会った中ではヒョードルが別格だった。最初にヒョードルと会ったのは、まだヒョードルという存在を知らないときに、PRIDEのリングサイドで俺の前のイスに彼が座ってて。彼の背中を見て「いい背中をしちょるな」って思ったんだ。ボールのように自由自在に転がれるような背中
ヒクソンでいえば触ったときの握手の柔らかさが凄かった。もう人間としての強さが彼らにはあったよな

——性格というのは強さに関係ありますか？

桜井 あるだろうね。性格っていうか、資質っていうのは重要だろう。だから努力したり磨いて強くなるってことはほとんどないんじゃない？

——努力は無駄ですか(笑)。

桜井 極端に言うとね。「なんか自然に身につけちゃった」っていうのが本当はいちばん強いんだよ。

——ヒョードルは凄くナチュラルな強さですもんね。

桜井 ヒョードルもヒクソンも堅さが見えない。そのうえで闘い方もちゃんと知ってるよ。だからなんていうんだろうな、ちょっとしたの間の外し方。結局、勝負って"間"だからね。自分のいい"間"に入るか、あるいは外されちゃうか。勝負で負けるってことは階段を外されちゃうみたいなもんだから。ってことは、"間"が重要なんだよ。そういう闘い方はヒョードルなんか天下一品だよ。あの左手の構えは自分の間合いを計り、相手が意識を自然に殺すようになっている。

ヒョードルやヒクソンは、勝負とは自滅であることをしっかりわかってるんです

さくらい・しょういち■東京・下北沢出身。著書、モデルとなった小説、マンガは多数。格闘家のみならず、卓球の平野早矢香、武術家の甲野善紀氏らとの親交もあり、甲野氏とは「賢い身体 バカな身体」(講談社・刊)がある　写真　北村泰弘

20年間無敗

——たいていの負けは自滅だというお話がありましたけども、相手の意識を利用されたりするんですか？

桜井 うん。まず意識ってのはみんな持ってんだよ。誰でも持ってる。意識を強く持ってる。意志を強く持つとか、しっかり持つとか、勝つ気になるとか。だからこそその意識が邪魔になることもあるよということ。意識を利用されることがいっぱいあるわけ。ヒョードルも自然に相手の意識をちゃんと読んでるんじゃないの。

——桜井会長は麻雀でも「相手の意識を殺す」って言い方をされてますよね

桜井 うん。おまえにはおまえの殺し方があるし、人それぞれ意識の殺し方がある。麻雀でもおまえなんかは相手の動きだけを見てるんだろうけど、俺は意識とか心の中とかをみんな見てるから

——だから目の前の欲や意識がジャマになることがあるんですね　そういった心構えも資質がなせるものなんですか？

桜井 努力である程度まではいけますね。でもたいていは資質だね。そういう意味では、ヒョードルってのは、素晴らしい環境で育ったことで、そういう資質が育まれてきたんじゃないの。

——ヒョードルの生まれ故郷はロシアの片田舎ですもんね。

桜井 それが強さの土台になってる可能性はあるな。

——会長の場合はベーゴマやメンコだったり。ちなみに、会長には弟子と呼ばれる存在がウン千人以上いたと思うんですけども、いいところまでいった人っているんでしょうか？

桜井 おまえなんかはいいところまでいったほうでしょ。

——うれしいなあ。でも、"表"でいくら強くても、裏プロの五流には、ぜんぜん適わないんですよね。

桜井 あ〜ぁ、それは絶対に無理(笑)。

——絶対に!!(笑)。

桜井 いくら"表"で一流とは言ってもしょせんはシロウト。裏の五流には勝てないよね。資質がないんでしょう。

——資質がなければ、どんなに努力をしても裏の五流には勝てない。

桜井 うん。それよりシロウトは気づくことが重要だよ。努力なんかするより、なんか気づくことを増やしたほうがいいね。

——気づくことですか。

桜井 結局さあ、何か伸ばったり、何か得るために、いまはみんなオタクになるばかりでしょ。確かにそうすればよく知るってことになる。でも、それってけっこう情報や知識にとらわれてて弱いものなんだよ。物の見方が固定されやすいから、そうじゃなくてナチュラルに物事を見なきゃダメなんだ。ライオンやサメの強さなんかを見て、"いや〜、つえぇな"って思うところから始めるんだよ。たぶん、ヒョードルやヒクソンなんかはそういうところをいっぱい見てきてるから。

——よくわかりました。お話を聞いて、なんとなく"気づき"ました。

桜井 ホントかよ〜。

——ホントです！　それでも裏の五流には、一生、勝てないと思いますけど(笑)。今日はありがとうございました。

【09年7月某日　「牌の音」町田道場にて収録】

最強考察コラム②

世界最強は〝コンセプト〟が決める!!

文　橋本宗洋

〝最強〟をテーマに原稿を、と編集部から依頼を受けていろいろ考えてみたんだが、なにしろテーマがデカい。永遠のテーマじゃないかこれ。答えなんて出るはずないよな……と思いながら、考え始めたら、これがなかなか止まらないもんなんである。答えが出るもんじゃないが、答えを求めていく作業自体がすこぶる楽しいのだ。

で、考えていく中で頭に次々と浮かんできたのは、かつて〝最強〟と呼ばれた、あるいはそのイメージの中で人気を獲得した人や団体、流派のことだった。

たとえば、アントニオ猪木だ。いまの若いファンにはピンとこないかもしれないが、〝最強〟といえばアントニオ猪木という時代が確かにあった。なにしろ応援のノボリに『世界一強い　アントニオ猪木』って書いてあったんだから間違いない。

猪木は、なぜ最強というイメージを獲得できたのか。それは、当時すでに単なるスポーツとは違うジャンルとして（少なくとも業界内では）確立していたプロレスに『キング・オブ・スポーツ』、『格闘技世界一』というコンセプトを持ち込んだからだ。プロレスこそ最強、プロレスラーである猪木こそ最強として他ジャンルにケンカを売ったのである。

しかも、そのコンセプトを実現する場である異種格闘技戦で試合をしてきた相手には、柔道の五輪金メダリストやボクシングの現役世界王者などビッグネームも含まれるのだ。ファンが熱狂しないわけがない。

その猪木と異種格闘技戦を行なった〝熊殺し〟ウィリー・ウィリアムス。彼を輩出した極真空手も、〝最強〟を標榜し、そのイメージが大きな武器となっていた。なにしろ極真のドキュメンタリー映画、そのタイトルが『地上最強のカラテ』、『最強最後のカラテ』である。

極真空手、その創始者である大山倍達は、それまで〝寸止め〟と呼ばれる試合形式だった空手に、直接打撃（フルコンタクト）を導入した。空手の攻撃は当たったら死ぬ、あるいは大ケガをさせる。だから当てないという〝武道〟の世界に、実際に当ててみなければわからない、という格闘技のリアリズムを持ち込んだのである。

武道の世界では、それまでパワーやサイズが重要なのではなく、肝心なのはあくまで技なのだとされてきた。だがその常識も、大山倍達は覆した。「技は力の中にあり」と公言したのである。

技を決めるのではなく、相手を倒すのが目的の空手。その斬新なコンセプトで武道から神秘のベールをはぎとった極真空手は、それゆえに最強幻想をまとうことになったわけだ。

そして時代はグッと飛んで90年代。新たな〝最強〟の担い手となったのはグレイシー一族だ。バーリ・トゥード＝なんでもありという試合形式は、それまでの格闘技のあり方を一変させるほどのものだった。そして、このバーリ・トゥードで勝ち続けることで、グレイシーは最強の名をほしいままにした。まずはホイスが『UFC』を連覇。続いてホイスが「僕の10倍強い」と表現したヒクソンが日本での試合で大ブレイクを果たす。テイクダウンの攻防、マウントパンチといった技術や局面も、格闘技ファンにとっては斬新そのものだった。

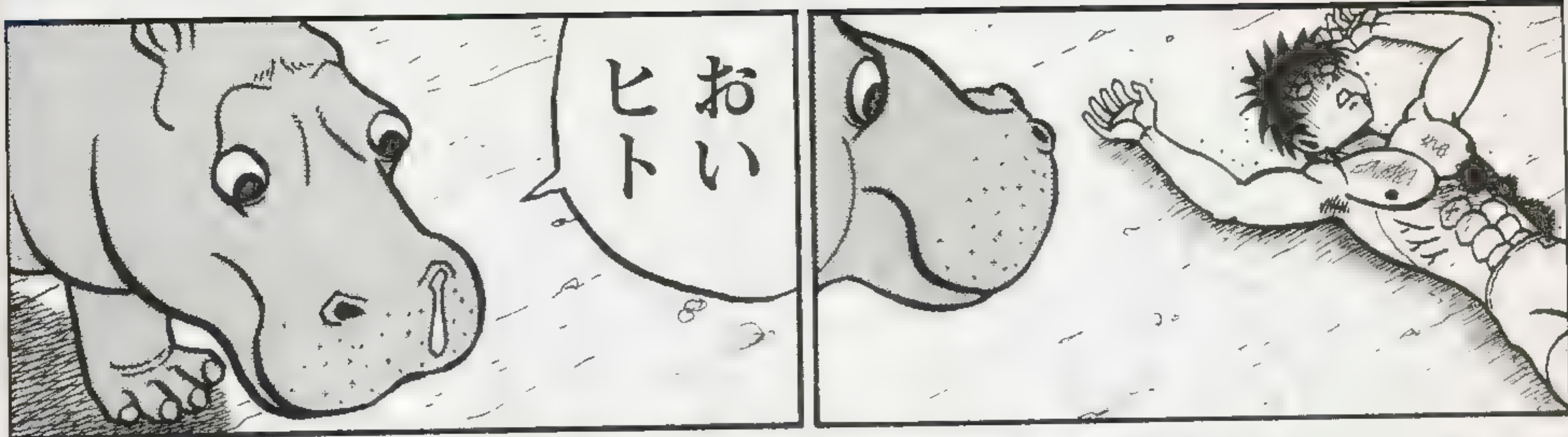
「PRIDE.1」の高田vsヒクソン戦から早くも10年以上が経過している。MMAに変わるコンセプトは生まれるのか?

アントニオ猪木、極真空手、グレイシー一族。この〝最強の系譜〟から感じるのは、過去にはなかった斬新なコンセプトの魅力だ。〝最強〟とは答えの出ない、格闘技における永遠のテーマ。一時的にせよ答えらしきものを見出すためには、従来にないコンセプトを打ち出すのが最も効果的だってことなんだろうと思う。もちろん猪木も極真もグレイシーも、効果的だからやってたわけではなく、そこにロマンを感じていたのは間違いないのだが。

では、最新型の〝最強〟であるエメリヤーエンコ・ヒョードルには、どんな斬新なコンセプトがあったのだろうか。これが意外と思いつかないのである。ロシアという、プロ格闘技界では辺境の地からやってきた選手であること。強靭すぎる肉体。相手を粉々に破壊してしまいそうなパウンド。どれも新しさを感じさせるものではあったが、しかし異種格闘技戦やフルコンタクトの〝ケンカ空手〟や、なんでもありとは、新しさの基準が違うような気がする。

ヒョードルの〝最強〟ぶりは、ジャンルの枠組みを変えるようなものではないのだ。コンセプト型というより実質型というか。

いま、バーリ・トゥードはスポーツとして整備され、MMAと呼ばれるようになった。枠組みを壊すのではなく、整える方向の時代だ。ヒョードルはそういう時代の〝最強〟なのである。といっても、それはつまらないということではなく、むしろ歴史上の誰よりも真っ当な〝最強〟のあり方だろうと思うのだが。

ということは、ヒョードルの〝最強〟を更新するのは、やっぱり斬新なコンセプトなんじゃないか。バーリ・トゥードさえも超えるような、「こんな闘いがあったのか!?」と度肝を抜かれるようなものが出てきたとき、新たな〝最強〟の時代が幕を開けるはずだ。それがどんなものなのかは皆目見当がつかないのだが、いつか訪れるかもしれないそのときを、僕は楽しみにしている。

“動物総合格闘”マンガ

『真・異種格闘大戦』作者が語る
地上最強生物論

漫画家
相原コージ

**はたして地上最強の生物とはいったいなんなのか!?
この人類永遠のテーマに、マンガという表現技法を使って取り組んでいるのが、
『真・異種格闘大戦』を『web漫画アクション』で好評連載中の相原コージだ。
野生の強さをひたすら探究する鬼才が“最強”について語ってくれた。**

聞き手／堀江ガンツ

——今日は相原先生に「地上最強の生物はなんだ?」というテーマでお話

も、次第に階級制になってルールも整備されていって。あの、僕はもとも

手〟という専門職がいたらしいです。

——レフェリーのように闘いをうな

とえば8キロのクズリと7トンのゾウを闘わせたり（笑）。

けどおもしろい!」って感じたのは、梶原一騎作品のように「大山倍達談」

初期UFCのおもしろさを過剰に極限まで追求したのがこのマンガ

――今日は相原先生に「地上最強の生物はなんだ？」というテーマでお話をうかがいたいんですけど、まさにそのテーマでいま描かれている『真・異種格闘技大戦』は、どんなきっかけで描き始めたんですか？

相原　着想のもとになったのは初期のUFCですね。ほぼルールがない状況で柔術やキックボクシング、レスリングといったさまざまなジャンルの格闘技が競い合うのを観て衝撃を受けまして。

――中には忍術やカポエラなんていうのもありましたね（笑）。

相原　そうそう（笑）。相手の研究のしようもないようなジャンルも含めて、単純に〝なんでもあり〟のルールで世界最強を決めるという、いままでありえないと思ってたことが実現したというか。それまでの異種格闘技戦だとルールに偏りがあって、どの格闘技が一番かってことは厳密には決められなかったと思うんですね。極真が極真で最強を名乗れば、プロレスもプロレスで最強を名乗って。でも、それを実証できる場がついにできたことに驚きましたね。

――いままで妄想であったものが実現した、と。

相原　本当に梶原一騎が描くような漫画でしかありえなかった世界が誕生したところがおもしろかったんですよね。格闘技のパラダイムシフトが起こったといった感じでした。でも、次第に階級制になってルールも整備されていって。あの、僕はもともとスポーツには興味がないんですよね（笑）。むしろ嫌いというか。なのでUFCがスポーツライクになるにつれて、ちょっと「あれ？」っていうのはありましたね。

――では、UFCがスポーツになっちゃうんなら、初期UFC本来のおもしろさを漫画で描いちゃおう、と（笑）。

相原　いまのUFCもおもしろいんですけど、あの頃のおもしろさをもっと過剰に極限まで追求したことを漫画でやれないかなと思ったんです。

――あらゆる流派の闘いはUFCで実現しちゃいましたけど、あらゆる動物の闘いは実現してないですものね（笑）。

相原　動物だと本当は生息域の違いもあって実現は難しいですし。そもそもローマ時代にはコロシアムで、ライオンとトラを闘わせたりしてたんですよね。当然、人間vs人間や動物vs人間もやっていて。でも、動物は理由がなければ積極的に闘わないみたいですね。逆にいえば、野生には縄張り争いのような闘う理由があるってことですけど。だから、当時は動物を闘わせるために〝鞭撃手〟という専門職がいたらしいです。

――レフェリーのように闘いをうながす役目ですね。

相原　ちなみにその当時、ライオンとトラを闘わせると、勝率が高かったのはトラだったみたいですよ。

――あ、ライオンじゃないんですか？

相原　でも、その理由もライオンのほうが積極的に闘いたがらないから、戦意喪失ということでトラの勝率が高かったってことらしいですけど。

――昔、極真が〝熊殺し〟を目指していた頃に「極真は熊殺しを目指してるけど、熊は打倒極真を目指してない」と言われたのに似てますね（笑）。『真・異種格闘大戦』は、実際には実現しない対決を、「もし闘わば？」というのがスタートだったわけですね。

相原　はい。初期UFC的なおもしろさをもっと過剰にするために、たとえば8キロのクズリと7トンのゾウを闘わせたり（笑）。

――無差別級にもほどがあるというか（笑）。

相原　いまは漫画でも、たとえば医療モノだったら医者にちゃんと取材をしてリアルに描こうとするのが主流なんですよね。もちろん、リアルに描かれたものもおもしろいと思うんですけど、「それってどうなのよ？」っていう部分もあるんですね。たとえばリアルにするんだったら、漫画じゃなくてもドラマや映画といったほかのジャンルでも実現可能なわけで。だから、漫画でしか表現できないものを追求したいっていうのも根本にありますね。僕の漫画は凄く残酷な場面もあるので、ピクサーのアニメみたいにはならないでしょうし（笑）。

――キャラクターの致死率が以上に高いですものね（笑）。

相原　自然界での負けは「死」を意味しますから（笑）。やっぱり個人的にも野球漫画だったら『アストロ球団』みたいな「ありえないだろ！」っていうものに惹かれたんですよね。まぁ、僕の漫画も動物がしゃべるって時点でありえないですけど（笑）。

――〝ありえない〟という魅力と同時に、先生の作品は最低限の〝リアリティ〟も兼ね揃えてますよね。

相原　リアリティでいうと、僕がこれまで触れてきた漫画で「ブッ飛んでるけどおもしろい！」って感じたのは、梶原一騎作品のように「大山倍達談」とか解説が入ってるものなんですよ。まぁ、いまからするとかなりデタラメなんですけどね（笑）。ほかにも、つのだじろうの『うしろの百太郎』で「アメリカ心霊調査会のカーリス・オミス博士によると～」みたいな解説や、エスパーの清田益章くんの念写シーンが写真で入ってるのとか。そういうヘンなリアリティによって、作品がより深みを増すと思うんですよ。

――なるほど。

相原　もっとさかのぼれば、僕が影響を受けている白土三平の忍者モノなんかも、めちゃくちゃな忍術が出てくるんですけど、科学的な説明がついていて一応の理屈は通ってるんですよね。最近ではそういう作品が少ないんで、理屈は通ってるけどありえないものを描きたかったというか。

お前の闘いには〝殺し〟がないからさ

© 相原コーシ　双葉社

こ〝殺し〟!?

元「週刊ファイト」一編集長がよく言うところの〝殺し〟か!?

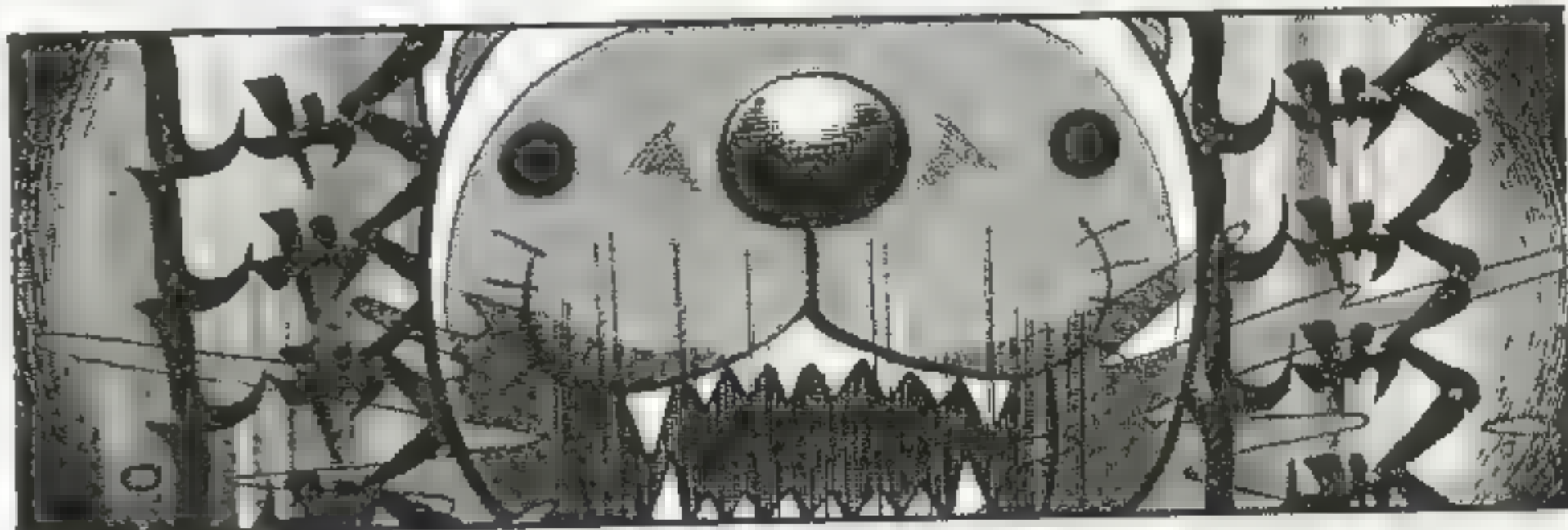
死地で泳いでない連中がやったところでダメなのよ。それは永田だけじゃなくて、(略)あの連中に〝殺し〟はできませんよ。ハッキリ言うとくわ！(ドン)。「紙のプロレス」より

日本中の kamipro 読者に衝撃を与えた元「週刊ファイト」I編集長の"殺し"の引用場面！ オオカミか土佐犬に対して「真の闘いとはゲームではなく"殺し合い"だ！」と説く名シーンだ（単行本第3巻93ページより）

『真・異種格闘対戦』

相原コージ（アクションコミックス）

地球上のあらゆる地域、あらゆる生物の中からとくに厳選された18頭＋αの最強生物が、真の地上最強をめぐってアフリカの大地でトーナメントを展開。参加したメンバーはライオン、マウンテンゴリラ、トラ、インドサイ、カバ、アフリカゾウ、ヒクイドリ、アナコンダ、クズリ、オオカミ、ナイルワニ、シマウマ、イヌ、ヒグマ、スイギュウ、ヒト、ホンジラ、コモドオオトカゲ。相原コージが新境地に挑んだ"動物総合格闘"巨編、『真・異種格闘大戦』の最新刊第7巻は8月28日に発売！

©相原コージ／双葉社

文中にもあるように、今作でMVP級の活躍をしたのがクズリ。かわいい顔とは裏腹に残酷きわまりない凶暴性を持ち、"本命"ライオンの"対抗馬"と目されたトラに衝撃の勝利を収める。2回戦でのゾウとの激闘も必見！（単行本第4巻100ページより）。

——『真・異種格闘大戦』を読んでいると、「昔のプロレスもこういうふうだったな」って思うんですね。いわばレスラーの出身国が動物の違いであって、ちゃんと解説でもっともらしいことも描いてあって（笑）。だから子どもでも熱中できると思いますし。

相原 子どもにしたら残酷な描写もあるかもしれませんけど、そもそも生存競争は動物社会本来の姿ですからね。いま動物モノを描こうとすると、どうしても「動物は大切にしましょう」みたいなエコロジー的なものが要求されるきらいがあるんですよ。動物愛護的な視点に立たざるをえない風潮というか。それは「どうなんだろ？」っていうのはありましたね。自分が子どもの頃に動物図鑑を見たときは「凄いな、強そうだな」といった単純な感動があったわけだし、いまの動物に対する保護思想的なものが動物本来のおもしろさを損ねてるような気もします。

——なるほど。

相原 だから、たまに取材でもあまり快く協力してくれないこともありますよ。たとえば取材先の人に「〝●●●氏談〟というかたちでお名前を出してもいいですか？」って聞くと「それはやめてください」って言われたり（笑）。やっぱり動物に関わってる人から見ると「なんちゅうこと描いてるんだ！」ってなるのかもしれないですけど。

——先生は作品にリアリティを出すために、動物の強さについては相当なリサーチをされたんですか？

相原 そうですね。トーナメントに参加する動物を選定する段階でも苦労しましたよ。やっぱりおもしろさを考えると、ちょっと知られてないような動物も入ってるほうが作品に奥行きが出るんですよね。『PRIDE GP』でいえば太刀光みたいな（笑）。ああいうのがあったほうが読者も「なんだコレ？」って興味を持ちますし。

——マッチメイカーとしていろいろ考えてるわけですね。

相原 あまり知られてないけど、実際は強いと思われてるような動物を入れたりね。それがクズリやヒクイドリだったんですけど。とくにクズリは描いててもおもしろかったですね。

——クズリのダークホースとしての不気味さは、『PRIDEヘビー級GP』のセルゲイ・ハリトーノフばりでしたよね（笑）。

相原 クズリの場合は強さよりも根性というか、自分が死んででも相手を殺してやるっていう命知らずなところが魅力ですよね。ケンカでも本当に怖いのは命知らずって言いますし。意外と動物はそういう相手を本能的に避けるんですよ。厳しい野生の世界ではケガをするだけで致命傷になりかねないので、動物は身を守るために闇雲に向かってくる相手には引くというか。だからクズリがエサを横取りしようとしてもの凄い殺気を放ってると、クマもオオカミも去っていくらしいですから。

——「コイツはヤバい、面倒なことになりそうだ」っていう（笑）。クマも森で遭遇したら、普通はクマのほうが逃げていくって言われてますよね。あえて自分を危険にさらそうとはしないというか。

野生に生きる動物にとっては強さこそ唯一絶対の価値なんです

相原 動物界には病院もないですし、キバが折れたりツメが取れたり、ちょっとケガするだけでかなりダメージは大きいですから。そういう弱ってる状態だと、なおさらほかの動物から狙われやすくもなりますしね。だから野生動物には年寄りっていないんですよ。年寄りになると食われちゃったり、やられたりするんで。

——そのあたりは格闘技界にも通じるかもしれないですね。強さというのはずっと保てるわけじゃないというか。

相原 そもそも動物にとっては強さというのが唯一絶対の価値なんですよね。もともと人間も動物だったので、僕らが「最強を見たい」と思うのもそこから来てるのかもしれないし。

——絶対の価値というのは重みがありますね。

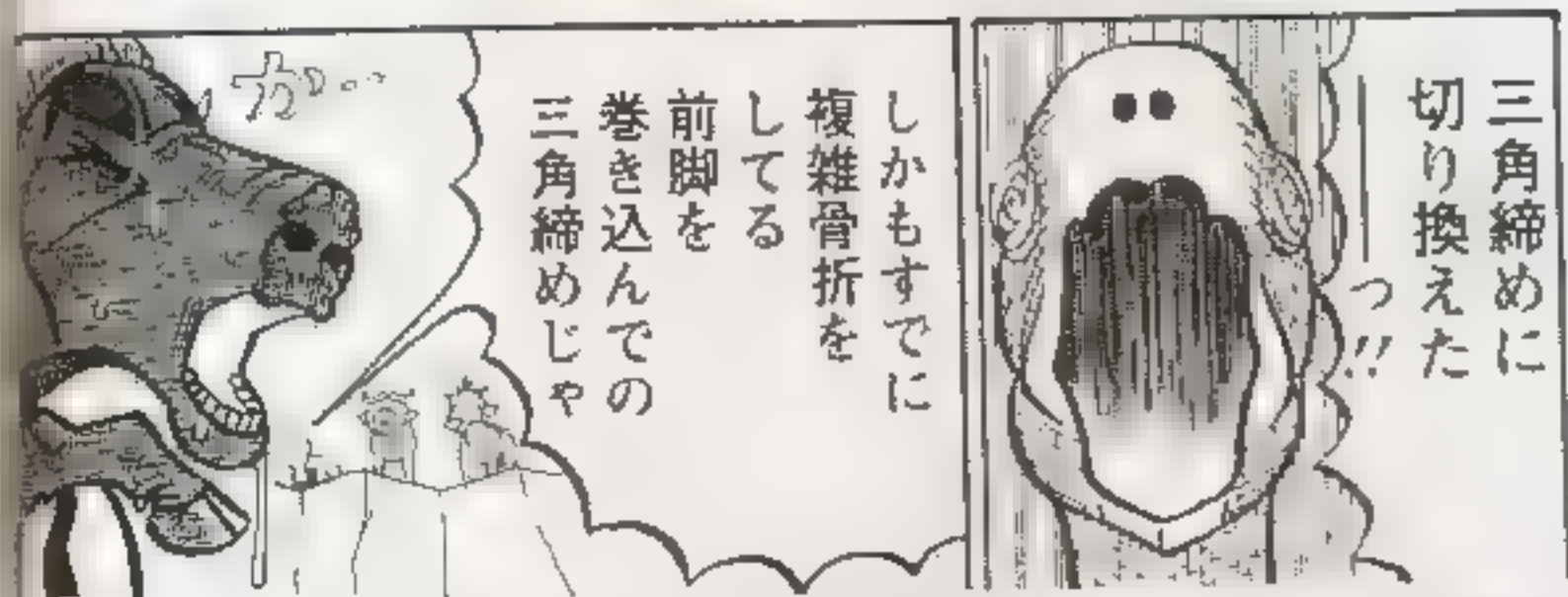
相原 強いからこそ生き残れて、子孫も残せる。動物の群れでも一番トップだけが交尾ができて、ほかのやつらはできなかったりしますしね。

——それは寂しい人生ですね（笑）。

相原 動物界だと強さによって雲泥の差があるんですよ（笑）。

——相原先生が調べた中で意外に強いと思った動物というと？

相原 かつて大山倍達が「アリクイは強い」って言ったじゃないですか？「ゾウが一番強い。でもそのゾウもアリの大群に負けてしまうことがある。ならばそのアリを食べるアリクイは一番強い」っていう。

©相原コージ／双葉社

"やる側"でもある相原先生は、柔術の指導を忘れないようにメモした"柔術ノート"をもとに、マンガの中でさまざまな技術を紹介。ファンタジーとリアルを見事に作品に落とし込んでいるのだ（単行本第3巻38ページより）。

動物界で最強になる条件として スピードはかなり重要ですね

——有名なエピソードですね（笑）。

相原　で、みんなけっこう笑ってると思うんですけど、アリクイって本当に強いんですよ。立ち上がると人間くらいあるし、手には蟻塚を崩すための大きなツメがついていて。それでベアハッグ的に抱きついて、ツメでジャガーを刺し殺したりもする。だから大山総裁の言うこともあながち間違いじゃないんだなって（笑）。アリクイもトーナメントに出したい候補の一つではあったんですけど、そのツメ以外の武器はペロンペロンした舌だけなんでちょっと使わなかったんですけど。

——完全に一発屋になっちゃうわけですね（笑）。やっぱり一辺倒だけじゃない深みのある強さが、ストーリー上では重要になってきますか？

相原　そうですね。毒を持っている動物にしろ、結局は毒だけの場合が多いんですよ。だから、一つの武器しか持っていない動物は意識的に避けましたね。

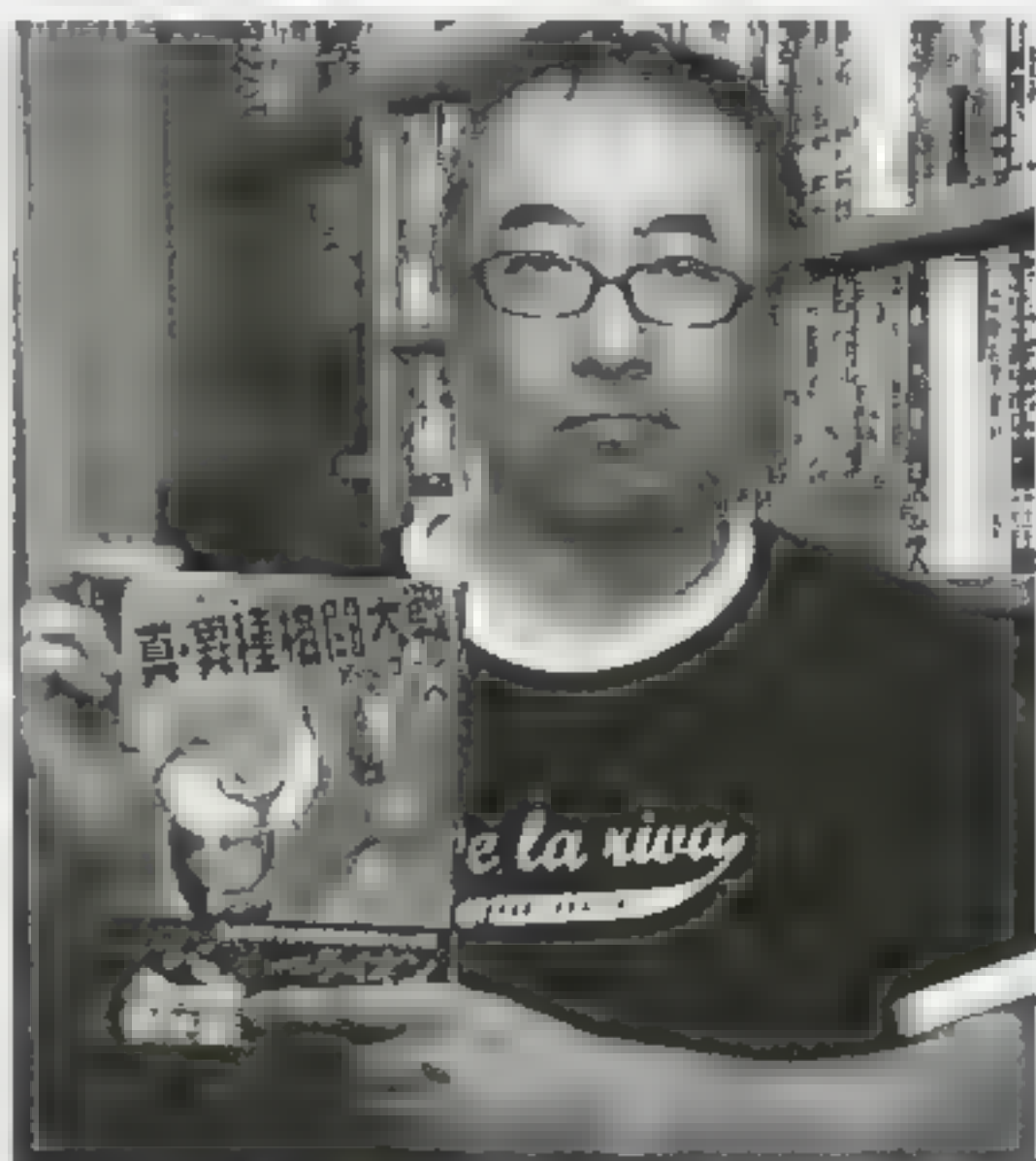
——トーナメントの1回戦ではカバvs人間が実現しましたけど、あのマッチメイクの狙いは？

相原　まず、人間は出したかったんですね。「地上最強とか言ってるけど動物の中では一番弱いんじゃないの？」っていうのを描きたかったんで。で、ライオンとかが相手だと普通だし、「こんなのにやられちゃうの？」っていう意外性のある動物にしたかった。でも、実際にカバは強いらしいですよ。アフリカで人を一番殺してるのはカバですから。

——それもまた意外な事実ですね。

相原　最近読んだ石井（教義）元館長の本に「ブタさえ殺せなかった」って書いてあったんですけど、それを読んだときには「やはりな」って思いましたね（笑）。

——人間はブタも殺せない、と（笑）。

相原　正拳突きやローキックでボコボコにしても、ブタは平気な顔でエサを食べてたらしいですから。人間はブタでさえそうなんだから、カバになんて勝てるわけがないですよ。やっぱ人間は動物を素手では倒せないって思いましたね。

——あと実験的だなと思ったのが、柔術を覚えたゴリラが登場して。

相原　これも意外性という意味で人間の技を使う動物を出したかったんです。そうすると形態の似たゴリラかな、と。まぁ、ゴリラ自体を調べていくとそんなに強くないっていうのもわかってきたんですけど。

——あ、そうなんですか？

相原　キングコングのイメージもあるし、ゴリラは2メートルで200キロくらいあって筋肉も凄いから相当強いと思われてるんですけど、実際は草食でおとなしい動物なんですよ。近年では50キロくらいの小柄なヒョウにもやられちゃうというのがわかってきて。最近、ある格闘技の技術本で「ヒョードル vs 動物、もし闘わば？」みたいな企画があったんですね。その中に「識者の誰もがいう一番の強敵はゴリラ」って書いてあったんですけど「違うよ」って思いましたね（笑）。

——ダハハハハ！

相原　だからゴリラそのものをトーナメントに出すのはちょっと考えました。でも、知能自体は賢い動物なので柔術を身につけたら活躍できるかな、と。

——ゴリラはけっこういいところまでいくと思ったんですけど、ちゃんと2回戦で優勝候補のライオンに敗れて。

相原　自分が柔術をやってることもあって、一番思い入れのあるキャラなんで迷いましたけど、ライオンに負けるなら納得もいきますし。

——あとはライオンの対抗と目されていたトラが1回戦でクズリに負けるっていうのもビックリしました。

相原　そういう驚きがほしかったんです。ミルコ・クロコップがケビン・ランデルマンに負けたみたいな番狂わせが。凄い強いと思われてる動物が意外な動物にやられるのは衝撃的じゃないかなって。まぁ、あれだけ相手をナメてたらやられることもあるんじゃないかなということですね。

——トーナメントも残すところは準決勝2試合と決勝で、ベスト4が揃いましたが、これは先生が研究して残るべくして残ったという顔ぶれですか？

相原　そうですね。最初に出場メンバーを考えたときはあまり結末を考えてなかったんですけど、描いてるうちにだんだんこうなってきたって感じですね。

——これまでのストーリーを踏まえて、先生が考える動物界で最強になる条件というと？

相原　おそらくスピードはかなり重要ですね。たとえば、クマって相当強いと思うんですよ。ライオンやトラよりもはるかにデカいし、キバもツメも凄い。だけど実際トラには負けるらしいんです。ロシアあたりではトラの食料の5パーセントくらいにクマが入るらしいですから。

——は～！

相原　そういうデータがあるということは、たとえトラがクマに体格で負けていても、スピード、敏捷性で勝ってるというのが大きな要因なのかな、と。あと重要なのは、どれだけ強力な武器を持ってるかっていうことですよね。たとえばライオンなら鋭いツメ。ゴリラとの闘いでも描きましたが、いくら柔術を使うゴリラがグラップリングで攻めてもツメでズタズタにされてしまうっていう。それと身体が柔らかいっていうのも大事な気がしますね。

——いまのお話を聞くと、ヒョードルの強さの理由に通じるものがありますね。ヘビー級なのにもの凄くスピードが速い、武器である打撃も寝技も強い。そしてなおかつ身体も柔らかい、と。

相原　あぁ、確かに。ランデルマンにスープレックスで頭から落とされても全然平気でしたもんね。ヒョードルにはライオン的な強さがあるのかもしれない。見かけはクマっぽいですけど（笑）。もう一つ付け加えるなら、たえず獲物を捕ったり闘ったりを繰り返して、ケンカ慣れしてるというか、経験値の高さゆえに格闘技術やセンスが洗練されてるというのもあるかもしれないですね。

——なるほど。実際の動物ではいったい何が最強なのか、ここからが重要になってきますね。

相原　ちょっとプレッシャーですね（苦笑）。だいたい格闘技のGPは決勝が盛り上がらなかったりするじゃないですか？　強い者同士が慎重に闘いすぎて膠着するというか。だから難しいですけど、決勝が一番盛り上がるように描かなきゃなって思いますね。まぁ、漫画だからできることがありますから、なんとかおもしろくします（笑）。

——今後の展開に期待してます！

【09年7月30日／都内・相原先生の仕事場にて収録】

あいはら・こーし■1963年5月3日、北海道出身　日本デザイナー学院まんが専攻科卒業　1983年「漫画アクション」に掲載された「八月の濡れたパンツ」でプロデビューをはたす　代表作に「コージ苑」、かってにシロクマ」、アレでも描けるマンガ教室（竹熊健太郎と共著）、ムジナなど

最強の虫が見たいヤツこの指とまれ!!

カリスマ作家にして最強の虫団体『虫皇帝』総帥

新堂冬樹

いまや売れっ子作家&芸能プロダクション社長として、さまざまな媒体で活躍している新堂冬樹氏。2年前の『kamipro』でも取り上げたことがあるが、新堂氏は〝最強の虫〟を決める団体を率いるプロデューサーという顔も持っているのだ。今回〝最強〟特集をやるにあたり、虫界の最強事情を聞かせてもらおうと新堂氏の事務所にうかがうと、なんと、8月下旬から虫最強[illegible]映画化されるというではありませんか! 「虫、最強ッ!!

新堂プロ

21世紀の最強幻想

――今回は〝最強〟特集ということで、虫の世界の最強事情に詳しい新堂さんにお

うと、『虫王』をやり始めた頃って、私は小説の連載が2本ぐらいだったんですよ。

くやってくださっていて　私が思策して
いるのは、将来的には、新しく立ち上げた

くて。いずれ披露すると思いますので。
――ちなみに映画はどういったストーリ

これまで1000試合以上観てきましたが一番衝撃的なシーンが撮れました!

――今回は〝最強〟特集ということで、虫の世界の最強事情に詳しい新堂さんにお話を聞かせてもらえればと思ってます。

新堂　よろしくお願いします。

――新堂さんには2年前にも『ｋａｍｉｐｒｏ』（Ｎｏ・１１１）でインタビューをさせてもらいましたが、最近、また虫業界がかなりの盛り上がりを見せているようで。コンビニでも新堂さん監修のＤＶＤブックが売られていますし、8月下旬には『虫皇帝』という新堂さんの初監督作品が劇場公開もされるんですよね。

新堂　おかげさまで盛り上がってますね。前に『ｋａｍｉｐｒｏ』に出たときは『虫王』という団体をやってたんですけど、最近『虫皇帝』という新団体を立ち上げまして。要はアントニオ猪木さんみたいなもんなんですよ。

――それはどういう意味なんでしょうか。

新堂　猪木さんは自ら旗揚げした新日本プロレスをあそこまでの団体にしたわけですけど、いまはＩＧＦを立ち上げて、新日本を潰すがごとく挑んでるわけじゃないですか。それと同じように、私も『虫王』では、一つのブームというか、黄金看板に育て上げたという自負があるので、そこからまた新しい旅に出るためには、自分の作った『虫王』を超えるものをやっていきたいということで、『虫皇帝』という新たな団体を立ち上げたわけです。

――そういうことでしたか。べつに複雑な政治的な事情があったわけではない?

新堂　凄いリアルなことを言わせてもらうと、『虫王』をやり始めた頃って、私は小説の連載が2本ぐらいだったんですよ。まだ芸能プロもやってなかったですし。

――作家活動だけではなく、07年には新堂プロという芸能プロダクションも立ち上げたんですよね。

新堂　そうなんですよ。そういったものをやる前には『虫王』にかけられる時間もあったんですけど、『虫王』の人気がダーッと出てくると同時に小説のほうの連載も10本ぐらいになって、芸能プロも始めて、ウチの子たちもドラマのレギュラーとかが決まったりして、もうどうにも回らなくなったんですよ。ホームページの管理とか、ＤＶＤの注文とか在庫管理とか。

――そこまで新堂さんがやられていたんですか（笑）。

新堂　そうなんです。だから、『虫王』の権利を売ったんですよ。

――そこも猪木さん的というか（笑）。

新堂　イーネット・フロンティアさんってところに売ったんですけど、そこは凄くよくやってくださっていて、私が思策していたのは、将来的には、新しく立ち上げた『虫皇帝』という団体と『虫王』の全面対抗戦をやろう、と。

――ほぉ、虫団体の最強決定戦ですか!

新堂　そう。そのときは、『ｋａｍｉｐｒｏ』さんとかにも煽り立てていただきたいと思ってるんですけど。

――ＩＧＦと新日本の全面対抗戦に比べて、実現の可能性は高そうですね（笑）。

新堂　そうですね。私がやろうと思ったら実現しますからね（笑）。ただ、どうせやるんだったら、ホントの潰し合いというか、お互いの看板を懸けて、エース同士のガチンコでやろうと思ってますから。

――虫界の中にも当然エースがいるわけですね。

新堂　もちろん。『虫王』という団体のエースは私からすると、たぶんリオック（インドネシアに生息する大型のコロギスの一種）なんですよ。で、『虫皇帝』でも新たなヒーローを出して、看板同士の対抗戦をやれればいいな、と。

――その対抗戦が実現したら新日本vsＵインター以来の盛り上がりになるかもしれませんね。

新堂　じゃあ、東京ドームでやりましょうか（笑）。

――いや～、さすがに、虫同士の闘いはドームには向いてないと思います（笑）。ちなみに、『虫皇帝』でのエース候補はどんな虫になるんですか?

新堂　正直、真のエース候補は今回の劇場版には来日できなかったんですよ。

――それはドーピングチェックとかで引っかかったとか?（笑）。

新堂　いや、そういうわけではないんですけど、いろいろあって今回は来日はできなくて。いずれ披露すると思いますので。

――ちなみに映画はどういったストーリーになるんですか?

新堂　簡単に言うと、昆虫軍vs毒蟲軍のプライドを懸けた全面戦争ですね。

――昆虫vs毒蟲軍の全面対抗戦!

新堂　昆虫軍はカブト、クワガタはもちろん、カマキリや大スズメバチやオオエンマハンミョウ、タガメとかの大連合ですよ。そして、毒蟲軍はサソリ、タランチュラ、ヒヨケ、ムカデみたいな感じで。「昆虫と毒蟲、いったいどっちが強いんだ?」というのが大まかなテーマですね。

――まさに今号のテーマでもある〝最強〟がテーマなわけですね。

新堂　いまから言うことは載せないんでほしいんですけど、今回の映画は……（この映画をきっかけにした壮大なる計画を明かすも、わけあってカット）。

――すでにそこまで決まってるんですか。

新堂　それで、今回の映画の一番の見どころは、その中に収録されてるダイオウサソリと国産カブトの試合なんですよ。

――サソリvsカブトの試合ですか?

新堂　もうね、『虫王』のときから通して、1000試合以上のバトルを観てきましたけど、一番衝撃的なシーンが撮れてしまったんですよ!

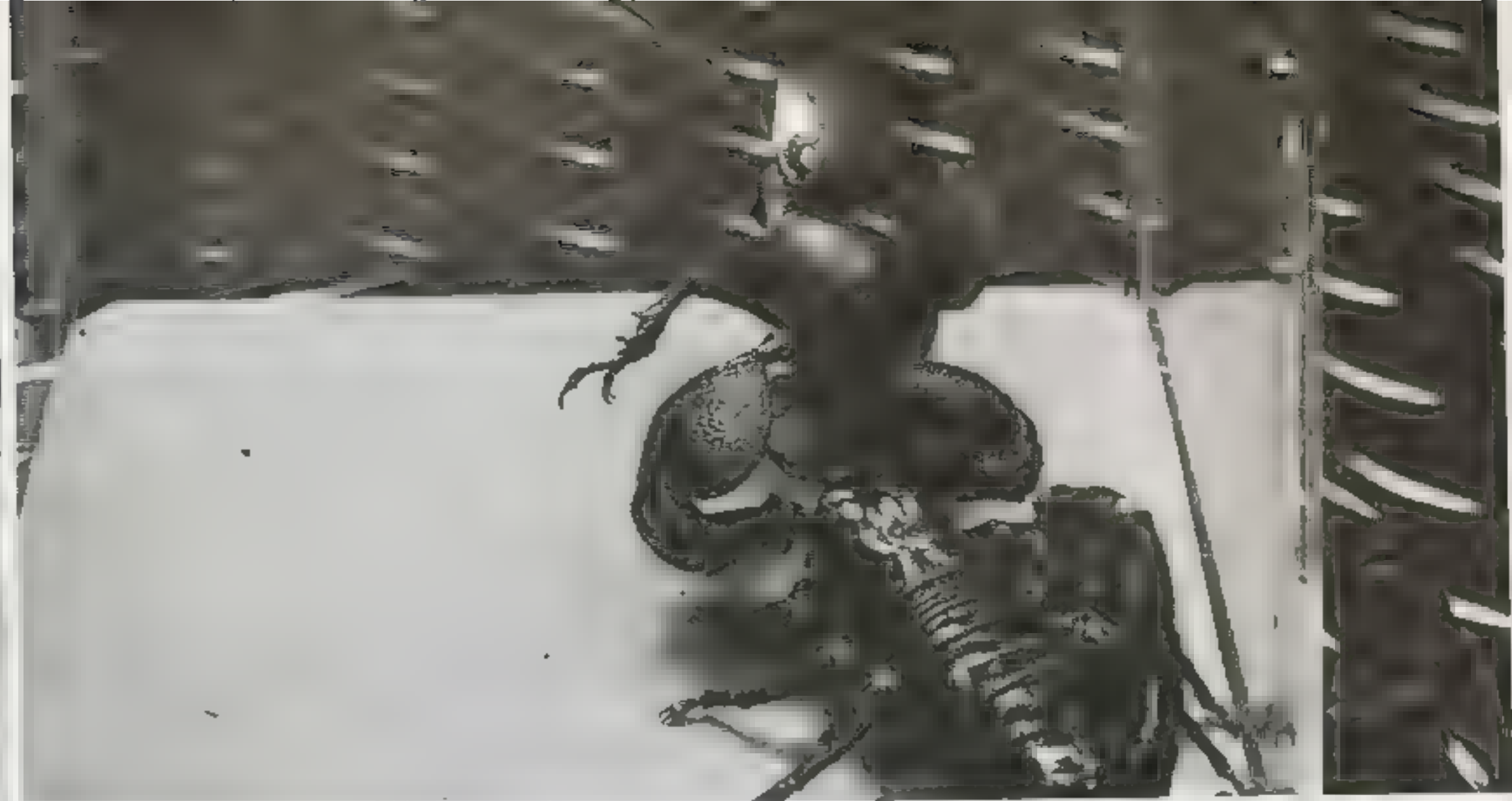
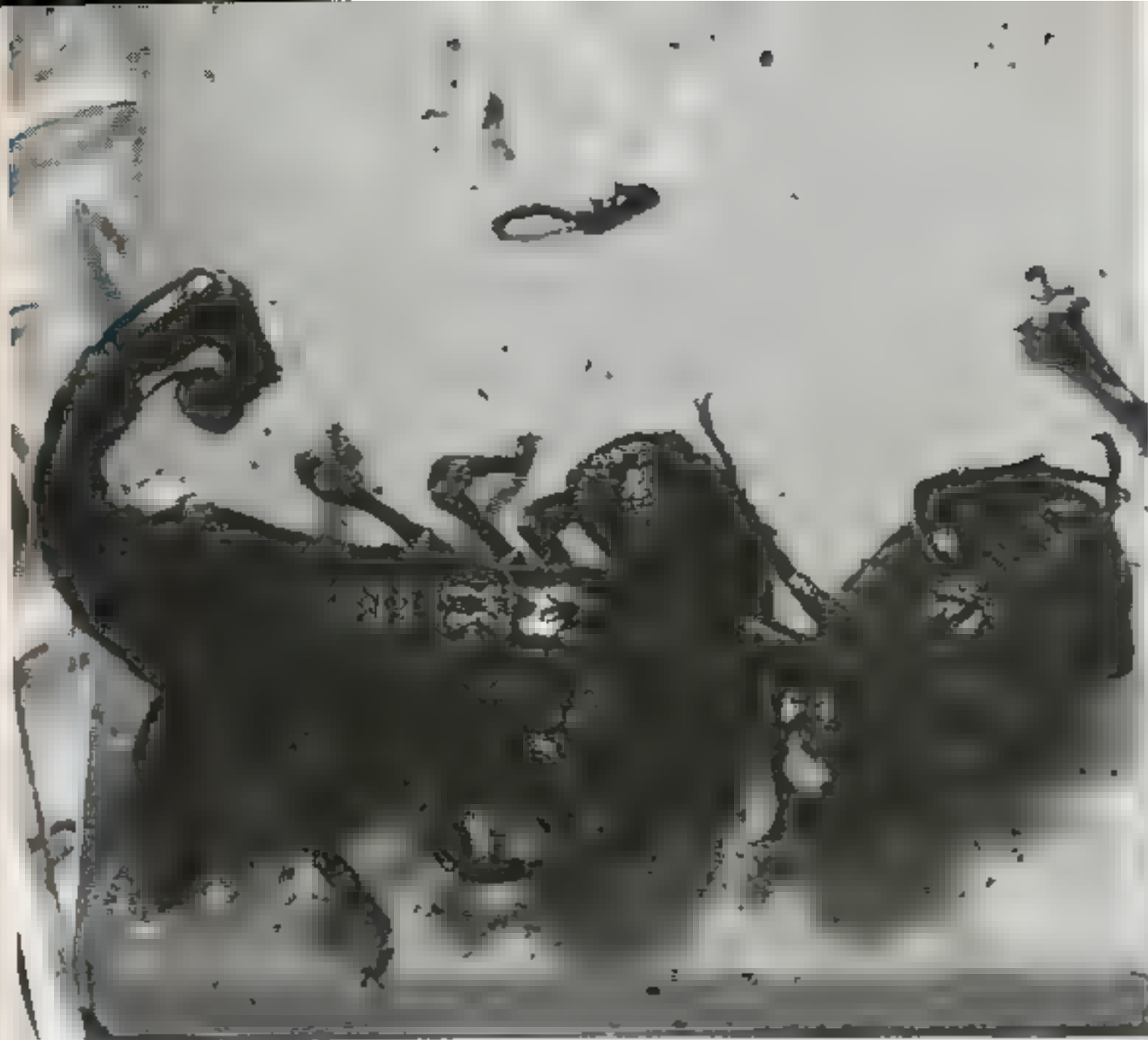
――過去に1000試合近く観てきた新堂さんでも驚くぐらいの試合だったと?

新堂　その試合はね、現場にいたスタッフが凍りつきましたから! ハッキリ言って映倫をよく通ったなと思いましたね。

――えっ、映倫に引っかかりそうなくらい危ない試合だったんですか?

新堂　国産カブトが全盛期の猪木さんだとするじゃないですか。

は、はい。

こちらが8月22日からシネ・ヌーヴォ、8月29日から新宿K's cinemaにて劇場公開（順次全国公開予定）される新堂氏の初監督作品「虫皇帝「昆虫軍」vs「毒蟲軍」～プライドをかけた全面戦争～」のポスター。人間界の闘いにも劣らぬ、虫同士の闘いはズバリ必見だ！　詳細は各自調査!!

本文中にも出てきているが、こちらの写真は劇場版『虫皇帝』に収録された国産カブトvsダイオウサソリの壮絶すぎる試合シーン。右はダイオウサソリの両手のハサミで角の部分をガッチリと押さえ込まれ、その痛みに飛んで逃げようと羽根をばたつかせる国産カブト。左はそれから数分後、角をもぎ取られ、脚をちょん切られ、見るも無惨な姿で息絶えた国産カブト 合掌！

新堂　日本では最強の猪木さんが手足を折られてパンツを脱がされて、フルチンで引きずり回されながら、顔を踏みつけられて血まみれになって……っていう感じの、とにかく壮絶な試合なんですよ！

——なんだかよくわからないですけど（笑）、とにかく凄い試合だったというのは伝わってきます。

新堂　ちょっと、その試合だけ特別にお見せしますよ。

——えっ、ホントですか！　ではお言葉に甘えて観させていただきます。

新堂　観たら観たで衝撃だと思うんですけど、口で説明すると、国産カブトがとにかく凄くアグレッシブにダイオウサソリに襲いかかるわけです。それで、相手を角で持ち上げた瞬間にダイオウサソリの腹がちょっと裂けてしまったんですよ。

——うわっ！

新堂　で、そこでダイオウサソリはキレたんですよ。

——ダイオウサソリがキレましたか！

新堂　そこで国産カブトの角の根もとを両方のハサミでガシッとつかんだら、国産カブトが急に苦しがってバッタバタと飛んで逃げようとしたんです。そして、ちょっとしてダイオウサソリがパッとハサミを外したら、国産カブトはのたうち回りだして。そのままアクリルで囲われたリングに顔をくっつけたら、国産カブトの顔が角ごと取れちゃったんですよ。

——ぎょえ～、角ごと顔が取れた⁉

新堂　角と一緒に左目まで取れちゃって。それで、ナタデココみたいな白い顔の中身が見えてて。そのナタデココに右目が申し訳なさそうについてるんですよ。

——ナタデココに右目だけ（笑）。

新堂　それだけでも充分ショッキングな

最強の虫が見たいヤツ　この指とまれ!!

本当の最強を決めるため『虫皇帝』では地区予選もやりましたから

んですけど、そのあと国産カブトはチョンチョンと、ハサミで脚を4本切られちゃったんですよ。

——えっ、顔だけじゃなく、脚4本も！

新堂　それで脚が2本になって栗まんじゅうみたいになっちゃったんですよ。

——栗まんじゅう状態（笑）。

新堂　それでも、涙を誘うのが、栗まんじゅうになっても角があるがごとくダイオウサソリに向かっていくんですよ。で、向かっていくたびに脚を切られて。

——うわ～、プロレスや総合格闘技だったら、即座にレフェリーストップですね。

新堂　そうでしょうね。国民栄誉賞を獲った王貞治さんが東京ドームでアメリカの毛むくじゃらのピッチャーに殴られて、パンツを下ろされて、フルチンで引きずり回される、それぐらいの屈辱ですよ！

——う～ん、そのたとえはどうかと思いますが（笑）、想像するにちょっと直視できない感じですね。

新堂　観てられないですよ。そういう意味では、ホントに衝撃的。こんなシーン初めて観たっていう。

——それでも映倫は通ったんですね。

新堂　そうなんですよ。

——でも、国産カブトって強いんですか？

新堂　カブト同士だとまあまあ強いんですよ。日本の中ではナンバーワンですけど、世界のカブトの中に入るとどうしても体格差とかがあるんで。

——そこは格闘技界と一緒なんですね。

新堂　それって『虫王』ではありえないことなんですよ。『虫王』ではカブクワは毒蟲にほとんど負けたことがないんですよ。毒蟲が針で毒を差し込もうと思っても、カブクワには通用しないわけですよ。

——そうか、カブトやクワガタの甲冑に針が通らない、と。

新堂　これを観たら、高田（延彦）さんじゃないですけど、鳥肌立ちますよ！

——鳥肌全部立ちますか（笑）。

新堂　ただ、問題はね、子どもってカブトムシが最強だと思ってるんですよ。

——あ～、そうかもしれませんね。

新堂　だから、この試合を子どもが観たら泣くんじゃないかなって。じゃあ、ちょっとその試合を流しますね（といって、問題の試合映像を流す）。これが角ごと顔が取れちゃったシーンです。

——うっ、うわっ！　ホントにナタデココ状態じゃないですか！　しかも、そんな状態で相手に向かっていってるし。

新堂　サムライスピリットなんでしょうね（笑）。子どもに見せて大丈夫かなぁ。

——成人指定にしたほうがいいかもしれませんね（笑）。いろんな人に観てもらいたいような、見せたらヤバイような。

新堂　ですよね（笑）。百聞は一見にしかずで観ていただいて。さっきも言いましたけど、『虫王』のときって、カブト、クワガタはあんなふうに毒蟲に負けたことがないんですよ。

——先ほどもおっしゃってましたけど、甲冑に毒針が通らないわけですね。

新堂　そうなんですよ。毒蟲はいつもは

さんで潰されたり、やられるばっかりで。ただ、今回はこういうかたちで勝っちゃったので、ちょっと驚いちゃって。

何か違いを見せなきゃいけないってことで、そこの部分はこだわりましたね。

——前よりも、より最強に近づいたのが

さんで潰されたり、やられるばっかりで。ただ、今回はこういうかたちで勝っちゃったので、ちょっと驚いちゃって。

――回数を重ねるごとに虫同士の闘い方も進化したりするんですかね？

新堂　いや、違うんです。『虫皇帝』では本当の意味での最強を決めるために、一つの個体を試合に出すまでにカメラのないところで地区予選をやらせたんですよ。

――虫同士の地区予選ですか？

新堂　そうです。たとえば、ダイオウサソリだったら10匹用意して、その個体の最強を本番に使ったんですよ。

――一つの個体の中の最強をエントリーさせよう、と。

新堂　いままでは、とりあえず手に入った強そうなのを出してたんですけど、それだと、魔裟斗とそのへんにいるサラリーマンって、同じ日本人じゃないですか。

――大きなくくりでは一緒ですね。

新堂　じゃあ、サラリーマンを適当にチョイスして出して負けちゃったら、「日本人は弱い」ってなるけど、魔裟斗を出したら勝っちゃうでしょ。それと同じですよ。ダイオウサソリや国産カブトも、その中で強さとか戦闘能力が違うんですよ。

――まあ、そうでしょうね。

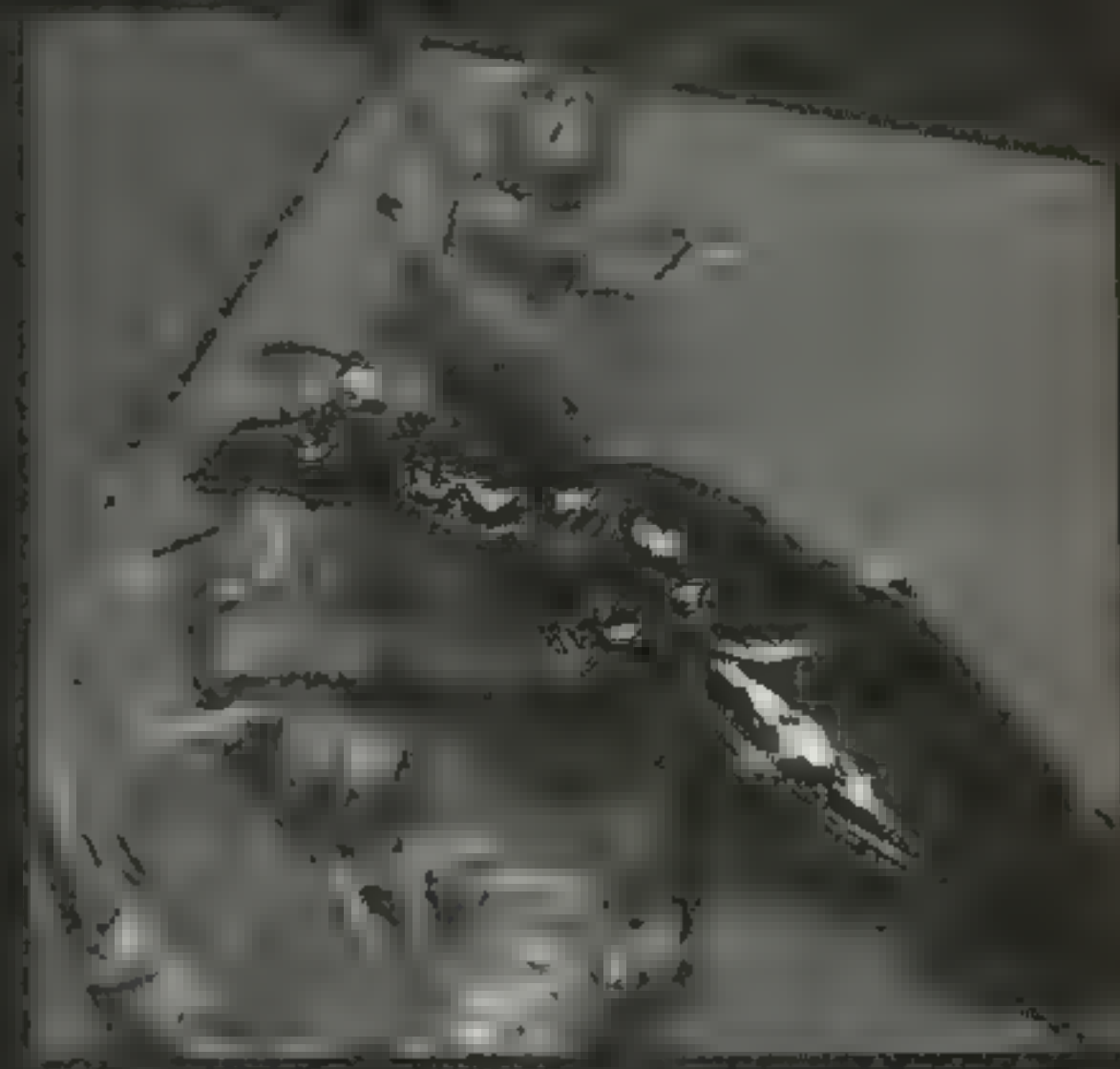
新堂　『虫皇帝』はそこにこだわりました。お金と手間はかかるけど同じ種族の中から最強を選ぼう、と。だから、今回はダイオウサソリの中でも凄く闘い方がうまくて強いのが出てきたってことです。

――ダイオウサソリ界の魔裟斗が出たわけですね。

新堂　そういうことです。だから、ホントに強いのが出てくると毒蟲でも甲虫に充分勝てるっていうのを実証してくれたんですよ。いままでやってきた『虫王』とは何か違いを見せなきゃいけないってことで、そこの部分はこだわりましたね。

新堂冬樹が選ぶ虫最強候補はこの3匹！

ダイオウサソリ　劇場版『虫皇帝』で大活躍したサソリ目最大種のダイオウサソリ。毒性は弱いが、巨大なハサミはパワー充分。『虫皇帝』での国産カブト戦では角ごと真っ二つにしてしまうほどの破壊力を披露！

ヘラクレス・ヘラクレス　新堂氏が数あるカブトムシの中でも最強として名前を挙げたヘラクレス・ヘラクレス。またの名はヘラクレスオオカブトムシ。カブトの中でも最大の大きさを誇り、人気もNo.1！

パラワンオオヒラタクワガタ　新堂氏が数あるクワガタの中でも最強として名前を挙げたパラワンオオヒラタクワガタ。名前のとおりパラワン島に生息し、ヒラタクワガタの中でも最大の大きさを誇る。

――前よりも、より最強に近づいたのが『虫皇帝』という団体なんですね。

新堂　そうですね。今回の映画には出てないけど、ゾウカブトっていう世界最重量のカブトがいるんですよ。

――名前だけは聞いたことがあります。

新堂　じつは、さっきのダイオウサソリと闘って毒針を足関節に刺されて毒殺されちゃったんですよ。

――世界最重量のカブトもやられちゃいましたか。

新堂　そういう意味では、今回、毒蟲は凄いなって、あらためて思わされましたね。あとですね、虫界最強のニューフェイスとして期待してるのが、そこで飼ってるシャコなんですよ。

――シャコですか。水槽に一匹いますね。

新堂　ちょっとシャコのパンチを見せてあげて（と言って関係者に指示を出す）。

――なんですか、シャコのパンチって。

新堂　ちょっとショーを見せてあげますよ。今度の『虫皇帝』に出そうと思ってる最強の刺客なんですけど、60キロあるんですよ。

――は⁉ 60キロって、体長は10センチぐらいしかありませんよ。

新堂　いやいや、体重じゃなくて、パンチ力が60キロあるんですよ。体長40センチのシャコだったら、パンチ力は1トンあるらしいですから。人間の肋骨も簡単に持っていかれますよ。

――ほえ～、パンチ力1トン！

新堂　しかも、このシャコはなんでも食べる肉食なんですよ。（ここで関係者がシャコを棒で攻撃すると、怒ったシャコが水槽に向かってパンチし、「パンッ！」という大きな音が響き渡る）。

――うわっ、凄い音ですね！

新堂　最初は2匹飼ってたんですけど、もう1匹はいま残ってるシャコにマウント取られて、頭部にパウンドの連打を食らって食べられちゃったんですよ。

――人間同士の闘いではありえない（笑）。

新堂　ですよね。で、人間の水死体があがったときに、一番身体についてるのがシャコって言いますしね。

――へえ～、そうなんですか。

新堂　そういう意味では、シャコを虫界の最強の刺客として、今度出場させようかなと思ってるんですけどね。

――でも、シャコって水場じゃないと闘えないんじゃないですか？

新堂　いや、陸でもいけると思いますよ。タガメだって陸で闘ってますからね。それに、シャコは水の中であれだけのパンチが打てるんだから、水の抵抗がない陸に上がったら、どんだけのパンチ力があるんだとか、凄い楽しみなんですよ。

虫界の新たな最強候補はシャコ!?

寿司のネタとして皆さんも一度は食したことがあるであろうシャコ。西村修主演の映画『いかレスラー』の最大のライバルとして、しゃこボクサーが登場していたが、厳密には虫じゃないけどシャコのパンチは凄いんです！

ヒョードルやレスナーと違って虫は契約とか面倒くさいことはないですからね

——まさか、シャコにそんな力があるとは知りませんでした。

新堂 身体の軟らかいカマキリだったら、腹が裂けるでしょうし、顔面にパンチが当たったら顔がブッ飛ぶと思いますよ。

——それまた、人間の闘いでは見られない攻防ですね。でも、そういった攻撃をする虫ってこれまでいなかったんじゃないですか。いままでの虫って、毒針とかハサミではさむとかが多かったですよね。

新堂 そうなんです。だから、最強候補はまだまだいるわけですよ。ま、シャコは虫じゃないですけどね(笑)。

——ヒョードルじゃないですけど、虫の世界は60億どころの数じゃないですからね。

新堂 そうなんです。だから、『虫皇帝』では、さらなる最強を目指していかなきゃいけないと思っていて、映画以外にも、安達元一さんっていう『さんま御殿』とか『アンビリーバボー』をやってる天才放送作家の方と二人で『虫皇帝』のカブト版、クワガタ版の「カブト皇帝」、「クワガタ皇帝」の最強トーナメントというDVDを作って、絶賛発売中なんですよ。

——カブトとクワガタの最強決定トーナメントですか。

新堂 これがまた凄い闘いでして。あえて結果を言うと「カブト皇帝」ではヘラクレス・ヘラクレスがやっぱり全戦無敗で優勝しました。「クワガタ皇帝」ではパラワンオオヒラタクワガタが予選から20連勝ぐらいして上がってきて。で、この2匹が3本勝負で、どっちがホントの虫皇帝だという闘いをやってるんですよ。

——カブトvsクワガタの最強決定戦が実現していましたか。

新堂 総合格闘技だったら、ヒョードルとレスナーの試合みたいなもんですよ。

——まあ、そう言えるかもしれないですね(笑)。ダナ・ホワイトでもいまのところ実現不可能なカードですけど、虫の世界ではすでに実現済みだと?

新堂 もうやってます。ヒョードルやレスナーと違って、虫は契約がどうだとか、面倒くさいことはないんで、私次第で実現させられますからね(笑)。

——そうなんでしょうけど。ちなみに勝負はどちらに軍配が?

新堂 まあ、結果は言えませんけど、その統一戦の模様は「カブト皇帝」のほうのDVDに入っていて、3本勝負で行なったんですが、これがまたもの凄い試合で。どっちも試合中にキレちゃってね。

——カブトもクワガタもキレちゃいましたか。

新堂 とにかく凄い試合でした。DVDを観てもらったら絶対に「凄い!」ってなりますから。

——試合内容は保証つきなわけですね。

新堂 そうですね。最初に言ったダイオウサソリと国産カブトの試合と、このパラワンオオヒラタクワガタとヘラクレス・ヘラクレスの闘いは虫界の闘いの歴史の中でも1~2を争う試合になりましたから。

——その闘いはDVDで確かめてもらうとして、あらためてうかがいますが、現時点で、新堂さんが思う最強はどの虫になるんでしょうか?

新堂 う～ん、それは難しいなぁ。人間界ではヒョードルが最強と言われてるけど、それだって、まだまだわかんないじゃないですか?

——足場の問題じゃないですけど、ヒョードルもオクタゴンでの闘いは経験がなかったりしますし。

新堂 人間界よりも種類の多い虫の世界だと、もっともっと最強はわからないんですよ。ただ『虫王』のときに一つの答えが出たのは、カブト、クワガタに毒針は通じないということ。

——それが『虫皇帝』で覆された、と?

新堂 そうなんです。これまで毒蟲はどんな猛毒を持っていても潰されてきた。だから、カブト、クワガタが最強だと思ってたんですよ。でも今回『虫皇帝』を立ち上げて最強がわからなくなってきた(苦笑)。猪木さんじゃないけど、そういったわからない最強というものを追い求めていくのが男のロマンだと思ってるんでね。

——『虫皇帝』総帥でも最強は、いまだわからないわけですね。

新堂 ホントは頭に浮かんでる最強の虫がいるんですけど、わからないことにしておいてください(意味深にニヤリ)。

——とりあえず、虫最強が何かはともかく、ダイオウサソリと国産カブトの一戦は多くの人に観てもらいたいですね。

新堂 そうですね。8月下旬から劇場公開されるので、『kamipro』の読者にも虫界の〝ヒョードルvsレスナー〟戦を観ていただければと思ってます。

——了解しました。『虫皇帝』総帥として、これからも虫界の最強を決めるべく、今後も頑張ってください!

【09年8月1日 都内・新堂プロにて収録】

「うわ～ん、うわ～ん!「虫皇帝」が近くの映画館ではやってないよ～」とお嘆きのアナタに朗報! 本文中で新堂氏が語っているカブト最強とクワガタ最強、さらにはカブトvsクワガタの最強決定戦まで収録されたDVDが絶賛発売中なんです。1本なら2980円(税込)ですが、いまなら2本セットで5000円で買えちゃいます! 興味を持った方は虫皇帝公式サイトにいますぐアクセス!→http://mushikotei.com/index2.html

しんどう・ふゆき■1966年、大阪府出身。98年に『血塗られた神話』で第7回メフィスト賞を受賞。以後、ノワール作品から純愛小説まで幅広いジャンルで連載多数。それ以外にも新堂氏は『虫皇帝』代表から芸能プロダクション社長など、さまざまな顔を持ち活躍中。新堂氏の両脇にいるのは新堂プロ所属のタレント。それぞれ、昆虫軍と毒蟲軍の応援ガールでもあるのだ。ブログアドレス→http://ameblo.jp/shindo-fuyuki/

レスナー最強論

"常識"をブチ壊す男

そのケタ外れのパワーと体格を武器に、MMAデビューからわずか5戦でUFCヘビー級統一王座に君臨。いま"皇帝"ヒョードルとの対戦が最も期待されているのがレスナーだ。元WWEの"エンターテイナー"でありながら、大学時代はNCAA王者という真のアスリートであるこの男の強さを、さまざまな角度から追ってみよう。

21世紀の最強幻想

昔〝お肉の塊〟と呼ばれた男はどのように頂点に立ったのか!?

たわ」と母ステファニー・レスナーは赤ん坊時代を振り返っている。牛が200頭いる酪農場で育ったレスナーは4歳の頃から仕事を手伝い、働き者だった。そこで驚異の肉体の基礎が培われたのだ。名前がブロックだから、ブロッコリーというあだ名がつけられた。

「俺はいつも腕立て伏せや腹筋運動ばかりやっていた。家の近くにレスリングのコーチがいて、この道に導いてくれた。彼に可能性を見出されて5歳から訓練を始めたんだ」

DVDにはレスナーの子ども時代の映像も収録されているのだが、最初は細かった腕や足が高校生になる頃にはかなり太くなっているのが確認できる。試合はレスナーが相手をタックルで持ち上げて叩き落とす場面ばかりで、中には腕を固めたまま頭から相手を叩き落とす危なっかしい映像もあった。

「あの頃は反抗的だった。まあ、いまもだけどね。闘い方が荒っぽいからみんなに怖がられた。負けた試合でも必ず相手を叩きのめしてた。レスリングとはルールのあるケンカだ。だから好きなんだ」

そんなことをサラッと言ってのける気性の荒さは、やはり生まれつきのものだろう。レスナーはコーチの減量の指示にも従わず、食事も凄まじい量を食べて肉体を巨大化。しかし、戦績は思うようには振るわず、高校時代には州のタイトルを獲れず。地元の大学に進学する。入学した年に学生選手権で5位。翌年には優勝して多くの大学が興味を持った。

「注目された理由は体格がよく、技術が身についているからだ。俺みたいな重量級の奴は多くなかったから行き先を決めるまで注目の的だったのさ」

レスナーはミネソタ大学に進学して最終的にNCAAのタイトルを獲得する。目標であり夢を実現させたレスナーは次なるステップへ進む。ミネソタ州ミネアポリスでWWEのスカウトを受けたのだ。WWE会長のビンス・マクマホンに「WWEに来る気はないか?」と誘われ、その場で「人を楽しませてみせる」と即答したのだ。レスナー自身は「注目を集めて、おもいきり闘うことが好きだ。それはアマレスで実感したことだ。プロレスでも同じことを感じている。ファンの前で試合をしながら強く実感しているよ」と語っている。

WWEの下部組織だったオハイオ・バレー・レスリング(OVW)で修行したあとは、あっという間に頭角を現わして一軍に昇格。ポール・ヘイマンをマネージャーにつけて、WWE離脱寸前のザ・ロックと対戦してWWE王座を奪取してしまう。

当時のWWE内部での評価はとにかく高かった。193センチ、133キロという規格外の肉体を誇り、動きは俊敏で、ヒールとして人を惹きつける魅力があったからだ。DVDの中でも、多くの選手や関係者が絶賛しているので、いくつか紹介しよう。

「レスナーはレスリング界のタイガー・ウッズであり、マイケル・ジョーダンだ。この業界で匹敵できる者はいない」(ポール・ヘイマン)／「生粋のアスリートだ。あいつは無限の可能性を秘めている」(ジョン・シナ)／「試合の心理的な面をすばやく理解できる男だ。恐ろしい雰囲気を漂わせてみんなの前に登場するが、リングに上がれば軽量級みたいに空中技も決める。あんな奴は業界で見たことがない」(ブッカーT)／「人の視線を集める不思議な魅力がある。それが最初の印象だ。OVWには大きな奴はほかにもいたが、観客の目はつい彼にいってしまう。彼にはスターの素質があるという証だ」(ハリケーン)／「レスナーが400キロのバーベルを持ち上げているのを見た。重量挙げの選手でもないのにね。とにかく自分に厳しい奴なんだ。WWEの中で誰よりも自分に厳しい。だからこんなに早く成功できたんだろう」(カート・アングル)／「彼は教養のあるモンスターだ」(マイケル・ヘイズ)／「レスナーはレスリング・マシンだ。あんなにパワフルな男はいない。レスラーに求められるすべての資質を備えている。体格がよく動きも機敏で頭もいい」(トミー・ドリーマー)

DVD『ブロック・レスナー ザ・ペイン』(販売元／ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント)amazonなどでも購入可能。MMAファンでも必見!

このDVDにはレスナーのトレーニング風景も収録されているのだが、でっかい丸太を担いでランニングしたり、闘魂棒を使って柔軟体操をしたり、氷風呂に入ったりという猪木イズム全開なトレーニング風景を公開している。野性味あふれるキャラづけという側面もあるだろうが、プロレスファンの琴線にはビンビンと触れてくる。レスナーの最初のプロレスの師匠は、ミネアポリスの巨匠ブラッド・レイガンスだ。スコット・ノートンやドン・フライなどを育成した名伯楽である。実際にレスナーがそういう練習をしていそうなのがいい。

レスナーの最大の武器は頑丈な肉体と、そこから生まれるとてつもないパワーである。WWEで最重量のビッグショーを担ぎ上げて得意技F5でぶん回す怪力ぶりを披露している。ビッグショーを雪崩式ブレーンバスターで投げたときには、衝撃に耐えかねた支柱が折れリングが破壊されるという事件も発生した。

03年の『レッスルマニア19』でカート・アングルと対戦したときには、団体上層部の指示を振り切ってシューティングスタープレスを繰り出して頭から墜落するという大失敗もやらかしている。133キロの体重プラス加速度で、とんでもない衝撃が首にかかっているはずだが、重度の脳震盪だけで無事に済んだのは肉体の頑丈さゆえだろう。一歩間違えば大惨事になりかねない場面も、筋肉の鎧で無事に切り抜けてしまったのだ。

DVDはここで終わるが、むしろここからレスナーの波瀾万丈なキャリアが本格的に幕を開ける。我が道を行くタイプだったレスナーは、移動用に自家用ジェットなどを購入したり、ほかのトップレスラーでもやらないことを平気でやってしまう図太さも持ち合わせていた。バックステージでの評判も落ちていったであろうことは想像に難くない。

結局、レスナーは04年の『レッスルマニア20』を最後にWWEを去ってしまう。ニューヨークの聖地マジソンスクウェアガーデンに集まった観客は、その試合を最後に去っていくレスナーと対戦相手のゴールドバーグに対して試合中から容赦のないブーイングを浴びせてWWEから送り出した。

その後のレスナーはNFLに挑戦表明をして実際、ミネソタ・バイキングスに入るものの、開幕一軍入りははたせずに開幕前に解雇されている。新日本プロレスに参戦したものの、ベルトを持ったまま来日しなかったりと問題児ぶりにさらなる拍車がかかっていった。07年の『Dynamite!! USA』でMMAデビューするまで、長い潜伏期間に入っていくことになる。

とてつもない才能を持つと同時に、扱いにくさも併わせ持つ危険な男・レスナーについて、WWEとアマレスの先輩であるカート・アングルがDVDの中で的確に評している。その言葉で、この原稿を締めたいと思う。

「レスナーと僕はアグレッシブでスティッフ(＝固い)なレスラーだと言われる。20年かけて培われた性質はそう簡単には変わらないさ。だから闘うとなったら僕たちは必ずトップに立つ。徹底的にやっつける。〝殺し〟の本能が働くんだ。僕たちと闘ってみればわかるはずだ。手加減はできない。僕はシューターであり、レスラーだ。レスナーもシューターであり、レスラーだ。193センチ、133キロの体格を持つ奴なら、世界を潰すことも可能だ。だから奴と闘うことになったら万全な準備をすることだね。エンターテインメントでもケガをする恐れはある。それがブロック・レスナーだ。彼はリアルだよ」

“怪物”の素顔と本当の強さを知る男

マサ斎藤

ブロック・レスナーを語る

「ブロックは相手のヒザ裏をつかめたら誰でも倒せるよ」

レスナーをよく知る日本人といえば、レスナーの師匠ブラッド・レイガンズと盟友関係にあり、レスナー本人とも家族ぐるみの付き合いのあるマサ斎藤。同じフリースタイルレスリング出身のプロとして、マサさんにあらためてレスナーの強さと素顔について語ってもらった。

聞き手　堀江ガンツ　写真提供　エムエム・サイトー、Josh Hedges（UFC）

――いま、7・11『UFC100』で行なわれたレスナーvsフランク・ミアの映像を観ていただいたわけですけど、どういった感想を持ちました？

マサ　やっぱり強いね。ズバ抜けてるんじゃない？　相手（フランク・ミア）もノゲイラに勝ってるんでしょ？　ノゲイラに勝つんだから相手も凄いよ。でも、その相手にブロックはワンサイドだからね。ブロックは身体が大きくて、力が強いし、アマチュア（レスリング）やってたから、倒し方を知ってるし、上になってからのバランスも抜群。パンチも凄いしね。なかなか勝てるのいないんじゃない？

――UFCにはそうそう見当たりませんよね。

マサ　ブロックはね、レイナ（妻で元WWEのディーバであったセイブル）とのあいだに子どもがいなかったんだけど、つい最近、男の子が生まれたんだよ。だから今回は、よけいに頑張ったんじゃないの？

――お父さんとしての責任感で勝ちましたか（笑）。

マサ　（二人の）子どもをほしがってたからね（注：レスナーは前妻とのあいだに娘が一人いる）。

――ヘビー級のアマチュアレスラーとして、レスナーはどのあたりがとくに強いと思いますか？

マサ　レスリングには二種類あるのよ。フリースタイルとグレコローマン。で、ブロックはフリースタイルをやってて、もともと脚へのタックルがうまいんだよね。そのまま倒すだけじゃなくて、ガブられてもヒザの裏は急所だから、そこをつかんで手前に引けば、相手は腰を取られて

しまう、アマチュアのテクニックよ。
しかも、ブロックの力は半端じゃな

すか。
マサ　ブロックはね、ジャーマン（ド

――だから、プレスカンファレンス
にはバドライト片手に現われて「今

んかだと「FU○K!」って言っても
大丈夫だけど、田舎に行くとダメだ

ど、俺が出たプロレス興行の最後に、
大きなスクリーンで猪木vsアリ戦を

ブロックはドイツ系アメリカ人
もともと骨格からして強いんだよ

しまう、アマチュアのテクニックよ。しかも、ブロックの力は半端じゃないから、ヒザの裏さえつかめば、どんな相手でも倒せるんだよ。

―確かに「ひょい」って感じで、テイクダウンさせちゃいますね。

マサ　レスラーは引く力が強くなきゃダメだから。しかも、ブロックはシュート用に身体を完全に変えてるからね。ベンチプレスで作った筋肉じゃなくて、ロープ登りやったり、そうやって作った身体になってるよね。

―レスナーは、あんなスーパーヘビー級なのに、ロープ登りができちゃうんですか?

マサ　凄いよ。腕の引く力だけで、ヒョイヒョイ登っていくから。もちろん、突進力もあるけどね。いまのブロックの身体は、あれよ、大相撲の琴欧洲とかに似てるね。琴欧洲もレスリングやってて、ナチュラルに強い身体してるから。

―いまはベンチプレスはあまりやってないんですかね?

マサ　あんまやってないみたいね。230キロぐらいしか挙げてないみたい。

―ベンチプレスで230キロって、とんでもなく凄いですよ!(笑)。

マサ　そう?(笑)。ブロックはもともと、身体が強いんだよね。去年ブロックの家に行ったとき、彼の親父さんにも会ったけど、身体大きかったね。

―あの肉体は遺伝でもあるわけですか。

マサ　ブロックはね、ジャーマン(ドイツ系アメリカ人)なんだよ。(レスナーの師匠でもある)ブラッド・レイガンズもジャーマンだし、もともと身体が強いんだよね。

―ドイツ系のレスラーって、それだけでも強そうですよね(笑)。

マサ　ドイツは身体強いし、あとは(旧)ソ連も強い。(サルマン・)ハシミコフなんかが、こういう試合やってたら、強かったんじゃない?

―強かったんでしょうね。

マサ　あとはグルジア人が強いよ。酒も強いしね。

―いろんな意味で身体が強いわけですね(笑)。レスナーの話に戻りますけど。今回の試合後、レスナーのマイクでの発言が問題になってるんですよ。

マサ　ああ。あれはね、あえて言ってるんだよ。

―ヒールとして、客を煽るためにやってるわけですよね。

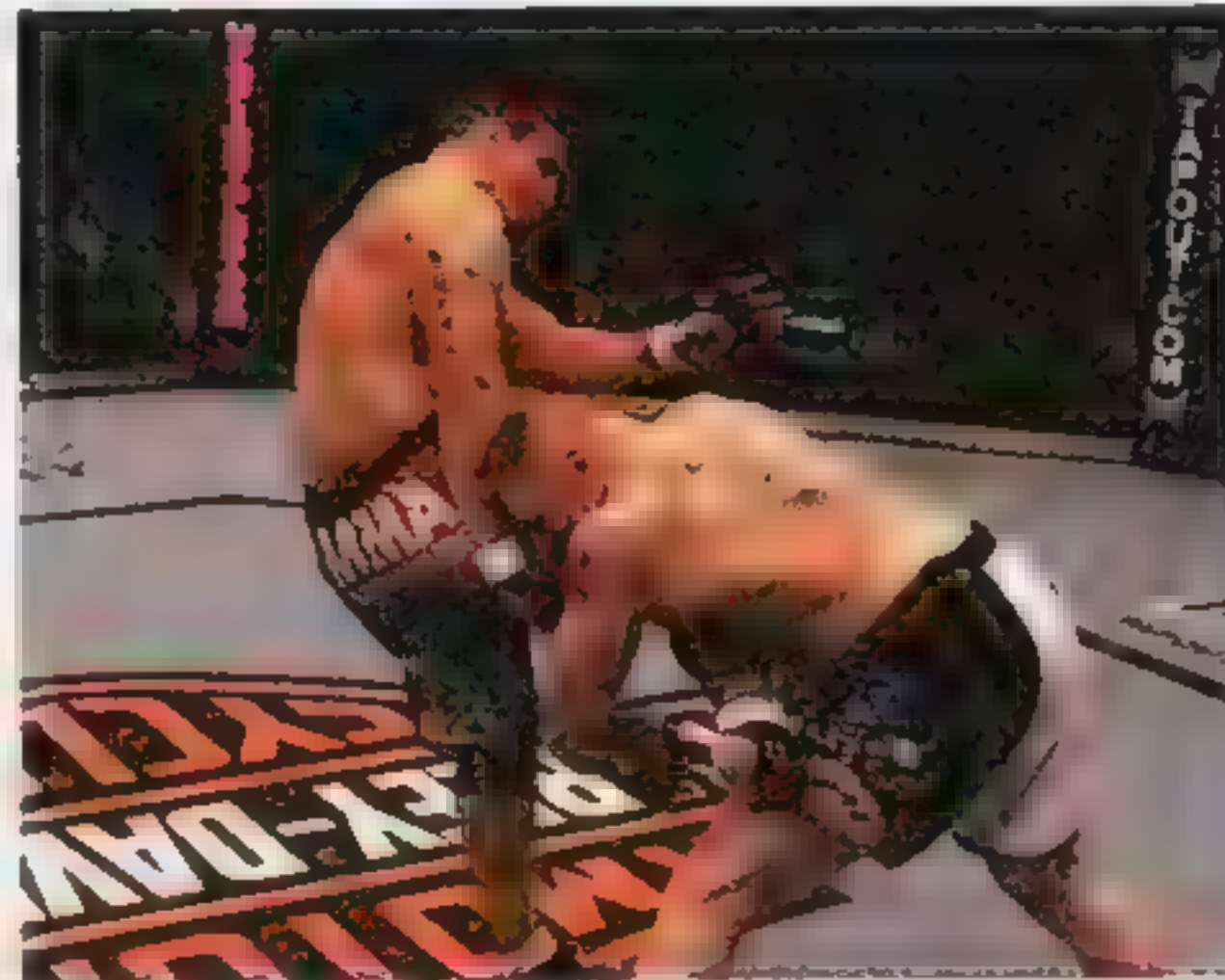
マサ　やっぱりお客をヒートさせるのが仕事だから。

―でも、UFCはバドライトがスポンサーなんですけど「今日はクアーズライトを飲むぞ!　バドライトは何もくれないからな!」っていう発言は、かなり問題発言だったみたいなんです。

マサ　フフフ、あとでいろいろ言われただろうね(笑)。

―だから、プレスカンファレンスにはバドライト片手に現われて「今日は朝までバドライト飲むから許してくれ」とか言ってるんですよ(笑)。

マサ　プロレスとシュートでは、違う部分があるんだろうな。

―マサさんも、アメリカでずっとヒールをやっていて、観客をヒートさせる発言をたくさんしてきたと思いますけど、言っちゃいけない〝NGワード〟みたいなものはあったんですか?

ミアのローキックにタックルを合わせるレスナー。この体勢に入ってしまえば、誰でもテイクダウンできるというから恐ろしい。

マサ　あったね。俺は日本人ヒールだから「アメリカ人レスラーは弱い」とか「アメリカ人レスラーはバカだ」とか、地元のベビーフェースをこき下ろすんだけど、「アメリカ」という国自体の悪口は絶対に言わなかった。

―ほう。〝アメリカ人レスラー〟は悪く言っても、〝アメリカ〟自体は悪く言わない、と。

マサ　そういうことをミスター・モトさんから教わったよ。あとは地域によっても違って、ニューヨークなんかだと「FU○K!」って言っても大丈夫だけど、田舎に行くとダメだったりね。それからヒールだから、客にモノを投げられたりしたら、たまにぶん殴ってもいいけど、殺しちゃダメとかね。

―そりゃ、殺しちゃったら絶対にダメですよ!(笑)。

マサ　でも、相手はピストルとか、ナイフを持ってたりするから。それでも殺さずに自分を守らなきゃならないんだよ。

―ヒール稼業も大変ですねえ。

マサ　ブロックもシュートの世界に来て、まだそんなに経ってないから、そこの〝ルール〟がまだわからない部分もあると思うけど、頑張ってほしいね。

―レスナーには、これからどういったことを期待しますか?

マサ　このまま頑張ってくれればいいんじゃない?　稼げてるんだし。

　レスナーはPPVの売り上げパーセンテージでファイトマネーをもらってるから、今回は1試合で軽く億単位のファイトマネーを手にしているらしいですよ。

マサ　ヘビー級のボクシングばりになってきてるね。

―マサさんの時代は当然、PPVはなかったわけですけど、クローズドサーキットはあったんですか?

マサ　あったね。クローズドサーキットを初めてやったのは、あれよ。アントニオ猪木とモハメド・アリがやった試合。

　猪木vsアリ戦が最初ですか。

マサ　あのとき初めて見たね。当時、俺はサンフランシスコにいたんだけど、俺が出たプロレス興行の最後に、大きなスクリーンで猪木vsアリ戦を流したんだよ。

　へえ、プロレス興行と猪木vsアリのクローズドサーキットのジョイントだったんですか。

マサ　そう。

―マサさんは、猪木vsアリって観ていてどう思いました?

マサ　俺はおもしろかったよ。周りは「シット!」とか言ってたけど。

―アメリカ人レスラーからはボロクソでしたか(笑)。

マサ　でも、それは嫉妬なんだよ。彼らアリと試合なんかできっこないし、プロモーターだって、アリを呼ぶことなんて、やりたくてもできないんだから。

―なるほど。

マサ　アントニオ猪木がアリとやった、というそのこと自体が凄いんだから。だから、ブロックなんかも周りから嫉妬されて、いろいろ言われるだろうけど、ブロックにしかできないことなんだから、頑張ってほしいね。

【09年8月3日　埼玉県吉川市某所にて収録】

まさ・さいとう■本名・斎藤昌典。42年8月7日、東京都出身。63年東京オリンピック、レスリングヘビー級日本代表。65年にプロレス入り。その後、渡米し全米でトップレスラーとして活躍。87年には猪木と「巌流島の決闘」を行ない、90年にはAWA世界ヘビー級王座を奪取。99年に引退し、08年にアメリカでレスリングの殿堂入りをはたすした。

21世紀の

“怪物の原点”を探る

検証 アマチュアレスラーとしてのブロック・レスナー

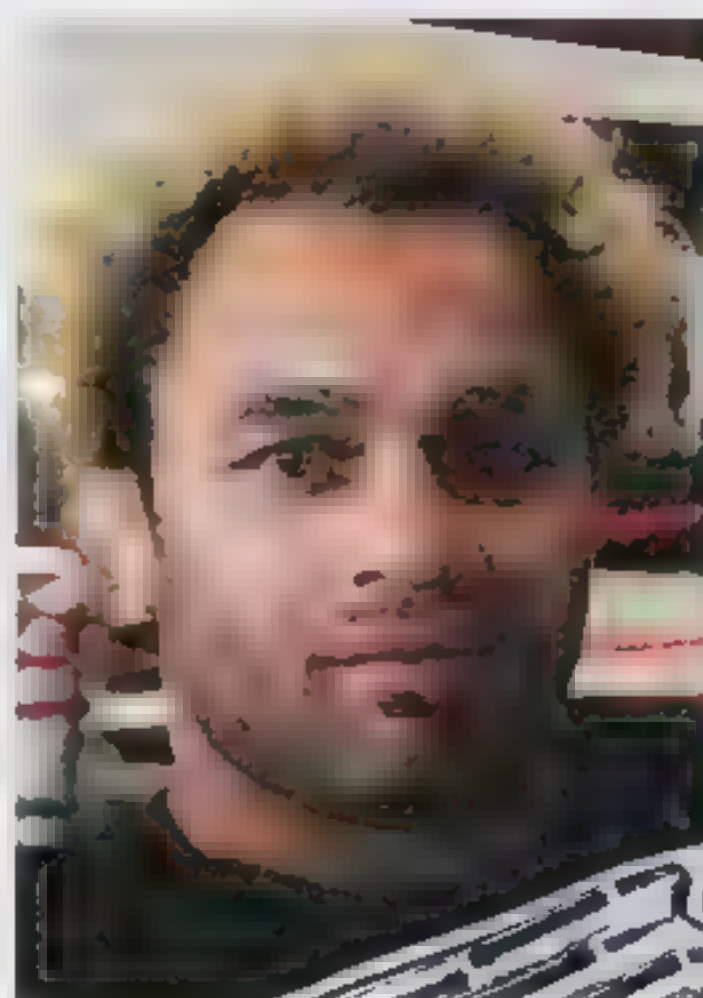
いまUFCで怪物的な強さを見せてるブロック・レスナー。その強さのバックボーンとなっているのが、ミネソタ大学時代にNCAA王者にまでなったフリースタイルレスリングのキャリアだ。怪物の原点であるアマチュアレスラー時代のレスナーとはどんな選手だったのか？ レスリング時代に同期だったUFCファイターのコスチェックをはじめ、当時を知る関係者の証言をまとめてみた。

取材／石井史彦　構成／堀江ガンツ

「レスナーは大学時代からビーストでモンスターで誰より目立っていた」

レスナーとレスリングで同期だった
UFCウェルター級トップファイター

Josh Koscheck
ジョシュ・コスチェック

JOSH KOSCHECK■ TUF1」出身のUFCウェルター級トップファイターの一人レスリングでは大学時代、NCAA王者となり、4度オールアメリカンにも選抜されたトップレスラーでもある。先日、自身がオーナーを務めるジム「AKAフレズノ」をオープン 「UFC103」では、フランク・トリッグとの対戦が予定されている

――コスチェック選手は、ブロック・レスナーとは同時期にレスリングをやっていたらしいですね。

コスチェック　そのとおり。俺とレスナーはレスリングで同期だな。一緒に練習したことはなかったけど、レスリングのオールスター戦では、NCAA1位と2位のチームに分かれて対抗戦を行なって、そこでは同じチームになったことがある。まだMMAファイターとしては学ぶことがたくさんあるだろうけど、UFCに新しいキャラクターを持ち込んでくれたことに感謝しているんだ。

――ブロック・レスナーがここまで早くMMAに順応したことについて、どう思いますか？

コスチェック　レスリングのゲームがMMAでも通用するということを証明したということだと……。もちろん彼のズバ抜けた体力がものをいったのは間違いないけどね。彼はレスリングのバッククラウンドを最大限利用してMMAファイターになったんで、短期間で頂点に立てたんだと思う。そのレスリングキャリアは、NCAAのチャンピオンであるという実績が語るとおり、ベストの中のベストだからね。

――レスナーがほかのレスリング出身選手と違う、スペシャルな点はどこだと思いますか？

コスチェック　とくに異なる点は感じてないよ。俺がこのMMAというスポーツを始めた頃を覚えているかい？ 当時の俺はレスナーと同様、〝レスラー〟だったんで、テイクダウンからパウンドという流れがほどんどだった。だからレスナーも、もっとオクタゴンの中での試合経験を積んでいけば、ますます強くなっていくと思うよ。実際、レスナーがUFCに来てから話したこともあるんだよ。同じレスラー出身として、どうやって俺がスタンドアップも強化していったかに興味があったということでね。

あのレスナーも〝先輩〟にアドバイスを乞うてたんですね。アマチュアレスラー時代のブロック・レスナーについて、何か印象はありますか？

コスチェック　パワーを持った素晴らしいレスラーで、当時はカーディオ（スタミナ）も、いまより優れていたと思う。

――レスナーはアマチュアの頃からとくに目立った存在でしたか？

コスチェック　あたりまえだよ（笑）。とにかくビーストでモンスターなヤツで、誰よりも目立っていたね。

レスナーはアマチュアレスラーとして、またMMAファイターとして、どういった点が優れていますか？

コスチェック　あのデカい身体と、とてつもないパワーだよ。

――レスリング出身のモンスター的強さを持ったMMAファイターというと、かつてマーク・ケアーがいましたが、レスナーは全盛期のケアーより上だと思いますか？

コスチェック　マーク・ケアーは間違いなくスポーツマンとして、またレスラーとしてレジェンド。でも、レスナーもヘビー級レスラーとして同レベルにあると思うよ。

――レスナーはWWEスーパースターだった過去をいろいろ言われたりします。プロレスラーとしてのキャリアは、現在の彼にプラスになっていると思いますか？

コスチェック　あのWWEでの経験があったからこそ、俺はいまのレスナーが大好きなんだよ！ 彼のあのカリスマ的存在感は尊敬するし、キャラクターがあるというのは、プロとして必要不可欠なことだからね。

――レスナーのこれからの課題はなんだと思いますか？

コスチェック　スタンドアップをもう少し向上させれば、MMAのコンプリートファイターになりえると思う。実際、レスナー自身もそのあたりを理解して練習しているからね。

――いまのUFCにレスナーを倒せるファイターはいると思いますか？

コスチェック　今日現在は「誰」とは言えないけど、このスポーツにおいても、いつかは誰かが追い越す日がくるだろうからね。ただ、UFCには無敗のファイターもいるから、彼がヘビー級でそういう存在になる可能性はあると思うよ。

「レスナーは数少ないヘビー級のいいレスラーだ」

レスリングコーチ歴23年

Dennis DeLiddo

デニス・ダリッド

DENNIS DELIDDO■カリフォルニア州立大学フレズノ校にてレスリングのヘッドコーチを務め、フレズノ州立大宅での23年間におけるコーチ職で計27人のオールアメリカン、55のコンファレンスの個人タイトルを取得させた名コーチ。現在はAKAでもコーチを務める。

—ブロック・レスナーのレスリング時代の話を少し聞かせてください。

デニス 私はレスナー以外にも、レスリングからMMAのファイターとなったのを何人も観ているし、個人的にもよく知っているよ。ランディ・クートゥア―、マーク・コールマン……、ダン・ヘンダーソンは彼が高校時代にスカウトしたんだけど、ビクトーバレーハイスクールに行ってしまった。トム・エリクソンはレスリング時代USオープンの試合でコーナー（セコンド）を務めたんだ。

ブロック・レスナーのレスリング時代の試合もたくさん観ているけど、教えたりするチャンスはなかった。レスナーのことを話す前に聞きたいだけど、ステファン・ニールっていうレスラーを知ってるかい？ カリフォルニア州立大ベイカーズフィールド校出身のNCAAヘビー級のチャンピオンなんだけど、フットボールの経験がまったくないままプロの選手となり大活躍してるんだ。身体が大きく動きがよいということでステファンがプロフットボール選手として成功しているのと同様に、レスナーも大きくて動けるのでファイターとしてUFCのチャンピオンになっただけのこと。まあ身体が大きく良く動ければ何をしても成功するということだね（笑）。もちろん、二人ともアスリートとしても素晴らしかった。

—アマチュアレスラー時代のブロック・レスナーについて、何か印象はありますか？

デニス とにかく身体が大きく力強くて、技術的には小さなレスラーのような俊敏な動きはできなかったけど、とてもいいレスラーだった。ヘビー級では優れているところが3つあれば上位に食い込めるからね。NCAAでも3年のときに2位、4年のシーズンでは無敗のままチャンピオンという素晴らしい記録も残している。

—レスナーはアマチュアの頃からとくに目立った存在でしたか？

デニス その身体の大きさからも実績からも目立つ存在だったのは間違いないよ。それにヘビー級のいいレスラーっていうのはそんなにいないしね。彼は間違いなく素晴らしいヘビー級レスラーだった。

—ブロック・レスナーは全盛期のマーク・ケアーより上だと思いますか？

デニス 両者ともNCAAのチャンピオンを一度ずつ獲得してることからも、ほとんど同じレベルだったと思う。とくにMMAに関してはレスナーのほうが成功すると思うし、今後の活躍が楽しみだよ。

「ヘビー級は人気があったからレスナーは大学時代から有名だった」

レスナーのライバル校のコーチ

Tommy Ortiz

トミー・オーティス

TOMMY ORTIZ■アイオワ州立大学＆アリゾナ州立大学にて計17年間レスリングのコーチを務める。8歳からレスリングを始め、レスリング歴34年。オールアメリカンに3回選ばれている。

—ブロック・レスナーがここまで早くMMAに順応したことについて、どう思いますか？

トミー レスリングがMMAの必要不可欠な基礎となることを証明したと同時に、彼はそれに短期間でグラウンドでパウンドをするテクニックを身につけられたからだと思う。

—アマチュアレスラー時代のレスナーについて印象を聞かせてください。

トミー レスナーがミネソタ州立大学の選手のときのアシスティングコーチは、私の友人であるマーティン・モーガン（現在もレスナーのレスリングコーチ）で、私自身はアイオワ州立大のアシスティングコーチだったんだよ。特別な思い出といえば、ナショナルドールの選手権で優勝を懸けて、レスナーと自分のところの選手が試合をしたんだけど、ミネソタが勝つためにレスナーはピンフォール勝ちしなくてはいけないのにできなくて、レスナーは感情をむき出しにして怒ってて試合後も真っすぐに睨みつけられて恐怖を覚えたよ（笑）。レスリングでもボクシングやMMA同様ヘビー級の試合は最も人気があるので、少しでもレスリングに興味がある人ならレスナーの試合はかなりの人が観てると思うよ。

—ブロック・レスナーは全盛期のマーク・ケアーより上だと思いますか？

トミー 大学時代レスナーはヘビー級、マークは190ポンドの違った階級だった。でも、もし純粋にレスラーとして比較したら、マークのほうが上だね。マークは偉大なるレスラーだよ。それでも、レスナーもアスリートとして素晴らしい。レスナーは身体が大きいので、大学卒業後、フットボール選手になっても成功しただろうね。

「レスナーというよりレスラーが強い!」

ロス五輪、ソウル五輪銀メダリスト
早稲田大学スポーツ科学部准教授

太田章

おおた・あきら■84年ロサンゼルスオリンピック、88年ソウルオリンピック、レスリング銀メダリスト。オリンピックには計4度日本代表に選ばれる。現在は早稲田大学スポーツ科学部准教授。

—ブロック・レスナーがここまで早くMMAに順応したことについて、どう思いますか？

太田 当然！ 普通のこと！

—なぜ、これほど早くUFCの頂点に立てたのだと思いますか？

太田 アマレスが厳しいスポーツということ！ 本人の自覚も凄い！

—レスナーがほかのレスリング出身選手と違う、スペシャルな点はどこだと思いますか？

太田 パワー！

—アマチュアレスラー時代のレスナーについて、何か印象はありますか？

太田 当時から力まかせだった！

—レスナーはアマチュアの頃からとくに目立った存在でしたか？

太田 身体が強靭すぎて「ドラッグチェックしろ！」というヤジが飛ぶほどだった。とにかく目立ってた！

—レスナーはアマチュアレスラーとして、またMMAファイターとして、どういった点が優れていますか？

太田 レスリング自体が、オールマイティだが、彼もまたオールマイティだった！

—彼のプロレスラーとしてのキャリアは、現在の彼にプラスになっていると思いますか？

太田 マイナス！ ただただ、プロレスラーというキャリアがマイナス。

—レスナーのこれからの課題はなんだと思いますか？

太田 パワーでなく、技術！

—いまのUFCにレスナーを倒せるファイターはいると思いますか？

太田 UFCなのかどうかわからないが、ヒョードルとの一戦が観たい！

**ケイン・ヴェラスケス
MMA全戦績**

2006.10.7 ストライクフォース
○ vs ジェシー・フィーヤキー
（1R 1分53秒 TKO）

2006.12.16 ボードッグ・ファイト
○ vs ジェレミア・コンスタント
（1R 4分0秒 TKO）

2008.4.19 UFC83
○ vs ブラッド・モリス
（1R 2分10秒 TKO）

2008.7.19 UFN
○ vs ジェイク・オブライエン
（1R 2分2秒 TKO）

2009.2.7 UFN
○ vs デニス・ストイニッチ
（2R 2分34秒 TKO）

2009.6.13 UFC99
○シーク・コンゴ
（3R終了 判定3-0）

近い将来ブロック・レスナーを倒すのはこの男か!?

UFCに次世代の怪物現わる!

CAIN VELASQUES

ケイン・ヴェラスケス

「UFCナンバーワンの"レスラー"はブロック・レスナーじゃない。俺だよ」

UFCFIG

レスナーを頂点に、強豪がズラリと揃った現在のUFCヘビー級。
その中で育ってきた次世代の怪物の筆頭が
このケイン・ヴェラスケスだ。現在までMMA6戦全勝。
秋に予定されているショーン・カーウィンとの全勝対決に勝てば、
レスナーへの挑戦権を得ると言われているこの男の名前を、
いまから覚えておいたほうがいい!

聞き手&撮影 石井史彦 文&構成 堀江ガンツ 試合写真 Josh Hedges (UFC)

――日本のメディアによるロングインタビューは初めてということで、まず簡単なプロフィールを教えてください。

ケイン 1982年7月28日、カリフォルニア州サリナス生まれのメキシコ系アメリカ人で、UFC契約のMMAヘビー級プロフェッショナルファイターだ。MMA戦績は6戦全勝。うちUFCでは4勝、最後の試合は6月にドイツで行なわれた「UFC99」で、シーク・コンゴと対戦したときのものだよ。所属はAKA(アメリカン・キックボクシング・アカデミー)で、トレーニングを始めてから3年。バックボーンはレスリングで、高校時代に110勝10敗の記録を残しているよ。

――110勝10敗って、凄い記録ですね!

ケイン あとジュニアカレッジ時代にナショナルチャンプ。その後、アリゾナ州立大学に編入して、オールアメリカン・レスラーに2回選ばれているよ。

――子どもの頃は、どんな家庭環境でしたか?

ケイン 生まれたのはカリフォルニア州のサリナス。2歳のときにアリゾナ州ユマに引っ越し、そこで育った。家族は兄と妹が一人ずつの5人。メキシコまで車で30分というところに住んでいたので、週末は自分たちのルーツを知るためということもあり、メキシコまで食事や遊びに連れて行ってもらっていた。家庭は金銭的に凄く貧しかったけど、両親ともまともな教育を受けてなかったこともあり、我々子どもたちにはたくさ

6.13「UFC99」では、ミルコを破った大物シーク・コンゴと対戦。ケインはコンゴの打撃を浴びながらも、幾度となくテイクダウンを奪い、3ラウンド、15分間を通して攻め続け、判定勝ち。その恐るべきポテンシャルを見せつけた。

レスリングもボクシングも使えるMMAは俺にとって最高のスポーツ

えの愛情と、あるものはすべて与えてくれたんだ。

——貧しくとも、いいご両親に育てられたんですね。どんなご両親ですか？

ケイン 父はメキシコ生まれで、7歳のときには学校へ行かなくなって、家族のために働き始めたんだ。子どもの頃は服も靴もなく、いつも裸足で農作業をしたり。あとは当時のメキシコでは珍しくない光景だったんだけど、アメリカからメキシコに来た観光客がアメリカに戻るところに並んで、チューインガムを売り歩きお金を稼いでいたらしい。

——いまでも、そういう子どもたちは、見かけますね。

ケイン 父が子どもの頃に寝ていたところは、竹で組まれたベッドで、天井からスコーピオンが落ちてくることも、よくあったって聞いている。

——天井からサソリですか！ 凄い環境ですね。

ケイン 母はカリフォルニアで酪農家の家に生まれたんだけど、小さい頃から毎日牛の世話や畑仕事を手伝い、11歳のときには学校へ行かなくなってしまった。そして18ときの時に家族でメキシコに戻った際、父と出会い30歳のときにアメリカへ戻りカリフォルニア州サリナスへ移り住んだんだ。

——あなたのスポーツ歴、レスリングでのタイトル歴を教えてください。

ケイン 普通の子どもと一緒で、学校に行くと休憩時間にグランドでスポーツの真似事はしてたよ。9歳のときにはボクシングが好きな父親がボクシンググローブを買ってきてくれて、コンビネーションの打ち方とかを教わったよ。でも遊びっていう感じだったしお金もなかったので本格的にボクシングを習うことはできなかった。レスリングは兄が始めたのを見てて「これはおもしろそうだ」っていうことで1年後の12歳のときから。ほかには12歳から18歳までアメリカンフットボールもやっていた。レスリング同様アグレッシブにぶつかり合うのが好きだったんだよ。でも自分にはレスリングのほうが合ってたし、上を目指せそうだったので大学ではレスリングを選択したんだ。

——レスリングのタイトルは？

ケイン ハイスクールのときにアリゾナ州のチャンピオン。ジュニアカレッジのときにナショナルチャンピオン。その後アリゾナ州立大学にトランスファーし、オールアメリカンに2回、PAC10（米国西海岸諸州とアリゾナ州の大学10校によるリーグ）に2回選ばれている。

——なぜレスリングを続けずにMMAに転向しようと思ったんですか？

ケイン レスリングを続けてオリンピックを目指すということも考えたんだけど、レスリングをしてた頃からアグレッシブに攻めるのが自分のスタイルだったし、相手を殴るのに興味があったんだ。MMAはレスリングの技術も使えるし、子どもの頃からやりたかったボクシングも含めてなんでもできるんで、自分にとって最高のスポーツだと思えたからさ。

——MMAはレスリングをやっていた頃から興味があったんですか？

ケイン もちろん興味があったし、自分を試したかった。それでレスリングをやっていた当時からコーチのトミー・オーティズに「レスリングのキャリアを終えたらMMAをやりたい」と言っていたんだ。そしたらトミーが「最高のチームを知っているから、1週間練習してみて、気に入るかどうか試してみたらいい」と言われて、サンノゼまでの航空券を手配して、AKAで練習したんだ。

——それがAKAとの最初の接点ですか。

ケイン そうだね。そして、練習環境やチームの雰囲気がとても気に入ったし、オールアメリカンであるジョシュ・コスチェックや、ジョン・フィッチ、ジョシュ・トムソンなどレスリング出身のトップMMAファイターが所属していることもあり、そこにも興味を持った。そしてメンバーからも「いつでも戻ってこい」と言われてね。2006年にサンノゼに引っ越して、正式にAKAのメンバーになったんだ。

——AKAはウェルター級、ライト級の強豪が揃っているイメージがありますが、ヘビー級のスパーリングパートナーには困っていませんか？

ケイン いや、AKAにはマイク・カイル、ポール・ブエンテロ、キングス

トーンといった、ヘビー級やライト

ケイン 身体が大きく分厚く、スタ

いないからね。それに体重の乗った

ロック・レスナーのベルトへの挑戦

ケイン 非常に興味のある試合だよ

俺はスタンドと柔術のテクニック、スタミナでレスナーを上回っている

CAIN VELASQUES

トーンといった、ヘビー級やライトヘビー級の強いファイターもいるんだよ。それにAKAのマネージメントが毎週のようにスパーリングパートナーを呼んでくれているんだ。たとえば先週は、アテネオリンピックで4位だったレスラーを連れてきてくれて、とてもいい練習ができたよ。

——そしてMMAデビュー以来、現在まで6戦全勝ですが、先日のシーク・コンゴ戦では、レスリングの強さはもちろん、打たれ強さとスタミナに驚きました。アゴの強さやスタミナには、自信がありますか？

ケイン　アゴの強さはある程度自信はあるけど、あの試合について[illegible]ば、真正面に立ってパンチをもら[illegible]すぎてしまった。スタンドで本来や[illegible]らなければならないことができ[illegible]て、反省しているよ。もう少し、[illegible]でもパンチを出すべきだったね。試合自体はテイクダウンから常に[illegible]なりパウンドでコントロールす[illegible]ームプランだったんだ。そしてスタミナは自分の武器の一つ。あの試合でも、3ラウンドをフルに動けていただろう？　ただ、経験不足からなのか、スタンドでの闘い方がよくなかったから、二度とあのような試合展開にならないようにしないといけない。

——UFCヘビー級チャンピオンのブロック・レスナーのことはどう評価していますか？

ケイン　身体が大きく分厚く、パワーのある素晴らしいファイター。とくにレスリングゲームになったら、そのパワーを活かしたもの凄く危険な存在だね。

——レスナーはUFCには自分にレスリングで対抗できる人[illegible]と発[illegible]が、その[illegible]でどう[illegible]

ケイン　[illegible]スリ[illegible]格や[illegible]って[illegible]信[illegible]ある[illegible]た[illegible]は、同じレスラーの強さ[illegible]出身選[illegible]が特別なんだと思いますか？

ケイン　やはり、あのビッグな体型と強靭なパワーだよ。とにかくあんな胸板の厚さを持った選手はほかにいないからね。それに体重の乗ったパンチは破壊力が増すだろうし、とにかくパワフルだよ。

——自分がレスナーより上回っていると思うところはどこですか？

ケイン　レスリングは互角として、スタンドの技術とスタミナは俺が上回っているだろう。柔術のテクニックでも上ではあるけど、おそらくあの体型&パワーを相手にサブミッションで極めるのは不可能だろうから、やはりスタンドとスタミナ勝負になるだろうな。

——次回、あなたと同じMMA無敗のショーン・カーウィンに勝てば、ブロック・レスナーのベルトへの挑戦が噂されています。来年、ベルトを奪う自信はありますか？

ケイン　いや、まずはショーンとの試合に勝つことに集中しているよ。ショーンもレスリングがバックボーンで、身体も大きいし、パワーもあるので、レスナーと同じ系統のファイターだと思う。危険なのは、あのパワーから繰り出すパンチ。シーク・コンゴとの試合もパンチ一発で試合を覆したからね。でも、確かにマネージャーには、この試合に勝てばタイトルに挑戦するかもしれない、という話はされているようだね。

——やはりタイトルマッチが現実味を帯びてくると、気合いの入り方も違ってくるんじゃないですか？

ケイン　もちろん、ヘビー級のベルトを腰に巻くのが目標だからね。それに向かって必要となるすべての準備をしているんだ。そして、試合に臨むには自信を持ってオクタゴンに入らないといけない。タフな戦争のような試合になるだろうけど、勝つことを信じて、相手への攻撃を続けるだけだよ。

——エメリヤーエンコ・ヒョードルをどう評価していますか？

ケイン　彼のファイティングスタイルに敬意を払っている。アグレッシブでアスレチック。試合はノンストップだし、彼の試合は観ていてエキサイトするね。とにかくオールラウンドの素晴らしいファイターだよ。

——そのヒョードルのライバルだったノゲイラが、「UFC102」でランディ・クートゥアーと闘います。この試合をどう予想しますか？

ケイン　非常に興味のある試合だよね。ただ、勝つのはランディだと予想するよ。ランディのほうがスタンドでのテクニックとスピードが若干上回っているし、ノゲイラはグラウンドのスペシャリストだけど、ランディが極められることは想像できないからね。

——では、あなたが考えるヘビー級ベスト3は誰だと思いますか？

ケイン　MMAサイトやファンのあいだで言われているベスト3を尊重するし、そのとおりだと思う。ただ、自分はそれに近いところにいると思うし、早くそのベスト3と言われるファイターへ挑戦して倒したいんだ。

——自分のこれからの課題、強化しなければならないところはなんだと思いますか？

ケイン　ボクシング、キックボクシング、柔術、それにレスリングとMMAで必要とされることすべてだね。全局面を強化して、絶対にUFCヘビー級チャンピオンになりたいと思っているんで、ぜひ応援してくれ！

［09年7月31日　米国カリフォルニア州サンノゼ　AKAにて収録］

会長のハビア・メンデスをはじめ、柔術黒帯のデイビッド・カマリロら、名コーチがそろい、これまで多くのトップファイターを輩出してきたAKA。ケインもここで、日々MMAのスキルに磨きをかけ、日に日に怪物性を増してきている。

CAIN VELASQUEZ■1982年7月28日、米国カリフォルニア州出身。大学時代にレスリングでオールアメリカンに2回選ばれる。06年にMMAプロデビュー。ストライクフォース、ボードッグ、UFCで5連続KO勝ちを含むMMA6戦全勝中。AKA所属。185センチ、109キロ。

永田　今日は「最強」がテーマだって
聞いたんですけど、俺でいいんです

なるほど（笑）。永田さんは昨日
本のリングでレスナーと対戦したわ

すね〜。しみじみと。スパインバス
ターで叩きつけられたときには背中

プロレスには魅力を感じてなかった
んじゃないかな。WWEのときのハ

すが……結局、あのとき未払いたっ
たギャラはもらえましたか？（笑）

21世紀の
最強幻想

思わず白目をむくような
『猪木祭り』の新事実も発覚!?

レスナー、ヒョードルと闘った男が語る
最強学概説

ぼくらのブルージャスティス
永田裕志

最強がテーマとなれば、忘れちゃいけないのがこの男！
かつてヒョードルにレスナー、さらにはミルコにジョシュら
屈強の猛者たちと相まみえたことのある永田さんの登場だ！
青義の使徒が語る最強に耳を傾けろ！ ペイ！（永田さん調）

聞き手　鈴木佑

レスナーにはファッションを ほめられたことがありますよ（笑）

永田 今日は「最強」がテーマなんで聞いたんですけど、俺でいいんですか？ まあ、『kamipro』だからなんか企んでるんでしょうけど（笑）。

　いえいえ、何をおっしゃいますやら（笑）。いま、「最強」をイメージさせる選手といえばエメリヤーエンコ・ヒョードルとブロック・レスナーが双璧だと思うんですが、ぜひともこの二人と対戦経験のある永田さんに、その身をもって知った最強についてお話を聞きたいな、と

永田 なるほどね～、おもしろいこと考えますね（笑）。でも、その二人とは藤田和之ちゃんもやってるでしょう

　まあ、永田さんはほかにもジョシュ・バーネットやミルコ・クロコップといった、最強のカテゴリーに入る強豪たちとの対戦経験も豊富ですし

永田 ああ、確かにっ。まあ、ジャンルはプロレスやらMMAやらさまざまですけどね（笑）

―永田さんはレスナーのMMAの試合はご覧になってますか？

永田 いや、観たのはアメリカでやったキム・ミンスとのデビュー戦くらいですね。観たいとは思ってるんですけどなかなか機会がなくて、

　MMA自体はご覧には。

永田 地上波やサムライTVのニュースで流れてると観ますよ。DREAMとか『戦極』とか、毎年『Dynamite!!』も『ガキ使』とチャンネル換えながら観てますし（笑）

　なるほど（笑）。永田さんは新日本のリングでレスナーと対戦したわけですが（2005年12月11日）、印象はいかがでした？

永田 まず、彼はデカいのに身体の均整がとれてるんですよ。昔の外国人レスラーは大きいと動けないっていうイメージが強いんですけど、いまの選手ってアスリートっぽいっていうか、ガタイがいいのに加えて運動神経が凄いんですよね。レスナーはその中でも群を抜いてたというか

　アマレスの優秀な選手でしたしね。対戦する前から面識はあったんですか？

永田 その3年くらい前に、カート・アングルが主催するレスリングの大会に弟の克彦が出場することになったんで応援について行ったんですけど、そこにレスナーもゲストで来てたんですよ。それで大会後に夕食をごちそうしてくれてね

―へ～、意外な接点が

永田 そのときにレスナーが俺の着てたジャージを見て「オシャレじゃないか」って言ってくれまして（笑）

―ファッションをほめられましたか（笑）。実際に肌を合わせてみてどうでした？

永田 とにかく当たりが強かったですね～（しみじみと）。スパインバスターで叩きつけられたときには背中に電流が走りましたよ。でもパワーだけじゃなくて、フットワークも軽いんですよね

―あの身体で相当スピードもありますよね

永田 バランスも凄くいいし、あれだけの素材ならMMAで活躍するのも納得いくっていうか。ミンス戦を観ててもタックルにキレがあったし、スタンドもけっこういいって聞きますしね。最近もパウンドでフランク・ミアをKOしたんでしょ。

　詳しいですね（笑）。まあ、レスナーは新日本にはうしろ足で砂をかけたかたちにはなりましたけど

永田 IWGPのベルト持っていっちゃってねえ（笑）。でも、最終的にはUFCで成功して、彼はあんまりプロレスには魅力を感じてなかったんじゃないかな。WWEのときのハードスケジュールが本当に嫌だったらしいですしね

　しかし、プロレスとMMAの両方でトップを獲った選手というのはなかなかいないですよね

永田 MMAでトップ[illegible]やらせたらダメとかね。俺はその逆パターンでしたけど（笑）

　ダハハハハ！ レスナーは試合巧者である永田さんから見てプロレスセンスはありましたか？

永田 パンチの打ち方や腕の取り方、ちゃんと基本ができてる選手でしたよ。レスナーで俺が一番驚いたのは、レッスルマニアでカートとやったときに、シューティングスタープレスを失敗したことがあったでしょ。[illegible]マットに[illegible]込んで（笑）

永田 あれを観たときは「うわーっ」て思ったんですけど、そのあとすぐにF5（レスナーの必殺技）を決めて勝ったんで「コイツ、尋常じゃないな」って思いましたね。あれは首が相当頑丈じゃないとイッちゃってますよ

　怪物的なフィジカルというか

永田 素顔はアメリカの田舎のあんちゃんっていう感じなんですけどね。WWEではいきなりトップ扱いだったから、ちょっと天狗になってたって聞きますけど、本人なりにそれから挫折も経験してMMAのチャンピオンになって。俺もいろいろと縁があった選手なんで、UFCの1番になったときは素直に嬉しかったですよ

―そしてもう一方の雄であるヒョードルについてもお聞きしたいんですか……結局、あのとき未払いだったギャラはもらえましたか？（笑）

永田 いや、主催者は新日本に払ってないんですよ。裁判には勝ったんですけど、だからって払われるものでもないみたいで。まあ、このへんはデリケートなんでソッとしといてください（笑）

　了解です（笑）。ヒョードルといえば、ジョシュ・バーネットとの一戦が消滅しちゃいましたね

永田 ねえ、びっくりしましたね！ 大会自体なくなっちゃうんだもん

　そういえば、永田さんは『東スポ』で「ジョシュが出場できない場合には俺が……」ということで名乗りを挙げてましたけど（笑）

永田 いや、あれはべつに「ジョシュの代わりとしてどうですか？」って聞かれたから、（手でお金のポーズをとりながら）「条件次第です」って言っただけですよ（笑）。プロレスラーがMMAに出場したことでアッチのビジネスは上がったんだから、今度オファーが来るんならソロバンをはじかせてもらおうと思ってね（ニヤリ）。

　利用されたからには利用しよう、と（笑）。ヒョードルは実際に闘ってみてどうでしたか？

永田 う～ん……、あのときは対戦相手を意識する以前に『猪木祭り』の運営自体がドタバタで、気持ちが盛り上がらなかったのが正直なところですからねえ（笑）

　対戦相手が二転三転して

永田 [illegible]、一つだけわかったのは、ヒョードルのほうがミルコよりも圧力が凄かったですね。ヒョードルはこっちの踏ん張りが利かないくらい

いまも伝説のズンドコ興行として記憶に残る2003年大晦日の『猪木祭り』で、高山vsミルコ戦の消滅により緊急出場をはたした永田さん。60億分の1の男を相手に果敢に立ち向かったが、結果は62秒でTKO負けを喫してしまう

一気胴成にくるんで、ミルコの場合は距離を取ってスコーンってハイキックを打つ感じでしょ。だからヒョードルみたいな圧力は感じなかったですね。まぁ、感じる以前に試合時間が短かったんですけど（笑）。

——ダハハハハ！ また自虐ネタで（笑）。

永田 あとヒョードルは凄く身体が柔らかいなって思いましたね。距離を取ろうとしたときに、ヒョードルがスッと足を抜いたんですよ。身体を振ったりして逃げるとかじゃなくて、自然とうまくすり抜けて。まぁ、感じたのはそれくらいですかね。あの試合も短かったんで（笑）。

——まだ身を削りますか（笑）。

永田 とにかく[illegible]のときは闘う以前の問題だったんですよ。だって、結局相手がヒョードルに決まったのは大会の5日前ですよ。

——以前にウチのインタビューでも語っていただきましたが、対戦相手をめぐって相当すったもんだがあったんですよね（笑）。一時は出場辞退もあったのに、永田さんは猪木さんの顔を潰せなかったという。

永田 そうそう。オファーを受けてからスポーツ新聞に「猪木祭り中止か!?」って出たんで、これに触れたら面倒くさいことになると思って。主催者サイドに「この話はなかったことにしてほしい」って伝えたんですよ。でも、猪木さんの顔を立ててくれって言われて。

——真夜中に猪木さんに呼び出されて、頼むって頭を下げられたのは有名な話ですよね。で、永田さんが「やります！」って答えたら猪木さんが「よし！」って言うやいなや、闘魂ビンタをしたという（笑）。

永田 それを傍らで見ていた、当時のウチの執行役員だった上井（文彦）さんが「かっこいい！」って感動してね。いまでも考えると「調子いいことばっかり言いやがって」って思いますけど（笑）。この話は美談みたいになってますけど、本当は最初に猪木さんにはっきり言ったんですよ。リングで命捨てるのはいいですけど、リング外では守りますよ。俺、ヤ●ザは嫌ですからって

猪木さんに言われたんですよ。「俺もヤ●ザは嫌だ」って（笑）

——うわ〜、そこまではっきりと！

永田 そうしたら猪木さんも、わかってる。俺もヤ●ザは嫌だ、って言って（笑）。

——ダハハハハ！ そして出場を決めてからもアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラやマイケル・マクドナルドと対戦相手がコロコロ変わって（笑）。

永田 で、クリスマスイブに日本テレビの「スポーツMAX」っていう長嶋一茂さんの番組に出たんですよね。相手は決まってなかったんですけど、[illegible]と思って生放送で「相手はノゲイラって聞いてるんですけど」って言っちゃってね（笑）。

——言っちゃいましたか（笑）。

永田 そしたら一茂さんが「えぇ、一部ではそういう噂も聞きますが……」ってごまかしたんですよ（笑）。きっと事前にプロデューサーに対戦相手の具体名には触れないようにって指示があったんでしょうね。

——そのときはMMAの練習は？

永田 新日本のシリーズに参加していたし、高阪剛さんのジムで1週間だけやりましたね。

——たったの1週間！

永田 ノゲイラを想定して最低限のガードポジション対策とか。でもシリーズ直後だから疲労も溜まってて、スパーでも筋肉がつっぱっちゃって力が入らないんですよ。さらに対戦相手のゴタゴタで精神的にも相当まいってましたから

——そんな満身創痍の状態でようやく相手がヒョードルに決まって。

永田 通常は試合直前だと緊張が高まってくるのに、あのときはまったくなかったですね。テンションを上げようと、カメラの前でアナウンサーの方とわざとおどけたりしたんですけど、それでも一向にダメでした（笑）。

——本当に闘う以前の問題だったんですね。

永田 前日会見でヒョードルに会って、普通は武者震いの一つもしてもいいものなのに全然でしたから。会見の帰りにヒョードルと同じエレベータに乗っちゃったんですけど、彼が穏やかにニコニコしてるのもあってか、本当になんとも思わなくて。だから、試合でも最強と闘ったっていう実感がないんですよね。

——そんな状況でも出場した永田さんの心意気が最強というか（笑）。

永田 よくコンディション不足っていうじゃないですか。そういう状況でもやる人間がいるんだよってことですよ。本当、馬鹿にはなっても夢は見れなかったです（笑）。

——ダハハハハ！ ミルコ戦のときのほうがまだ状況はましでしたか？

永田 あのときもシリーズ後でしたけど、試合前に練習したりロスの道場に行ったり、心の準備できてましたから。それに絶対勝つと思ってましたしね。試合前の控室に桜庭（和志）選手が訪ねてきてくれて、「ハハ

最強考察コラム③

最後のプロレス最強論争

文　田中太陽

かつてプロレスは最強の格闘技であり、プロレスラーこそが最強の人類だと信じられていた時代があった。

現代においては「プロレスはプロレスである」というトートロジーが一般的となり、いわゆる〝格闘技的な強さ〟はプロレスラーの必須科目ではなくなりつつある。だが、ほんの20年ほど前までは違ったのである。

アントニオ猪木の全盛時より〝King of Sports〟を謳い、発展してきた新日本プロレスの歴史などは、まさしくそのような〝プロレス最強幻想〟との闘いであったと言える。ジャイアント馬場率いる全日本プロレスが〝最強〟とはまた異なる道を選択し、大仁田厚のFMWをはじめとするインディー団体までもが台頭しつつあった90年代初期においても、新日本という団体に求められたものは〝強いプロレスラー〟だった。

しかも多くの新日ファンはUWFという巨大ムーブメントを通過したうえで、なお既存のプロレスに〝最強幻想〟を抱き続けていたのである。打撃と関節技を中心としたUWFのスタイルはプロレスラーなら誰もがこなせるものにすぎず、新日本のストロングスタイルはその上位に位置するものだ。今日においては〝道場幻想〟などと呼ばれるこのような思想が、まだまだ一般論として成り立っていた時代のことである。

そのようなファン層を抱える新日本にとって、UWFからの派生団体はまさしく〝目の上のたんこぶ〟と言えた。リングスやパンクラスは格闘技色をさらに強め、別物感を強く打ち出すことでプロレスファン以外の顧客をつかむまでに至ったが、それでも数多くの〝最強信者〟たちを新日本と奪い合っていたことは否めない。全日本でもインディー団体でもなく、〝Uの残党〟こそが、当時の新日本にとっては最大の商売敵だったのだ。

UWFスタイルと新日ストロングスタイル、はたしてどちらが強いのか？

このドリームマッチは、まさしく突然というほかないタイミングで実現の運びとなる。UWFの派生団体でありながら〝プロレス回帰〟を全面に押し出し、エースの高田延彦に〝最強〟を名乗らせ挑戦者を募集するなどプロレスチックな仕掛けを売り物としていたUWFインターナショナルと、新日本プロレスとの対抗戦が決定したのは1995年8月のことであった。マスコミ同席のもとで行われた長州力と高田延彦の電話会談により、プロレス史に残る全面対抗戦が決定したのである。

「ドームを押さえろ！　Uをドームで消してやる！」

怒り心頭の長州が放った言葉のまま、場所は東京ドーム、日時は同年10月9日と決定。「2対1でもいい。俺からダウンを取れたら勝ちにしてやる」とどこまでも強気な長州の発言は、新日ファンのストロングスタイル幻想をいよいよもって膨らませてゆく。

そして迎えた10・9当日。ストロングスタイル最強を信じた新日ファンにとっては、まさしく恍惚というほかない試合が続く。大谷晋二郎はいままでに見せたことのないサブミッション技術を披露し、橋本真也はキックとDDTで豪快な勝利をもぎとる。長州にいたっては、当時すでにヒールとしてのキャラクターを確立していた安生洋二を、リキラリアットからのサソリ固めで完全に潰してしまうのだからたまらない。

その陰では佐々木健介や飯塚高史が思わぬ不覚をとっていたものの、全体的には「新日本、強し！」のムードで試合は消化されていった。待ちに待ったメインイベントは、武藤敬司と高田延彦のエース対決である。

この〝世紀の一戦〟に込められていた意味合いを解説するならば、〝最強のプロレス〟新日本ストロングスタイルと〝真剣勝負のプロレス〟UWFスタイルの代理戦争ということになるだろう。武藤と高田、ともに巨大すぎる〝個〟の激突でありながら、ファンはそこに〝個〟以外の対決を見ていたのである。

多くの方がご存知のとおり、この試合はドラゴンスクリューからの足4の字固めという〝プロレス技〟で武藤が勝利する。現役最高峰のプロレスラーが、プロレスの技術をもってUWF戦士に圧勝するという、プロレスの最強を信じたファンたちが最も望んだ結末だった。

この大団円はすべての新日ファンを狂喜させたと同時に、高田の〝最強〟を信じたファンを大きく傷つけたことも記しておかねばなるまい。会場には、涙ながらに「高田！　前田が泣いてるぞ！」と叫ぶ観客の姿もあったほどだ。両雄は、それほどに大きな〝想い〟を背負って闘ったのである。

言うまでもなくこの試合も〝プロレスの範疇〟において行なわれたものであり、その実態は、あまたの団体交流プロレスとなんら変わりなかった。

にもかかわらずこの対抗戦は、その過程において常に〝真剣勝負〟と〝プロレス〟の二間を漂い続け、最終的にすべてのファンを心から熱くさせたのである。

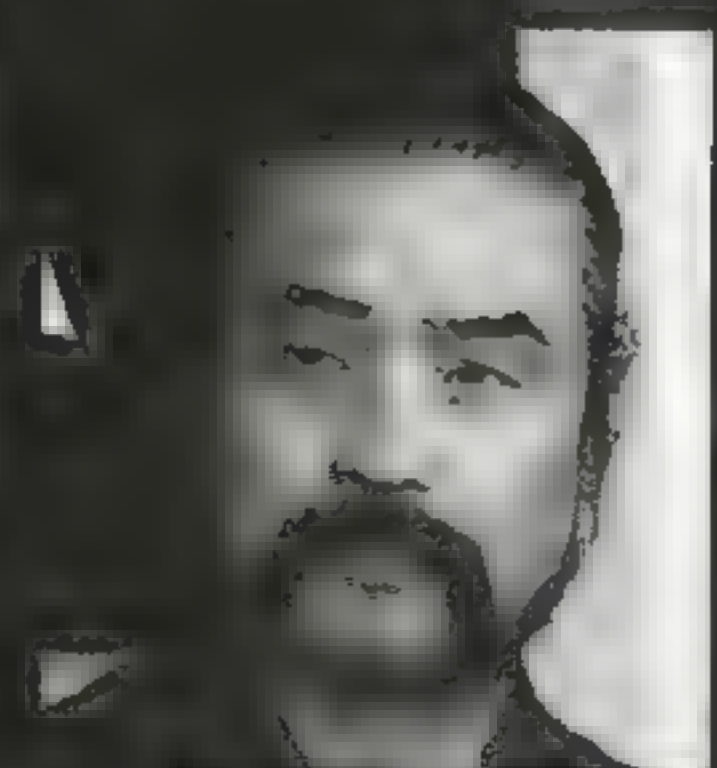
プロレスのなかで〝最強〟を語り、決めることが許されていたのは、おそらくこの時代が最後であろう。そしてプロレスというジャンル自体もまた、そうしたファンの熱気に応えてくれていた。

かつてプロレスは最強の格闘技であり、プロレスラーこそが最強の人類だった。〝プロレス〟と〝最強〟、この二つが非常に密接な関係にあったことを忘れないために、すべてのプロレスファンは10・9全面対抗戦を心に刻んでおくべきなのである。

最近の読者は信じられないかもしれないが、プロレスは年に2回のドーム大会をいずれも超満員できた時代があった

21世紀の
最強幻想

MMA全盛時代に武道が追求すべき“最強”とは?

武道幻想はどこへ行く?

大槻ケンヂ　堀辺正史　夢枕獏　沖縄空手

かつて、最強幻想はもっぱら東洋神秘武術の十八番であった。
しかし、90年代初頭に総合格闘技が台頭じて以降、それらの武道はすっかり影を潜めた感がある。
いま武道は何を目指し、どのような活動をしているのか。そして武道における最強とは何か!?

大槻さん、今号のテーマは「最強」

かれて死にそうになったときに、マ

りするんですよ。で、ほかにもいろい

体育館を借りて撮ってたみたいで、

大槻　久米宏にラウェイ見せてどう

21世紀の最強幻想

大槻ケンヂの『月刊秘伝』的最強論！

インディーズ手裏剣とは何か？

前号の「合気道プロレス」に続き、今号もオーケンが東洋神秘武術の魅力を熱弁！
しかし今回は東洋神秘系の話からヒントを得て、なんと最強への道を導き出したのだ。
はたして、オーケンが考える最強へのたどり着き方とは!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／タイコウクニヨシ

大槻さん、今号のテーマは「最強」なんですよ。

大槻　最強!!　今月も二月病だねぇ〜。

――男たるもの一度は「最強」を目指すといいますが、大槻さんも以前格闘技をやってたんですよね？

大槻　ボク!?　確かに格闘技をやったことがあるっちゃあるんですけど、週一で1年ぐらいですよ（笑）。しかも「極真ビジネスマンクラス」の7級で青帯っつーね。

――ず、ずいぶんと微妙ですね。

大槻　これはグレイシーの青帯とはまったく違いますからね。で、たしか無級の白帯から始まって10級がオレンジ帯なんですけど、オレンジ帯は筆記試験だったよ。

極真なのに筆記！

大槻　極真の道場訓があるんだけど、それを筆記するっていうテストだった。でも、道場訓って道場に貼ってあるからカンニングできるんだよね。フルカンニング空手。

――ダハハハハ！　そもそも、なぜ極真を始めようと思ったんですか？

大槻　オレ、20代のときにノイローゼになっちゃいましてね。当時はホントにつらかったんですよ。で、あんまりつらいと人間って苦労のなかった子どもの頃に気持ちが戻っちゃうんですよ。そうすると、子どもの頃、『空手バカ一代』とか読んでたから、また読み始めちゃって。有明省吾が車に轢かれて死にそうになったときに、マス大山が「空手で鍛えたその身体はそんなにヤワではないはずだ！」っていうシーンにもう号泣したの。そういうので「よし！　空手やろう」と。

一念発起したんですね。

大槻　でも、オタクだからさ、福昌堂から出てた『初心者のための武道入門』とかそういう本を読んだり、道場を決めようと思って調べ歩いてるうちに道場見学のほうに興味がいったのね。だから合気会合気道、養神館合気道、芦原空手、平直之柔術セミナー……相当見学したなあ。あと『月刊秘伝』の人のルートで新体道にも見学行った！

――し、新体道!?

大槻　これはね、青木宏之という空手の達人がつらい稽古をしているうちに、ちょっとトランス状態になったんだろうね。そっから見つけた武道みたいで、「ウアーッ」って上に向かって叫んだりとか、ちょっと見は謎の宗教の人たちの稽古みたいにも見えるんだよねえ。

え〜っと、それは格闘技なんでしょうか（笑）。

大槻　それを超えたものだよ。だって遠当てもあるの！　「ウエイ！」って気を放つと相手がダーッと倒れたりするんですよ。で、ほかにもいろいろ見に行っているうちにいまの新極真会の当時の広報と知り合いになったんですけど、その人が格闘裏ビデオをいっぱい持ってきてくれるの。その中には日本の中国拳法界で起こった「G事件」に関するビデオもあったんだよ！

――じ、G事件!?

大槻　日本の中国拳法界でGさんという人がいたんですけど、要するにGさん一派がカルト化したんだろうね。それでちょっとヤバいぞって話になってたんですけど、そのGさん一派のレクチャービデオってのがあって、それが凄いんだ。なんかね、Gさんがお弟子さんに向かって中国の最後の皇帝・溥儀から伝わる教えを永遠と語ってる様子とかね、映ってんの。

なぜだ（笑）。

大槻　カンフー陰謀史観だよ！　ブルース・リーみたいな髪型で痩せた人がタバコを吸いながら教えを説いてるんだけど、お弟子さんが灰皿を両手で持って「はい、はい」と聞いてるんです。でもね、それがね、どうも体育館を借りて撮ってたみたいで、うしろでママさんバレーみたいな音が聞こえるんだよね。奇跡のコラボだよ。

どんなコラボですか（笑）。

大槻　あとは太気拳の澤井健一と大山倍達が雪山の中でエキシビションマッチをやってたりする映像もあった。

――えーっ!!　そんなお宝映像があるんですか！

大槻　うしろでフルートがヒュルヒュル鳴ってんだよ！　で、話を戻すと、そういうビデオを見せてくれた広報の人に「空手、始めたらいいじゃないですか」って言われて道衣をもらったのが極真を始めたの

そこでようやく。

大槻　で、週一で通ってたら、ワンマッチのアマチュアから出られるK3って大会があるから出ませんかって話になって、カンニング空手のクセして参加したんですよ。一応、ワンマッチやりましたよ。

ほう。大槻さんが試合を。

大槻　いや、そしたらさ、『ニュースステーション（現・『報道ステーション』）』の人がその情報を嗅ぎつけて「ぜひ、ドキュメントで撮りたい」って来ちゃったんですよ。「そんな大げさな話じゃないからやめてくれ！」って言ったんだけど、また本当に世の中へんな人が多くてさ、その担当の人は『ニュースステーション』の中でも異端児で、いつも挙げる企画がムエカッチャーの取材とか（笑）、そういうのばっかりだったらしいの。

――『ニュースステーション』でムエカッチャーって（笑）。

大槻　久米宏にラウェイ見せてどうする！　でも「気弱ロッカーがアマチュアの空手をやる」ということで企画が通っちゃってね。だからオレ、『ニュースステーション』で試合が流れたんですよ。

――凄いなあ。プロの格闘家でもなかなか流れませんよ。

大槻　谷川さん軽く超えたよ！　ヘッドギアとグローブを着けて試合するんだけど、試合形式はポイント制で、『欽ちゃんの仮装大賞』みたいに全部ランプがついちゃうと試合が終わりなんですよ。もうボコボコにされたんだけど（笑）。でもオレの試合だけなんか微妙なノリで、審判の人がね「ちょっとブレイク、ブレイク」って言って試合を止めて、こっちに来るわけですよ。そんで、オレの耳元でささやくんですよね。「……ホントはもう終わりですが」って（笑）。

――あ、エンタメだ！（笑）。

大槻　そうなんです。驚いたよ！　島田レフェリーが青木真也とかに「ホントはもう終わってますけどね」って言ってるのと同じですよ。だから、ちゃんとしたアマチュアの大会なんだけど、やっぱりオレはエキシビション枠だったんだなって（笑）。でも実際オレの試合だけみんなおもしろがってさ。オレもそんな状況でやらないわけにはいかないから、「これガチからプロレスに変わったんだ！」って思って、しまいには調子に乗ってバックブローを放ったりしてさ、会場も「ウォー！」って盛り上がりましたよ！　空振りしたけど。

それは病みつきになりませんでしたか？

オーケンが毎月熟読していると思われる「月刊秘伝」。表紙のコピーにもあるように、合気上げの実体や、ロシアで熱いという噂のシステマなど、毎号さまざまな"怪しげ武術"が特集されているのだ

『ニュースステーション』でオレのワンマッチが放送されたんですよ！

大槻　なんない。だって痛いんだもん。やっぱり『kamipro』を読んでる読者なんかも観てるほうがいいよ。やるもんじゃないですよ。だって痛いって、痛いのよ!?

——しかし、90年代の頃ってなんであんなに怪しい格闘技が多かったんですかね。

大槻　いまもありますよ！　でもUFCとかが開催されるようになって、東洋神秘武術系は暗黙の了解でそれはそれでやっていきましょうということになってるよね。つまり、検証可能な世界でやってる総合格闘技がある一方で、東洋神秘系は勝負じゃないところに価値観をおいてやってるというか。

——なんだかプロレスの現状と似てますね。

大槻　UFCだって最初はペンチャック・シラットの人も出たし、五獣拳の人もいたし、松村流空手もいたし、それに第2回UFCでは忍術が優勝したんだよ!

——忍術の人はたしかリザーブから勝ち上がって優勝しました。

大槻　忍術、田町に教えてるところあるよ。あとちょうど、喧嘩芸骨法がガラッとかたちを変えた時期でもあるんだよね。あのオレ、本当に思うんだけど、立ちで掌打でバチバチやったり、立ち関節でやるあの頃のスタイルを貫き通してたら、いま骨法っておもしろいスタンスにあったんじゃないかと思いますよ。喧嘩芸骨法がバックボーンの総合格闘家も出たかもしれないし。現に骨法と慧舟會が交流試合をやってたりしたわけだからね。

——ありましたねえ、その名も"骨舟回盟"。

大槻　もう、いまの若い読者に骨法がどれだけ格闘界の中で割合を占めてたのかを教えてあげたいよね。だってK—1のKってもともとなんだか知ってる？　キック、空手、カンフー、そして骨法のことだったんだよ！　K—1のKの中に骨法が入ってたんだから！　しかも船木、ライガー、長与千種、ライオネス飛鳥、みんな骨法をやっててさ。

——あのスコット・ホールも通ってましたからね（笑）。

大槻　影響力でいえば、アウトサイダーの100倍以上だよ。骨法の歌もあったんだから。

——でも、なんであんなに骨法はブームになったんでしょうね。堀辺先生の弁が立つというのはあるんでしょうけど。

東洋神秘系は勝負じゃないところに価値観をおいてやってるというか

大槻　結局、骨法が作られた経緯とかもマンガや劇画で綴られてて、リアルとは違う幻想的な部分の魅力もあったわけですよね。それはたぶん意図的にやってたんだと思う。なぜかというと、少林寺拳法にしろ極真空手にしろ、これまで浸透してた武道の始まりも大概が伝説だったわけですよ。

——確かにフィクションですね。

大槻　だって少林寺拳法なんて達磨から始まってんだからね！　それに大山倍達の話なんて全部ウソですよ。だからそれに則って骨法も起源をフィクションふうにしたと思うんですよ。でも、いままでの格闘技、武道ファンはそこに乗るのが常だったけど、いまは「実際はどうなの？」って検証するじゃない。そして幻想の部分を叩くみたいなのが起こっちゃってるけど、あれもったいないよ。幻想が現実を育てるのに。

——いま幻想がある格闘技、武術ってなかなかないですもんね。

大槻　いまも生まれてるのは生まれてるけど、すぐみんなネットで調べちゃって、「あの話はここに矛盾がある」とかさ、と学会的なスタンスで切り込んでくるじゃない。

——と学会（笑）。

大槻　いい例が、つい1、2年前だけど、北海道のほうで「オレは気で人を倒すことができるから、誰でもかかってこい！」って言ってた爺さまがいたでしょ？

本誌にも登場していただいたネイチャージモンは「ヒクソンと闘うなら山の中!」と公言。しかも「この方法なら」と、なんと勝利宣言までしているのだ。これこそまさに最強論のずらしである!

本誌でもおなじみ堀辺正史師範が率いる骨法。かつては船木誠勝やライガーら、骨法の影響を受けた選手は多く、マット界での影響力は多大だった

ガチの技術で最強論を突き詰めたら
やっぱりヒョードル。だから……

いました、いました。ウチでも取材しようという話が上がってたんですよ。

大槻 そしたら、総合をやってる若い人たちが乗り込んでいって、一発でボコって倒しちゃってさ(笑)、それが『You Tube』で流れちゃったんだよね。でも、ああいうのはほっといてあげるのも手なんだよ。あれはあれで楽しくやってるんだから。

――そう考えると、なんだかつまらない時代になりましたねえ。

大槻 なんかみんなマジメじゃない。ブロック・レスナーがUFCチャンピオンになって「オレはスポンサーじゃないビールも飲むぜ!」って言ったら、メディアが「彼はこの競技の代表とはなりえぬ人だ!」とか怒ってたりとかね。もう芸人で言う「マジメか!」ってヤツですよ。レスナーへこんだよ、あれ。ボケたのに。

――ダハハハハ! いいじゃないですかね、それくらいの暴言。

大槻 だから、もうプロレスや東洋神秘武術を含む怪しげサイドからは崩しようがないよ。アウトサイダーがちょっと風穴を開けた感があるけど、結局あれで強くなった人は総合のほうにいくわけだからね。じゃ、どうすればいいかと言うと、オレは思うんだけどさ、昔、前田日明が大仁田厚の電流爆破を批判したときに「プロレスじゃなくて、あれは底抜け脱線ゲームやないけ!」って言ったんだけど、オレはもうプロレスなんかは「底抜け脱線ゲーム」でいけばいいんじゃないかと思うんですよ!

――どういうことでしょう?

大槻 かつて龍飛雲という酔拳の先生が栃木で中国拳法の大会を開いてたんですけど、その大会というのは実戦性を重視するがゆえに、目隠しをして闘ったらどうなるかとか、橋の上で闘ったらどうなるかとか、見物人がいるところで闘ったらどうなるかとか、いろんなシチュエーションでの闘いをやってたんですよね。

――あ、龍先生の目隠し戦映像はホントに凄いですよね(笑)。

大槻 龍飛雲は栃木に酔拳を根づかせたんだからね! つまり、こういうふうに最強の捉え方をうまくずらせばいいと思うんですよ。

――「最強をずらす」ですか。

大槻 そう。だからプロレスは最強の概念をずらせばいいの。だって、ガチの技術で最強論を突き詰めていったら、やっぱりヒョードルとかが強くなっちゃうわけじゃない。つまんないよ、あたりまえで。だからそこで最強の意味をずらすんだ。たとえば、確かにオクタゴンでは負けるけど、山の中でやったらオレが勝つよ、と。つまり、寺門ジモン理論はあながち間違ってないってことだよね!

――寺門ジモンさんは正しい(笑)。

大槻 ジモンさんを「正しいよ」って言うのもどうなんだろうって思うんだけど(笑)。あとは、リングの上では負けるけど、古式泳法ができる人は「水の中なら負けないよ」とかね。水の中だったら水球やってた吉川晃司が凄く強いと思うよ!

――吉川晃司も正しい(笑)。

大槻 吉川さんは水の中だったら秋山(成熟)とかを沈めて殺すことができるよ! あと、酒飲んで闘ってもいいですよ。それだったら酒の強いヤツが勝つから、どんだけ相手が強くても下戸だったら勝つわけだしさ。そうやってずらしていけばプロレス復権も夢じゃないですよ。たとえば大日本プロレスの選手とかが出るんだったら蛍光灯を持っていってもいいわけだしね。

ハシゴを用意してるあいだにうしろからチョークとかもありえますけど。

大槻 一瞬でね。悲しいなあ。まあ、最強の定義なんて誰も決められないんだからさ。ノールールという話でも、結局ルールはあるわけだから。だって、ノールールだったら武器持ってきていいのかって話でしょ?

――フェアじゃないと、勝敗は決められないというのはありますよね

大槻 で、武器OKなんだったら、これはもう『月刊秘伝』を読んでくださいよ!

――大槻さんは『月刊秘伝』を熟読しすぎです。

大槻 (無視して)たとえばね、黒ずきんを被った手裏剣の達人が表紙の回があったんですよ。これは何かというと、手裏剣術というのはいろいろあって、いまインディーズ手裏剣というのがあるんですね。

――イ、インディーズ手裏剣?

大槻 これはオレが勝手に名づけたんだけどね。その人は手裏剣に魅せられて自分なりに手裏剣をやって自分の手裏剣特訓活動とかネットで流してる人なんだけどさ。

世の中にはいろんな人がいますね(笑)。

大槻 その人の話だと、手裏剣ってある程度の距離があればなんにでも刺さるという話なんですよ。だから、武器を使えるんだったら手裏剣はいいですよ!

――武器に手裏剣を選ぶ人もどうかと思いますけど。

大槻 つまりプロレスも悲観することないんですよ。このあいだしゃべったプロレス団体の『玉砕』も同じですよ!

――あ、また『玉砕』の話ですか。

大槻 何言ってんの! もう、オレの中には『玉砕』あることになってるんだから。みんな入れてやるよ。『玉砕』だって戦法をずらせばいいんだよ。なにもリングでやることないんだよ。ホイス・グレイシーだって最初にグレイシー柔術が「これなら勝てるだろう」というルールを決めてやってたわけだから。『玉砕』は『玉砕』のルールでやる!

確かに相手の懐に飛び込む必要はないですよね。そう考えると、プロレスラーは無防備に総合のリングに上がりすぎてましたよね。

大槻 そうそう。だって、猪木さんの時代は逆だったもんね。ウィリエム・ルスカとかモハメド・アリをプロレスのリングに呼んでたわけだから。逆に、だからこそいまのプロレスラーは相手の戦術に引っかかるんですよ。そういう意味では新間(寿)さんは偉かったよね。

――リング上の闘いだけじゃなくて、どう闘うかを決める段階から闘いは始まっているんですね。

大槻 そもそも猪木が出てきたのだって最強論のずらしだからね。その最強論をずらしたのがまたUWFですよ。そこからまたパンクラスが生まれたりしていまの格闘技になってるわけだから、『玉砕』はやってやりますよ!

――というわけで、『玉砕』を知りたい方は前号の本誌、インディーズ手裏剣を知りたい方は『秘伝』をどうぞ(笑)。

【09年7月30日 都内・某所にて収録】

グレイシー幻想が膨れ上がった90年代初頭、やはりオーケンの言うようにグレイシー一族が有利なルールを要求してくることが目立った なるほど、闘いはルール交渉の段階から始まっているのだ

21世紀の最強幻想

武道における「最強」とは何か？

目突き金的を究(きわ)めることで骨法は真の武道に到達した！

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

おなじみ堀辺師範の格闘技・武道時事評論。
今回は「武道における最強とは何か？」というテーマで語ってもらった。
さらに真の武道を追求し、とことん実戦にこだわる骨法の姿もあきらかになった！

聞き手／堀江ガンツ

武道における最強とは絶対的な強さではなく相対的な強さなんですよ

―先生！　今月の『kamipro』は「最強」がテーマなんですよ。

堀辺　（ターザン）山本さんの連載が唯一残ってる雑誌の話ですか？　それは『競馬最強の法則』です！　まったく関係ないですよ！（笑）。

堀辺　あ、そうですか（笑）。

―ターザンのことは忘れて、今日は武道における「最強」についてうかがいたいんですよ。

堀辺　なるほど、わかりました。まず、武道の原点っていうのは、きわめて単純なんですよ。要するに相手の命を獲るか、獲られるかっていう殺し合いが原点ですね。

―では、その中で生き残った人間が「最強」ですか。

堀辺　そうなりますね。そして、勝つためなら何をやってもいいのが合戦の場、戦場なんですよ。裏山から軍を率いてもいいし、夜中に兵を挙げてもいいし。時間も場所も手段も自由。だから戦場というのは怖いわけです。

―何が起こるかわからない、というわけですね。

堀辺　その何が起こるかわからない状況に身を置くことが、武の原点なんです。

―ホントの意味で、ノールール、なんでもアリなのが武道である、と。

堀辺　だから、いまの総合格闘技というのは、きちんとしたルールが決まっていますよね。そうなると、総合格闘技といえども、その精神状態はボクシングやレスリングといった、ルールが限定された格闘技と精神状態が変わらなくなってくる。なんでかっていうと、ルールを見ればどういうことが起きうるかっていうことが闘う前にほとんど想定できるわけです。

―何が起こるかわからない恐怖というのがないわけですね。

堀辺　ところが、"実際の闘い"になった場合、たとえば路上で肩がぶつかって因縁をつけられたとか、自宅に強盗が押し入ったという場合、その状況に放り込まれた人は、何が起こるかわからないという恐怖感にかられる。

―相手が何をしてくるか、それこそわかりませんね。

堀辺　刃物を持っているかもしれないし、ひょっとしたらピストルを出すかもしれない。しかも、それは突然起こるわけですから、パニック状態になるわけです。実戦というのは、そこが一番の違いなんです。

―これを総合格闘技に置き換えると、何をしてくるかわからない選手っていうのは、相手にとって怖いわけですね。

堀辺　そういうことです。また、総合格闘技というのは、選択肢の幅が広いだけに、相手が思いもよらない技を仕掛ける余地があるんですよね。だから、いま総合格闘技の中でとくに強い選手、人気が出る選手っていうのは、観ている人が「おっ！」と驚くような技を出す。同時に対戦相手にとっては「こんなの初めて！」っていうような攻撃なり防御なりが繰り出せるかどうかってことなんです。

シャオリン戦でまさかのスタンド勝負に出て賛否両論を呼んだ青木真也。しかし、武道ではこの相手の裏をかくという闘いは重要な意味を持つという　また、何が飛び出すかわからない菊野克紀もまた、相手に精神的なプレッシャーを与えることに成功している

―日本でいうと、青木真也選手が見たことない寝技を出してきたりしますね。

堀辺　あれも、相手にとっては怖いし、観客にとってはおもしろいんですよ。

―あと、この前DREAMに初登場した菊野克紀という選手も独特です。

堀辺　三日月蹴りを出す選手ですね。彼なんかもおもしろいですね。キックボクシングやムエタイにない蹴りを、独自のタイミングで出す。まだ、どうやって防御したらいいか、相手がわからない。いつそれが飛び出すかもわからない。だから、彼はいま誰とやってもおもしろいと思う。何が起こるかわからないから。

―確かにそうですよね。

堀辺　ところが、その一方で、総合のセオリーがこれだけ成熟してくると、それだけを学ぶ選手も多いんですよ。そういう選手は、ある程度強くても、緊張感がないし、新鮮さがない。勝負を決さなければならないリングで、シミュレーションとしての訓練を観客の前でやってるような感じなんです。

―なるほど。

堀辺　その常識、セオリーをいかにして破るか、というところに武の原点があるわけです。だから武というのは、相手の予想もつかない奇想天外なものをいかに闘いの中に織り込んでいくかっていうことが、勝利の重要な秘訣なんです。

―このあいだ、寝技師である青木真也が、ブラジルのシャオリン相手に蹴りだけで勝負して賛否両論ありましたが、あれなんかも意表をついてるわけですよね。

堀辺　武道では、あれでいいわけです。武術というのは、オールマイティじゃなくていいんですよ。つまり「最強」とは絶対的な強さではなく、相対的な強さなんです。わかりますか？

―必ずしも正攻法ですべての相手を上回らなくてもいい、ということですよね？

堀辺　そうです。だから総合格闘技の「最強」として、いま真っ先に頭に浮かぶのはヒョードルだと思いますけど、ヒョードルってこれまでの試合を全部観たら、あんまり共通点ってないはずなんです。

―そういえば、相手によって闘い方が違いますね。

堀辺　じつは、それが「武」なんですよ。相手の弱点がどこにあって、どう攻めたら自分は勝てるのか、そこをどれだけ見抜けるか、ということなんです。その一番重要な"鍵"をヒョードルは必ず握ってリングに上がっている。だからヒョードルは強いし、その意味で、彼は武道家なんです。

―ミルコとやったとき、まさか打撃で勝負するとは思いませんでしたよね。

堀辺　観客も思ってないし、ミルコも思ってなかったと思う。でも、ヒョードルは出入りのスピードが自分のほうが速いのを見抜いていた。総合の選手は、打撃の専門家より、相手の懐に入るスピードって速いんですよね。

―総合格闘家がK-1ルールで勝つときって、懐に入ってパンチを叩き込んで勝ってますよね。

堀辺　それをヒョードルはミルコ相手にやったんですよ。だから、わかり

目突きと金的を究めれば、刃物を持った相手を一発で悶絶させられる

ヨルダン王国からの要請により、国王護衛の近衛兵に短刀の使い方、よけ方、さらには金的へナイフを突き刺す技術(!)などを始動した堀辺師範　日本の「武」という軍事は、いま骨法によって輸出されようとしているのだ

目突き金的を極めることで
骨法は真の武道に到達した!

やすく言うと、武道家は戦略を持ってるんですけど、格闘家は戦術だけなんです。そしてヒョードルは戦略と戦術の両方を持っている。だから「最強」なんですよ。

――なるほど!

堀辺　あと、武の原風景として欠かせないのは、そこに存亡が懸かってるわけですよ、命が懸かってるんです。命って一回獲られたらもうありませんよね? だから、格闘技であろうとも、そのイマジネーションがない選手は武とは言えないんです。

「次また頑張ります」じゃダメなわけですね。

堀辺　次に頑張るのはいいことなんですけど、「本来だったら自分はここで殺されていた」というイメージを抱けるかどうかが、問われてるんです。

――要は自分の中で、負けを認めることができるかどうか。

堀辺　そういうことですね。たとえばパンチで倒されたあと、グラウンドのパウンドをもらってる選手が、レフェリーストップになりますよね。あれはレフェリーが割って入ったから殺されずにすんでるんですよ。そこで、「俺は本当の闘いだったら殺されていた」というぐらいの反省をすることができるかどうか。武道家と格闘家の一番の違いはそこなんです。で、そこまで考えてリングに上がるならば、安易には闘えないんですよ。決められたルールの中で、許されるかぎりギリギリの作戦を練り、普段から訓練するわけですね。

――そして骨法はいま、それをやろうとしているわけですよね?

堀辺　そうですね。真の武道を追求するとそうなるんですよ。ご存知のように私は、バーリ・トゥードを初めて観たとき「あ、これは武道という世界の一端が出てきたな」と思ったんですね。そして、まずそれに対応できる骨法を作ろうというところから入って、その後、武の原点ってものをますます追及するようになっていき、「日本の武道を復興したい」というところまできたんです。

――本来の意味の「武道」ですよね。

堀辺　それで私のところで到達したのは、相手の攻撃をいかにして無効にするか、ということなんです。たとえばボクシングのジャブというパンチがありますよね　あれは一発、二発もらったところで、顔は腫れるけれども、どうってことないでしょ?

――相当当たりどころが悪くなければKOはされませんよね。

堀辺　ところが、それがグローブをした拳じゃなくて、刃物だったらどうですか。一発で致命傷でしょ?

――顔面にナイフが突き刺さるわけですからね(笑)

堀辺　それが実戦なんですよ。でも、普段からグローブを着けた拳で稽古してたら、一発ジャブを入れられて「殺された」とは思えないんですよね。

――そこまでのイマジネーションはさすがに働かないでしょうね。

堀辺　だからいま骨法では、第一段階として、まず両者ともに刃物を持って、刃物対刃物でやるわけです、

――刃物対刃物!(笑)。

堀辺　なぜなら、刃物を持っていたら首をちょっと切られただけで、動脈が切れたら血が噴き出して終わりです。手首の動脈をパッと切られても、血がビャーッて1メートルぐらい吹き飛んで死亡間違いなし。だから、たとえ一回刺すだけであっても、敵の攻撃が一度でも届いたら刃物の場合はもう終わりなんです。一回ぐらい殴られてもいいとか、一回タックルされてもいいという発想では、刃物を持った闘いでは通用しないんです。

その刃物って、本物を使ってるわけじゃないですよね?

堀辺　もちろん模擬刀です。

安心しました(笑)。

堀辺　でも、模擬刀であっても、刃物対刃物で訓練すると、ひと太刀されたとき「殺された」というイマジネーションができるんです。だから、命が危険にさらされる緊張感の中で、絶対に相手の攻撃はもらわないで、自分の攻撃だけを相手に届けようということが、リアルにわかってくるわけです。

生死のイマジネーションができるからこそ、緊張感のある訓練ができる、と。

堀辺　侍がなぜ、そういう鍛錬ができたかというと、やはりイマジネーションができたからなんですね。剣術の訓練では、もちろん竹刀が使われるわけですけど、侍は普段から刀を差してるでしょ。だから竹刀であっても、先に一本入れられたら「殺された」という意識が持てたんです。それが、いまの剣道家との違いですよ。

竹刀、防具ありきとの違い。

堀辺　だって真剣だったら、小手を軽くやられただけで手首から先が吹っ飛んでるんだから。そういうイマジネーションができる訓練が、いまの剣

道では失なわれてしまったけれど、
ーグル、股間にファールカップを着
て実証できないんですよ。でも古流
同じで、骨法は目突きと金的の技術
「命を人事にしましょう」とか、

道では失なわれてしまったけれど、それを復活させせないことには、武道の復活はないんですよね。でも、現代社会で毎日刃物を持って歩いていたら、これは尋問されちゃいますよね。

——完全に銃刀法違反ですね(笑)。

堀辺 でも、いつ刃物で襲われても対処できなければ武道とはいえない。だから骨法では、刃物対刃物で得た感覚を元に、今度は素手で刃物に立ち向かえる訓練をするんですよ

——今度は刃物対素手ですか!

堀辺 刃物対刃物を相刃(あいば)、刃物対素手を刃向かい(はむかい)と呼んでるんですけどね。この刃物対素手って難しいと思うでしょうけど、相刃という過程を踏んでいれば素手でも闘えるんです。なぜかというと骨法の打撃目標っていうのは刃物と同じ効力を発揮するところしか狙わないんです。つまり目と金的だけ。

——目と金的だけですか!(笑)。

堀辺 相手は刃物を持ってるわけですから、顔を3発4発殴ろうが、蹴りを叩き込もうが、そのあいだに刃物でひと突きされたら終わりなんです。でも、目突きと金的は、刃物と同じく相手を一発で戦闘不能にできるんですよ。

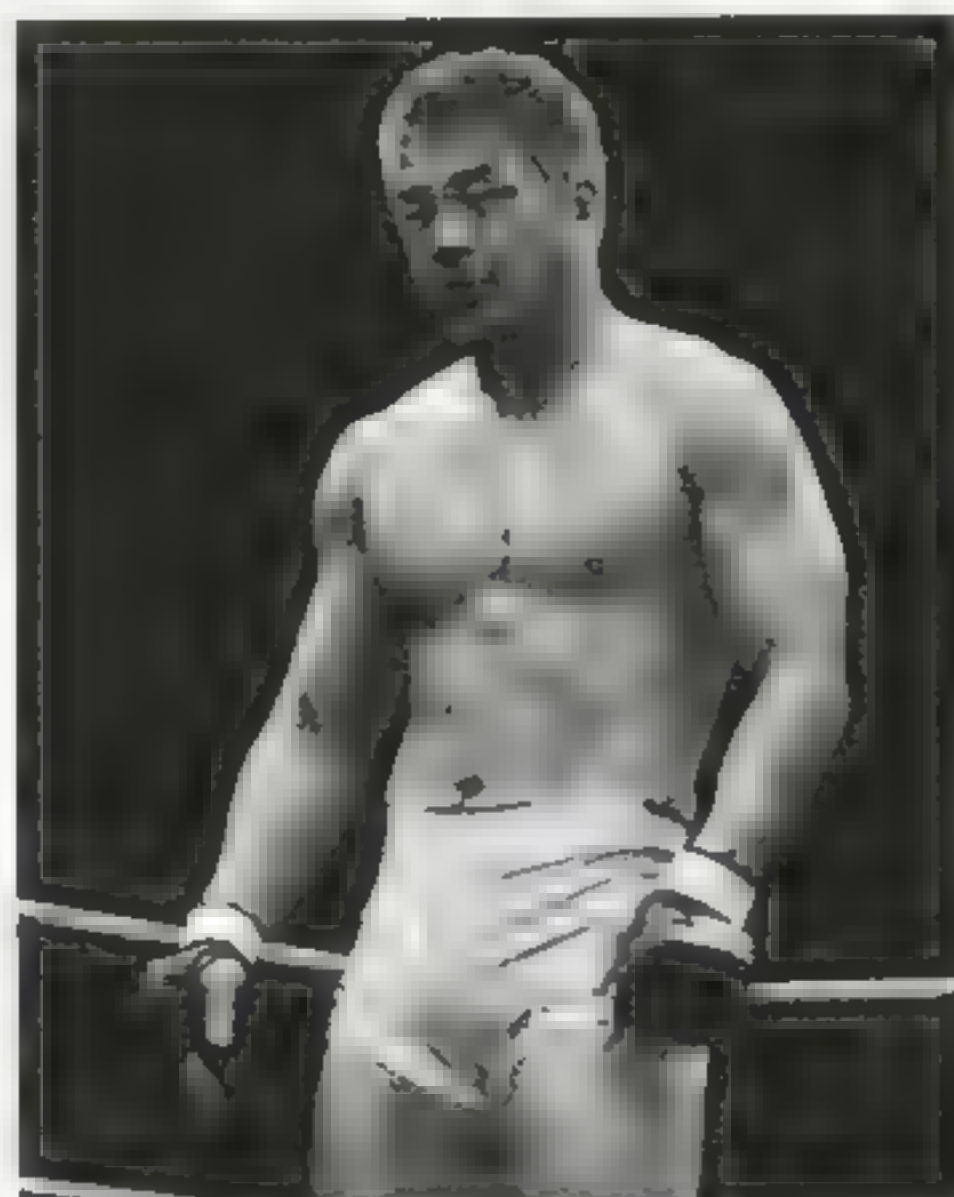
——確かにモロに入れば、どんな屈強な男でも悶絶しますね。

堀辺 だから命のやり取りということだけを考えると、それが一番有効なんですよ。だから、骨法では目にゴーグル、股間にファールカップを着けて、目突きと金的の鍛錬を徹底的にやる。そしてこれがうまくなると、刃物にも勝てちゃうんです。

——相手の刃物に一度も刺されず、目突き、金的ができるようになるわけですか。

堀辺 ちゃんと短刀で斬られない、突かせないっていう状況を作っておいて、わずかな角度から目とか金的をピシャッと取れるようになる。ゴーグルとかファールカップを着けてなかったら完全に命を奪える状態を作り出すことができるんです。そういうものを骨法はやってる。

——もはや格闘技を超えてますね……。

堀辺 もう次元が違うところにいっちゃってるんですよね。古流柔術の中には、型の中で目潰しや金的を入れているところもあるんですけど、所詮約束稽古ですから、本当に入るだけの能力が身についたかどうかって実証できないんですよ。でも古流と違って骨法の場合は試合制度があるわけですね。短刀対短刀、短刀対日本刀、短刀対素手っていうようなね。だから実際に自分がやられてしまうのか、やられないのかっていうことを体感することができるわけです。

目突きを金的を究めて真の武道を完成させた堀辺師範に対し、写真右は目突きとカンチョーを究めて、ひょうきんプロレスを完成させたドン荒川。また写真左は金的被弾率日本一を誇る(?)窪田幸生。試合では金的を蹴られると回復を待ってくれるが、実戦では死を意味するのだ

こういう訓練は、おそらくいま世界中の格闘技でも、誰もやってないことでしょうね。

——やってないでしょうね。刃物と目潰しと金的に特化した武道ですからね。

堀辺 でもね、ボクシングってパンチに特化したから、パンチ技術が凄く発達したじゃないですか。それと同じで、骨法は目突きと金的の技術がもの凄く発達してるんですよ(笑)。ハッキリ言って、目玉と金玉を突かせたら世界一です(キッパリ)。

——世にも恐ろしい世界一ですね(笑)。

堀辺 こういう情報を、このあいだヨルダン王国がどこからか聞きつけて、王様を守る近衛兵が習いにきたんですけど、今度はアジア某国の特殊部隊からも打診がありましてね。

——今度はアジアですか。

堀辺 やっぱり実戦性が評価されているんでしょう。だからいまの骨法はスポーツ格闘技からは離れて、真の武道が真の軍事になったということです。これは日本という空間においてはちょっと理解されないんですね。でも本当に世の中が危険になってきて、自分が絶対に暴力を避けたいっていうような人にとっては最高のものだと思います。これだけは自信を持っていえます。

——確かに命を狙われるシチュエーションになったとき、いまの骨法を身につけていたら、生き延びることができそうですよね。

堀辺 私はそれだけに絞り込み特化しましたから。そうすることによって骨法の存在ってものがほかのものとはまったく違った独自なものとして確立できると同時に、伝統的な武道のすべての価値観をその中に封印することができるので、かつての武士のような人格をこの日本の中にもたらすことができる。一つの日本人を復活させるという意味も含めた壮大な教育体系としてこの武道というものを私は提供してる。

——「命を大事にしましょう」とか、いくら口で言っても、その命の儚さがわからないことには、大事にする実感もないわけですよね。

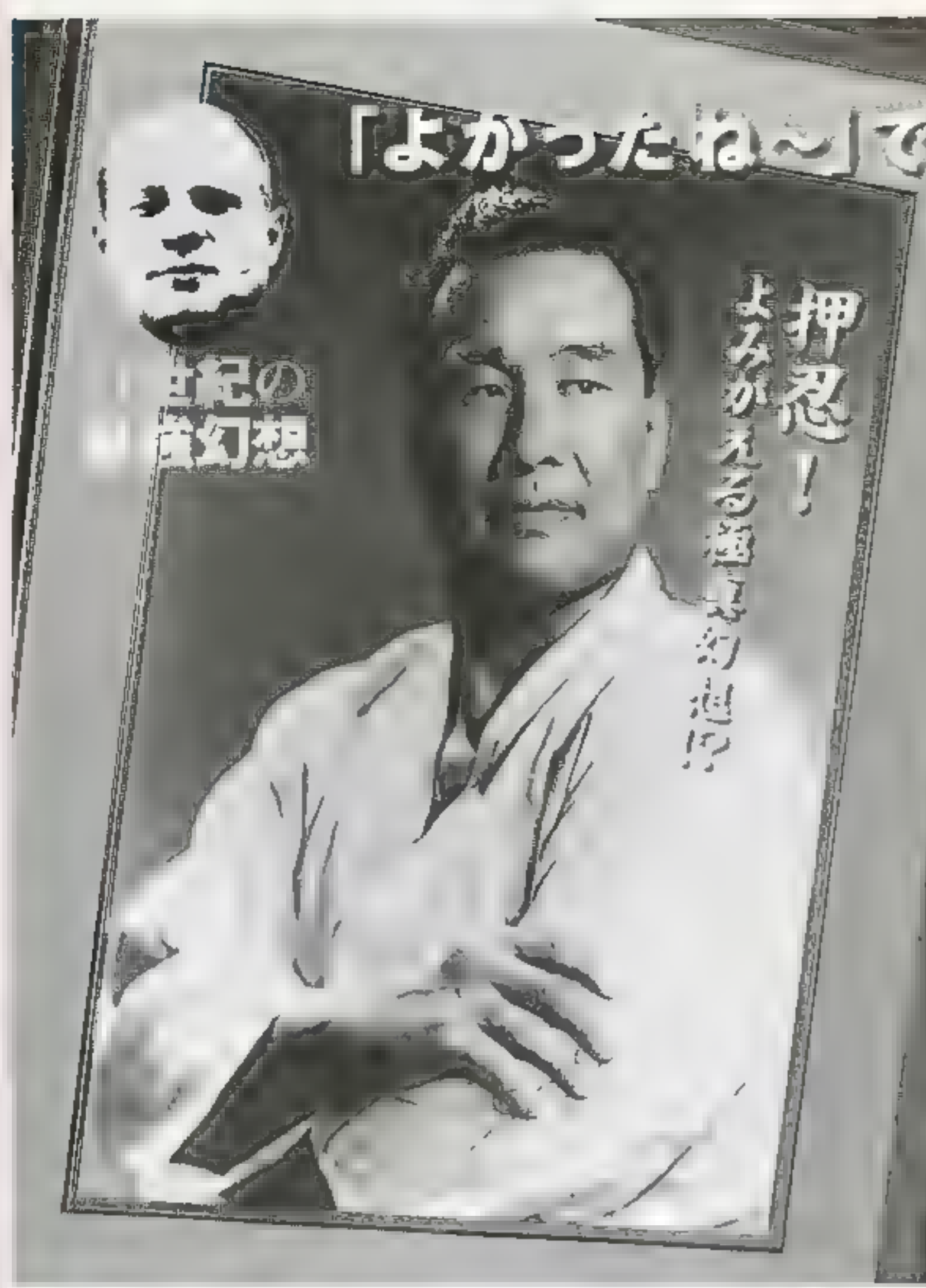
堀辺 本当の意味でわからないんですね。だから武道というのは非常に逆説的なんですよ。一見、命を軽んじてるように見えるんだけども、生々しい死を想定した闘いをいつも訓練することによって、日常の中でついつい忘れがちな死というものを、一時たりとも忘れない人間に変質していくわけですね。

——「死」を意識することで、日常の「生」を感じる、と

堀辺 そうなんです。「俺は明日死ぬこともある」と思っていれば、自分の愛する妻や子どもに対する目線も違ってくるんじゃないですか。一日一日が貴重で輝いてくるんですよ。そういう人間をこの武道というものを通して輩出するというかたちで、真の日本人を作る。侍スピリットを持った人間を再生させようと思ってます。

——冒頭がターザン山本ネタだったとは思えない、素晴らしい締めとなったところでお開きにしたいと思います(笑)。ありがとうございました。

【09年8月3日 都内・骨法武術館にて収録】

ほりべ・せいし■1941年、茨城県出身。50年にわたる命懸けの求道の末、喧嘩芸骨法、koppoを創始。最近はヨルダン国王護衛の近衛兵団にも武道を指導するなど、多方面で活躍中。格闘技・武道評論の第一人者でもある

「よかったね～」でおなじみの獏さんがしみじみと語る！

最強ロマンとは何か？

小説家 夢枕獏

**格闘小説家の第一人者であり、いつ何時も“現場主義”を貫く
ロマン派格闘技ファンの獏さんが“最強”について大放談！
含蓄とユーモアあふれる“獏さん節”に酔いしれろ！　チェスト～!!**

聞き手／鈴木佑　試合写真／乾晋也

――獏さん！　今日は“最強”についてお話を聞かせてください！

獏　最強かぁ……これはファンタジーの世界だからねぇ。そもそも俺たちはさ、アントニオ猪木がとんがってた時代から、ずっといままで「最強とは何か？」っていうロマンを追い続けてきてるわけだよね。まぁ、俺たちって言っても誰が俺たちなのかはわからないんだけど（笑）。

――獏さんのような筋金入りのロマン派格闘技ファンですね（笑）。

獏　そうそう（笑）。猪木が異種格闘技戦と呼んでいたもので、世界で誰が一番強いのかを知ろうとした。でも、猪木のやってたことは基本的にはファンタジーだったんだよね。

――そして時を経て、実際にUFCという“なんでもアリ”ルールで、さまざまなジャンルの格闘家が実力を測定する場所が誕生しました。ある意味でファンタジーだった世界が実現したわけですけど、その成り立ちはどうご覧になってました？

獏　最初はああいう場所が目の前にあるということが信じられなかったね。だって禁止だったのは噛みつきと目潰しだけだったんだから。金的OKの場所に生身の人間が出て行くことが衝撃的だった。俺は最強を知りたいといっても殺し合いが観たいわけではなかったし……でも観ちゃうんだよねぇ（笑）。

――観ずにはいられなかった、と（笑）。

獏　だけど、知り合いが出場したときにはどう心の折り合いをつけていいかわからなかったよ。まぁ、当時はホリオン（・グレイシー）もUFCからいまのようにMMAという競技が確立して、広く認知されていくとは思ってなかっただろうね。

――獏さんがUFC以前に最強幻想を抱いていたジャンルというと？

獏　時代時代で違うんだけど、俺は“ジャンル”というよりは“人”で観てたかなぁ。それこそプロレスを真剣勝負だとは思ってなかったけど、「猪木こそ最強だ！」って思った時期もあったしね。だけどそれは証明されないといけない。でも、猪木はそれを証明できなかったんだよね。

――なるほど。

獏　あとは最強とはまだ証明がなされてなかったけど、やっぱり極真空手には幻想があったね。ずっと格闘技を見続けてる身からすると、『空手バカ一代』っていうのは切っても切り離せないんだよ（笑）。

――梶原一騎の極真最強のプロパガンダは凄まじかったですもんね（笑）。

獏　実際にはそれらのエピソードはほとんどが事実ではなかった。だけど、もしかしたら極真は一番強い人を作ることができるシステムかもしれないというのはあったね。あのさ、一つ思うのは最強っていうのはリアルファイトでも証明できないんだよ、絶対に。

――と、言いますと？

獏　証明できるのは、あるとき、あるルールで闘ったときに、その瞬間どっちが強いかということだけなんだよね。それがすぐに最強につながるかというと、それはわからないとしか言いようがないよ。だから、今回ヒョードルとジョシュが流れたけど、あれが最強を決めるものだとは思えないしね。ただ、最強証明という無限の階段のステップの一つではあると思うよ。

――ヒョードルが勝ってもジョシュよりも強かったという結果でしかない、と。

獏　難しいよ、何をもって最強なのかを定義することは。俺はそれを小説でやろうとしてるんだけど、本当に難しい。だから最強というのは常に問われ続けていく“未踏峰の山”みたいなものだよね。永遠に登れない山なんだよ。

――でも、やる側にしろ観る側にしろ、常に最強を追い求めてしまうというか。

獏　そうそう、そこなんだよ、問題は（笑）。まぁ、いろんな試合を観るときに、これは最強を決める広い意味でのトーナメントの一つだっていう自覚を持って楽しむことに、格闘技の醍醐味はあると思うしね。しかし、Uオタクだった俺みたいな人間にとっては、船木vs桜庭みたいな例外もあるんだけど（笑）。

――最強とは別のところでロマンを感じる試合ですね。

獏　でも基本的には、最強に向かうステップに立ってる選手の試合がおもしろいよねぇ。たとえば、俺は青木真也の試合なんかはそういう感じで観てるよ。彼の試合は、あのクラスで最強を決める永遠の道の途中にある闘いっていう気はするね。

――これまでに最強と呼ばれた格闘家はいろいろいましたが、獏さんが真っ先に思い浮かぶのは？

獏　俺はやっぱり大山総裁かなぁ～（しみじみと）。それはしょうがないっていうか、どっちみち最強がファ

ンタジーであるならば、それは大山総裁でいいんだよ（笑）。

ーーそれは非常に説得力のあるお言葉です（笑）。

獏　でも、大山総裁の強さだって半端じゃなかったみたいだよ。噂によると、亡くなる半年くらい前に大山総裁はストリートファイトをやってるらしいからね。

ーーえぇ〜〜！　その頃の総裁なら70歳とかですよね。

獏　凄いよねぇ〜。ゴッドハンドでボコボコだよ（笑）。

ーーゴッドハンド！（笑）。

獏　しかも大山総裁はたった一人だったっていうんだから。大山総裁のエピソードの中でも、俺はその話が一番好きだねぇ〜（しみじみと）。それに大山総裁は、山口組随一の武闘派集団柳川組のトップである柳川次郎の義兄弟だったって言われてるんだよ？　真樹日佐夫さんの本によれば、極真の最高相談役だったんだから。こんな凄い人はいませんよ（笑）。

ーーいまの格闘家じゃ考えられないですね（笑）。

獏　俺はある格闘家が銀座で、その筋の人たちに一生懸命お酌をしながら試合に負けた言い訳をしてたっていうのを聞いたこともあるけど、やっぱりそういう話を耳にすると大山総裁は本当に凄かったんだなって思うよ（笑）。

最強がファンタジーであるならば、それは大山総裁でいいんだよ（笑）

ーーケタが違いますね（笑）。では、いまリアルタイムで活躍してる格闘家で最強の称号にふさわしいと思うのは？

獏　それはもう現実的にはヒョードルかレスナーって話じゃないの？　でも単純な強さだけを抜きにすると、俺が現代の格闘家で一番凄いと思うのは魔裟斗なんだよね。

ーーなるほど。K−1 MAXで世界1位になった日本人ですしね。

獏　うん。去年、佐藤嘉洋に負けるかもしれないという状況から挽回して優勝したでしょ？　ダウンを取られても気持ちが途切れないっていうのは稽古の賜物だよね。魔裟斗は自分を追い詰めに追い詰めた結果としていまの場所に立ってる。そういうのを考えるとリング上だけじゃなく、人間のトータルな意味での最強は魔裟斗だと思うね。たとえば、レスナーって誘惑には負けそうじゃない？

ーーダハハハハ！

獏　「減量中だけどちょっと今日はハンバーグ食べようかな」って。アイツは食う人間だと思うよ、俺は（笑）。

ーー食いますか（笑）。

獏　でも、魔裟斗は食わない！（キッパリ）。

ーー食いませんか！（笑）。

獏　なんかさ、レスナーだったら俺でも勝負できるみたいな感じがあるんだよ。

ーーへ？　ど、どういうことですか？

獏　つまり、ケンカじゃなくて俺の本業で勝負してやろうっていうか、「レスナーがくぐったくらいの修羅場なら俺もくぐってるぜ」みたいなさ。たとえば、せこい比較でいうと、俺は4日間徹夜で原稿書いたとかね（笑）。

ーーストイック勝負だったら負けない、と（笑）。

格闘技の見巧者である獏さんをして、「俺はあんなタイプは初めて見たよ」と言わしめた魔裟斗。"ミスター・ストイック"とは決してコヒのことではないのだ　この男、最強のまま引退するっていうんだから、かっこいいにもほどがある！

獏　うん（笑）。俺は自分を仕事に関してはかなりストイックな人間だと思うんだけど、それでも魔裟斗には勝てないね。あとは加藤清尚くんも凄いと思うなぁ。

ーー大道塾の選手ですね。

獏　彼は他流試合でキックの選手と闘ったときに、凄くいい試合をしたけど負けたんだよね。でも、そこからキックボクシングに転向して、さらにラスベガスに行って向こうで世界王者になっちゃったんだからさぁ。

ーー自分に落とし前をつけたというか。

獏　でも加藤くんは現地で交通事故に遭って、左脚を鎖骨粉砕骨折しちゃうんだよね。そのとき、本人は意識がないから日本に「助けるために脚を切っていいか？　じゃないと死んでしまうかもしれない」って連絡があってね。

それは格闘家としては致命傷どころじゃないですよね。

獏　で、そのときに大道塾の東孝師範は「死んでもいいから脚をくっつけてくれ。こいつには空手しかない。脚がなくなったら死んだも同然だから」って言ったんだよ。

ーー……。

獏　結局手術は成功するんだけど、加藤くんは脚をくっつけたことでヒザと足首のあいだの骨が10センチも短くなるんだよね。でも、彼はイリザロフっていう医療器具を使って必死にリハビリして、脚を元の長さに伸ばしたんだよ！　それからまた空手に復帰して試合に出るんだよ　あの不屈の闘志は凄いよねぇ〜（心の底からしみじみと）。俺はね、自分がつらいとき、彼のことを思うと頑張れるんだよ。

ーーとても常人では考えられない精神力ですねぇ〜

獏　あるとき加藤くんが俺に「自分はおかしいと思います　24時間、空手のことを考えることができるんです」って言うんだよ。確かに彼は話をしてても「あ、すいません、時間ですから」って言って、急に走りに行ったりするんだよね（笑）。で、戻ってきて、押忍！　100メートルダッシュを何本かやってきました」って言って普通にお茶を飲むんだよ（笑）。

ーーダハハハハ！

獏　一緒に焼肉を食べてるときに「いま何考えてるの？」って聞いたら、「上腕二頭筋が足らないので、ここの肉になれって思いながら食べてます」って答えたこともあった（笑）。

ーートレーニング中ならまだしも食事中に（笑）。

獏　さらに「寝てるときは？」って聞くと、即座に「空手の夢を見ます」って言うんだから（笑）。本当に24時間なんだよ。だから俺が知りうる中で、自分の内部に最強を追い求め続けてる格闘家といえば加藤くんだね。

ーー納得のいく話ですね。しかし、最強っていうのは見果てぬ夢といいますか。

獏　そうだねぇ。それは小説でいうならば、絶対に書いてはいけない結末のような気がするね。あのね、俺が一番好きな小説のスタイルって終わりのない小説なんだよ。おもしろくて「次はどうなるんだろ？」の連続で最後まで終わらない。

ーーまさに獏さんの作品じゃないですか（笑）。

獏　いやいや、俺は終えるつもりで書いてるよ（笑）。まぁ、最強なんてものは結局はないと思うし、またあっちゃいけないと思う。永遠に存在しないからこそ、我々もずっと格闘技を見続けるしかないんだよね。

【09年8月4日／都内・六本木ヒルズにて収録】

ゆめまくら・ばく■1951年1月1日、神奈川県出身。小説家。77年デビュー以来、キマイラ吼、陰陽師シリーズなど話題作を発表。格闘技をテーマにして「餓狼伝」を20年にわたり執筆するなど格闘技への造詣は広くて深い。

最強の沖縄空手家
"隠れ武士"は実在した!

沖縄孝武流空手道古武道孝武会宗家会長 範士九段

金城 孝

LYOTOや菊野克紀の活躍により、いま再び注目を集めつつある空手。その空手のルーツといえば、沖縄空手が思い浮かぶが、現在、沖縄空手の真の達人というのは実在するのだろうか? そんな思いの中、沖縄空手に詳しい人物にアクセスすると、その"達人"を知っているという。幻想に包まれた沖縄空手の真の姿を見よ!

取材&撮影/黒田史夫　構成/堀江ガンツ

きんじょう・たかし■那覇市出身。上地流空手を糸数盛喜に、古武道を又吉真豊に学ぶ。以降50年以上にわたり空手・古武道の修行を続ける。沖縄孝武流空手道古武道孝武会宗家会長。範士九段。
道場連絡先　沖縄県那覇市三原1-7-13　電話098-835-0241

21世紀の最強幻想

いまでも朝から晩まで稽古してる
伝統を重んじるだけでは衰退するよ

「沖縄には九段、十段の有名な空手の先生はいっぱいいるけどね。そういった先生たちは、人格者かもしれないけど、実力はどうなのかな？」

LYOTO、菊野克紀らの活躍により、〝最強幻想〟が再燃してきた感がある空手。そこで本誌は「最強」特集を組むにあたって、すべての空手のルーツともいえる沖縄空手の達人に会うべく、沖縄空手に詳しい人物に紹介をお願いした。

しかし、返ってきた答えは、冒頭のようなつれないもの。やはり、沖縄空手とはすでに幻想にすぎないのか……。ところが話を進めていくと、紹介者は驚くべき人物のことを話し始めた。

「最近は少なくなったけど、沖縄には〝隠れ武士〟というのがいてね。喧伝したりせずに、ひたすら空手の修行を続ける実力者のことなんだけど。こういう人は会うのが難しいから、取材はできるかな……」

〝隠れ武士〟！　なんと幻想高まる呼び名であろうか。今回の企画にまさに打ってつけの存在である。

「正直言って、自分が知っている範囲で本当に凄い空手家は金城先生だけ。この先生は〝空手バカ〟でね、実力は間違いなくあるんだけど、世渡りが下手。もっとうまく生きていれば有名になってたんだろうけど、興味ないんだろうね。取材を受けてくれるかわからないけど、とりあえず私の紹介ということで連絡してみなさい」

はたして〝隠れ武士〟金城孝氏とは、いったいどんな空手家なのか。さらにもう1人紹介者を介して取材意図を説明してもらい、ついにインタビューを了承してもらえた。

取材場所に現われた金城氏は、スキンヘッドで鋭い眼光、そして鍛え抜かれたゴツい拳が嫌でも目に入る、一目で〝ただ者〟ではないとわかる人物。しかし、笑顔が魅力的な人物でもあった。

——本日は取材を受けていただき、ありがとうございます。まず、先生の稽古が激しすぎて、お弟子さんが居着かないというのは本当ですか？

金城　激しすぎるとは思わないが、確かに逃げてしまう人は多いね。みんなそれぞれ仕事や生活があるから、空手に興味があって始めても、空手だけに打ち込むのは難しいのかな？　本当に好きならいろいろ興味をもって研究して稽古するから、時間が足りないくらいなんだけどね。

——生活すべてを空手にするというのは、難しいのかもしれませんね。

金城　私が昔、会社勤めしてたときは、朝、巻き藁を叩いてから仕事に行って、夜はまた稽古。休みの日は朝から先生のところに行って夜まで稽古してた。退職してからは毎日朝から晩まで時間あるときは鍛錬してる。自分の稽古を終わらせてから弟子に指導して。

——いまでも朝から晩まで空手の稽古ですか！

金城　やっぱり生徒以上に稽古をして、常に自分が動いて手本を示さないとダメだと思ってるからね。

——いまは海外に指導で行かれることも多いとか。

金城　年1回はアメリカに指導に行ってますよ。アメリカ人は素直で一生懸命だから教えがいがある。アメリカに指導に行くと弟子たちを遊ばせないから。2週間、毎日朝から晩まで稽古。最近の日本人は理屈ばかりで、単純なことを何度も繰り返すことの大切さがわからないのかな。

稽古を見せてくれた金城氏。そのキレのある素早く力強い動きは、とても70歳を超えているとは思えない　鍛え抜かれたゴツい拳も迫力充分。いまでも強さを追求する空手版カール・ゴッチなのた

——いまは海外のほうが弟子が多いのですか？

金城　そうだね。いまは沖縄には1カ所しか道場はない。遊びたいから弟子が逃げちゃう（笑）。あとは福岡に1カ所。海外はアメリカが5カ所（ネブラスカ、ミシガン、ミネソタ、カンザス、フロリダ）とオーストラリア。アメリカの師範代が頑張ってるから、今後は私の空手はアメリカが本拠地で逆輸入になるかもしれないね。

——先生のことを〝空手バカ〟と呼ぶ人もいますが？

金城　本当に空手バカだな（笑）。ただ、本気で空手をきわめたいなら、徹底的にやらないと。みんな研究不足、稽古不足だよ。私はこれが好きだから。常に他流派の動きや格闘技等も研究してる。酒やタバコも若いうちはよいけど、年取ったらそういう無駄は省いていかないと。健康を維持し体型も維持する。歳とって太って動けなくなって「伝統を重んじてる」なんて言ってもねえ（笑）。

——先生はいまでも〝実戦派〟なんですよね？

金城　武術は動けてはじめて価値があるんだから。年を取ったら体力が落ちるのはしょうがない。でも他人には見えない落とし方というかね、いまは80歳までこの動きができるように鍛錬してる。毎日縄跳びもして脚を鍛えてるよ。「鍛錬」とは鍛3年、錬30年。一つの技でも身につけるのに30年かかる。それくらいの気持ちで修行を続けないと。

——孝武流の特徴は？

金城　うちの特徴は足使いと体さばき。普通、足音をさせないように動くとか言うでしょ？　でも、うちはダン！と地面を踏みしめるような足使いをして、その力を上半身に連動させて打つ。そして両手を使って受けて、同時に入り込んで攻撃につなげていく。「あの空手は違う」とか言われることもあるけど、私の解釈だから。うちが正しいとも言わないし。「守・破・離」という言葉があるけど、いまはみんな伝統を重んじるばかりで、「守」の段階で終わってるところが多い。もっと研究して先生を超えていかないと、衰退につながるよ。

——先ほど、相手の急所という急所を狙って、拳を打ち込むような技を見せていただきましたが、実際に使ったら大変なことになるのでは？

金城　若い頃は、道場破りなんかも多かったんだよ。看板を掲げている以上、負けは許されないからね（笑）。いまでもその気概は持っていますよ。私を古武道の先生と思ってる人も多くて、私の空手を見てビックリしてる。私は空手と稽古が好きだから、一生強くなるための鍛錬をしている。皆さんも、好きなことを一生懸命やったらいいんじゃないの（笑）。

インタビューのあと、あらためて技を見せてくれた金城氏。20代の現役選手を上回るスピード、キレ、パワー。まったく枯れてない力強い動き。いわゆる達人系の動きではないが、70歳でこれだけ動けること自体、すでに達人と言っていいだろう。

最強の沖縄空手家。〝隠れ武士〟は間違いなく実在した！

21世紀の最強幻想

「日本では〝最強〟だけじゃダメ。マネージメント力も必須！」

格闘技界のブログキング

高瀬大樹のポジティブ最強論

ブログ内での連載コラム「格闘界の光と影」が好評を博し〝格闘技界のブログキング〟としてすっかりおなじみになった高瀬大樹。ブログでは「誰々は強い」とか「あの選手は弱い」といった格闘技ファンが興味津々なネタもたびたび書き込まれているのだが、今回は高瀬さんの考える〝最強論〟をポジティブに語ってもらいました！

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也、Josh Hedges（UFC）

――今回は、〝格闘界のカリスマブロガー〟高瀬さんの考える最強論を聞かせてもらえればと思ってます。

高瀬　まあ、俺の場合は〝ポジティブ最強〟ですけどね（笑）。

――早速ですが、ポジティブ最強は高瀬大樹に決定、と。ブログでもよく書かれてますが、さまざまな選手とスパーリングなどで肌を合わせている高瀬さんに誰が最強なのかとか、いろいろと教えていただければ、と。

高瀬　ありがちな企画ですねぇ（ニヤニヤ）。

――ありがちな企画ですみませんね。

高瀬　でも、ぶっちゃけて言っていいですか？

――どうぞ、どうぞ。

高瀬　総合格闘技において、〝最強〟はないです（キッパリ）。

――あら、いきなり結論！

高瀬　たとえば、このあいだ流れたヒョードルvsジョシュ戦が世界最強決定戦なんて言われたりもしてましたけど、ジョシュが最強とは僕は思わないですし、ジョシュより強い選手って何人かいると思いますから。それに、ヒョードルに勝つ可能性があるのはレスナーよりもフランク・ミアのほうが高いと思ってるんで。

――レスナーは『UFC100』でミアに完勝しましたが、組み合わせの問題もあるってことですか？

高瀬　そうです。レスナーもミアの打撃でやられてましたし、ヒョードルのパンチでやられる可能性もあると思うんで。まあ、身体のデカさやフィジカルって部分ではレスナーは凄いポテンシャルを持ってると思うんですけど、〝最強〟っていうのはどうかなって。たとえばヒクソンのことを文句言ってる人は「強い人と闘ってないだろ」とか言うじゃないですか？

――そういう人は多いですね。

高瀬　そう言われたら、ヒョードルだって、ミアともレスナーとも闘ってないわけじゃないですか。だから、やってないのにヒョードルが〝最強〟とも言えないし。強い選手であることは間違いないですけど、〝最も〟〝強い〟かって言われたら、どうかなっていうのが正直なところですね。

――MMAも10年ちょっとの歴史を経て、いまは打撃だけとか、寝技だけの選手って通用しなくなってきてる部分もあるじゃないですか。

高瀬　そうですね。このあいだ（北岡）悟も負けてしまったし。悟なんかもあの階級では〝最強〟候補の一人だと思うんですけど、そういう選手になると対策が練られて、ああいうタイプに勝つにはどうすればいいのかっていうのを廣田（瑞人）選手が完全にやってのけたっていうか。悟の敗因は減量苦のスタミナ切れだって言う

寝技には絶対の自信を持つ高瀬さんだが、キックル　ルにも挑戦するなど立ち技の練習にも余念かない。取材日にも指導も行なう都内マルプロジムで〝最強〟を目指し、スパ　リングを繰り返していた。

人も多いですけど、あれは攻め疲れ
ですから。
きに、打撃もうまい桜庭さんが逃げ
と思えばできたと思うけど、それを
合わせた選手で「この人は強い」って
ヨルジュ・サンピエール」ぐらいじゃ

人も多いですけど、あれは攻め疲れですから。

——減量苦ではなく、攻め疲れによるスタミナ切れだと?

高瀬 契約体重は最初からルールで決まってるわけだし、1週間前に言われたわけじゃないですから。それは敗因にはならないですよ。ただ、悟は1ラウンドはずっと極めにいってましたけど、あれだけしのがれたら疲れますよ、これはホントに。

——実感がこもってますね。

高瀬 守るよりも攻めるほうが3倍疲れますからね。桜庭さんも昔おっしゃってましたけど、「タックルするほうが、タックルを切るより全然疲れる」って。だから、なんで青木(真也)がああやってミドルキックとか立ち技を修得するかとか、自分もムエタイとかボクシングをやってるかっていったら、結局、グラップラーって、いまのMMAでは、それだけでは勝てないからなんですよ。

——ある程度のレベルでは通用するけれど、トップファイター相手にグラップリングだけでは勝てない、と。

高瀬 MMAとして考えたら、いくら秀でたテクニックを持っていたとしても、グラップリングの力だけでは〝最強〟には達しないでしょうね。

——青木さんなんかもシャオリン戦の闘い方に非難の声も挙がってましたけど、本人的には、MMAとして闘っただけで、ルール的に何も悪いことはしてないって言ってましたね。

高瀬 そのへんの言ってることは僕と似てますよね(笑)。これは、ブログでも書いたんですけど、桜庭さんがカーロス・ニュートンとやったときに、打撃もうまい桜庭さんが逃げないで寝技勝負をちゃんとやったじゃないですか?

——98年の『PRIDE・3』ですね。あの試合は噛み合ったグラウンドの攻防があって、最後は桜庭さんがヒザ十字で一本勝ちしました。

高瀬 桜庭さんはミドルもローもハイもうまいんですけど、あのときはまだ若いし、体調も凄いよかったと思うし、だけど、あえて寝技でちゃんと勝負したっていう。桜庭さんが勝ちだけを狙うんだったら、打撃でいったほうがよかったかもしれないですけど、お客さんのニーズとかを考えたうえで、相手の得意分野でもある寝技で勝負したと思うんですよ。

——そのへんはUインターで学んだプロ意識っていうのも大きいと思うんですけどね。

高瀬 そういうのもあると思うし、もちろん、桜庭さんは寝技もメチャメチャ強いんですけど、やっぱり、相手の得意分野で勝負にいくっていうのは凄い勇気が必要なんですよ。悟だって青木みたいな闘い方をやろうと思えばできたと思うけど、それをああやって攻めて攻めて自分のスタイルを貫き通したっていうことは、チャンピオンの闘いをしたんですよ。

——プロの興行として考えたら、「強さ」はもちろん、それ以外の何かを持った選手じゃないと、お金を払おうとは思わないですよね。

高瀬 そうなんです。そういう意味では、プロの世界においては、〝最強〟以外に〝最高〟も求められてくるんで、また難しいんですよね。僕も寝技には自信持ってるんですけど、たとえば寝技の強いMMAファイターの(アンドレイ・)ガウヴァオンや(ホナウド・)ジャカレイとやったとして、ずっと立ち技でタックル切ってっていうのを続けたら、お客さんは「なんだ、コノヤロー!」って絶対言うと思うんですよ。「あれだけ、おまえは寝技は強いとか言ってそれかよ!」みたいな(笑)。

高瀬さんが現在活躍するMMAファイターの中で"最強"に一番近い男として名前を挙げたのがUFCウェルター級王者GSP。7.11「UFC100」ではチアゴ・アウベスに完勝し、王座防衛に成功。GSPと高瀬さんの試合も観たいぞ!

——そうなるでしょうね。

高瀬 だから、そういう闘いをするには、それなりの自信も必要だし、勇気も必要なんですよ。寝技が強い選手に寝技で挑むっていう勇気とか、打撃の強い選手に打撃で挑む勇気。そのリスクを乗り越えていける人が〝最強〟にたどり着く可能性を持ってるんじゃないですか。

——階級は別として、これまで手を合わせた選手で「この人は強い」って思った選手は誰かいますか?

高瀬 やっぱ、全盛期の桜庭さんは凄かったですよね。言葉は悪いですけど、「おかしいだろ⁉」ってよく思ったし、ホント、ハンパじゃなかったですね。あの衝撃を超える衝撃はなかなかないですよ。

——全盛期の桜庭さんの衝撃はそれほど強烈だった、と。

高瀬 強烈でしたよ。その後は自分が成長したっていうのもあると思うんですけど、最初のインパクトは凄かったなぁ……(しみじみと)。でも、そういう桜庭さんとかを見てきてるんで、いまUFCとか見ても、そういう選手って少ないじゃないですか。

——桜庭さんのようなファイトスタイルの選手って、あまり思いつかないですよね。

高瀬 いまはいかに体重を戻してとか、背が高くて身体がデカいヤツが勝ってるみたいなイメージで、あんまりテクニカルじゃなくなってきてるっていうか。……だからこそ、デミアン・マイアみたいな選手が一本取れたりするんじゃないですかね。

——と言いますと?

高瀬 ほかのヤツらはフィジカルだったり、勝つための打撃とかレスリングが中心で、グラップリングとかの技術面は疎かにしてるから、逆に取りやすいんじゃないかって。全部できてるファイターってGSP(ジョルジュ・サンピエール)ぐらいじゃないですかね?

——トータルで強いというか。

高瀬 寝技も凄いし、立ち技やテイクダウンも凄いし、あのBJ(ペン)からパス(ガード)してましたし、MMAファイターとしては理想形ですよね。そういう意味では、GSPなんじゃないですか、〝最強〟は。

——高瀬さん認定の〝最強〟はGSP。

高瀬 ボクシングでは長谷川穂積選手が〝最強〟だと思いますけどね。

——たまたま、今号で長谷川選手も登場してもらってるんですよ。

高瀬 そうなんですか。日本人の歴代チャンピオンの中でも間違いなく〝最強〟ですよ。世界の中でも相当上位にいると思いますね。WBCの上位の選手から1~2RでKOできるっていうのは尋常じゃないですよ。

——世間的にはともかく、玄人的に長谷川選手を評価している人は凄く多いですからね。

高瀬 試合を観たら「凄いな」って伝わると思うんですけど、やってるほうは「もっと凄い」と思うんですよ。「なんで、これができるの⁉」っていう。もうハンパじゃないッスよ。ディフェンスだけで金取れますもん。

——それでいてKOできるオフェンス力もあるわけですし。MMAの長谷川穂積がGSPというか。

高瀬 階級とかジャンルを抜きに考えたら、なんでもできるっていう意

MMAではGSP。ボクシングでは長谷川選手が最強だと思う

味では共通点はありますよね。

――ちなみに、GSPとともに、ミドル級の絶対王者と言われるアンデウソン・シウバについてはどう思います？　かつて高瀬さんは一本勝ちしたことがある選手ですけど。

高瀬　アンデウソンさんは寝技にちょっとマイナスポイントがあるかな。ターレス・レイチとやったときも、パスガードすればいいのにいかなかったんですよ。それはなんでかっていったら、怖いんですよ、寝技が。

――アンデウソンぐらいの選手でも寝技が怖かったりするんですか。

高瀬　逆に言えば、そのリスクを冒さなくても勝てる闘い方を知ってるってことでもあるんでしょうけど。で、GSPはなぜBJ相手に寝技にいってパスできたかっていうと、自分に自信があるからなんですよ。

――パスガードから強引につなげますけど、得意のパスガードを連発して、アブダビ王者にもなった菊田さんとも付き合いは古いですよね。

高瀬　菊田さんは10代の頃からお世話になってますからね。初めてやったときは、もうグッチャグチャにやられて。桜庭さんじゃないですけど「うわ～、なんだこの人」って思いましたね。すっごい力も強いし、菊田さんもインパクトはありましたよ。まあでも、グラバカは菊田さんだけじゃなく、ホントに強い選手が集まってますからね。

――体格的にも高瀬さんと同じぐらいの人が多いですしね。

高瀬　（福田）力もいるし、郷野（聡寛）さん、佐々木（有生）さんも強いし。三崎さんからはいままで一本も取ったことないですからね。

――へぇ～、"寝技最強"の高瀬さんでも一本取ったことがない!?

高瀬　三崎さんからは取ってないですね。このあいだの『戦極』でも凄い勝ち方をしたみたいですし。

――高瀬さんもよくご存知の中村和裕選手相手にフロントネックロックでの見事な一本勝ちでしたね。

高瀬　自分は二人とも知ってますけど、差があると思ったんで普通にやれば三崎さんが勝つとは思ってましたけど、今回、三崎さんはいろんなことがあったじゃないですか。そういう意味で、「大丈夫かな？」って思ったんですけど、やっぱ、強いッスね。

――ブログに書かれてましたけど、得意の三角絞めが完璧に極まったと思ったのに、持ち上げられてパスターじゃなくて、ブレーンバスターのように反対側に投げられて返されたことがあるみたいですね（笑）。

高瀬　俺、スーパーマンみたいに飛んじゃいましたもん（笑）。

――そういった得体の知れない力を持っているっていうのも"最強"には必要なのかもしれませんね。

高瀬　そうですね。そういうのを持ってない選手は、マネージメントに頼らざるをえなくなりますよね（笑）。

――「マネージメント7割、実力3割」ですね（笑）。三崎さん以外で一本取れなかった人って誰かいます？

高瀬　取れなかったのって三崎さんぐらいだと思うんですけど、三角を放り投げられたときに「この人から取るのは無理だな」って思いましたね（笑）。そういった得体の知れない力を持ってる人か、あとは全局面で対応できる人。打ち合いもできるし、ディフェンスもできるし、テイクダウンやパスガード、関節技もできる。それが"最強"じゃないですか。

――"最強"はともかく、日本で完成系に近い選手といえば、誰が思い浮かびます？

高瀬　桜庭さんと一緒になっちゃいますけど、吉田（秀彦）さんがもっと若いときにMMAに転向してたら、

三崎さんからはいままでスパーで一本も取ったことがないです

相当強かったと思いますね。

――やっぱり金メダリストは凄い？

高瀬　最初にやらせてもらった頃って、たぶん吉田さんの全盛期だったと思うんですけど、僕の予想では、いま10段階で5だとしたら、あのときは絶対10はあったと思うんですよ。そのぐらい強かったですから。

――さすが、ビバ柔道王ですね。

高瀬　ちょっと昔の話になっちゃいましたけど、衝撃的だったって意味では、桜庭さん、吉田さん、菊田さんっていう3人が大きいですね。自分の格闘技人生の中でターニングポイントになってる人たちというか。

――年下というか後輩で認めている選手といえば誰になります？

高瀬　やっぱ、青木と北岡悟は凄い選手だと思いますね。

――二人とも結果を出してますからね。高瀬さんは、菊野（克紀）選手とも練習をされてるんですよね？

高瀬　あ～、いたいたいたいた！　厄介なのを忘れてた（笑）。

――菊野さんは厄介なんですか？

高瀬　克紀の何が厄介かって組み技がしっかりできるところですよ。三日月蹴りとかだけじゃないですから。

――空手だけクローズアップされがちですけど、柔道出身でグラウンドでもかなり強いっていいますからね。

高瀬　寝技も強いですし。GSPとは、またスタイルは違いますけど、全局面に対応できる選手ですね。ちなみに、克紀は自分が出たケージフォースを観に来て、試合後にダメ出しされましたからね（笑）。

――高瀬さんにダメ出し！　それは大物になる可能性が非常に高いと思います（笑）。でも、高瀬さんもファイターとしては、当然"最強"を目指してるわけですよね？

高瀬　まあ、そうですね。難しいとは思いますけど、やるからにはそこを目指さないと。でも、日本では"最強"だけじゃダメですから。

――ん？　と言いますと？

高瀬　やっぱ、マネージメント力も必要なんで（笑）。

――アハハハハ！　日本では実力以外の部分も大きいわけですね。

高瀬　いまはそういうのも含めて実力だと思ってるんで、自分もポジティブに"最強"を目指していきますよ。

【09年8月5日／都内・マルプロにて収録】

絶賛発売中のTシャツには「JAPANESE NO.1 GRAPPLER」とプリントされている高瀬さん　そんな高瀬さんがスパーリングで一本を取ったことがないというのが。現在無期限出場停止中の三崎和雄。8.2『戦極』では中村カズに見事な一本勝ちを収めた三崎。みんなで復帰を嘆願しようぜ！

このTシャツを着て最強を目指せ！

たかせ・だいじゅ■1978年3月20日、埼玉県出身。格闘技経験もほとんどないまま、和術慧舟會に入門し、98年6月24日の『PRIDE・3』でのエマニュエル・ヤーブロー戦でプロデビュー。その後の波瀾万丈な格闘技人生はブログ（http://ameblo.jp/takase-d/）をチェックしてください。ちなみに高瀬さんが着ているイカしたTシャツは出場大会&イベント、高瀬さんが指導をしているマルプロジム（03-3387-0050）でも買えるそうですよ。180センチ、85キロ。

さようなら髙田総統座談会

7.26『ハッスル・エイド2009』で
5年半にわたる活動に終止符!!

象徴を失なった『ハッスル』は今後どうなってしまうのか!?

『kamipro』のウェブサイトで大好評配信中のポッドキャスト番組『mimipro』のカリスマ司会者・原タコヤキ君と『ハッスル』事情通ライター・八木賢太郎が、髙田総統のいない『ハッスル』について語りまくる! 髙田総統のいない世界って、どうなっちゃうのよ!?

撮影 平工幸雄

大振りして空振りしてるぶんには

——7・26両国大会で高田総統が去り、その4日後の後楽園大会が終わりました。

八木 僕、両国大会後から夏休みに入ってたんですけど、この座談会のためにわざわざ行きましたよ。サングラスに短パンで。

——レジャー感覚ですねぇ。じゃあ、まずは感想をうかがいたいと思います。

タコ いちおうストーリーの流れを説明しとくと、高田総統亡き後の「ハッスル」初の大会でハッスル軍もモンスター軍も解散したわけやな。

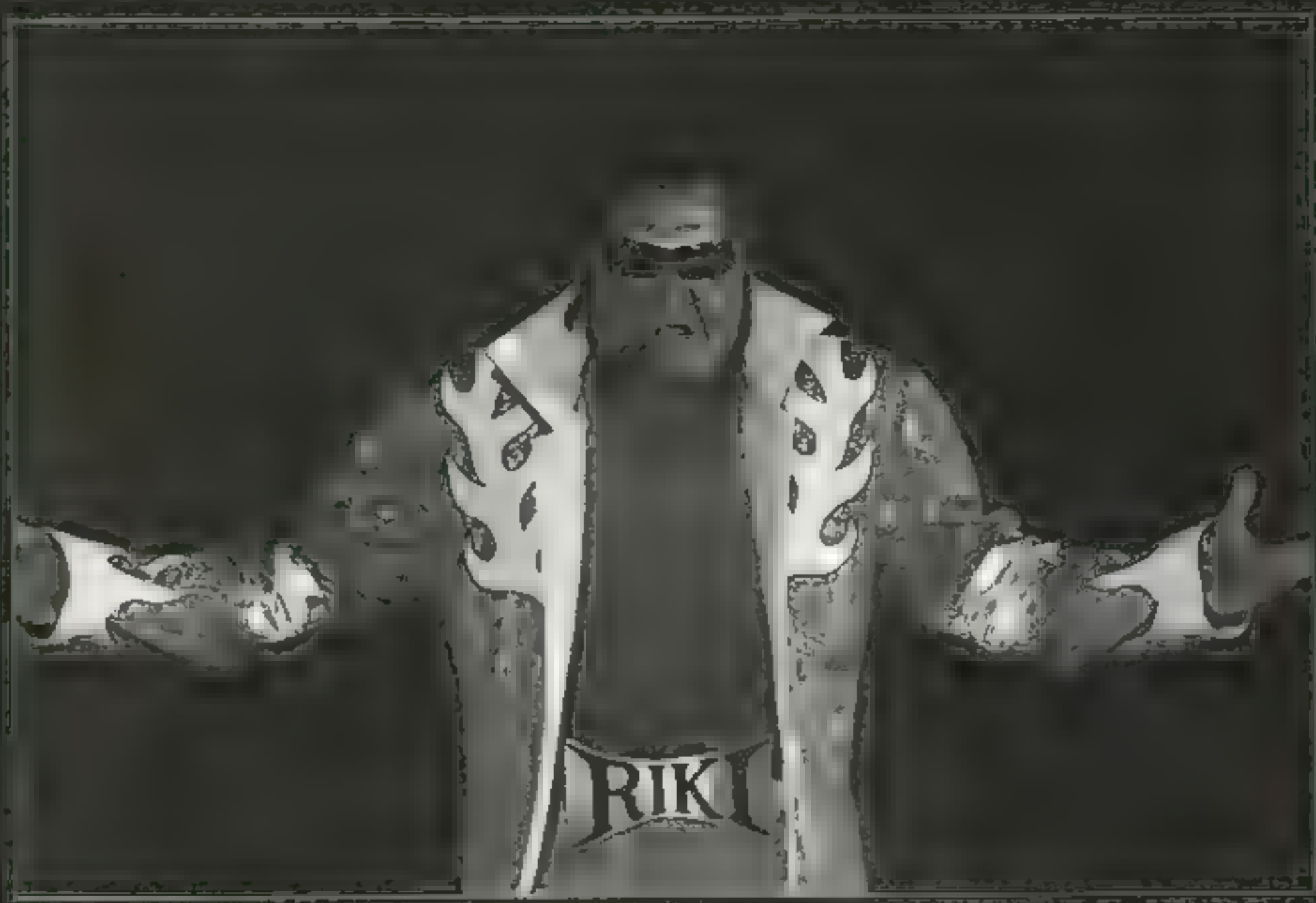
——後楽園からは高田総統がいない世界になったわけですが。

八木 そりゃ残念ですよ、高田総統がいなくなったのは。俺は長年「ハッスル」事情通として言い続けてたけど、やっぱり「ハッスル」は高田一座だからさ。

タコ 座長がいない喪失感はあったなぁ。後楽園では川田が総統代行をやってたけど、やっぱり一人で出てきたときには危なっかしさを感じたもんね。それまでは川田って達者やなと思ってたけど、じつは高田との掛け合いだから楽しめてたんだって気になったし。

八木 俺は毎回観に来るじゃないですか。でも、どうしても仕事の都合とかで遅れることもあるでしょ。そういうときでも総統劇場さえ観れば『ハッスル』を観た気になれる部分があるから、最後の1試合でも2試合でもいいから観に行こうって気持ちになってたからね。やっぱり総統劇場を観に来てたんだよ。これからそれに代わるものがあるのかないのかわからないけど、『ハッスル』を普通のプロレスの試合として観るのはしんどい部分もあるかな。

——どうしても無理が出ますよね。後楽園ではHGとTAJIRIが普通に激しいプロレスの試合をやって足を骨折しちゃいましたし。

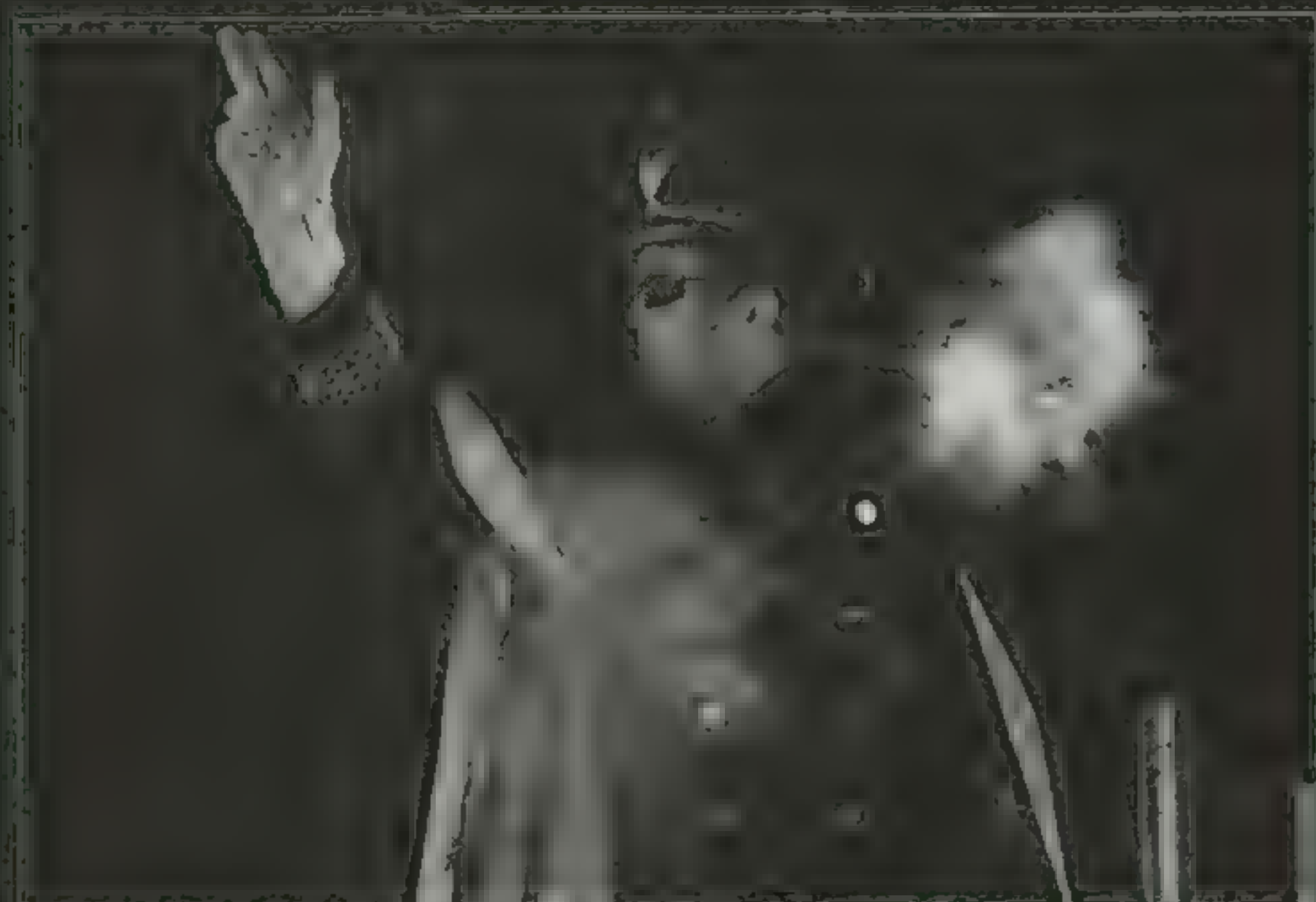
八木 お客さん的な立場で語るのは無理なので、ハッスル事情通ライターとして語ると、いろいろな大人の事情も多少漏れ聞いてる中で、始まる前はどんなことになっちゃうんだろうってハラハラしてたんだけど、両国も後楽園もおもしろかったですよ、俺は。あれが正解だと思う。

——どんなひどい破綻を迎えるんじゃないか、と思ってたわけですか？

八木 「ハッスル」にとっての破綻って、何もなく普通の大会みたいに終わるってことでしょ。「ハッスル」にはそうじゃないものを期待をしてるから、キングRIKIが出てきたり、後楽園でハッスル軍が解散したり、へんな違和感は残ったよね。大丈夫かな？って思わせてくれたから、逆に「ハッスル」が生きてるという感じは受けた。

タコ そやな。大振りしてるぶんだけ、俺も「ハッスル」らしさは感じたな。

八木 大振りして空振りしてるぶんには、まだ「ハッスル」は元気だなって感じがする。でも、たまに当てにいってる大会があるでしょ、地方大会でもそうだし、今年入ってからの後楽園もそうだけど、バントヒットみたいなのが多かった（笑）。

——ストーリー的にも演出的にも何も起こらない大会ってことですね。

八木 今回は何かをしようとしてるっていうか、ヤキモキさせてるぶん、元気とは言わないまでも、生きてるなっていう。

高田総統の闘う化身エスペランサー・ザ・ゴッドはマグナムTOKYOのシューティングスタープレスでフォール負け。試合後、リングに登場した高田総統はハッスル軍と握手。しかし、そこに竹内力の双子の弟・キングRIKIが登場!! 高田総統を"紅のバックファイアー"で撃ってしまった。

——生存確認できましたか（笑）。

八木 そうそう、雪山で頬っぺた叩いたら「大丈夫、大丈夫」ぐらいは反応があった（笑）。

タコ 「眠ったらアカンで！」って声をかけ続けないと死んでまいそうな感じだったけどな。

八木 ただ、総統のさよならVTRとかには、じつはあんまり心が動かなかった。

タコ ああ、それは俺もそうや。インリン様のときのほうがよっぽど感傷的になったよね。

八木 そうそう。もちろん感傷的になったけど、みんなインリン様で1回経験してるから、そこはあんまり気持ちが入らなかったな。

タコ 高田総統っていう、ずっと作り上げてきたキャラクターの最後にしては、えらい急ごしらえやったしなぁ。

——タコ兄さんはどうでした？

タコ 俺は初めてマグナムTOKYOを見てんけど、あのダンスはいいよね、ホンマに（しみじみ）。

八木 そこからなんだ（笑）。

タコ ええやんか！ 俺、いままでテレビ

座談会出席者

「ハッスル」事情通ライター。プロレス・格闘技の仕事はほとんどしていないにもかかわらず、「ハッスル」の内幕に詳しい男。本誌の奥付にはなぜか非番なのに名前が載り続けている。

「kami-pro」のウェブサイトで大好評配信中のポッドキャスト番組「m-m-pro」のカリスマ司会者。谷川貞治イベントプロデューサーに続いて、二代目"ミスター大衆"を名乗る。

本誌編集部　主な業務は「kami-proドットコム」「kami-pro Move」更新作業。日々、記者会見や試合会場へ。ポッドキャスト番組「m-m-pro」では番頭さん担当。

か？ ストーリー上じゃなくてリアルな

たらキングRIKIの存在を忘れてもえ

大振りして空振りしてるぶんには まだ元気だなって感じがする（八木）

とかでダンスというものを見て、自分でもやりたいななんて思ったことないけど、「マグナムを見て初めて俺も踊りたいなって思った。凄い楽しいよね、あれ！」（身を乗り出して）。

――確かに楽しいですけど（笑）。

八木 それはみんな言ってるよね、「あれ踊りたい」って。

タコ せやろ？ 観る前に賢太郎に「マグナムTOKYOって急に言われても、そんなの知らんし、そんなのが高田総統とやるの？」って言うてたけど、見たらちゃんとエースっぽかったよ。いい青年じゃないですか、マグナムは！（ドンッとテーブルを叩いて）。

――いい青年って何が基準なんですか、その判定は（笑）。

八木 でも、入場でアガるっていうだけで、何かを解決しちゃう部分はあるよね。

タコ そうそう、半分ぐらいは満足するわ。でも、こないだの両国は山口日昇さんがヤケクソで最後にメチャクチャなエンディングを仕掛けるような期待感は、個人的にはあってんけどね。

――でも、じつはここ最近は山口色ってそんなに出てないですよね。メチャクチャな仕掛けは初期に比べるとだいぶ減ってますよ。

八木 そうだよね、突拍子もない感じはね。DSE時代のほうがまだそれはあった。

タコ ただ、VTRで「俺は責任取ったことないから」って言ってたやん。あんなこと人前で言うたらあかんわ（ドンッとテーブルを叩いて）。凄く嫌な気持ちになった。

――お、まっとうな意見ですね。確かに、あれを観て何人が嫌な気持ちになったかって考えるとゾッとするものがありますけど（笑）。

八木 リアルにね（笑）。実名挙げていいんなら挙げますよ。

――すみません、それは別の機会にお願いします！ あれは映像作る人たちが確信犯でやってますよね。僕の知ってる山口さんならカットしそうな気がしたんですけど。

タコ そうやろうな。あんな一部の人しかわからんようなネタやっといて、どこが大衆芸能やねんって気はするけど。

――あの映像も最初に出た昨年末頃は内輪ネタで済んでましたけど、すでに内輪ネタじゃ済まないところまできてますからねぇ。

八木 ともかく、これで「ハッスル」の創設メンバーはいなくなったわけでしょ？

タコ 創設メンバーがおらへんことはいいことやと思うのよ。だっていままでのプロレス界って一人のエースが何年にもわたって活躍して、団体を引っぱっていったわけやけど、「ハッスル」は箱の魅力やん。だから小川直也がおらんようになっても成立する。まあ、おったほうがよかったとかなんとか言われながらもちゃんと続いてきたわけで。

八木 ポジティブな感想をいうと、リセットするにはいい機会なんじゃないですか？ ストーリー上じゃなくてリアルな離脱もいるわけでしょ？

タコ 両国と後楽園で、まずボノくんがおらへんようになったよね。総統も去り、今日はアン・ジョー、島田工作員もいなくなるっていう。要するに離脱するっていう事実にアングルが追っかけてついてってるってことでしょ？ だってボノちゃんが寝てて起きないとかさ（笑）。さほど「ハッスル」情報を追っかけてない俺なんか「なんじゃそら？」っていう展開ですよ。

――ボノくんが起きないって情報は直前に新聞とオフィシャルサイトにチラッと出したぐらいでしたからね。

八木 なんとなくファンの人もいままでの「ハッスル」のシステムがだんだん破綻してるのはわかってるよね。振りの会見の少なさとかさ、アングルが直前になって動き出すっていう目に見えるかたちの弊害として表面化してきてるから。

タコ いっそ、残ったメンバーの設定も全部リセットしてもええやろうし、なんだったらキングRIKIの存在を忘れてもええわ！

八木 高田将軍みたいに？

タコ キングRIKIも一瞬の打ち上げ花火やったっていうことで、ええやん。これから始まる新シリーズも、もはや「ハッスル」ってタイトルじゃなくてもいいぐらいだと思うねんけどな。

――名称すらをリセットしますか！

タコ ハッスルエンターテインメントプレゼンツで全然違うものを作ってもいいでしょ？ こないだ島田裕二としゃべってたら「タコちゃん！ 俺、『ルーキーズ』観たんだよ。あれだよ！ これからはイケメンの若手がメインで、坂田とかは先生役でやるんだよ！」って言うから、「そうしなはれ」と言っておきました。

――そうしなはれ（笑）。

八木 あいかわらず心ないなぁ。

――しかも、言いだしっぺの島田さんももういないですよ。

タコ 島田裕二がおらんでも、身体のデカ

さようなら髙田総統座談会

原タコヤキ君が憧れたマグナムTOKYOのダンス。大勢のダンサーを引き連れてぴったり息のあったダンスを披露した。7.30後楽園ではRGがダンスを披露。

身体のデカい不良の男前を集めて『ルーキーズ』やったらよろしいかな（タコ）

い不良の男前を集めてやったらよろしいがな。あかんと思ったらテレビドラマのようにすればいい。ドラマは視聴率が悪かったら脚本家や演出家を替えるやんか。ほんで、それでもドラマの芯自体が持たへん、やっぱりこのストーリーおもろないわってなったら、途中で打ち切るやん。「ハッスル」の新シリーズもそれでええやん。不評ならやめたらええねん。

――いま、まさに「やめたらええねん」という時期にさしかかってるんじゃないかと思うんですよ。

タコ それでまた新しい全然違う設定を作ってさ。学園設定のプロレスでも、なんやったら女子高設定の女子プロでもええわ。本当なら『ハッスル』も『渡る世間は鬼ばかり』みたいになればよかったけど、残念ながらそうはならんかったわけやから。プロレス団体の最終回っていままでなかったからね。

――それが今回だったのかもしれないですけどね。

八木 でも、今回でホントにちょっと楽しみになってきた。申し訳ないけど、いったいどうなるのかなって思ってたのが、次にどんな手を打ってくるんだろうっていう期待になった。もうムチャクチャな手を打ってくるしかなくなってるじゃん。

――そうですね、ついに追い込まれましたよね。

八木 自分たちの手でストーリーもブッ壊しちゃったよね。

――高田総統の離脱にしても、ボノくんの離脱にしても、タコが自分で自分の足食ってるようなもんですよね。自分たちで築き上げてきたものを壊す作業だったと思うんです。

タコ もう最後の1本まで食べちゃったでしょ?

八木 まだ足は2本くらい残ってるよ。

――じゃあ。これからの「ハッスル」はその2本を食いつくすのか、それともタコからイカに変われるか。

八木 「じつはイカだったからあと足は4本ある」みたいになっちゃうのがちょっと怖いな（笑）。あと2〜3本食べられます、みたいな。

――タコなのにイカのふり（笑）。

タコ それはつまり年内は総統もいないけどこの余韻でいきましょう、みたいな感じになるってこと? それは嫌やなぁ。

八木 だからあと3ヵ月ぐらい髙田総統が残ってくれたら余韻も違ってたと思うよ。髙田総統が両国でいなくなるのが決まってるんだったら、もうちょっと前から和解してくれたら。あそこで消滅するのはいろんな大人の事情もあるからじょうがないんだろうけど、ハッスル軍に入った髙田総統とハッスル軍が揉めながら友情を発揮して闘ってくっていうのは観たかった。

タコ バッファローマンが正義超人になりました、みたいな?

――いいですねえ。

タコ 現実の離脱に慌ててアングルを合わせてるからそれがでけへんのよね。もうちょっと早い時期にそういうふうにしてたら、髙田総統&RG vs 川田&マグナムとかもあるわけでしょ。しばらくは楽しめたよ。

八木 リングに上がらないまでも、たとえば髙田総統がセコンドについてるとかさ、そういうのは観たかったよね。こっちに降りてきた髙田総統を。本来は両国で仲間になって、年末のマニアで死ぬっていうのが一番盛り上がったかな。たまにしか髙田総統が出てこないにしても。そのほうが総統の魂を受け継いだ感じがする。

――いなくなるのを1ヵ月前に発表して、そのあいだに福岡で1大会やっただけでしたからね。

八木 髙田総統はいろんな事情があってもう出ないんだなっていうのはファンにも伝わったと思うんだよ。インリンのときも、後づけでそういう話が出てきたしね。「やめたくてやめたわけじゃない」ってインリンが言い出して。それを経てるから、髙田総統も……。

――総統は言わないでしょうけど、ファンもそういう舞台裏の事情を察することができるぐらいには、大人になってますよね。

八木 結局、いままでの「ハッスル」は髙田総統に頼ってきたわけですよ。何かを髙田総統に言わせることでいろんなことを解決してきたから、そのシステムを継続するのか、そうじゃない世界を作るのか。そこからまず考え直すんでしょ。

――「ハッスル」のコンセプトだった「いままでのプロレス界を根こそぎぶち壊して、その上に新しいものを作る」という作業はやりつくしたって高田総統も言ってましたけど、その段階ってじつはかなり前に終わってたと思うんですよ。いままで挑発的にプロレス界の常識をブッ壊すようなことをそのコンセプトに乗ってやってきたけど、そのコンセプト自体が揺らい

髙田総統が去ったあと、川田が総統代行から総統への昇格を自ら宣言するとアン・ジョー司令長官と島田工作員が脱退を表明。TAJIRIと激闘を繰り広げたHGは、場外ダイブの際に着地を失敗して足を骨折。決まっていた舞台も降板することになってしまった。

こっちに降りてきた高田総統を観たかった気はするよ（八木）

でる。総統的なシステムの役目はひとまず終わったと思いますよ。あれは高田総統じゃないとできないことだし。

タコ 坂田と小池栄子のメインのときのエスペランサーとか、あのへんで路線変更してれば違ったかもね。

八木 あの余韻で1年半持たせちゃったからね。じつは決断のしどころは、あのときだったのかもしれないね。

タコ エスペランサーが坂田に倒されて、あのストーリーが終わって、マグナムTOKYOとかキングRIKIが出てきてたら全然違うよ。いわゆる『ジャンプ』方式で、ボスのさらに強いヤツが出てきました、みたいな展開ができたのに。

――『ドラゴンボール』とか『キン肉マン』みたいな感じですね。

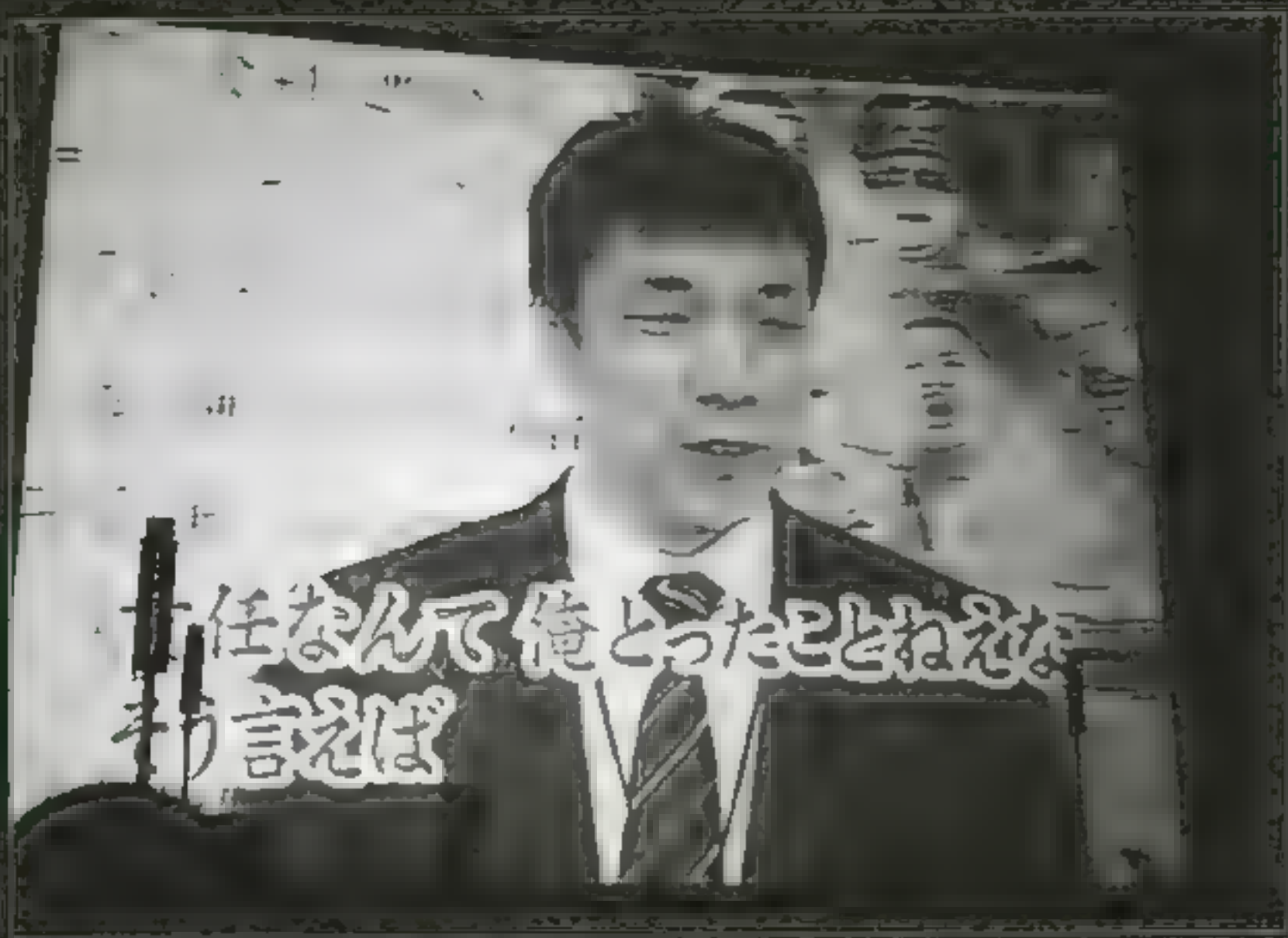
タコ っていうのはできんちゃう？　俺がさっきから言ってる新しいドラマを作るっていうのとは違うけど、ずっと長い人気シリーズを延命させ続けるっていうのも一つのエンターテインメントやとも思うわ。ただなぁ。いまは延命させるにしても、それだけの役者も揃ってないじゃないですか。

八木 残ったメンバーで考えたら、全体をダウンサイジングして、後楽園で勝負するぐらいでもいいのかも。

タコ 普段は北沢タウンホールとか新木場1stリングでやるってこと？

八木 そうそう。これは『ハッスル』の番の問題点だったけど、後楽園が一番盛り上がるでしょ。初期『ハッスル』は目標が大きかったしスケール観とか演出とか諸事情で横浜アリーナばかりだったけど、本来は後楽園が一番盛り上がるし『ハッスル』の聖地だからね。そこを目標に設定すればいいんじゃないの？

タコ でも興行数は絶対的に必要なことなんでしょ？

――『ハッスル』のパチンコ台を作るという事情はあるので定期的に話題を作っていかないとダメだとは思うんですが、詳しいことはわかりませんねぇ。もっと前の段階の話をすれば地上波放送でやるという悲願もありましたよね。この座談会の前に『ハッスル』ってなんだろう？　って考えたんですけど、プロレスを破壊する役目は終えたし、テレビのコンテンツにはなれなかったし、今後パチンコ台の素材にはなっていくという中で、この先どんな使命があるんですかね？

ミスター大衆が「そんなこと言ったらあかんで」とたしなめたこちらの発言。あくまでもストーリー上での言葉だが、リアルに響くのはなぜ!?

さようなら高田総統座談会

八木 ここまでやってきて、山口日昇の夢を具現化してきたという実績は残したよね（笑）。

タコ もし途中で終わりになったら、もの凄いタチの悪い愉快犯やなあ、マジで。エンタメやるんで金かかるんやったら、普通にプロレスだけするなら一番お金かからへんよね。

八木 だったらいっそ『スターウォーズ』みたいにしちゃえばいいんだよ。あれは敵のダースベイダーを倒す物語だけど、倒したあとの話を作らずに、結局ダースベイダーの生い立ちを作ったじゃん。

タコ 『エピソード1～3』ね。

――ホントは9部作だったんですよね。旧3部作が『エピソード4～6』で。

八木 そうなんだけど、新作を作るよりもダースベイダーの成り立ちを一からを作ろうってことになった。そういうのもありなんじゃないの？　将来、高田総統になる子どもをどっかから連れてきて成長していく物語（笑）。

タコ 人気シリーズのスピンオフね。『ヤング島耕作』みたいなもんやろ？

八木 そうそう。

――少年野球やったり、新日本プロレスに入門したりするところからスタートですか（笑）。実際、高田総統はプロレス界を破壊しようとしてたし、ダースベイダー級のインパクトはありましたからね。

タコ 最後に和解して死んでいくところまでそっくりだもんね。

八木 『ハッスル』ってある時期までは凄く『スターウォーズ』を意識した作りになってたでしょ。主役のはずのルーク・スカイウォーカーが基本的に『スターウォーズ』ファンにはそんなに人気ないところも含めてそっくりですよ（笑）。やっぱりハリソン・フォードが演じたハン・ソロとかC－3POとかR2－D2のほうが人気あったもんね。

――脇役のはずのRGが人気が出ちゃうところとか、そっくりですよね。まさにRG－D2（笑）。

八木 それぐらいおもいきったことをやるしかないんじゃない？

――『エピソード2』と『エピソード3』のあいだに『クローンウォーズ』ってアニメありましたけど、いっそのことアニメにしちゃってもいいかもしれませんね。

タコ 後楽園ホールにビジョンだけでやるとかね。それも『ハッスル』です！

八木 『ハッスル』のシステムを使っておもしろいことやればいいんじゃないの？　って思うよ。

――というわけで、今後も『ハッスル』の推移を見守っていきましょう。今日はありがとうございました。

［09年7月1日、都内某所にて収録］

8.27『ハッスル』後楽園大会は越中デビュー30周年記念大会に!!

8月7日に越中詩郎が記者会見を行ない8.27「越中詩郎デビュー30周年記念大会」（後楽園ホール　19時開演）の開催を発表した。当初は『ハッスル』が大会を開催する予定だった。なお、8.23『ハッスル』栃木大会は8月10日に開催延期が発表されている。

・お問い合わせ・
ハッスルエンターテインメント　TEL.03-3221-2431
www.hustlehustle.com/

一寸先はアルマゲドン!?　いまいったい誰が残ってるんだ?

『ハッスル』名鑑

(09年8月現在)

すでに旅立った人たち

7.26両国大会を最後に髙田総統とグレート・ボノちゃんが去ってしまった『ハッスル』。人材流出が続くファイティングオペラの舞台を、これから支えるのははたして誰なのか?　現在の主要登場人物の状況を整理!

構成／鈴木佑

※"ハッスル度"はそれぞれの『ハッスル』に対するモチベーションを編集部の独断で数値化したものなのであしからず。

越中詩郎

ハッスル度 100%

「ハッスル」では"ケツおやじ"というキャッチフレーズのもと、コミカルな演技で新境地を開拓(?)した越中。8.27には30周年記念興行も控えているだけに、まだまだハッスルしてやるって

天龍源一郎

ハッスル度 50%

「ハッスル」にその存在感で"歴史"という重みを与えてきたミスタープロレス。来年で還暦を迎えるだけに、レスラー人生最後の舞台を考えてもいいはず。それがはたしていまの「ハッスル」なのかどうか・・・

TAJIRI

ハッスル度 30%

これまでにインディーを転々とし、海外でも放浪の末WWEにたどりついたTAJIRIも、「そろそろ離れようかな」と「ハッスル」離脱を表明。生来の流れ者だけにこのまま帰ってくることもない?

マグナムTOKYO

ハッスル度 50%

現在の「ハッスル」のエース格でありながら、「ハッスル」携帯サイトの連載コラムで"旅"に出ることを宣言。さらに「短いあいだたったけど楽しかったよ!」と離脱をほのめかしているが……

レネ・ボナパルト

ハッスル度 50%

7.30後楽園でマグナムに促されるかたちで「ニッポン・ダイスキ!　ハッスル・ダイスキ!!」とハッスルLOVEをアピール。しかし、今後も参戦するかどうかはズバリ、ジャパンマネー次第というか。

KG

ハッスル度 60%

KUSHIDAや(^o^)チエらが離脱するなか、「ハッスル」に残った期待の若手。そのルックスと運動神経でスター性は抜群ながら、いまだにバイトをしてるという噂も……プロレス下流地帯がここに?

RG

ハッスル度 100%

「ハッスル」が仕事の大部分を占めるというRGは、こっちに頼まれなくてももちろん残留?　元kamipro投稿者にして、「ハッスル」でも活躍……まさに"山口チルドレン"と言えばこの男だYO!!

HG

ハッスル度 40%

7.30後楽園大会で左かかとを骨折。全治2カ月で出演予定だったミュージカルも降板。踏んだり蹴ったりのHGも「ハッスル」休養宣言。かつて「ハッスル」を世間に浸透させた立役者は戻ってくるのか?

REY大和

ハッスル度 30%

「ハッスル」ではKGと並ぶ貴重な若手。ちなみに最近の自身のブログでは、REYをやったことで貴重な経験ができたとしながら、「REYがどうなるかはわかりません」とリアルな心境を綴っている。

[illegible]

ハッスル度 30%

「ハッスル」の狂言回しとして、その成り立ちから重要な役を務めてきたヤドカリ野郎。自身のブログではこれからモンスター軍の思い出を書いていくことを声明。もしやすっかりさよならモード?

アン・ジョー司令長官

ハッスル度 30%

髙田総統とは古くからファンタジーとノアル、両方の世界で信頼関係を築いてきた司令長官。総統がいなくなったいま、「ハッスル」に対する熱意がどの程度なのか、気になるところデース!

川田利明

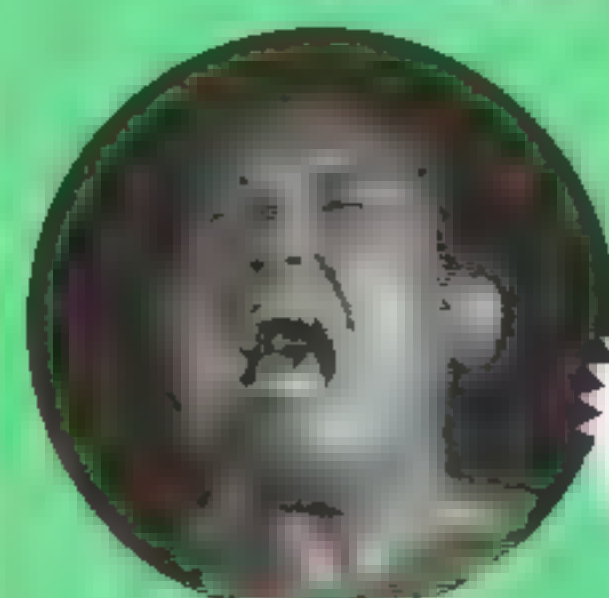
ハッスル度 70%

それまでの自分の歴史をある意味否定するかのようなイメチェンによって、「ハッスル」で欠かせない存在となった川田。「ハッスル」への思い入れは人一倍と想像されるがはたして?

キングRIKI

ハッスル度 ?

舞台裏のドタバタを想像させるように、急遽7.26両国大会に初登場。「次は秋の声が聞こえる頃」とボンヤリと再登場を匂わせたが、その頃に「ハッスル」自体がどうなっていることやら……。

小路晃

ハッスル度 50%

PRIDE最終興行参戦を最後に、MMAから「ハッスル」に舞台を移した最後の日本男児。最近はDREAMでもジャッジを開始。「ハッスル」以外にも活動の場を広げているのは堅実的か?

坂田亘

ハッスル度 50%

最近はナットーマンとして会場人気が高かったものの、「あれじゃ世間には届かない」という本人の意志もあって、素顔に戻っていた坂田。「ハッスル」自体に思うところもいろいろあるようだが…

フランソワーズ

ハッスル度 30%

お色気殺法を得意とする「ハッスル」では比較的新しいキャラ。じつはプロレス界では10年以上前から活動しているが、「ハッスル」では"セクシーの供給源"としていまだ大きな役割を持っている(?)。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

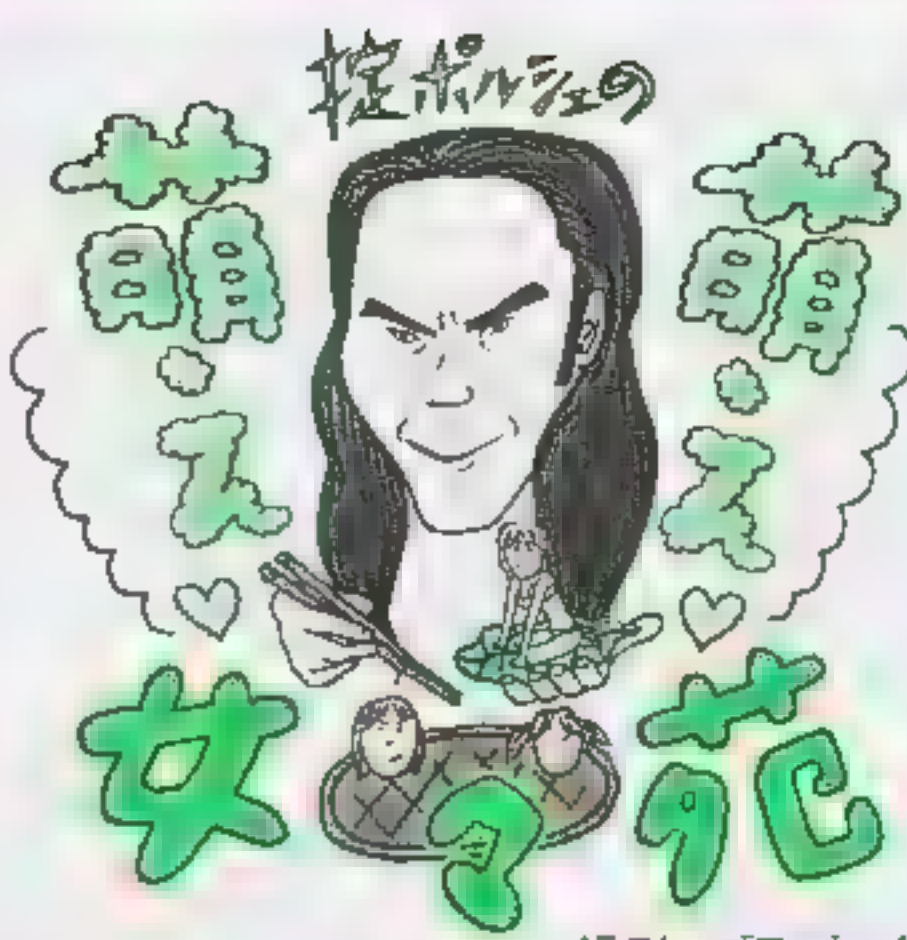



イラスト　ゴローちゃん

時は来た！　それたけだ！（パチンコ屋で出ない台から移動しながら宣言して）。女子プロの明るい未来とガッチリタッグするデータロボこと掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』。今回のゲストはNEOの新星・野崎渚！　高校進学よりも女子プロレスを選んだ18歳のプロレス人生にズームイン！

掟　野崎さんは1990年生まれ？

野崎　はい。平成2年生まれです。

掟　平成2年！　FMWの格闘技トーナメントに青柳の代打でリー・ガク・スーが出た頃ですね！　つい昨日です！　ちなみに好みのタイプはどんな感じでしょうか？　リー・ガク・スーみたいな人？

野崎　背が高くて……。

掟　背が高い？　チェ・ホンマンぐらい？　それともセーム・シュルトぐらい？

野崎　いや、よくわかんないです（笑）。180センチぐらいあればいいかな？　180はでっかいですか？

掟　180だとビッグ・タイトンぐらいなので、わりとでかいと思います。いや、タイトンはもっと大きいか。

野崎　じゃあ、170センチ後半とか。自分より大きければいいです。あとは、優しい人が。

掟　背が高くて優しい人？　じゃあ、チェ・ホンマンしかいないですね！

野崎　アハハハハハ！　結果的に？

掟　兵隊に行ったのにあんまり優しくてすぐ帰ってきちゃったぐらいなんですから。「人殺すのはイヤだ～」って。

野崎　なんで、そんなに詳しいんですか？

掟　チェ・ホンマンのことならなんでも聞いてください！

野崎　……ホントですか？

掟　いま金髪か黒髪かもわかりますよ。

野崎　どっちなんですか、いま？

掟　うーん、た、たぶん……茶髪？

野崎　わかってないじゃないですか！

掟　（気にせず）えー、芸能人ではどんな人がタイプですか？

野崎　湘南乃風のHAN・KUN（ハンクン）がいいです。

掟　はんくん？　それ、チンパンジーじゃないですよね？

野崎　違います（笑）。それはパンくん！　カッコいいんですよ。

掟　カッコいいにも、いろいろ系統があるじゃないですか。我々男子にとってカッコイイ人の代表は志賀勝ですが……。

野崎　HAN・KUNはレゲエな感じです。ガテン系みたいな。

掟　レゲエでガテン系？　ちょっと前まで、好きなタイプは水嶋ヒロさんって答えてたのに？

野崎　そうですね。結婚するまでは。

掟　ミュージシャンの絢香さんと結婚しちゃいましたからね。でも、水嶋ヒロさんと湘南乃風のHAN・KUNってけっこう両極端じゃないですか？

野崎　結婚しちゃったら、なんか冷めちゃうほうで。昔も誰かが好きだったんですけど、その人も結婚した途端に「あ、もういいや」みたいな。

掟　いま18歳ってことですけど、いままで男性とお付き合いしたことは？

野崎　……ありました。でも、そんな。

掟　そんなでもない？

野崎　は、はい（笑）。

掟　人を好きになるとどうなります？

野崎　どうもならないです。変わらないです、あまり。さっぱりしてますね。

掟　向こうから電話がかかってきたら「あ～、うっとうしい！」みたいな？

野崎　あ、そんな感じです（笑）。

掟　電話が短時間で2本続いたら「ハイ、うっとうしいから着信拒否！」みたいな？

野崎　そこまではないですけど、気づかなかったフリしたりとか。自分のペースで全部やりたいっていうか。自分で電話かけたりはするんですけど、相手から来るのは、あんまり。

掟　最悪じゃないですか！

野崎　アハハハハハ！

掟　性格的に男っぽいんですかね？

野崎　そう……ですかね。そんなに女の子らしくはないです。

掟　正直、モテました？

野崎　まったくモテなかったです！

掟　なんででしょう？

野崎　なんでですかね？　逆にそれを聞きたいぐらいです（笑）。

掟　サバサバしすぎてて、電話にもあまり出てくれなさそうだからですかね。

野崎　顔に出てたのかな（笑）。

掟　15歳で田舎から出てきて、プロレス団体に入るって、最近はなかなかないパターンじゃないですか？　両親からは反対されませんでした？

野崎　親がプロレスを好きだったので、全然それはなかったです。

掟　親がプロレスファン！　理想的なデビュー環境ですねー

野崎　「自分のやりたいことをやればいいんじゃない？」ぐらいな感じで。

掟　勉強は好きですか？

野崎　大ッ嫌いでしたね（キッパリ）。

掟　それもあって、高校行かないでプロレスを選んだ？

野崎　若干それはあるかもしれない（笑）。宿題とかもあんまりやらなかったし。

掟　大丈夫です、夏休みの宿題を7月中にやる人に出世した人はいませんから。

野崎　アハハハ！　自分はもうあきらめてたんで。最終的にちょっと頑張って、無理だなって思ったら、「持ってこようと思ったけど忘れました」みたいな（笑）。

掟　うわっ、けっこうズルですね！（笑）。

野崎　そんな感じで、ごまかしながらやってました。

掟　でもアレですよ、嘘をつくとか言い訳を考えるのって、プロレスには必要な要素だと思うんですよ。

野崎　アハハハハハ！　そうですよね！

掟　ケガしてもしてないフリしたりとか。復帰後には、そういうのをマイクアピールに活かして頑張ってください。「いままで休みたくて休んでたわけじゃないんだ。会場に行く電車賃がなかっただけなんだよ！」みたいな（笑）。

野崎　アハハハ！　復帰したときにはいまのを使わせてもらいます！（笑）。

掟　やめておいたほうがいいです！　将来的に、どんなプロレスをしていきたいですか？

野崎　お客さんが観て「一番楽しい」って思ってくれるような試合をしたいです。

掟　痛いプロレスはあまりやりたくないって言ってたこともありましたよね？

野崎　痛いのは嫌いなんで、痛いプロレスより楽しいプロレスをやっていきたいです。それは変わらないと思います。

掟　気がつくとデスマッチデビューしてたとかいう意外な展開も期待してますよ！（笑）。

第38回 野崎渚（NEO女子プロレス）の巻

のざき・なぎさ■1990年11月■日、■■■出身　05年に地元でのNEOの興行を観戦し、入門を決意。中学卒業と同時に同団体に入門し、06年11月3日、後楽園ホールでダイナマイト関西&井上貴子組相手に破格のプロデビュー（パートナーは井上京子）　デビュー以来、負傷欠場が多く、今年の4月に左ヒザ靭帯損傷から復帰するも、6月27日の試合で眼窩底骨折で現在は欠場中。本人的には8月29日の大阪大会での復帰を目指すが、はたして!?　167cm、56kg

写真は今年5月のNEO後楽園大会でタッグを結成した野崎と風香。同じ日に引退したNEOのビジュアルファイター松尾永遠（現在はタレントとして活動中）の後釜に座るのは野崎様にケッ[illegible]

Cafe Porsche■掟ポルシェ■掟ポルシェのバンド「ロマンポルシェ。」今後のライブ予定！　9・6（日）@大阪鰻谷SUNSUI（06-6243-3641）、9・21（月・祝）@長野県松本市・りんご音楽祭（090-9345-3240）、10・21（水）@新宿ロフト（03-5272-0382）、10・23（金）@渋谷CHELSEA HOTEL（03-3770-1567）。詳細&その他の情報は掟ポルシェブログを死ぬ気で見ろ！[http://blog.excite.co.jp/porsche/]

椎名基樹のサムライ三昧

第[illegible]回

「自民党、そして空手最強幻想」

7.20『DREAM.10』のアンドレ・ジダ戦では、トレードマークとなっている三日月蹴りも炸裂させ、強豪ジダ相手に、わずか1ラウンド3分47秒でTKO勝利という、衝撃のメジャーデビューを飾った菊野。極真空手＆世界のTKの弟子らしいそのテクニックはもちろん、笑いながら殴る蹴るするこの男はいろんな意味で怖いよ！

日本における二大政党制の幕開けとなり、さらに長きにわたる一党独裁で最強の名を欲しいままにしていた自由民主党が、その座を譲ることになりそうな、この夏の衆議院選挙。

政治にはとんと興味がないが、サムライTVで見た対談番組『VERSUS』の大仁田×サスケの再放送が衝撃的におもしろかった。このコラムの特徴として、度々の時期を逃した話題で申し訳ないが、この大仁田×サスケ編が放送されたのはほぼ2年前らしい。

その頃はサスケが岩手県知事選で大差落選を果たした直後で、サスケの落込みよう、疲弊ぶりは、想像以上だった。対談中もその話題になると目が泳ぎ、らしくないネガティブな発言の連発。サスケいわく「岩手にいると冷たい視線を感じる」、「帰るところがない」そうだから、それも当然か。〝落選しました、ジャンジャン（笑）〟くらいに考えていたので、選挙って恐ろしいなと思い知らされる。

一方、大仁田は当時、現役国会議員であり、次の選挙不出馬を決める直前で、勢い調子に乗っていて絶好調。それが逆に選挙不出馬は本意でなく、噂されたスキャンダルによって、出馬を断念するしかなかったことを想像させる。天国と地獄のあいだを高速で行き来する、政治家とはまさにギャンブルのような恐ろしい世界だと痛感。

しかし、目の前に迫った地獄を知らぬ大仁田はこの番組では暴走発言を連発する素晴らしいサービスぶり。大仁田いわく、そのまんま東が宮崎県知事に立候補するとき、自民党公認を頼んできたが、それを自民党は認めなかったらしい。その後の東の行動を見るとなるほどと思う。したたかだなー東国原。さらに、当時の安倍首相と、おしどり夫婦としてメディアに非常に多く取り上げられた昭子夫人は、じつは凄く仲が悪いことも暴露。

一番、笑ったのは、前回の解散総選挙をやめさせようと、森元首相が当時の小泉首相のもとを訪れたとき「缶ビールと干からびたチーズしか出さなかった」と、森元首相が報道陣の前でグチった件について。この出来事の真相は、小泉首相が森元首相に、干からびたチーズをわざわざ持たせたというのだ。それがどんな効果をもたらしたかはわからぬが、その後、自民党は歴史的大勝利。

政治はプロレス同様アングルだと見栄を切る、大仁田。あの「干からびたチーズ会見」がアングルだとしたら、なんと天才的な小泉首相だろう。普通、考えつかないぞ、そんなこと。大勝にどう影響したかはともかく、当時筆者はあの会見には随分笑ってしまい、笑わされたほうが負けという気にさせられた。純一郎、プロレス界にほしい男である。

プロレス＆格闘技そのものから離れ、前置きが長くなってしまったが、川尻vs魔裟斗、そしてレスナー、GSP、さらに秋山が出場した『UFC100』は、前号の締め切り直後にあり、今号でのネタとしてはどうにも間が悪い状態なのだ。それでも書かせてもらうが、川尻vs魔裟斗、凄く良い状態に闘いの場が出来上がった試合だった。しかし、あのタオルも、ダウンの仕方も納得がいかない。川尻は「最後、何入りました？」と試合後コメントしていたが「何かが入った」という倒れ方には見えなかった。なんか消化不良。

そして、その後あの試合に対するマッハのコメントを読んで悔しさがふつふつと沸き上がる。「片腕で総合の試合をする」よりもマッハか五味にK-1ルールでやってほしいと思う。マッハは契約体重でやればいい。もちろん勝てるとは言わないが、MMAの選手で最高の立ち技はこの二人であることは多くの人が認めるところだろう。川尻戦ほど簡単にはいかないはずだ。実現の可能性ゼロのことを言っても仕方ないが、まったく悔しい。

そのマッハが見事撃沈してしまった『DREAM・10』。この興行で最も輝いたのが、菊野克紀だ。その彼の得意技「三日月蹴り」は、筆者にとっては非常に感動的な技である。

いまから10年以上前、筆者はセガのゲーム「バーチャファイター」に夢中になっていた。操っていたキャラはジャッキー。そのキャラのもっとも有効な技が「ダッシュハンマーキック（コマンド、前、前、キック）」であった。この技は、いわば、前蹴りと回し蹴りの中間。まさに三日月蹴りなのだ。一度足を引く動作がないために、前蹴りより速く、読みにくい。真っ直ぐな軌道だから回し蹴りよりも長い間合いで打てる。理想的な蹴りであるが、爪先を相手に当てなければならず、その難易度から現実にはあり得ないと思っていた。

しかし、夢の中で格闘家たるオレは、この技を得意技として、ヒクソンのヒョードルのミルコのアゴや鳩尾に、このダッシュハンマーキックを決めていたのだー（←キ〇ガイ）。それを見事に現実で見せてくれた、菊野選手。そして、その技術を秘めていた空手に敬意を表したい。それにしても、この三日月蹴りといい、一見動きが悪そうで、ガードががら空きに見える、菊野選手の構えといい、空手の技術は神秘的だ。あの殴り者ジダが、飛び込んでいけない、あの両手を突き出した構えには、どんな秘密があるのだろう。かつての最強、空手がいよいよ光り出したようでわくわくする。

最後にUFCでミアに圧勝したレスナー。いよいよ本物だ。ヒョードル戦が実現したら、vsノゲイラ、vsミルコ以上に説得力がある、最強決定戦になるだろう。

しかし、ジョシュがああなって、ざっと見渡すと、MMAのヘビー級選手の層の薄さを痛感する。MMAは、まだまだ発展途上のスポーツである。

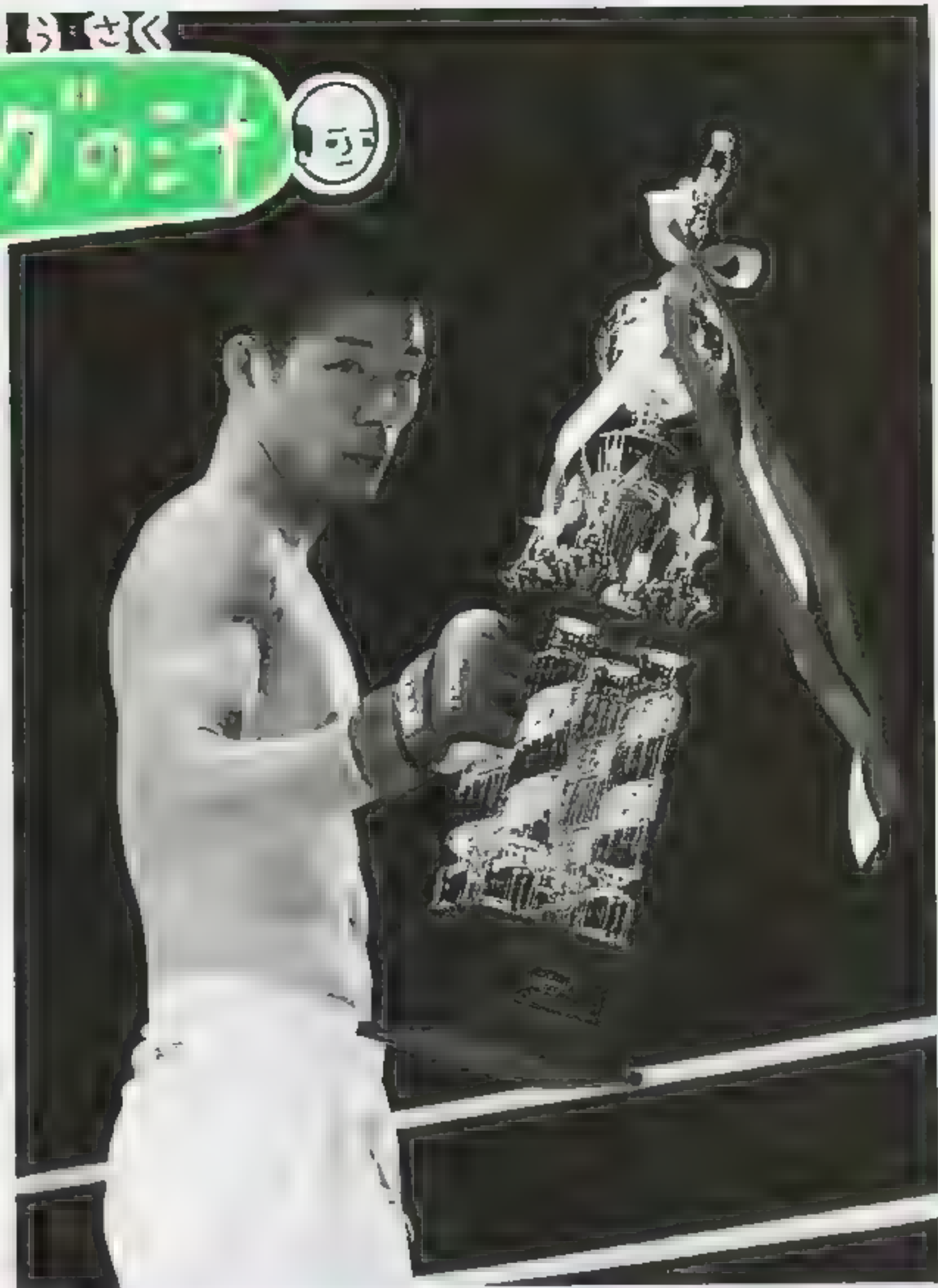
第45回

強い人はみんなUFC行ってほしい

花くまゆうさく

豆リングの汗

ヒョードルvsジョシュ中止で残念。そのあと、ヒョードルがUFCでなくストライクフォースと契約したのもさらに残念。UFCに行ってほしかった……。

残念といえば、青木vsシャオリンも残念。青木は試合だけがおもしろかったのに、今回初めてつまらない試合だったなぁ。寝技強くて容赦ないサディスティックな攻撃スタイルが、観てておもしろい青木。だから、そんな青木と寝技強い人うまい人が寝技勝負したときは、とても興味深くおもしろかった。今回、そういうのを期待してたけど、普通に総合の試合になったから残念。

総合だから当然だろうと言われたらまぁそうだけど、ガックリした。青木の総合の試合で観たいのは、DREAMだと菊野戦しかない。青木vs菊野戦実現したら、二人ともUFC行ってほしいな。二人とも、TBSイベントで全盛期をすごすなんてもったいない。UFCがあんな華やかで大メジャーな世界になってんだから、あっちで勝負してほしい。

「戦極」のトーナメント、金原戦の日沖は強かったなぁ。グラウンドであんなに圧倒するとは！ なので決勝は残念。あとメインで、ロープ利用を注意してスタンドで再開ってひでぇと思った。

今回もよかった
ジョン・チャンソン
コリアンゾンビ

山田辰夫さんのご冥福を心からお祈りいたします。

金ちゃんの どこまでやるの？

第37回 新弟子時代の夏の思い出の巻

皆さん、残暑お見舞い申し上げます。8月はDEEPの後楽園ホール大会に出場する話があったんだけど、それが流れちゃったんで、なんかヒマでしようがないよ（苦笑）。

7月はケータイサイト『kamipro Move』で毎日コラムをやってたから、毎日四苦八苦しながらも、やることがあったんだけど、8月に入ってからは釣りに行ったぐらいしか、ないもんな。やっぱりコンスタントに試合をしなきゃダメだな。次は10月になると思うんで、そろそろ始動しなきゃね。

で、『kamipro Move』でUインターの新弟子時代のことを書いてたら、昔のことをいろいろ思い出したんで、ちょっと書いてみようかな。夏のUインター道場といったらさ、とにかく暑かったのをよく覚えてるよね。リングスの道場も暑かったけど、Uインター道場の暑さは異常だったよ。道場の中は40℃ぐらいあってさ、練習生は毎日、練習前にリングマットを全部雑巾がけしたり、道場の掃除をするんだけど、掃除だけで汗だくのクッタクタになってたからね。

そんな中で、あの厳しい練習でしょ？ もうキツいなんてもんじゃなかったよ。基礎運動みっちりやったあと、スパーリングで先輩にボロボロにされるんだから、とにかくキツかったよ。

昔、猪木さんや馬場さんが若い頃、足下に水たまりができるまでスクワットやらされたっていう伝説があるじゃん？ 夏場は俺もスクワットしながらホントに水たまりができたからね。汗で足下がビショビショになるだけじゃないよ。ホントに水たまりなんだから。自分の体内にこれだけ水分があるんだって、驚くぐらいだったからね。

それでさ、そんなに汗が出るのに、練習生は水も飲めなかったからね。宮戸（優光）さんなんかは練習とか礼儀なんかには厳しいんだけど、水飲んだりすることは、とくに何も言わなかったんだよね。だけどさ、寮長がとにかく必要以上に新弟子に厳しいから（苦笑）。ちょっとでも水を飲んでるところを見られたら、「何、水飲んでんだよ」ってなるからね。

あんな40℃近くある道場で大量の汗を流しながら練習してるんだから、水分摂らなきゃヤバいわけじゃん。でも、ギリギリ俺らの世代ぐらいまでは、プロレスの道場に「水飲むな」みたいな風潮が残ってたんだよね。

だから夏場は練習中に先輩が飲んでるスポーツドリンクがうまそうで、うまそうで。でも、水分摂らなきゃやっぱり倒れちゃうから俺たちも知恵を働かせてさ、練習前に道場のリングの下にスポーツドリンクを隠しておくんだよ。なんかスポーツ飲料メーカーのスポンサーがついていたかなんかで、スポーツドリンクは道場にたくさんあったからさ。

それで、リング下っていうのは、替えTシャツとか入れておいて、汗だくになったらリング下で着替えたりするんだけど、そうやって着替えるふりして、隠しておいたスポーツドリンク飲んでたんだよね（笑）。それもさ、一人だけそういうことやってたら、バレたときに大変だから全員で隠して、もしバレても責任が分散するようにしてたんだよ（笑）。

俺もそんな時代からこの世界にいるんだから、長いことやってるよね。10月にはもう39歳になるんだけど、まだまだ身体は動くし調子もいいから、秋にはいい相手といい試合をして勝てるよう、頑張るよ。皆さんも、夏バテに気をつけて！ スポーツドリンクの飲みすぎには注意してください（笑）。

Hiromitsu Kanehara
本音炸裂コラムほぼ毎日更新中
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

『kamipro』読者、『kamipro Move』ユーザーが選ぶ

kamipro大賞

2009ほぼ上半期発表!

毎年恒例、kamipro大賞の上半期発表! ――といいつつ、もう8月になってしまった! というわけで、今回のkamipro大賞は09年1月1日から、なんと8月10日までという"ほぼ上半期"とも言えないくらい超前半戦の活躍ぶりを考慮し、『kamipro』読者&『kamipro Move』ユーザーに選出してもらった。今年のMVPは、いまのところクラッシャーがダントツリード!?

構成/松下ミワ

MVP 206pt

1st 川尻達也

2009年ほぼ上半期のMVPはブッチ切りでクラッシャー川尻達也! 難敵JZカルバン戦を見事にクリアし、昨年末から噂されていたK-1MAX王者・魔裟斗と対戦。敗れはしたものの、王者に噛みつきまくったその姿がファンを熱くさせた。そして2位は桜井"マッハ"速人相手に、階級を超えた闘いに挑んだ青木真也。この男の"ヒール"ぶりが見事にマッハ戦を爆発させたのだった。続く3位は試合中の事故で亡くなった三沢光晴。これまでの功績をたたえるかのように、ファンの票を集めた。さらに"ネコ柔道"でじわじわブレイクした小見川道大や『DREAM.10』でメジャーデビューをはたした菊野克紀ら新顔も登場。今年のまさに前半を沸かせた面々が顔を揃えているが、はたして後半戦はどんな活躍を見せてくれるのか!?

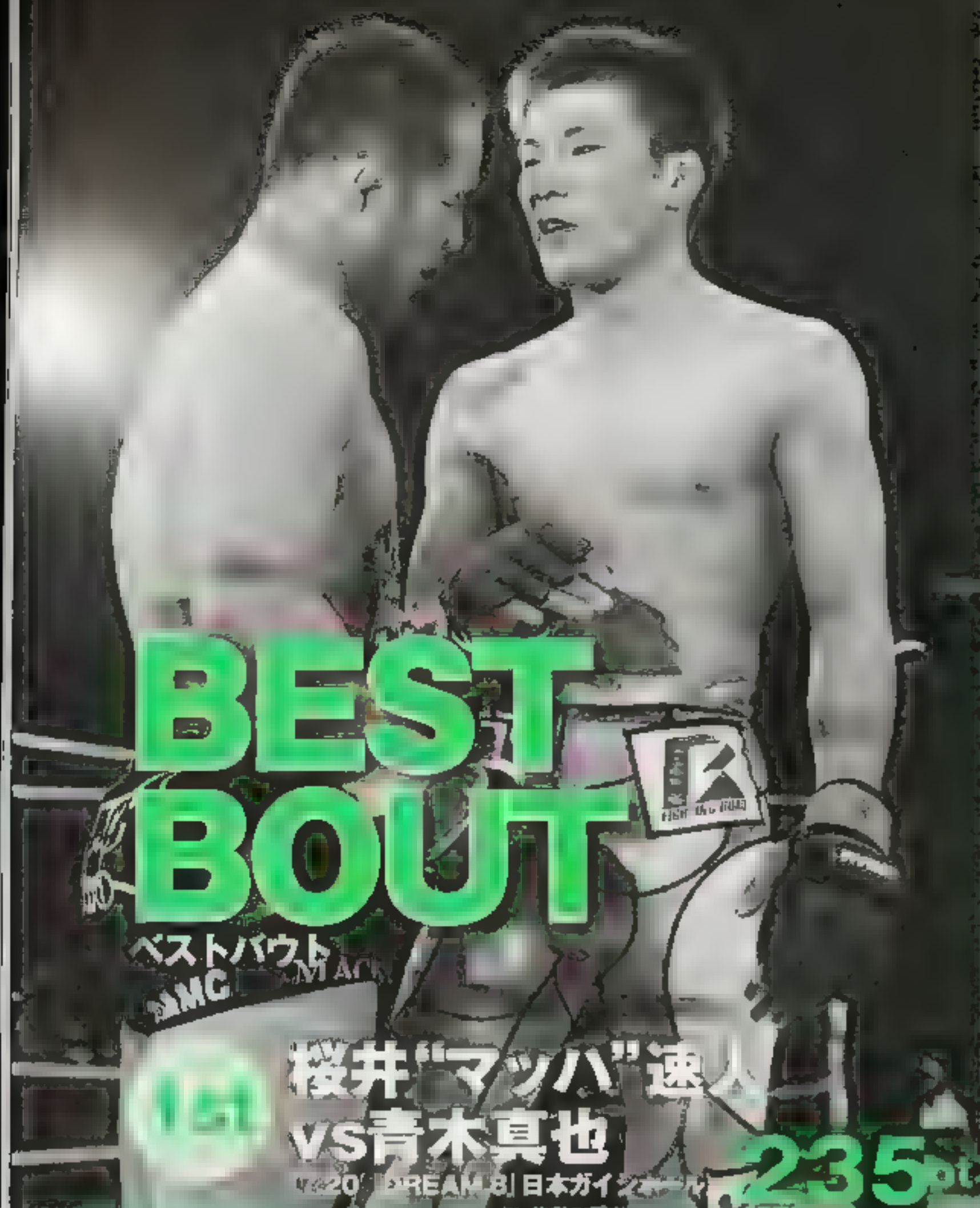
青木真也 73pt

三沢光晴 55pt

桜井"マッハ"速人 46pt

北岡悟 37pt

魔裟斗 35pt

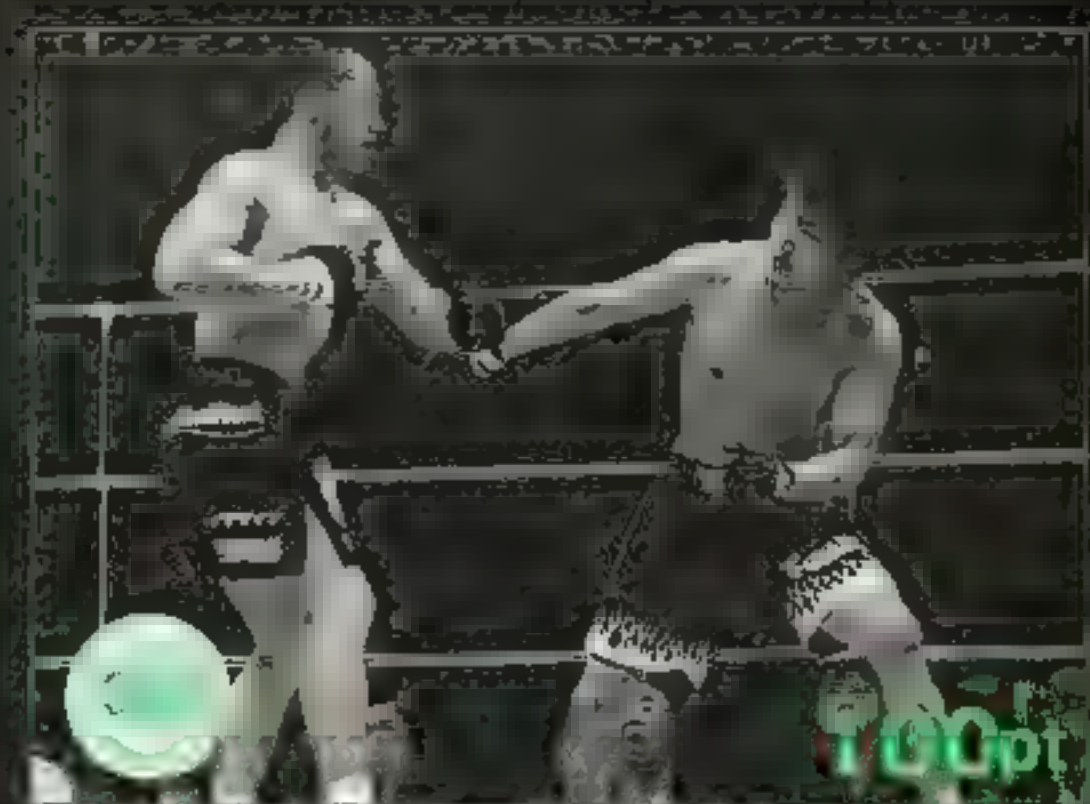
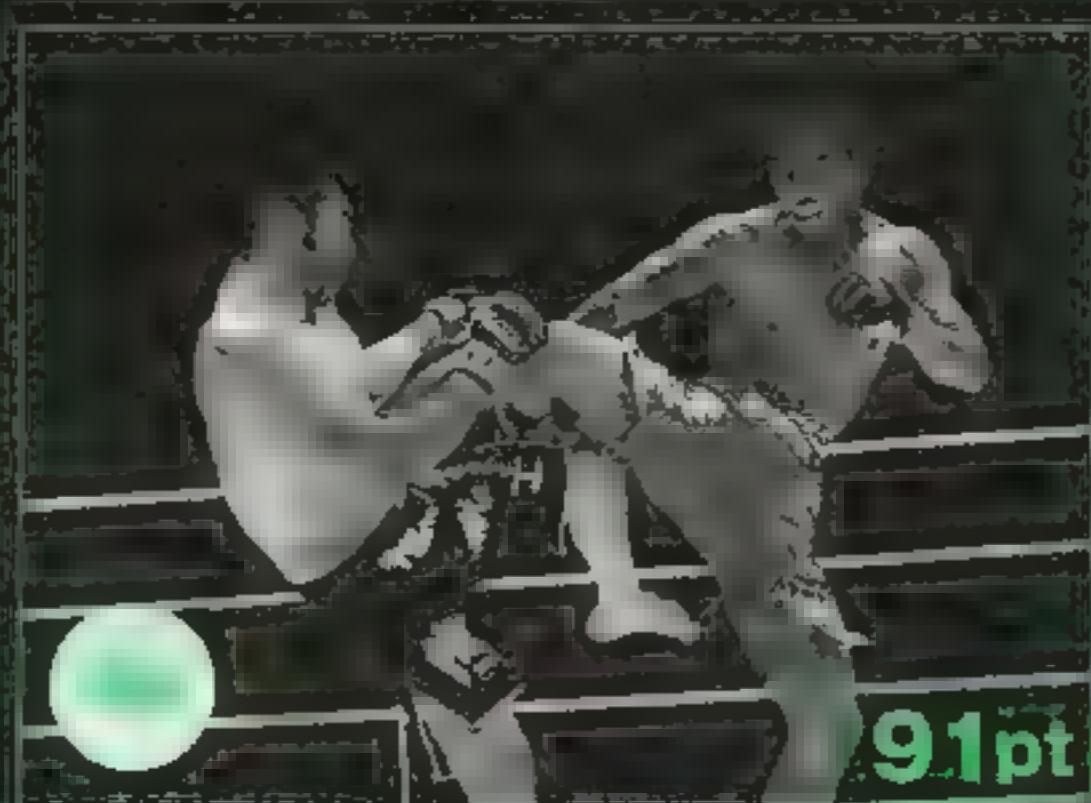
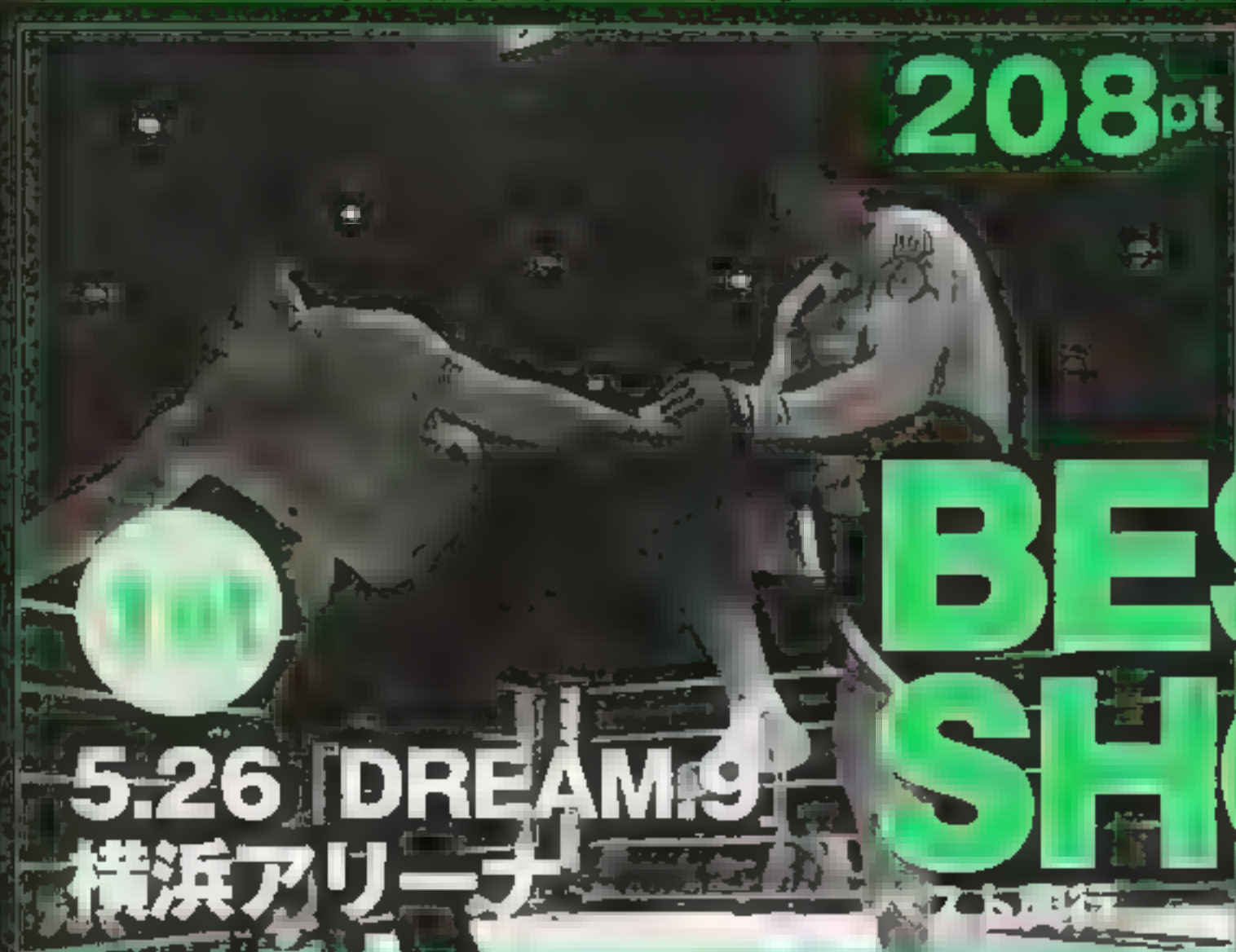
小見川道大 34pt

ブロック・レスナー 30pt

所英男 28pt

菊野克紀 27pt

BEST BOUT
ベストバウト

1st 桜井“マッハ”速人vs青木真也 235pt
（7.20「DREAM.8」日本ガイシホール）

魔裟斗vs川尻達也 136pt
（7.13 K-1MAX 日本武道館）

五味隆典vs中蔵隆志 100pt
（5.10修斗伝承FINAL JCBホール）

所英男vsエイブル・カラム 91pt
（5.26「DREAM.9」横浜アリーナ）

川尻達也vsJZカルバン 73pt
（5.26「DREAM.9」横浜アリーナ）

ベストバウトは桜井“マッハ”速人vs青木真也がトップ！　戦前の過激な青木の挑発に、マッハは「ナメくさりやがって！」と本気で激怒。その舌戦も含めて観る者を夢中にさせた両者はどっちも“勝者”だ！　そして2位には川尻達也の大一番、K-1ルールで闘った魔裟斗戦。こちらもカード発表記者会見での「何をそんなに偉そうに〜」という川尻の発言が魔裟斗を見事にイライラさせ、史上最高にファンの注目を集めた一戦に。続く3位は北岡戦の敗戦で2連敗を喫した五味隆典が復活を遂げた試合。4位も3連敗を喫し、どん底だった所英男が這い上がったエイブル・カラム戦がランクイン。崖っぷちの男たちがドラマを生んだ瞬間である！

6	日沖発vs金原正徳（8.2「戦極〜第九陣〜」さいたまスーパーアリーナ）	71pt
7	パウロ・フィリオvsメルヴィン・マヌーフ（7.20「DREAM.10」さいたまスーパーアリーナ）	38pt
8	ジョルジ・サンチアゴvs三崎和雄（1.4「戦極の乱」さいたまスーパーアリーナ）	31pt
9	中西学vs棚橋弘至（5.6 新日本プロレス 後楽園ホール）	27pt
10	エメリヤーエンコ・ヒョードルvsアンドレイ・アルロフスキー（1.24 アフリクション 米国カリフォルニア州アナハイム・ホンダセンター）	21pt

BEST SHOW

1st 5.26「DREAM.9」横浜アリーナ 208pt

2	5.10 修斗伝承FINAL JCBホール	190pt
3	7.20「DREAM.8」日本ガイシホール	118pt
4	8.2「戦極〜第九陣〜」さいたまスーパーアリーナ	109pt
5	7.13 K-1MAX 日本武道館	81pt

ベスト興行はスーパーハルクトーナメントや山本KIDが復帰戦を闘ったフェザー級GP、さらに川尻vsJZと盛りだくさんだった「DREAM.9」が君臨。賛否両論だったハルクも結果的にはおもしろかったからOKってことか!?　また、2位には五味隆典の復活や、戦極vsDREAMとして煽られた廣田瑞人vs石田光洋が行なわれた修斗20周年記念大会。ひさびさの五味らしい五味に興奮だ！　さらに4位、5位には戦極、K-1MAXがランクイン。今期は幅広い団体で名イベントが生まれている模様。はたして後半戦の王者はどの団体に!?

ワーストMVP

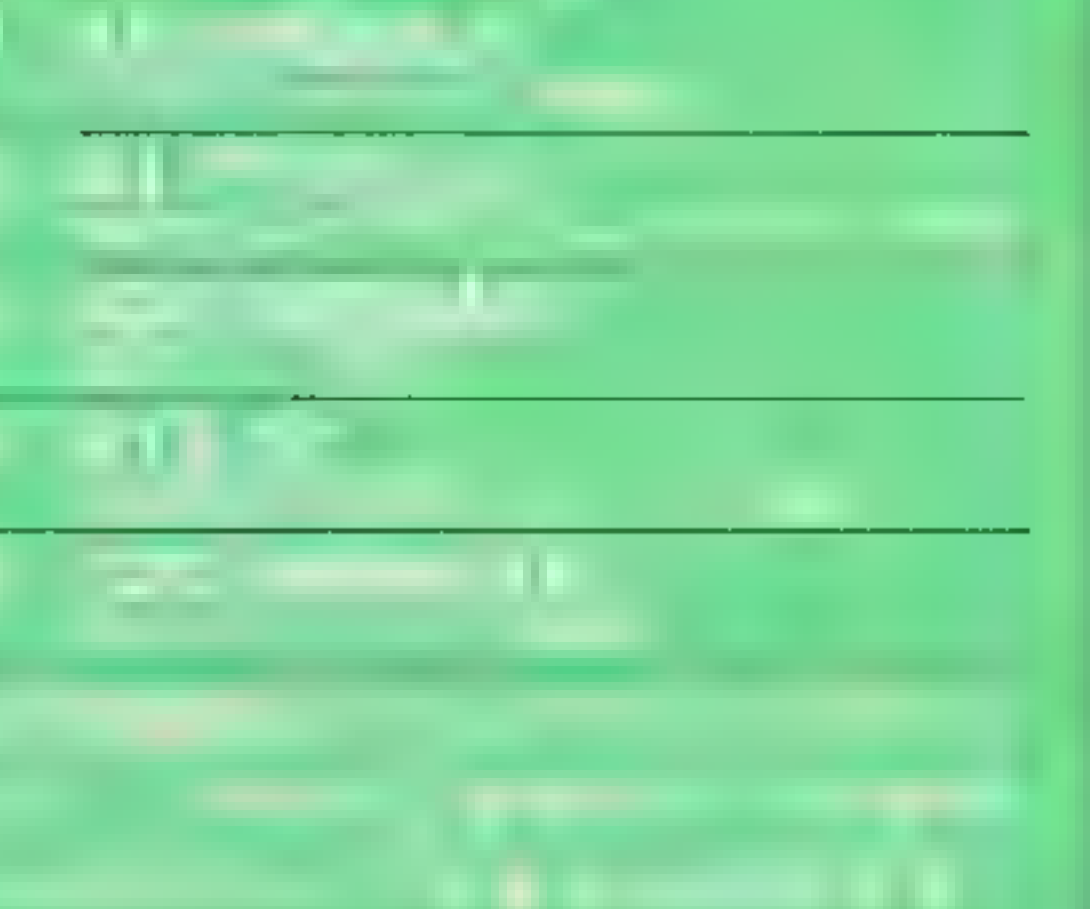
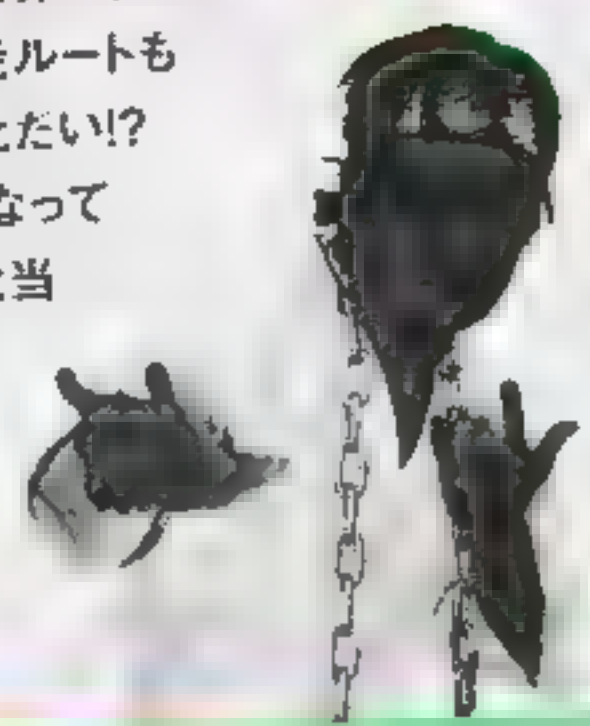
ワーストバウト

ワースト興行

it!!

ジ”

ソン

オイオイオイ! 今月はなんだか芸能界の話題が騒然だそうじゃないか? 逃走ルートも「言いたくない」とはどういうことだい!? しかしユーたちがそんなニュースに夢中になってるあいだにオレはパチスロで一発ガツンと当てちまったぜ! でも、隣のビッグボーイにカツアゲされて一文無しさ! アッハッハッハ! そんなオレの読者ペイジ・ジャクソン、今号も見てくれよなっ!

137号へのお便り紹介

川尻達也選手の記事がよかったです。川尻vs魔裟斗戦は自分にとっては凄く一番格闘技を観ておもしろかったです!! K-1vsDREAMはまだ観たいです!
【埼玉県・高橋徹さん・会社員・24歳】

D おっと、K-1vsDREAMったって、どんな選手を闘わせようってんだい? そんなことしちまったら、またあのバカサバイバーがアングリーしちまうぜ!

皇帝戦直前! ジョシュ・バーネットの記事がよかった。ジョシュ選手も言うように、ヒョードル選手が極めるイメージはないですね。この自信が試合にもつながり、また新しいMMAの歴史を作ってほしいと思います。
【福島県・樹野春樹さん・会社員・29歳】

D ユーはきっとアフリクションが中止になる前にこのレターを送ってきたんだな。しかし、ヒョードルvsジョシュがおじゃんになって大会が潰れるなんて前代未聞だ。みんなストライクフォースに行っちまったようだが、……ん? 一人だけ、ノー・ストライクフォースなボーイがいるのは気のせいかい?

浅草キッドさんのインタビューがおもしろかった。やっぱり本物の格闘技好きの話はおもしろい。
【神奈川県・田口勉さん・会社員・40歳】

D やっぱり『kamipro』を読んでるボーイズ&ガールズはキッドの二人がフェイバリットだな。その人気をちょっとでもオレに分けてほしいと思うが、そんなことがムリだというのはワン・ハンドレッドも承知だぜ!(泣)

森達也さんのインタビューがおもしろかったです。前号のお金特集に続いてプロレス界就職希望の方も少ないんだなと感じました。そんな中で「プロレスとはドサ回りである」と言われた森さん。それこそが身の丈というか、本来の姿なんだなとあらためて思いました。まあ、それも夢のない話ではあるんですけどね。
【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・44歳】

D そう言うけどよお、プロレスは昔はあんなにブームだったじゃないか。オレは、そのへんがイマイチわからないぜ。やっぱりいまみたいな時代になっちまったのは、ミスター・タカハシってヤツのせいなのかい?

中村祥之さんのGPWAインタビューが興味深かったです。なかったことになってるGPWAを検証する『kamipro』の姿勢に感心しました。『ハッスル』で中村カントクvs仲田ドラゴンの試合が観たかったです。
【兵庫県・春名義行さん・会社員・42歳】

D GPWAって言われても、オレにはさっぱりピンとこないよ。まったく、プロレスの連中はアルファベットを並べればちゃんとしたように見えるだろうって安易に考えすぎなんだよな。『S4』だって『JTT』だって、オレにはノーサンキューだぜ。……ま、GPWAに比べれば、ちょっとだけおもしろいけどな! え? おもしろくない?

137号 おもしろかった記事 RANKING

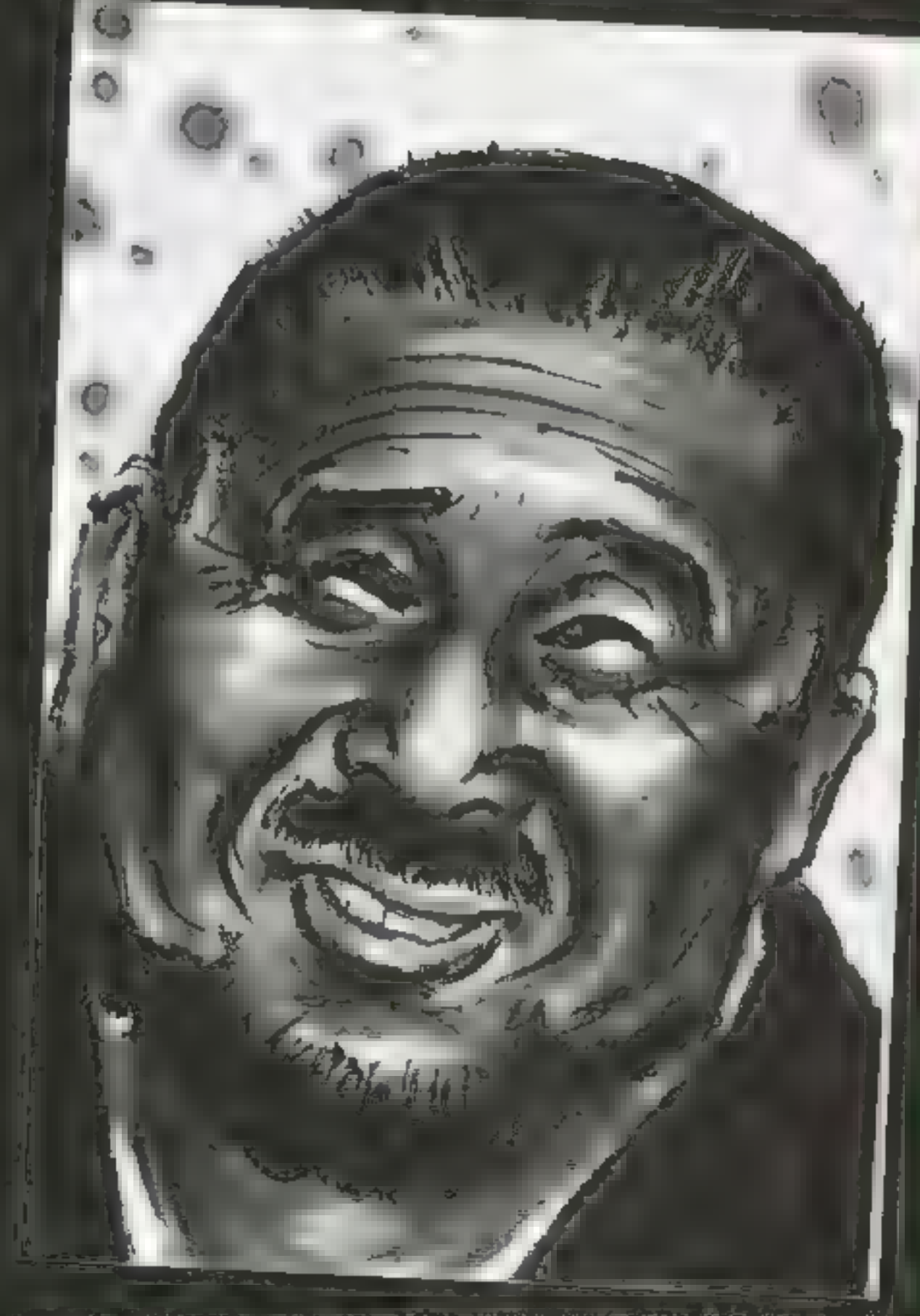
- NO.1 川尻達也
- NO.2 ザ・グレート・カブキ
- NO.3 石井慧×フィル・バローニ
- NO.4 渡辺一久
- NO.5 浅草キッド

137号のトップはタツヤだったか。近ごろのユーたちの反応を見ていると、うすうすそういうことになるんじゃないかと思ったぜ。しかし、サトシ・イシイ&バローニの対談は絶品だな! ハガキを送ってくれたボーイズ&ガールズの中には「イシイはまだ筋肉四兄弟というには身体ができてない」というナンセンスな意見もあったけど、オレは大満足だぜ!!

言われると説得力がある。しかし、痛くないように技をかけるとなると、ホ

ハワイアン・グレイシーさん/TKの次は続けて弟子のキクノを描いてくれたんだな!! キクノは原チャリに乗っ

東京都・サカモトカズヤさん/まだまだレジェンド・ミサワの投稿は止まらないな。『kamipro』ではとんとインタビューを見かけなかったが、それでもこれだけの人気だなんてミラクルだぜ!!

R.I.P.
You're Emerald Legend M.M Elbow Forever '62 6.18 ~ 2009 6.13

大阪府・剣洋人さん/オレがこのページを担当してからミスター・ヤツのイラストを見たのは初めてだ! 今度はツヤ・アキヨシのイラストでも頼むぜ! クックックック。

『戦極～第九陣～』は新宿のパブリックビューイングで観たぜ!

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ"ジャクソン

高山インタビューがよかった。三沢さんの人間味あふれるやさしさを知ったから。小橋選手にも「復帰はいつになるか?」という質問は一切しなかったそうです。本当のやさしさを持った男の中の男でした。【神奈川県・佐々木学さん・会社員・44歳】

D今号もミスター・ミサワに関するレターはたくさん来てたぜ。オレは『スパルタンX』ぐらいの知識しかないが、ビッグハートだって話はあちらこちらから湧いてくるんだ。まったく寂しい話だぜ。

三沢光晴さんの死で、プロレス界に暗雲が立ちこめていますが、ライセンス制なり対策を早く講じることが一番の供養になると思います。あと、「UFC躍進を止めるにはオレを殺すしかない!」と絶叫するダナ・ホワイトに猪木イズムを感じたのは自分だけでしょうか?「オレの首をかっ切ってみろ、コノヤロウー!」(ヨダレを垂らしながら)。【福島県・毒柴さん・変態県支部長・38歳】

Dダナに猪木イズムを感じるだって? そういえば昔、PRIDEのボスだったミスター・サカキバラからも猪木イズムを感じるというレターを見たことがあったな。やっぱりトップ・プレジデントになるヤツは万国共通で猪木イズムが欠かせないってことだな!

石井慧×フィル・バローニ対談がおもしろかった。バローニがとてもいい味出していた。日本マットに復帰してほしい。【埼玉県・皇帝幸さん・イベント関係・23歳】

Dまったく、フィルってヤツは。アッパッパッパ! 寂しそうに一人で練習しているサトシを誘ってハウスにまで泊めてあげるなんて、なんてユーはファンキーなんだい!? しかし、フィルの来日の噂を聞いたのはひょっとしてオレだけかい? え!? 中止かもだって!?

大槻ケンヂの「合気道プロレス論」がおもしろかった。これは、もっともだと思う内容でした。ぜひ連載してほしいです。【香川県・佐々木輝さん・自営業・40歳】

Dこのミスター・オオツキが言うには、アイキドーとプロレスが一緒だって言うんだな。しかし、これは意外と説得力があるとオレは思ったぜ。そしてミスター・オオツキが愛読しているという『月刊秘伝』にオレもいま夢中だ!

「座長なきあとの時代」座談会がおもしろかった。三崎のことを話していたのがおもしろい。"座長"がいなくなって今後格闘技はどうなるのか、ここ1~2年でだいぶ変わってしまうのだと感じました。【長野県・矢崎佳和さん・会社員・32歳】

D1、2年で格闘技がガラッと変わってしまったって、何もミステリーなことはないぜ。幸せそうに見えたアイドルだって、一歩間違えりゃ次の日から逃走しちまう世の中だ。油断していると、オレのバンドの曲だって、明日からバカ売れするかもしれないぜ! クックックック。

ザ・グレート・カブキのプロレス技術論がおもしろかった。さすが、カブキに言われると説得力がある。しかし、痛くないように技をかけるとなると、ホントにプロレスは何を見せたいのかがますますわからないなと思った。【長崎県・長崎トロフィーさん・自営業・33歳】

Dまたここにも悩めるプロレスファンのボーイかい? まったくマット界というヤツはすっかり病んだ人間ばっかりになっちまったなあ。病むくらいなら別の楽しいことを見つけてみるのもいいぜ! たとえば、オレの歌とかよお! アッパッパッパ!!

プロレスはどこに向かっているのだろう。プロレスはいろいろな見方や答えのない会話を楽しむことができると思います。やはり幻想を見せられるプロレスはあらためておもしろいと思う反面、ガッカリする現実もあったりで……。でもだからおもしろい!【神奈川県・大内和彦さん・会社員・35歳】

Dユーも悩めるプロレスファンなんだな……。たまには気晴らしに一杯どうだい?

ブロック・レスナーがUFCのチャンピオンを防衛したのが凄く嬉しいです! レスナーならヒョードルに勝ってほしいと思えるファイターだと思います。でも、実現しないんですよね?【千葉県・あのなのなさん・会社員・30歳】

Dそれはダナ様とミスター・ワジムにかかってるんじゃないのかい? ユーはレターでも送ってみたらどうだい? 無期限停止処分をファンの嘆願書で解除しようっていうわけじゃないから、ダナ様も読んでくれるかもしれないぜ!

読者ペイジジャクソンをすぐにやめるべき。あのページだけは本当につまらないし嫌になる。あれじゃ読者の投稿だけを載せたほうがまし。【kamipro.com投稿】

Dわかってる、わかってるって。どうせオレなんか嫌われ者ってヤツだろ? ふう……。最近、サダハルンバの気持ちがちょっとだけわかるようになってきたぜ。

ハワイアン・グレイシーさん/TKの次は続けて弟子のキクノを描いてくれたんだな! キクノは原チャリに乗ってるって知ってるかい?

ハワイアン・グレイシーさん/これはTKなのかい? オレにはガッツ石松に見えるぜ! クックックック。

ハワイアン・グレイシーさん/モノクロで見えないのが残念だが、アオキに赤い柔術着を着せるなんて、これは強いぜ。いまの「着せる」というのは[illegible]とは関係ないぜ

神奈川県・亜衣さん/これはまた毒のないシンヤ・アオキだな。本人はもうミスター・ポイズンみたいなボーイだから気をつけろよ!

目撃情報が止まらない!

★先日、自由が丘で遊んでいたら、なんとフランフランで女優の雛形あきこを発見しました。さすが自由が丘だなと思い、店を出てぶらぶら歩いていると、今度はDREAMに出てる山本篤を目撃しました。山本篤は友だちと三人で遊んでいたようで、大声で楽しそうにはしゃいでいました。でも、雛形あきこを発見したときのほうが嬉しかったです。【東京都・田中が丘さん】

★少し前ですが、渋谷を歩いていると、大きな白いマスクをつけた北岡悟を目撃しました。しかも梅木レフェリーが一緒のようでした。ショッピングなのか食事の帰りなのかはわかりませんが、とても親しげに話してました。二人は仲良しなんでしょうか?【東京都・吉岡ゆかりさん】

★この前、新宿を歩いているとチェ・ムベ選手がTシャツに短パンという簡単な格好でウロウロしてました。「戦極~第九陣~」の直前だったので、来日してたのかなと思います。でも、予想以上に大きかったです。試合は残念でしたが(笑)。【埼玉県・エブリデイナイトフィーバーさん】

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって! 待ってるぜ!

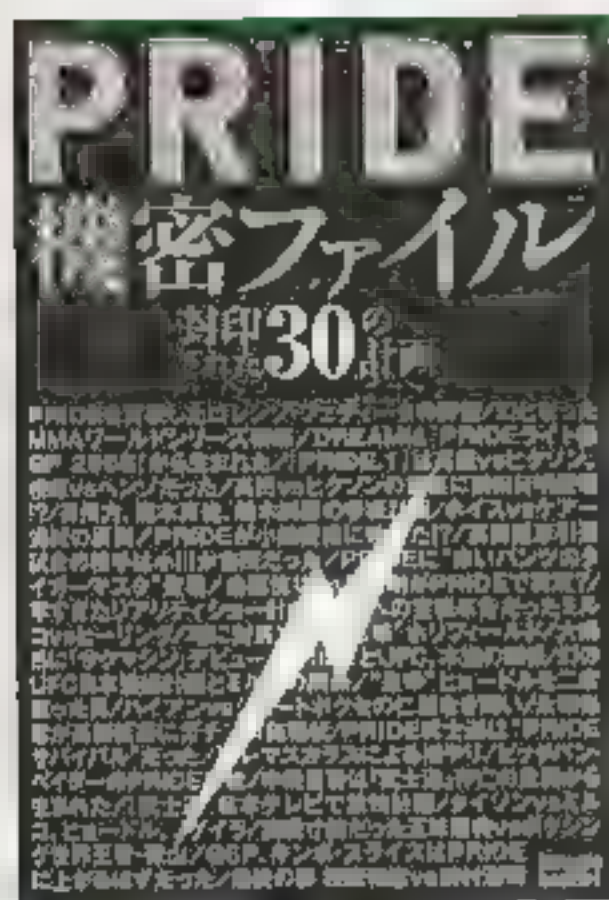
こんな情報も24時間どんとこい!
ってヤツだ。
●譲ってほしいもの
●タレコミ情報
●選手に対するコメント、試合の感想
●その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・
イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「マンモスかなピー」係まで。

携帯サイト「kamipro Move」からの投稿もできるぜ。

kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ!
死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画

ついにその秘密のベールを解禁!!
PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★高田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早1年あまり――世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘! さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録!

B6変型判 292ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

八百長★野郎

ミスター高橋本から7年……
"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載!

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考! "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

プロレス狂の詩 夕焼地獄流[illegible]

プロレス狂がシビれる
凄玉たちのインタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×亜澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り!

B6変型判 304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 [illegible]

吉田豪インタビュー11連発!!
インタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林★阿修羅原★鹿芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判 344ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集

破壊王の三回忌追善本!!
泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景(獣神サンダー・ライガー夫人)★馳浩★藤波辰爾★田中秀和★ケビン・ランデルマン★三浦大輔(横浜ベイスターズ投手)★折鶴兄弟 ほか

破壊王の原点である新日関係者が語ったエピソードが盛りだくさん! みのもけんじ書き下ろし「紙のプロレス・スターウォーズ」も収録!

B6変型判 304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

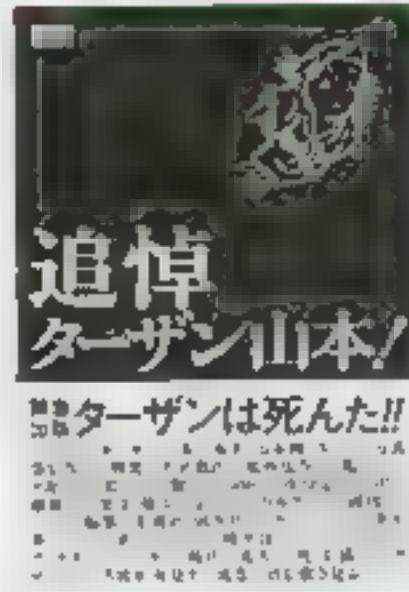
新日本プロレス学習帳

"業界の盟主"の魅力を
凝縮したインタビュー12連発!

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『Kamipro』誌上に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり!

B6変型判 320ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

生前追悼 ターザン山本!

え、ターザンが死んだ!?
90年代プロレスを徹底検証!

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判 304ページ
定価=1,470円(本体1,400円+税)

U.W.F.変態新書

ダメな大人たちへ捧げる
"変態"とUWFの晩餐!

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本!★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?(菊地成孔スペシャルインタビュー)★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

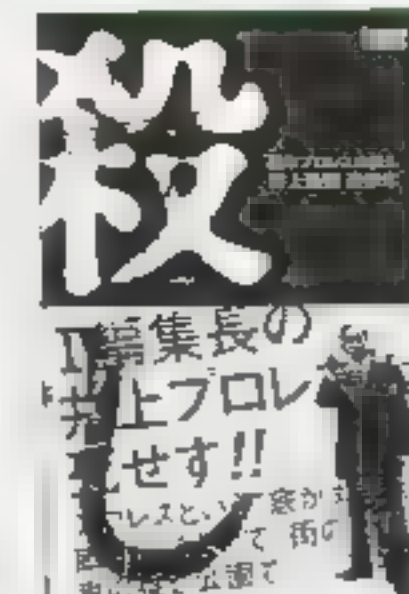
底なし沼 活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本

井上義啓とは底が丸見えの
底なし沼である――!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!! 氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録!

B6変型判 312ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

殺し 活字プロレスの哲人 井上義啓 追悼本

"殺し"文句が心を打つ!
井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★I語録★井上義啓とは何か?/アントニオ猪木/水道橋博士/金沢克彦/松島弥生(井上義啓・姪)★『kamipro』未公開"喫茶店トーク" ほか

多くの"プロレス者"に影響を与えた"I編集長"の追悼本!! プロレスという"底が丸見えの底なし沼"に浸かり続けた男の凄みを感じろ!

B6変型判 304ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区一番町6-1 TEL 0570-060-555(代表)[通信販売のお問い合わせ先]http://www.enterbrain.co.jp/

8・2『戦極～第九陣～』は波乱の結末続出!
〝リアル〟すぎるにもほどがある!!

『戦極』、たいへんおもしろうございました。

「波乱最高! リアル最高!! 『戦極』絶好調!!!」とばかりに、おおいに盛り上がった『戦極』真夏の陣! キモ強王者陥落に奇跡の逆転優勝、そして謹慎前の激勝にまさかの日本復帰戦失敗——見どころがテンコ盛りだった『戦極～第九陣～』大特集、いざ!

いや〜、廣田さん！　石田光洋戦に

かなって思います（笑）。

けですね。

北岡悟に戦慄のTKO勝利！

「オイが『戦極』ライト級のチャ・ン・ポ・ンたい」

（長崎ギャグ）

ちょっぴりシャイな破拳（バグ）王子が吠える！

いまは相手が格上だろう

「誰でも来い！」ですね

諫早（いさはや）のスター

廣田瑞人

キモ強王者陥落！　衝撃の結末が続出した8.2『戦極～第九陣～』、最後に大仕事をやらかしたのは“戦慄の破拳王子”廣田瑞人だ！ 戦前から激しい舌戦を繰り広げた北岡悟から見事にTKO勝利、日本のライト級戦線をかき乱す九州男児のちょっぴり控えめな咆哮を聞け！

聞き手／鈴木佑　撮影　菊池茂夫　試合写真／乾晋也

――いやぁ～、廣田さん！　石田光洋戦に続いて、大一番でやっちゃいましたね！

廣田　……やっちゃいましたよ！

――そしてケージフォースのライト級王座に続いて、二本目のベルト！

廣田　そうですね……、やっちゃいましたよ（ニヤリ）。

――とにかくやっちゃいましたか（笑）。昨日は地元の長崎からも応援団がけっこう来たみたいですね。

廣田　まぁ、友だちがちょこちょこですね。あとはこれまでのキャリアで一番大きな試合だったんで、初めて両親を会場に呼んだんですけど。

――いつも廣田さんの試合を辛口評価してくれるというお父さんですね。それは自分から誘って？

廣田　そうですね、普段はＰＰＶ観戦なんで。なんか、今回も親父は試合前にアドバイスらしきものをくれましたよ。

――ちなみにどんなお話を？

廣田　「脚の毛をツルツルに剃って、クリームをヌルヌルに塗っておけ！」って言ってました（笑）。

――そんなの一発退場ですよ！（笑）。

廣田　ハハハ！　試合後にも親父と話したんですけど、やっぱり喜んでくれましたね。自分の腰にベルト巻いて長崎に持って帰ろうとしてましたから（笑）。

――ダハハハ！　お母さんからは何か？

廣田　嬉しそうに笑ってましたね。母親はいつも俺の試合は、結果がわかってから映像で観るんですよ。だから昨日は怖かったんじゃないですかね。

――初めてリアルタイムで観たわけですもんね。

廣田　まぁ、両親にはいろいろ迷惑もかけてきたんで、立派に育った姿を見せられたかなって思います（笑）。

――試合後に祝勝会はしました？

廣田　いや、やってないですね。さすがに昨日の試合でもうグッタリだったんで。なおかつ、あんまり寝れてないんですよ。いつも試合後は興奮して寝れないもんなんですけど、昨日はいつも以上に身体の疲れや痛みがあったから寝つけなくて。

――派手な目の青タンが激戦を物語ってますね。

廣田　なんか目の奥がイッちゃって、骨折してるみたいです。じつは試合後に一晩入院したんですよ。で、さっき病院から直接このホテルに来て。

――うわ～、勝利の代償も大きかったわけですね。

廣田　とりあえず手術するほどではないって言われてるんで大丈夫だとは思いますけど。

――廣田さんといえば試合ごとに髪の色を変えてますけど、今回のテーマは？

廣田　まぁ、タイトルマッチだったんでとにかく目立てばいいかな、と。強いて言うなら夏っぽく“南国の鳥”っていうか（笑）。

――確かに怪鳥っぽいですね（笑）。今回は錚々たるファイターが出場する中でメインを務めたわけですけど、プレッシャーはありました？

廣田　意外とそんなに感じてなかったですね。石田戦のときのほうが自分の進退

Mizuto Hirota

[09.08.02「戦極～第九陣～」]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○廣田瑞人 vs 北岡 悟×
（4R 2分50秒 TKO）

北岡は1ラウンドからテイクダウンを連発、フロントチョークで廣田にタップを迫っていく。しかし、廣田はパンチを効果的に被弾させ、試合の流れを自分に引き寄せる。猛攻をしのがれ消耗を隠せない北岡。最後は廣田が北岡のタックルを受け止めると頭部にヒザ蹴りを連発。レフェリーストップで第2代ライト級王者に輝いた。

を懸けてたこともあって、もっと追い詰めてた気がします。ただ、待ち時間が長かったんで、どのタイミングでアップすればいいんだってちょっと思ったくらいで。

——大会は波乱の結末続きだったんですが、ほかの試合は観てました？

廣田　フェザー級の準決勝とか最初のほうだけですね。とにかく「やるしかない、ここまで来たら腹くくるしかない」って感じだったんで、自分のことで精一杯でしたから。気持ちよくKOで勝って「お盆に地元でいい夏休みを取りたいな」って、そればっか考えてました（笑）。

——最後のマイクアピールは地元の長崎弁でしたね。

廣田　前から友だちに「長崎弁でアピールしてくれ」って言われてたんですよ。いままでは長崎弁が通じなかった場合に、お客さんに「もう一回しゃべれ！」って言われるのが嫌だったんで使わなかったんです（笑）。今回はちょっと九州男児をアピールしとこうかなと思って（ニヤリ）。

——石田戦のときは下馬評段階から格下に見られてる自覚があって、相当気合いが入ったってことでしたけど今回は？

廣田　いや、石田戦よりもさらにやる気になりましたよ。今回の下馬評がどうだったかはよく知らなかったですけど、やっぱり北岡選手自体にムカついてたんで。

——それは試合前の舌戦で？

廣田　そうですね。記者会見で「次元が違う」って言われたのが一番腹立ちましたね～（シミジミと）。あとは『戦極G！』で観たんですけど、「頭悪いのかな？」って言われたのも相当トサカに来ましたね（笑）。

——南国の島だけに（笑）。でも、廣田さんはポーカーフェイスでクールな対応に見えましたけど？

桜田直樹が語る廣田の素顔

北岡選手はスタートダッシュの優れた選手なので、どんな状況でも慌てずにいこうと思ったんですけど、1R早々のタックルには一瞬驚きましたね。でも、廣田はグラウンドに持ち込まれてもしのぐ練習をさんざんしてきたので、2R以降は見ていても比較的に落ち着いてました。ウチにはサンボで王者になるくらいに足関が得意な選手がいるんですけど、その選手と猪木アリ状態からの練習もさんざんやりましたし。

試合の戦略は私中心に道場のみんなで考えてます。廣田は出稽古はあんまり行かないんですよ。べつに私が「行くな」って言ってるわけじゃないんですけどね。本人なりのこだわりがあるのかもしれないですね。

ウチに入門した頃の廣田ですか？　あまりしゃべらないというか、寡黙な人間でしたよ。基本的に恥ずかしがり屋なんでしょうね。ただ、やっぱり芯は強いと思いますね。仕事もずっと同じ肉体労働を何年も続けてましたし。本人の中で「強くなる、有名になる」って目標にブレがないんで、練習のペースも乱れないし。

彼は普段寡黙なぶん、自分の中に大きな志を秘めてるんじゃないですかね。やっぱり男は誰しも認められたいという願望があると思うんですけど、そういうパワーが強いっていうか。だから自分のことをアピールするために、ああいった髪型をするのかもしれないし（笑）。

私が教えてきた中でもマッハや帯谷（信弘）みたいに、ほかより秀でてる選手というのは揺るぎない"自分"というものを持ってるんですけど、廣田にもそれが感じられますね。練習でどんなにボロボロになっても、「俺はダメだ」みたいに弱気になることもないし。彼はほめて伸びるタイプでも叱って伸びるって感じでもないですね、そ

試合後の北岡選手の言葉は「何が言いたいんだろ？」って気になった

廣田　まぁ、べつに言わせておこうかなっていう感じでしたよ。口ゲンカは得意じゃないし、それよりは実際のケンカのほうがいいですから。でも、あの舌戦で試合が注目されたから、結果的にはよかったかなとは思いますね。逆に自分もあれこれ挑発されて「北岡選手だけには負けられねえ、練習しよう！」ってやる気になりましたから。ただ、ちょっと「えっ？」って思ったのが、北岡選手が試合前の会見で話しかけてきたんですよね。

――え？　それは舌戦を直接仕掛けてきたとか？

廣田　いやいや、いきなり「試合コスチュームは何色穿くんですか？　黒ですよね？」って。だから「え？　あ、はい」って言答えただけなんですけど（笑）。

――なんとなくその場の雰囲気が想像できますね（笑）。さて、試合を振り返りたいんですが、事前に北岡さんの試合は相当研究しましたか？

廣田　何回も映像で見て対策を練りましたよ。さすがにあの入場シーンは飛ばしてましたけど（笑）。

――実際に相対したときに威圧感は？

廣田　単純に身体はでかいなと思いましたね。やっぱりあれだけのフィジカルなんでパワーも凄かったですし。

――試合開始早々、いきなりテイクダウンされましたね。

廣田　「うわ、ヤッベー！　やっちまった」ってあせりましたね。あれで1ラウンド目は、とにかく北岡選手がタックルに来てもしのいでいこうって思いました。最初は早い段階で倒しにいく戦略だったんですよ。どっちが勝つにしろ、試合は長くならないと思ってましたし。でも、長期戦になればスタミナは俺のほうがあるだろうし、相手の攻め疲れを待とうと思って。

――プランを変更した、と。

廣田　やっぱり横田（一則）戦が参考になりましたね。横田さん本人からも「相手の型に入ったらダメだから、その前に逃げないと」ってアドバイスをもらってたんで。

――どのあたりから自分のペースをつかみました？

廣田　2ラウンドの途中ぐらいからパンチが当たりだして、手応えを感じるようになったんです。3ラウンドはちょっと盛り返されたというか、俺も休憩してた部分もあってテイクダウンされたんですけど、もうあせりはなかったですし。

――徐々に勝機が見えてきた、と。

廣田　とにかく北岡選手の息づかいが凄かったんですよ。「フュ～ッ！　フュ～ッ！」って荒いなんてもんじゃなかったんで、「コイツ、大丈夫か？　立ってるのもきついんじゃないか？」って思って。

「戦極」vsDREAM開戦と言われた石田光洋戦（5.10 修斗）でも、インパクト大な秒殺TKO勝利を収めた廣田。「勝ち逃げする気はない」というこの"殴り者"は、いったいどこまで成り上がるのか？

――北岡選手は追い込まれながらも目は死んでないって感じでパンチを振るってましたけど、執念とか怖さみたいなものはありました？

廣田　俺、殴るときはあんまり相手の顔を見ないんですよ（笑）。首のあたりを見ながら殴るほうが全体も見えるんで、あんまりそのへんは気にならなかったですね。北岡選手の試合を見てると、タックルに行くのに疲れたら打撃にいくパターンが多いんですよね。だから「これは俺のペースだ」って思いました。

――最後はグラウンドでのヒザ蹴りでTKO勝利になって。

廣田　俺としては理想的な終わり方でしたよ。自分のヒザが痛くなるくらいにけっこういいのが何発も入ったんで。

――試合後には北岡選手とリング上で話してましたよね？

廣田　あぁ、なんか「リング上でしか言えないことがいっぱいあるんだけど、とにかく頑張ってください」みたいなことを言われました。「何が言いたいんだろ？」って、ちょっと気になりましたけど。

――意味深ですね～。北岡さんは負けたショックからか、なかなかコメントルームに来なかったんですよ。で、最後には「いままでありがとうございました」って言葉を残して。

廣田　へ～……。まぁ、『戦極』のライト級の象徴だったみたいな人だし、まだまだ一緒に盛り上げていってほしいですけどね。

ともないし。彼はほめて伸びるタイプでも叱って伸びるって感じでもないですね、その中間くらいというか。まぁ、廣田にしてみれば「ムチばっかだ」って思ってるかもしれませんけど（笑）。彼は『戦極』参戦が決定したあたりでずっと続けてた肉体労働を辞めたんですけど、その頃から「俺は格闘技に懸けてるんだ」という感じで、自然と意識も変わっていった気がしますね。

廣田の印象深いエピソードですか？　そうだなぁ……。彼が入門した当時にマッハとスパーをやってボコボコにされたことがあったんですよ。そのときに彼が吐き気もするほど体調を崩しちゃったんで救急車を呼んだんですね。でも病院には着いたものの、なかなか検査をしてくれなくて。それで廣田が苦しんでるのを見た看護師さんが、「痛み止めの座薬を入れましょうか？」って聞いてくれたんだけど、彼は「いや、それは……」って力ない口調で拒んだんですよ。最初、私も「早く診てやってよ！」って声を荒らげたりしてたんだけど、その恥ずかしがってる廣田を見たら「こいつもかわいいところがあるんだな」ってちょっとおかしくなっちゃってね（笑）。まぁ、この話は本人的にはあまり思い出したくないかもしれないですけど（笑）。

いままでの廣田は自分が一番になりたいということしか見えてなかったと思うんですよ。でもこれから、もっと周りの人を巻き込んでいくことを意識すれば、さらに大きな選手になれると思います。強くなれば優しくなれるというか、周りにも目が向くような余裕が出てくるわけですから。

【09年8月6日／電話インタビューにて収録】

さくらだ・なおき●1956年5月12日、新潟県出身。第3代修斗ミドル級王者。97年現役を引退し、00年にガッツマン修斗道場を設立。桜井"マッハ"速人や帯谷信弘、廣田瑞人を育て上げた名伯楽。

もないんで。やっぱりBJペンとかトッ
やっぱりファイトスタイル的に野蛮みた
きに、戦極ガールのグリーンさん（西垣梓）
早のスター″っておだててくれました（笑）。

「kamipro Special 2009 JULY」では北岡とともに戦極ガールの直撃インタビューを受けた廣田。自由すぎる戦極グリーンの前に、タジタジとなる廣田なのであった……

「誰とやっても廣田が勝つ」って思われるような存在になりたい

—今回はリングサイドで五味隆典さんも観戦してましたけど、意識する部分はありました？

廣田　それはやっぱりありますよ。五味さんはMMAの打撃においては世界でトップクラスですから。俺、帯谷（信弘）さんと仲良かったから、その関係で五味さんとスパーさせてもらったことがあるんですよ。だいぶ昔なんでボコボコにされましたけど（笑）。

—いまなら当時とは違うものが見せられるんじゃないですか？

廣田　もちろん機会があれば対戦したいですけど、もうちょっと自分に自信がついてからやってみたいですね。俺が王者でも、これまでの実績は五味さんのほうが上だし。たぶん、五味さんにしたら北岡選手より俺のほうがやりやすいと思うんですよね。だから、やるならもうちょっと強くなってからが……再来年の年末とか（笑）。

—意外に謙虚なんですね（笑）。でも、DREAM vs『戦極』と言われた石田戦を経て、今回はベルトを奪取。今年に入ってファイターとしての格は相当アップしたと思うんですけど？

廣田　う～ん、俺の中ではまだまだ穴があると思ってるんですよ。それは自分の持ち味である打撃にしろ。あとは身体ももうちょっと作らないとダメだし。いまは一番多くて78キロとかですからね。それも死ぬほど焼肉食ったあととかなんで。

—でも、以前に青木真也選手や川尻達也選手に対しても「格上だけどやってみないとわからない」って言ってましたよね。

廣田　それはいまでも思ってますよ。

—最近、物議を醸した青木vsビトー・″シャオリン″・ヒベイロ戦はどうご覧になりましたか？

廣田　まぁ、「あれじゃあ人は観なくなるだろうなぁ」って思いましたよ。あそこでは青木選手は関節技を望まれてたわけだし。観る人にわかりやすいものを提供しないとダメなんじゃないかなって。俺、気づいたら12勝のうち8KOなんですよ。

—相当高いKO率ですね。

廣田　いまの日本のMMAはグラップラーの時代だと思うんですけど、やっぱりストライカーのほうが目立つべきだって思いますし。でも、グラップリングもおもしろいですけどね。五味さんと北岡選手の試合や、エディ・アルバレスと青木選手の試合とか、一瞬で極めるテクニックは凄いと思いますから。まぁ、あんまり短期決着だと相手の強さがわからなくて、観てて退屈する人もいるかもしれないですけど。

—いまのMMAはいろんな技術を身につけないと勝てない状況ですよね。

廣田　あの、俺も寝技が弱いわけじゃないですよ（笑）。でも、単純に自分が観てておもしろいのがKO決着だから、俺はパンチとパウンドにはこだわりたいですね。

—『戦極』の國保広報によれば、廣田さんに海外からもオファーがあったみたいですけど、興味はありますか？

廣田　外国でやってみたいっていうのはありますよ。まだ向こうで試合した経験

もないんで。やっぱりBJペンとかトップって言われる選手は気になるし、単純に「デケェな」って思いますし。だから自分もスピードが落ちないように、ウェートとかで身体をデカくしていきたいですね。

――UFCは映像でチェックしてるんですか？

廣田　いや、とくには観ないですね。雑誌でパラパラっと見るくらいで。あんまり長いと読む気にならないですけど(笑)。

――なるほど(笑)。以前、「『戦極』で俺が一番ハングリーだ」って言ってましたけど、これからは追う立場から追われる立場になって、そのハングリー精神を保つのもけっこう大変じゃないですか？

廣田　……まぁ、ぶっちゃけ天狗にはなりますよね(笑)。

――ダハハハハ！

廣田　でも、さっき言ったみたいに自分がまだまだっていうのもわかってるんで。そのあたりはちゃんと自分に言ってくれる人もいますしね。今回の試合後にも桜田（直樹・ガッツマン修斗道場会長）さんに「もっと感謝の気持ちを周りの方々に表わすことができれば、おまえはもっと大きなチャンピオンになれる」って言ってもらいました。

――重みのある言葉ですね。

廣田　まぁ、謙虚な気持ちを持ちつつ、有名になってお金を稼いで女にモテたいな、と(笑)。

――ダハハハハ！　徐々に周囲の反響も変わってきました？

廣田　普段、会場以外に街を歩いてても声をかけられることが多くなりましたね。正直「俺もここまできたか」とか思ったりもしますよ。でも女の子からは話しかけられないですよ、男の人ばっかりで(笑)。やっぱりファイトスタイル的に野蛮みたいなイメージがあるのかなって。

――今回、北岡さんに勝ったことでさらに注目が集まりますね。

廣田　そうですね。(ベルトをなでながら)コレの効果を期待してるんですけどね……。「べつに見た目ほど怖くないんで話しかけて」って書いといてください(笑)。

――了解です(笑)。長崎にいるときはナンパ活動にいそしんでたって言ってましたけど、いまはさすがに？

廣田　いや……ナンパしに行きたいっすけどね～(シミジミと)。海にベルト巻いて行こうかな(笑)。

――ダハハハハ！

廣田　次の試合のときに潮風でベルトがサビてるかもしれないです(笑)。

――ちゃんと手入れもお願いします(笑)。前回『kamipro』に出てもらったときに、戦極ガールのグリーンさん(西垣梓)のインタビューを受けたじゃないですか？　あの後日談で、グリーンさんが「意外と廣田さんはシャイだったから、私が引っぱらないとって思った」って言ってたらしいんですよ(笑)。

廣田　ハハハ！　いや、基本的に俺は無口なんで。やっぱり酒飲んでないとダメっすね。そうすれば調子よくなるんですけど、普段だと会話が続かないですね。

――お酒は飲まれるほうなんですか？

廣田　はい、九州男児なんで(ニヤリ)。でも、べつにヘンな酒グセとかはないですよ。酔っぱらってやらかすタイプじゃないんで。まぁ、試合前後は酒を抜いてるし、地元に帰ったときに祝勝会やってくれるみたいなんで、そのときに勝利の美酒に酔いしれます。昨日、会場で観てた友だちも、地元で「スカパー！」観てた友だちも"謙虚のスター"っておだててくれました(笑)。

――スター的に次の試合のビジョンは？

廣田　それはもう主催者サイドにおまかせですね。でも、いまは「誰でも来い！」って感じですよ。また、俺が次の試合までに強くなっておけばいいんで。

――防衛戦の挑戦者は光岡（映二）選手の気運が高まってます。でも、そうなると横田選手がちょっと不憫かなって気もするんですよね。今回、北岡選手への挑戦者も廣田さんか横田選手って言われていて、結局は廣田さんになって。で、次こそ横田選手かと思ったら光岡選手っていう(笑)。

廣田　あぁ、ホントだ(笑)。横田選手と光岡選手で挑戦者決定戦をやればいいんじゃないですかね？　あ、でも、次の大会に横田選手は出ちゃうんですね。う～ん……。まぁ、そのへんは主催者にまかせますよ。俺は横田選手には負けてる身なんでリベンジしなきゃいけないなとは思ってますし、それまでベルトを持ってればいいだけなんで。

――『戦極』も石井慧選手や泉浩選手がデビューを控えて、これからさらに注目が高まっていくと思うんですけど、その中でライト級の王者としてイベントを背負っていくという意識は？

廣田　それはもちろん。そのためには、もっと自分が強くならないとダメだなって思いますし。「誰とやっても廣田が勝つ」って思われるような存在になりたいですね。……まぁ、石田戦のときみたいに相手有利って声を聞いたほうが自分は頑張れるんですけど。でも、金を稼ぐため、女にモテるためにまだまだ頑張りますよ(ニヤリ)。

――これからも持ち前のハングリー精神でのご活躍を期待してます！

【09年8月3日　都内・某ホテルにて収録】

Mizuto Hirota

ひろた・みずと■1981年5月5日、長崎県出身。05年2月プロデビュー。同年9月に修斗ウェルター級新人王となる。08年4月、ケージフォースライト級王座を獲得。同年8月に『戦極』ライト級トーナメントに参戦。今年5月には修斗で石田光洋からTKO勝利を収めた。ガッツマン修斗道場所属。171cm、70kg

“ZSTの金ちゃん”が戦極フェザー級GPを制圧！

「やっぱり格闘技って何が起こるかわかりませんね」

金原正徳

ZSTの金ちゃん大快挙！ 今年3月……GP
優勝候補と呼ばれる選手が何人も……
頂点に君臨したのは“自称・大大穴……
その金原がいま、ベルトを手にして思……

聞き手／松下ミツ……　撮影／菊池茂夫　試合写真／……

ZSTはいつも奇跡を起こす！

ZST戦士・金原正徳、『戦極』フェザー級GP制圧！

金原といえば、03年にデビューして以降、04年からZSTをホームリングに数々の名勝負を繰り広げ、いまやZSTの顔とも言える存在。実績とともに試合のおもしろさも評価され、今年『戦極』フェザー級GPを闘う16名に抜擢された。

そもそも金原が格闘技を始めたのは、タウンページで病院を調べようとしていたときに「道場」という文字が目に入り、「道場ってなんだ？」と思って行ってみたのがきっかけだという。なんじゃ、そりゃ！　そんな動機ながらも、現在はパラエストラ八王子を拠点に、青木真也らが率いる寝技最強軍団NTTや、佐山サトル総監率いる興義館でトレーニングを重ね、このたび見事に『戦極』フェザー級王者のベルトを勝ち取った。

準決勝では優勝候補と目されていた日沖発と対戦。戦前からさんざん噛みつきまくっていた金原は、日沖の三角絞め、腕十字をことごとく凌ぐという好試合を展開した。惜しくも判定負けとなったが、この試合で与えたダメージが運を呼び寄せ、日沖のドクターストップにより決勝進出が決定。さらに決勝では小見川道大のバックに組みつき執拗に攻め立てるという戦法で、これまた僅差の判定勝ちに！

こうしてベルトを勝ち取った金原。実力とともに、いろんな運を引き寄せて優勝したいま現在の心境とは？

――昨日はどんな夜をすごされたんですか？

金原　仲間内で祝勝会をやってくれたのでそれに顔を出して、帰ってきたのが夜中の3時ぐらいでしたね。

――それはお疲れさまでした（笑）。

金原　でも、帰ってきたはいいけど、身体中が痛くて寝れなかったんですよ。それに、メールとかブログにもコメントがめちゃくちゃ来てたので一人一人に返事したりしてました。ボク、A型なんで（照）。

――そんな細かい作業を。しかし、昨日はホントに見事な優勝でしたね。

金原　ありがとうございます！

――優勝したときリング上でご自分のことを“大穴”だとおっしゃってましたけど、トーナメントがスタートした当初はどんな気持ちで参戦されたんですか？

金原　優勝なんて考えてなかったですよ。まず1つ勝ってベスト4に入ることだけを考えてました。だから準決勝で日沖選手と闘ったときも本当に決勝のことは一切頭になかったんです。ベルトを獲りたいと思ったのは、リング上で国歌が流れてるときですから。初めてチャンピオンベルトをまじまじと見たときに「あ、ベルトを獲ろう」って。

――そう言いつつも、当初から優勝候補と目されていた日沖選手に噛みついてましたよね。

日沖選手への挑発？　あれは本心もあるし、簡単に言うと嫉妬ですよ

金原　そうでしたね……。もうべつに試合終わったので、とくにそういう感情はないですけどね。だから単なる“悪口”じゃなくて、一緒に『戦極』のフェザー級GPを盛り上げていけたらいいなと思って言ったのもありますし、まあ本心もありますし。

――本心も？

金原　簡単に言うと嫉妬ですよ。もちろん凄い実力のある選手だし、実際に負けてますからね。でも、単純に闘ってみたかったというのもありますし、やっぱりそういうすべてを含めた嫉妬ですよね。

――その日沖戦ですけど、素晴らしい試合になりました。

金原　じつはオレ、開始30秒ぐらいで日沖選手の右ストレート食らったときに記憶をなくしちゃったんですよね。だから映像見てみないとなんとも言えないんですけど、オレの中ではやられてるイメージしかないですよ。だからみんなあの試合をほめてくれるんですけど、オレは意外だなって。

――そうは言っても、三角絞めも腕十字もことごとく切り返してましたよね。

金原　もう「右腕はくれてやる！」って感じで闘ってましたから。タップする気はさらさらないし、腕一本折られて勝てるんだったら、左手でパウンドできるからいいやという気持ちでしたね。その中でもマウントで殴られたりしてたんで、けっこうなダメージですよ（笑）。

――その後、日沖選手はドクターストップになって金原さんが決勝に進出することになりましたけど、どのタイミングで出ることが決まったんですか？

金原　ちゃんと決まったのは休憩中ぐらいですかね。國保さんが来て「決勝、頼むぞ！」って。ただ、その前にも軽くは言われてたんですよ。

――それはどの段階で？

金原　オレはぜんぜん知らなかったんですけど、セコンドの塩田（歩）さんが「日沖選手が担がれながら退場していった」みたいなことを言ってて。だから「ひょっとし

［09.08.02『戦極～第九陣～』］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○日沖 発 vs 金原正徳×
（3R終了 判定3-0）
試合の主導権を握る日沖は三角絞め、腕十字などどんどん技を仕掛けていくが、金原がすんでのところでこれを凌ぎ、ドキドキの試合展開に。判定は日沖に軍配が上がったが、ドクターストップのため金原が決勝進出！

［09.08.02『戦極～第九陣～』］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○金原正徳 vs 小見川道大×
（3R終了 判定2-1）
小見川のバックに組みつきジリジリと攻める金原。小見川が打撃で前に出ようとすると、ヒザ蹴り、ハイキック、アッパーと逆に波状攻撃で小見川を粉砕。3ラウンドの小見川の巻き返しで僅差の判定となったが、見事金原が王者に！

たら……」なんて。そしたら試合後にドクターの人が来て「あるかもしれないよ」って言ってたし、しかもオレのドクターチェックもあったんで、「あるかもしれない」の「かも」の部分がどんどん増幅していったんですよね。

――待ってるあいだはどんな心境でした？

金原 やっちゃうよ～。いいのかな～？みたいな（笑）。

――そうですか（笑）。ただ聞くところによると、決勝に出られるかもしれないと聞いた金原さんが「出ねえぞ！」みたいなことを言ってたと聞いたんですよ。

金原 ああ、それは「出ない」じゃないです。正直、できる状態じゃなかったんですよ。だから「やっちゃうよ～」っていうのもふざけ半分で塩田さんと格闘技ごっこをやってただけなんですよね。ちゃんとした試合ができるかわからなかったし、正直出たくはなかったんですよね。

――なかなか吹っ切れない部分があったんですね。

金原 でも小見川さんのほうがダメージは大きいと思うし、最後みんな「楽しもうぜ！」っていう気楽な感じだったんで。中井（祐樹）さんも「金原くん、楽しんできな。割りきって1試合目のつもりでやればいいんだから」って言ってくださって。

――実際、小見川選手もひどい状態でしたけど、顔を見てビックリしませんでした？

金原 スゲえなって思いました（笑）。でも、目は凄い目をしてたんですよ。この人本当にベルトほしいんだなって。だから気持ちだけでは負けたくないなと思いました。

――そしてその小見川戦もまたいい試合でした。小見川選手のうしろに組みついて離れなかったときは青木真也みたいでしたし。

金原 あ、そうなんですよ。青木くんのこと、オレ、スパー中とかもずっと凝視してますからね。

――青木選手とはNTT（DEEPジム）で一緒に練習されてますよね。そんなに熱心に研究してるんですか。

金原 2年前ぐらいから練習してますけど、青木くんの練習見ながら「あの技、今度やってみよう」とか、一緒にスパーしたときに、「この技、どうやってやるんですか？」とか、スゲえ聞きますよ。試合後も「こんな試合だったんですけど、どうしたらよかったですか？」って聞くと、めちゃくちゃ真剣に教えてくれますからね。

かねはら・まさのり■1982年11月19日、東京都出身。03年DEEPでデビューし、その後ZSTを主戦場に実績を積み上げる。09年3月から「戦極」フェザー級GPに参戦。準決勝では日沖発に敗戦を喫するも、決勝へ。小見川戦に勝利し、見事ベルトを勝ち取った。173cm、65.0kg。

誰がオレが優勝すると思いました？ だからテーマは「オセロ」でしたね

――へえ～。そのへん、まったく出し惜しみとかしない方なんですね。

金原 まったくないです。マネしたくても青木くんにしかできない技ももちろんありますけど、あの人から吸収できるものは凄くたくさんあるので、本当に勉強になってますね。

――ちょっと脱線しますけど、もう一つ、金原さんって佐山サトルさんの興義館でも練習されてるんですよね。……佐山さん、怖くないですか？

金原 そこですか（笑）。うーん、怖いんでしょうけど、ボクたちには凄くやさしいんですよ。ただ、凄いやさしい声色でとんでもないことを言いだすときもありますけどね。「じゃあ30秒間、ノーガードで打ち合ってみましょう！」とか。

――怖い……。

金原 桜木（裕司）さんとデカい人とボコボコに打ち合ったりして、ぜんぜん30秒で終わらなかったりすることもありますし（笑）。でも、試合の最後のひと踏んばりって、じつはそういうことが大事だったりするんですよね。結局、気持ちが強くないと勝てないですから。

――佐山流のやり方で精神的な強さも会得している、と。

金原 はい。だから、佐山先生にもたいへん感謝しております！

――でも決勝戦、判定で金原さんに軍配が上がったときにポカンとしてましたよね。なんか、2テンポぐらいズレて「オレ？」みたいな感じになってましたけど。

金原 ボーッとしてましたね。最後に判定で「金原！」って言われたときに塩田さんがオレにラリアートして跳びついてきたんで「なんだこの人、面倒クセえなあ」って思ってたんですよ。でも、オレのコーナーのところに行ったらみんな泣いてたんで、そこでようやくウルっときました。

――しかも、優勝賞金とともにベストバウト賞まで突然発生させてしまって。

金原 なんか思いつきでそんなのいただいたみたいで、スゲえ嬉しいですねえ。何

に使おうかなあって。
――噂によるとですね、金原さんの大ファンだという戦極ガールが試合後に金原さんと一緒に写真を撮ったという情報が入ってるんですが、まあデート代なんかにいかがでしょうか。
金原　あ！　なんで知ってるんですか⁉
――そもそも、金原さんは戦極ガールの中でかなりの人気者らしいですよ。
金原　ホントですか！　でも、ぜんぜんボクのところに伝わってこないですね。……あ！　そういえば、『kamipro』さんで戦極ガールとの合コン企画が挙がってるという話をチラッと聞いたんですけど、あれはどこいっちゃったんですか⁉
――ええっと、あれは〝調整中〟なんじゃないでしょうか。若干、企画が消滅しつつありますけど……。
金原　それは聞き捨てならないですよ‼　ぜひ、早めのセッティングをお願いします！
――〝調整役〟に伝えておきます（笑）。で、昨日の大会を観てて思ったんですけど、いままでZSTファイターがほかのリングに上がったときって、なかなか苦戦を強いられている印象があったんですよね。
金原　そうですか？
――ただ、そういう印象があった中で金原さんが優勝されたので、これは一気に殻を破ったのかなって。
金原　だから大大穴なんですよ！　だって、誰がオレが優勝すると思いました？　確かに運もありましたけど、やっぱりこれが格闘技ですよね。予想とぜんぜん違うことをしないとプロじゃないと思ってますし、自分はもうホント下馬評で「日沖、日沖、日沖」って声ばっか聞こえたんで、それは自分の中で凄く力になったし、「見とけよ！」ってずっと思ってましたから。だから、今回のトーナメントはオレの中のテーマはオセロだったんですよ。
――オセロですか？
金原　「日沖」っていう面がガーッと並べてあって、オレが勝ったときに一気に角を取って、ばばばばーっと「金原」にするというイメージですよ。観客とかも「アイツが勝ったのかよ！」ってビックリさせようってずっと思ってて、「オセロだ、オセロだ」ってずっと言ってましたね。でも、ZSTが負けっぱなしとか、そんなことはないと思いますよ。もうすぐ2本目のベルトも来ることですし（ニヤリ）。
――今度は所英男の番だ、と。
金原　そうです。それで二人でベルト獲ってから闘えればホントにおもしろいですよね。だから所さんは絶対に獲ります よ。後輩のオレが獲れて、先輩の所さんが獲れないわけないですから。
――その所さんとは試合後お話しされたんですか？
金原　祝勝会で話しました。「優勝して一緒にビールかけしましょう！」とか、そんな話をしましたよ。そしたら「はあい」って言ってましたけど（笑）。
――そんな気が抜ける返事を（笑）。で、もう一つ思ったのがZSTの選手ってつまらない試合に対して普段からかなり厳しい目で見られてるじゃないですか。だから、大舞台に出たときに凄く試合が映えるなと思ったんですよ。
金原　それはやっぱり意識しますよ。試合内容でも試合以外でも魅せたいと思いますし、お客さんあってのボクたちですからね。つまらない試合をして勝ってもぜんぜん嬉しくないですよ。ボクは「つまらない試合＝動きがない試合」だと思ってるんで、絶対に膠着しないようにしてます。動き続けることがボクの永遠のテーマだと思ってますし。
――なるほど。〝永遠のテーマ〟というふうに言われましたけど、じつは金原さんは「26歳で格闘技を辞める」と言ってらっしゃるんですよね？　今年、すでに26歳ですけど……。
金原　ええ。だからぶっちゃけ、辞めたいんですよ！（キッパリ）。
――ええーっ⁉　や、辞めたいんですか！
金原　いや、本当に。身体のことを考えたら、そうなりますよねえ。でも、今回の『戦極』でまた格闘技の楽しさを覚えちゃったのかなって思いましたね。まだのびしろがあると思いましたし。だからもうちょっと身体にムチ打って1、2年頑張ってみようかなって。
――ええ、そのほうがきっと戦極ガールも喜ぶと思います！
金原　ハハハハ。そう言う『kamipro』さんも、合コン企画でボクらを喜ばせてください！

【09年8月3日　都内・某ホテルにて収録】

チームZSTであり盟友の

所英男のコメント

――"金原正徳の戦極"について、ズバリ率直な感想をお聞かせください！
所　素直に嬉しかったです！　めちゃめちゃ嬉しかったですねえ。ホントに嬉しかったんですよ。もう、嬉しくて。
――「嬉しい」しか言ってませんよ。
所　ハハハハハ。そうですね。でも、それしかないんですよ。もう、ボクのケータイの待ち受け画面は金原さんのチャンピオンベルト姿に……。
――したんですか⁉
所　しようと思ってるんで。
――あ、まだしてない（笑）。で、まず準決勝、日沖選手に負けはしましたけど、凄い名勝負でした。
所　あれは最高の試合でしたね。凌いで凌いで最後に攻めて、ホントに凄くいい試合でした。
――あの試合のあと、控室ではどんな様子だったんですか？
所　いやあ、それでももう「スミマセン……」みたいな感じで言ってて、ボクはかける言葉がなかった感じだったんですけど、でも急にドクターの人が来て、なんか"それっぽいこと"をほのめかして出ていったんで、ひょっとしたらあるのかな？　と思いました。で、実際、決勝に上がれるという話だったんで、塩田（歩）さんとアップみたいな感じで身体動かしてましたね。まあ、決勝を闘うのは素直には喜べないとは思うんですけど、やると決めてからは決断は早かった思います。吹っ切れてましたし。
――そして小見川選手との決勝戦でしたけど、これまた名勝負でした。
所　もう小見川さんのバックに組みついたときは「これ、勝っちゃうんじゃない？」と思いました。それにパンチが当たるたんびに立ち上がってましたから。もう正直、ファンみたいな感じで飛び上がってましたよ。
――いつも所さんは仲間に試合を観られる側ですけど、逆の立場はどうでした？
所　疲れますね（笑）。普段、セコンドについてもらう側なんですけど、自分がセコンドやったり、試合を近くで観てたりするのはもうイヤです。
――試合後には金原さんとお話はされました？
所　一緒に祝勝会に行ったんですけど、「次、やってくださいよ！」というのを気を使ってずっと言ってくれてたんですよね。なんか情けないやら、ありがたいやらで。
――次のDREAMに向けてプレッシャーはかけられませんでした？
所　上原（ZST広報）さんには金原さんが勝った瞬間に言われました、「次も負けないでよ」って（苦笑）。
――金原さんも「10月にＺＳＴにもう一本ベルトが来ますから」と言ってましたよ。
所　……ボク、金原さんの記事を『kamipro Move』で読んだんですけど、金原さんが「"闘うフリーター"がチームZSTとして優勝してくれると信じています」って言ってるのを読んでウルッときました（しみじみと）。申し訳ないなと思って。もう、練習もサボれないですね、絶対。
――いや、さぼらないでくださいよ！　ところで、準決勝の相手が高谷選手に決まりましたね。
所　相手強いですけど、まあここまで来たらべつに誰とやっても一緒なんで頑張るだけです。最後まで頑張れば昨日の金原さんみたいな結果になることもあるんで、とりあえずやりきろうって。もう明日から北海道に合宿に行きますからね！
――おお！　では10月の決戦、期待してます！

戦極トーナメント、クソッタレ!?
3月からスタートした戦極フェザー級

どういう信号なんでしょう?
小見川「お疲れさん」ってことなんじゃ

「結局、誰が一番強いのか
スッキリしないですよ」

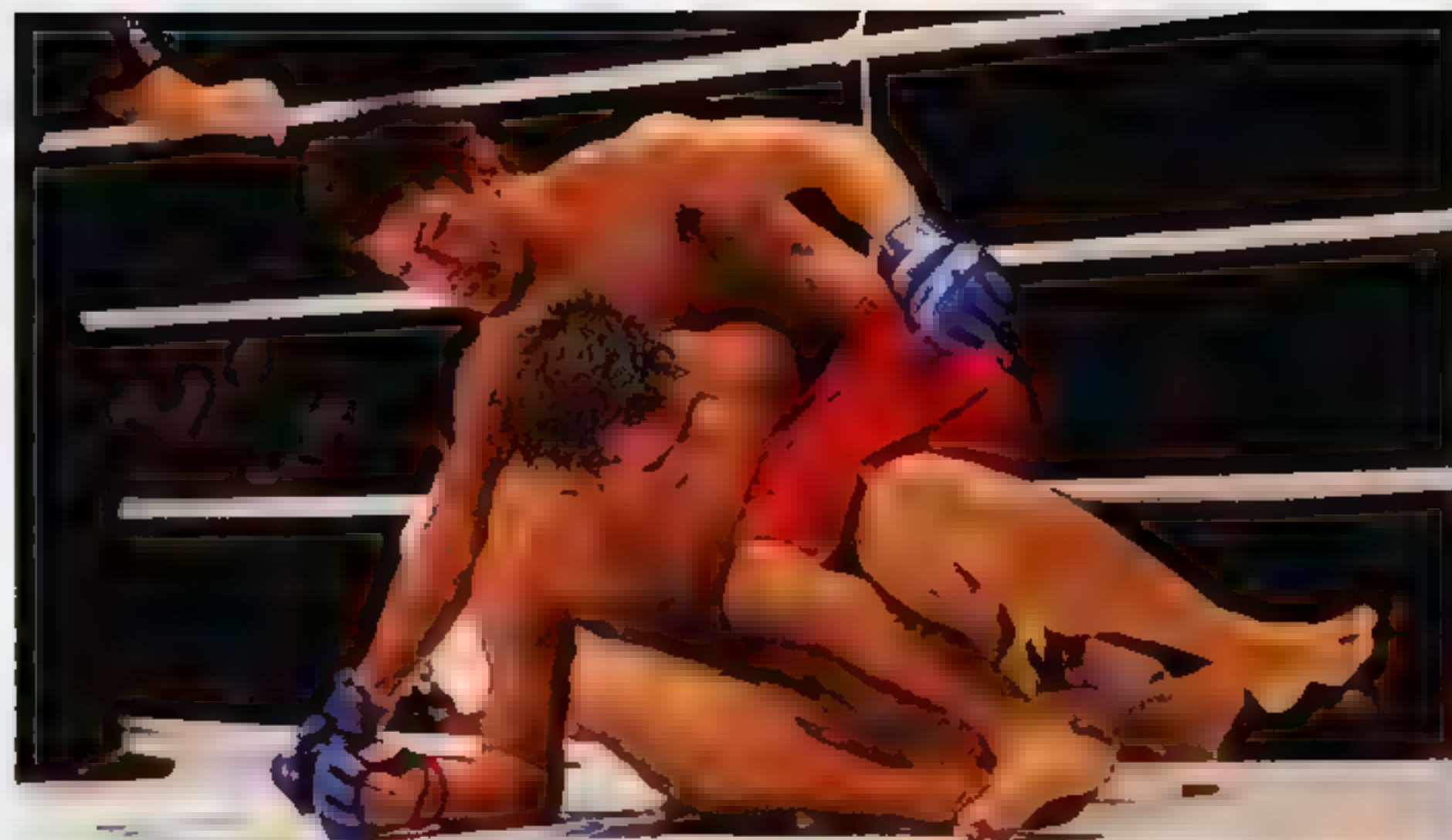
日沖発、ふざけんな!

猫たちも
怒り心頭!!

[09.08.02「戦極～第九陣～」]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○小見川道大 vs マルロン・サンドロ×

（3R終了 判定2-1）

陰の優勝候補・サンドロ相手に、小見川は一歩も引かず打撃戦を展開。リーチの長いサンドロの打撃をモロに受けるシーンもあったが、3ラウンドには執念のテイクダウンでサンドロの上をキープ。サンドロは不服をアピールしたものの、僅差の判定で小見川が大金星を挙げ決勝進出。

[09.08.02「戦極～第九陣～」]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○金原正徳 vs 小見川道大×

（3R終了 判定2-1）

序盤はZST戦士の金原にバックに組みつかれ、身動きのとれない小見川。得意の打撃を繰り出すも、逆に金原のヒザ、パンチを食らい、顔を腫らす。3ラウンド残り30秒でマウントを取り、怒濤のパンチを浴びせる小見川だが、反撃むなしく軍配は2-1で金原に。

戦極フェザー級GPのMVPはこの男！

小見川道大

戦極フェザー級GPのMVPは間違いなくこの男！
1回戦からネオ柔道ならぬ“ネコ柔道”で次々と難敵を下し、
惜しくも決勝で敗れはしたものの、全試合で名勝負を繰り広げた小見川道大だ。
しかし、試合後に話を聞くと、なんと本トーナメントにまったく納得いってない様子。はたしてその理由とは？

聞き手　松下ミワ　撮影　タイコウクニヨシ　試合写真　乾晋也

戦極トーナメント、クソッタレ!?

3月からスタートした戦極フェザー級GPでは、日沖発をはじめ優勝候補と目されていた強者がいる中で、小見川道大は準優勝という快挙を達成。小見川自身、本トーナメントが始まる前はなんと3連敗を喫していた。そのせいか、1回戦ではL・C・デイビスから執念の判定勝ちを収めると、2年ぶりの勝利に感極まり、「オレが負けると思ったヤツ、クソッタレ！」という明言まで残したのだった。

そして準決勝では強豪マルロン・サンドロを顔面を腫らす殴り合いで下し、決勝へ。金原正徳との決勝戦で敗れはしたものの、小見川らしい根性ファイティングで観る者の心をつかんだのだった。

試合はもちろん、ネコ好きが発覚して以降の活躍ぶりは文句ナシのMVP！　しかし、そのトーナメントに大不満という小見川。その真意とは？

——試合後、猫たちからプレゼントは何かあったんでしょうか？　以前は勝利祝いに血まみれの白いハトをくわえてきたそうですが（笑）。

小見川　いや、とくにプレゼントはなかったんですけど、べつにいらないっすよ。もらったって、俺がどっかに埋めなきゃいけないですからね。

——確かにそうですね（笑）。

小見川　でも、いつもよりもこころなしかすり寄ってくるような感じでしたね。

——すり寄ってきた！　それはいったいどういう信号なんでしょう？

小見川　「お疲れさん」ってことなんじゃないですかね。

——そ、そうなんですか!?

小見川　いや、わかんないっす（笑）。でも、ケガしてる目のほうに近寄ってきて舐めたりするんで、「あ、わかってんのか」なって。わかるんだと思います（笑）。その左目は準決勝のマルロン・サンドロ戦で腫れちゃったんですよね。

小見川　打撃戦になりましたからね。とくに打撃でいこうと思ってたわけじゃないんですけど、組んだときにけっこうサンドロの腰が重かったんですよね。それに打撃もかなり練習してたんで、パンチでも倒せるなって思って。

——情報によると、打撃の練習では「猫百烈拳」を上回る秘策を生み出したとうかがいました。「キッツキ戦法」というものを！

小見川　ああ、あれは俺が言ってるんじゃなくて、トレーナーの田代（勝久）さんが言ってた技なんですよ。ちょっと試合では出せなかったんで残念でしたけど。

——どういう技なんですか？

小見川　うーん……、どういう技なんですかね？

——解明されてないんですか（笑）。

小見川　いや、たぶんもっとパンチの精度が高いというか、回転が速くて質のいい打撃なんだと思います。要するに、キッツキって一定のところを狙って穴開けたりするじゃないですか。一点集中で相手を打ち崩すというか。

キツツキ戦法は一点集中で相手を打ち崩す技なんだと思います

Michihiro Omigawa

一番強いヤツを決める大会だから ケガでも途中でやめられないですよ

—その戦法は出せなかったとはいえ、サンドロ選手はリーチが長くて入りにくそうでしたが、結果的には小見川さんのパンチもバチバチ当たってましたね。

小見川 まあ、いま振り返ればもっとできたかなって思いますね。ほら、サンドロが判定に納得いってないって態度だったじゃないですか。だから、俺からすれば「べつにもう一回やってもいいんだぜ！」って感じなんですよね。

—ちゃんと決着つけてもかまわない、と。

小見川 文句言うなら延長で2ラウンド、3ラウンドやってもいいんだぞって思ってましたよ。それに俺、2ラウンド目にちょっとへんな構えしたの知ってます？

—ああ、〝ダブルパンチの発射前〟みたいな構えですよね。いったいどういう効果があったんですか？

小見川 俺、正直相手のパンチはもう怖くなかったんですよ。ただ、身体がけっこうキツかったんで、ちょっとあれで休んでたんですよね。

—あ、休憩中だったんですか(笑)。

小見川 そう。それに、あの構えで神経を研ぎすませてたんですよ。でも、そういう状態で相手を見てたら「コイツ、もう入ってこねえな」って確信したんですよね。

—てっきり挑発だと思ってました。

小見川 まあ、挑発でもあったんですけどね。でも、あそこから攻撃されても、カウンターで刺してやればいいかなと思ってたんで。それに、そこからの攻撃も考えてましたし。

—はー。あの構えにはちゃんといろいろ理由があったんですねぇ。

小見川 そんな俺、何も考えずにあんな構えしませんよ！

—失礼しました。そして3ラウンドの最後の最後に根性のテイクダウンがありました。あれだけ腰の重いサンドロから意地で取ったテイクダウンでしたよね。

小見川 準決勝にせよ決勝にせよ、3ラウンドがよかったと思うんですけど、けっこう練習しててスタミナには自信があったんですよ。だからあそこで絶対に倒したかったんで。吉田さんの声もガーッて聞こえてきましたし。

「ミッチー！」っていう声ですか？

小見川 いや(笑)、「ラスト30で倒せ！」って。

—あ、なるほど。で、判定で小見川さんに軍配が上がったときに、もの凄く感極まってましたよね。

小見川 そうですね……(しみじみと)。サンドロ戦に懸ける思いはハンパなかったですから。やっぱり彼は無敗だったし、俺の中でも凄い強い選手だなって思ってたんで。だから、準決勝のあとのことは何も考えてなかったですね。あの中だとサンドロが一番強いと思ってましたから。

—そこから決勝のモチベーションを保つのも大変だったんじゃないですか？

小見川 試合直後はアドレナリンが出た状態だったんで「どこも痛くねえよ！」って感じだったんですよね。だから絶対に「俺はやる！」と思ってたし、その準備もあったし。でも、決勝までけっこう時間が空くじゃないですか。だから、だんだん「あれ？ なんか、いてえな」って(笑)。

—身体も心もだんだんと冷静に(笑)。

小見川 まぶたは重いしね。一応見えてはいたんですけど、なんか見づれえなって。やっぱりサンドロ戦で燃えつきたというか、気持ちはできる状態なんですけど、頭のリセットというか、切り替えができてなかったのかなって。やっぱりトーナメントって難しいですよね。1日2試合というのも初めてだったし。スタミナ自体は切れないですけど、頭の中がついていけてなかったというか。

—日沖選手もドクターストップで決勝に出られませんでした。

小見川 なんスかね……。言ったら、そこでべつにやめるのは簡単なんですよ。簡単なんですけど、俺は男としてトーナメントという宿命づけられた闘いの場で勝ち上がったのに、途中でやめることに対して「じゃあ、いったい誰がチャンピオンなんだよ」って思うんですよね。一番強いヤツを決める大会なのに途中でやめられないですよ。どんな状態だろうが、トーナメントだからやんなきゃいけない。そしたら、そんなそぶりは見せないようにしますよ。

—じゃあ、日沖選手のドクターストップは考えられないと？

小見川 (すぐさま) 考えられねぇ！ そりゃあさ、カットとかでスゲえ血が出てたりとか、何針も縫わなきゃいけないとかだったらまだわかりますよ。でも日沖選手はドクターストップになったにもかかわらず、ニコニコしながら閉会式にも出てるわけじゃないですか。俺なんかもう身体中ボロボロで閉会式も出たくない状態なんですよ。そのときは詳しい状況がわからなかった俺から見たら「笑ってんだったら決勝出てこいよ！」って思うわけですよ。だって、それ見たら優勝した金原選手だってどう思います？ せっかく優勝してチャンピオンベルトもらったのに、準決勝で金原選手に勝った選手がそれ見て笑ってるんですよ。そんなの、金原選手に失礼じゃないですか!!(一気にまくしたてて)。

—日沖選手に思うことはあるんですね。

小見川 それに、一夜明け会見にも出てたじゃないですか。日沖選手が出る筋合いないですよね。しかも「自分が勝った選手が優勝して嬉しいです」とかコメントしてましたよね。もう、どっから目線なんだって話ですよ！ じゃあ、決勝戦闘わなかった人間が一番つえぇのかって話ですよ。

—やっぱり日沖選手と闘いたかったわけですか？

小見川 決勝を待ってるあいだは、完全に日沖選手が相手だと思ってたんで。だって、言ったら日沖選手は完封勝利だったわけじゃないですか。それなのに逃げるっ

閉会式、そして一夜明け会見にも出席した日沖に対し、小見川は「どっから目線なんだ!」と大激怒! こうなったら怒りの日沖戦が観てみたい。

俺、ずっと負けっぱなしだったんで今回のGPではやっぱり自信がつきました

おみがわ・みちひろ■1975年12月19日、茨城県出身。柔道からMMAに転向し、05.5.22「PRIDE武士道」でプロデビュー。PRIDE休止後は「戦極」に参戦し、3月から開催されたフェザー級GPに出場。準優勝に終わったが、MVP級の活躍でファンを魅了した。168cm、70kg。

て考えられないですよ。

――じゃあ、金原選手が決勝に上がってきたときは完全に予想外だったんですね。

小見川　だからそこらへんで俺の試合に対する甘さというのが出たのかなと思いますね……。多少ちょっとした油断みたいなものがあったかもしれないです。

しかし、「クソッタレ！」発言に始まり、今回のフェザー級GPは小見川選手が主役だったと言っても過言ではないと思うんですよ。

小見川　やっぱり自信はつきましたよね。それが一番大きいです。もちろん技術的にも成長したと思いますけど、勝つたびに自信が増していったというか。だって最初、「俺って本当に大丈夫なのかな……」って思いましたもん。

――あ、不安があったんですか。

小見川　いや、それまでずっと負けっぱなしだったわけだから。だって3連敗してたんですよ？　だから正直「勝ち」というのもぼんやりとしかイメージできてませんでしたね。でも、いまだったら勝ち方もハッキリ浮かんでくるんですよ。俺がどういう闘いをやればいいのかもわかるし、勝ち方がわかったというか。やっぱりそれは周りの支えもあったと思うんですけどね。

――いまグランプリを終えたばかりですが、すでに新しい目標はあるんですか？

小見川　そうですね。勝手に思ってるだけですけど、金原選手が「天国」だとしたら、俺が「地獄」ってイメージなんですよ。だったら、今年ちょっと気合い入れて頑張って試合して、向こうが遊んでるあいだに実績を積んでチャンピオンの首を狙おうかなって。ま、金原選手が遊ぶかどうか知らないですけどね。

――もちろんベルトというのもアリですけど、でも先ほどの話だと日沖戦というのも凄く興味深いですね。

小見川　そうっすよね⁉　なんでやんなかったんですかねぇ！　だって、やっと俺は闘えるところまでたどり着いたわけじゃないですか。

――日沖選手は最初から優勝候補と目されてましたね。

小見川　ただ、これはやってみないとわからない話で、周りが優勝候補だって言っても、俺自体はなんにも。俺の相手も毎回優勝候補とか騒がれてましたけど、「そうなんだ」とすらも思わなかったし。だって、そんなの闘ってみて初めてわかることでしょ？　それに、サンドロとかだって充分強いと思ってましたから。

――サンドロは無敗でしたしね。

小見川　だから俺、意地でも無敗のサンドロに「負け」というものを味わってもらおうと思って闘ったんですよ。「おまえが知らない負けを、俺はいっぱい知ってんだよ！」って。だからサンドロは相当悔しいでしょうね。文句があるなら何回でもやってやりますけど。日沖だろうが、サンドロだろうが、チャンピオンの金原選手だろうが、みんなやってやりますよ！　だって結局すっきりしないじゃないですか、誰が一番強いのかボンヤリしてるし。少なくとも俺はスッキリしてないですね。だから、次の展開としてはその4人で総当たりのリーグ戦にみたいになるんじゃないですかね。それが一番「誰が一番強いのか」がはっきりすると思うんですよ。

――とにかく、いまのままでは納得できない、と。

小見川　納得できないです！　闘いはまだ終わってないですから。

【09年8月5日／都内・吉田道場にて収録】

――菊田さん、今回はカラー4ページで

た自負もありますし、今回の試合に関して

薄くなってますよね。

らね。そこも大きいかな。

な、な、な～んと！ 菊田が仰天要求!!

石井VS吉田!?

だったら俺でしょ～！

ゴールドメダリストハンター宣言

菊田早苗

吉田秀彦、瀧本誠、石井慧、泉浩という4人の柔道メダリストで結成されたJTT（柔道トップチーム）が初見参ー その挨拶で石井が明言こそしないものの、デビュー戦の相手として吉田戦の希望を匂わせた。これにグラバカのボスがまさかの異議申し立て!?

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／乾晋也

僕には格闘技をやってきてある程度第一線級でやってきた自負がある

―菊田さん、今回はカラー4ページで後半のほうの扱いになりますけど、取材のほうは受けていただけますでしょうか?

菊田　やめてくださいよ〜。そんなことを言うと、まるでボクがいろいろと要求してるみたいじゃないですかぁ。ってこれ、毎回ネタですか?（笑）。

―このあいだの『戦極』でグラバカ勢は明暗を分けた結果になりましたけど、菊田さんのほうから何か思うことはありました?

菊田　…………。

―あ、ありませんか。

菊田　いえいえ!　ちょっと考えてただけですよ!

―そういえば、当初は『戦極〜第九陣〜』の参戦予定選手に菊田さんの名前が入ってましたけど、いつの間にか消えてましたよね。

菊田　1月の吉田（秀彦）戦があったじゃないですか。吉田さんは知名度もあるし、実力もあると思って臨んだ試合のあとに、周りから「この試合っておもしろいの!?」って思われるような試合はなるべくやりたくなかったんです。燃える試合をやったあとですからね。

―つまりマッチメイクの問題だったんですね。

菊田　いえ!　マッチメイクがいつも自分にとっていい方向に行くなんてありえないことですよ。そんなの奇跡みたいな話です。でも、これまで十何年も格闘技をやってきて、ある程度第一線級でやってきた自負もありますし、今回の試合に関してはとくに意味のある、盛り上がるような相手とやりたかった。

―たとえばトーナメントに出るっていうのも年齢的にも難しいんですか?

菊田　難しいところはありますねぇ。だから、ちょっと自分自身でどういうふうに進んだらいいのかって悩んじゃった部分はありますね。

―でも、もしかしたら吉田さんに勝ったことも忘れられてるかもしれないですよ。

菊田　いやぁ、いい試合ももちろんだけど、格闘技はなんだかんだで勝ち負けっていうのが残るから。「どっちが強かったんだ!」って試合はとくにね。でもまあ、吉田さんに勝ったことは自己満足もあるんで、それはいいんですよ。

―自己満足は残ってますか（笑）。

菊田　そりゃそうですよ。自分が10代の頃から知っている憧れの人に勝ったんだから。複雑なものもあるけど、僕の中では自己満足が大きい。お客さんからのニーズがあってやる試合もあるけど、それとは関係なしに、自分がやりたい闘いというのが結局は一番だし、あの試合の結果には満足してますよ。それは数少ないもんですけどね。

―で、気がついたら『戦極』に石井（慧）さんや泉（浩）さんが入ってきて、吉田さん、瀧本さんとその三人をメンバーにしたJTTなるグループが結成されて『戦極』はより柔道色が強くなりました。1月から試合してない菊田さんはますます影が薄くなってますよね。

菊田　「影が薄い」ってメチャクチャ言いますねぇ（苦笑）。こっちからすると「そんなメンバーが集まってやるんだ。おもしろいですね」とはなりませんよね。

―あ、おもしろくないですか?

菊田　だって、現にそのメンバーの一人にボクは勝っちゃってるわけだし。

―あ、そうか。菊田さんって瀧本（誠）さんに勝ってるんでしたっけ（笑）。

菊田　それはずいぶん前だから忘れている人もいるかもしれないけど（笑）。あの中でやってない人って言ったら石井選手になるわけじゃないですか。

―泉さんもいますよ。

菊田　いやあ、まあ、石井選手は金メダリストだからね。銀メダリストも凄いんですけど、3つ目の金メダリストを食えたらそれがいちばんおもしろいわけで。それに石井選手は現役のチャンピオンですからね。そこも大きいかな。

―いままで現役の金メダリストが総合のリングに上がったことはないですよね。

菊田　現役のチャンピオンが来ることはないから。あれからオリンピックは行なわれてないわけだから。あのメンバーの中で誰と闘いたいといえば、自然に石井選手ってなりますよね。

―石井選手はリング上で遠回しに吉田さんと闘いたいことをに匂わせています。『戦極』のほうでも吉田vs石井戦は大きな目玉として考えてるのではないかと思うんですね。

菊田　そうですかねぇ。

―あ、菊田さんは違いますか。

菊田　一般層としては、どっちが勝った負けたで話題になるのかもしれないけど、男のプライドを懸けた闘いとして考えると、なんか二人とも仲がいいふうにしか見えないし、リング上でもにこやかな感じだ

菊田は1.4「戦極の乱」で、柔道時代からの憧れの存在である吉田に容赦なくパウンドを落とし続けて判定勝利。瀧本からは05年の『PRIDE 男祭り』で、同じく判定勝利を収めている。た、たしかにゴールドメダリストハンター?

し。だったら〝ゴールドメダリストハンター〟として自分がやるほうが緊張感あるんじゃないかな。

――〝ゴールドメダリストハンター〟⁉

菊田　そうですよ。金メダリストの二人に勝っていれば。柔道落ちこぼれでも立派な金メダリストハンターですよ（キッパリ）。

――そういえばそうですね。じゃあ、ここから話者表記を「菊田」ではなく『戦極G』ばりに「菊田G」にしたいと思います。

菊田G　意味わかんないですよ～（笑）。

――（無視して）でも、石井選手はヘビー級でやるみたいですよ。

菊田G　石井選手はデビュー戦ですから、ボクが体重を上げてもいいかなって思いますけど。もちろんナメてるわけじゃなくて、いまの時点でも石井選手は強いと思いますよ。普通のプロの初戦レベルではないと思います。身体も締まってきてるのがあきらかにわかるし。身体能力も全然違うと思うし。

――石井選手とは何か接点はないですか？

菊田G　ないですよ。だからおもしろいんですよ。やっぱり試合ってこのあいだの北岡（悟）と廣田（瑞人）みたいに「どっちが勝つんだ？」っていう緊張感がおもしろいんですよ。三崎（和雄）と中村（和裕）選手もそういう試合だったと思うし、なんにしても意地を懸けた闘いっていうのは緊張感が出ると思うし。そういった中では吉田さん自体は前回ボクに負けてるわけだし、緊張感から言ってもボクのほうがふさわしいんじゃないかなとは思いますね。

――へんな話ですけど、石井選手と闘えたら「おいしいな」っていう気持ちはあります？

菊田G　そんなのはないですねぇ。やっぱり石井選手は格闘技界の逸材なのでね、純粋に闘いたいなって思いますよ。カードは主催者が決めることですけど、言うことはちゃんと言わないと。

――三崎選手が中村選手に勝ったことでジョルジョ・サンチアゴの対戦相手が空いてますけど、そこに名乗りを挙げようとは思いませんか？

菊田G　やっぱり年齢的にはタイトル挑戦っていうよりも、意味のある選手と闘いたいっていう気持ちが強いですね。やりたい相手がタイトルを持っていたら一番いいんですけど。そういう意味ではサンチアゴは正直ピンとはきてない。それに三崎とカズ選手がいろんなキツい思いして闘ってるのを〝飛び級〟するようでちょっとどうかなぁと思う。

――そういう意味では『戦極』を刺激するわけではないですけど、DREAMの選手であったり……。

菊田G　名前は言えないけど、やりたい選手はいますよね。

――政治的な状況から可能性はあるんですか？

菊田G　それはちょっとわからないです。でも、外国人ならあの選手、日本人ならあの選手っていうのはありますね。ただ現実的には『戦極』にいるわけだから、石井選手と闘いたいのが本音ですね。

Sanae Kikuta

べつに「おいしいな」と思って石井選手とやりたいわけじゃない

――わかりました。〝ゴールドメダリストハンター〟の今後にはおおいに期待するとして、次はチームメイトのお話なんですけど。

菊田G　はいはい。

――『戦極』としても郷野さん絡みでいろいろ考えてたこともあったんでしょうけど、そこはうまくいかない結果になってしまいましたね。

菊田　そこは総合なんでね。妙に頑丈なヤツもいるし、うまい人が勝つともかぎらない。長年観てて よくわかってらっしゃると思うんですけど。総合ってのは、何が起こるかわからないですよね。

――ホントに何が起こるかわからないと思ったのは三崎vs中村戦もなんです。翌日から無期限出場停止、ファイトマネーもなしで、どうやってモチベーションを保って臨むんだっていう思いで見ましたけど。正直、前日計量のときから顔つきに精彩がなかったと感じたんですが、練習はちゃんとされていたんですか？

菊田G　サンチアゴ戦のあとは練習できてなくて、始めたのが1ヵ月半前からだと思うんですよ。顔は丸くなっちゃったし、なんか優しい感じで実際強くなってるはずないのに、得体の知れないパワーが出ていたのは事実なんですよ。いままでこんな三崎は見たことないです。

――へえ～！

菊田G　今回こういうことが起きて、まっさらな状態になったことで三崎に宿っていた本当の強さが出てきたというか。ナチ

郷野は入場こそ「ゴールドフィンガー99」をBGMに「郷野聡寛じゃなくて、ゴーーノアキヒロです!」とスベリ芸で会場を沸かせていたが、試合はダン・ホーンバックルのハイキックを浴び、壮絶なKO負け。日本復帰マッチはホロ苦い結果となってしまった。

この試合後に無期限試合出場停止が決まっている三崎は、中村カズに跳びヒザを直撃させ、そこからフロントスリーパーを極めて激勝！　その瞬間に飛び出してきた菊田と、ショルダースルーで投げ飛ばすんじゃないかと思うくらいに熱い抱擁！　おまえの心が俺にも届いた！

今回の試合は「いまの三崎なら負けようがない」って確信があった

ユラルのまま闘えたんじゃないかなって。すべてを悟ったかのような試合でしたよ。

——1ヵ月半のあいだ、練習に集中はできていたんですか？

菊田G だからといって朝から晩までやったら身体は壊れちゃうし、やれることは限られてたと思いますけど。まあ、自分で招いたことですけど、精神的な部分、人ともなかなか顔を合わせられない中で、よく試合を迎えて闘ったと思いますね。でも、結果というか、こうなるとはもうやる前からわかってましたね。

——これは勝てると？

菊田G 思いました。1ヵ月半前、練習で組んだときの感じからして凄かった。初日の練習でダメだったら、どうやって状態を整えていこうかって考えていたんですけど、もう初日から仕上がってたんですよ。

——凄いですねぇ（笑）。しばらくグラバカにも来てなかったのに。

菊田G そうなんですよ。でも、あきらかに以前の三崎とは何かが違ってましたね。

——それは技術的なことじゃなく？

菊田G そうですね。何かはわからないですけどね。そのとき思ったのはいろんなことがあったし、練習もできてなかったし、理屈を考えると絶対に無理なんですよ。ボクも万全なときにやらせたかったんですけど、「いまの三崎なら負けようがない」って確信はありました。もちろん中村選手も強い選手ですけど、負けることが想像できなかった。

——中村選手のほうもいろいろあってネガティブになってたみたいですけど。

菊田G 申し訳ないのは、三崎がこうなってしまったことでカズ選手は大変だったなと思うんです。本当に普通の状態で試合をさせてあげたかった。雰囲気は格闘技では稀に見る異様さでしたし。三崎が入場するときに観客が反応してなかった。普通なら歓声があったり、ブーイングがあったりするのに客が止まってるっていうか。ただヤツはいつものようにグルグル腕を回すわけではない、カッカするわけでもない、素の状態で一番の強さを見せた。今回の試合で何か大きなものを得たんじゃないかと思いますね。

——試合後、三崎さんと抱き合いながら菊田さんが「つらい思いさせてごめんな」って声をかけてましたね。悪いことは悪いと認めたうえで三崎さんを守ってやれなかったことに対して、何か思うことはあったんですか？

菊田G 悪いことは悪いし、三崎が自分でやってしまったことなんですけど。やっぱり、こういう処分のまま試合をさせてしまったのは……。なんていうか、つらい思いをさせたなっていうしか言葉が出ないですよね。

——それこそ秋山成勲戦のバックステージの様子を見るかぎり、三崎さんと菊田さんの信頼関係って凄くありますよね。

菊田G 古いですからね。知り合ったきっかけもある意味、運命的な感じがするし。まあ、チームメイトとはみんなそうだけど、いつも仲がいいわけじゃないし、兄弟ゲンカみたいなこともするけど。やっぱり運命的というか、みんながいないと何もできないというのは感じますよね。

——試合後の三崎さんはどんな感じでしたか？

菊田G 黙って帰っていきましたよ。今回の試合は、本当に自分のけじめとして出ただけで、ほかにモチベーションはないと思いますね。自分に与えられた仕事をまっとうした。それだけのことですね。

——本人は勝利の確信はあったんでしょうかね？

菊田G なかったと思います。本人はこの試合がターニングポイントで、もし負けたりしたら今後のことは考えられないくらいの気持ちだったと思いますね。

——もしかしたらそのまま格闘技界から離れてしまうかもしれない、と。

菊田G かもしれない。だからそう考えるとあれは無の力、欲のない無の中でドンとバカでかい力を出した。そういう試合だったと思いますね。これからどうなるんだとか、対戦相手とか、状況だとか、一本取ろうとか全然そんな気持ちはない。仕事として出ましたけど、無のままだったかなっていう。

『戦極』としては、コミッショナーにファンからの嘆願書を提出する動きもありますが、「早すぎる」っていう批判的な声も上がってます。

菊田G 今後のことはまだ何も考えられないですね。もちろんこの勝利で帳消しになるわけじゃないですけど、あいつのあの日の気持ちはわかってもらいたい気持ちはありますね。

——あの精神状態で闘うことはそうそうないですし。

菊田G 普通だったら表に出ていくだけでも大変なこと。並大抵の心臓じゃないですよ。神がかってますよ。技術的なことを言っちゃうと、三崎は技術に走ることもあったんですよ。そういうときは判定とかも多かったりしたんだけど、何か一発やられたあとに吹っ切れていくときって本能じゃないですか。

——郷野さんも三崎さんは「第2エンジンを搭載している」って言ってますよね。何かやられてからそれがかかるって。

菊田G それは秋山戦もそうだけど、今回は初めから無の状態で行ったから、ナチュラルの強さってこういうことをいうんだなって思いましたね。

——早く謹慎が解けて三崎さんの試合が観たいですね。謹慎してるわけじゃないのに試合ができない菊田さんを前にして言うのもなんですけど（笑）。

菊田G おもしろいこと言うなー、まったく（笑）。ボクも試合はしたいですけどねぇ。

——では、次の試合、ゴールドメダリストハンターとしては、石井慧に宣戦布告ってことでよろしいでしょうか？

菊田G 石井 vs 吉田、だったら俺でしょう！

【09年8月4日／都内・グラバカジムにて収録】

きくた・さなえ■1971年9月10日、東京都出身。小学生時代にスーパータイガージムに入会。中学、高校、大学は柔道部で活躍。新日本に一度、Uインターに二度入門するも挫折。その後は修斗、リングス、PRIDE、パンクラスなどさまざまな舞台で活躍。現在は「戦極」を主戦場とするグラバカのボス。176cm、89kg

自然にやっていくなかで切磋琢磨して生まれていくものがスターですから

――今日は休日だけあって、ほかの社員は事務所にいらしてないんですね。

國保 自分で事務所の鍵を開けて仕事してますよ（笑）。

――あ、そうなんですか（笑）。

國保 事務所に誰もいないから、社員に「今日は休みなの？」って電話したら「いま向かうところでした」って言ってたけど。

――『戦極』は土日はお休みじゃないんですか？

國保 いや、休みは休みなんですけどね。

――まあ、ボクが社員でも國保さんには「たったいま向かうところでした」って言いますけど（笑）。

國保 何それ（笑）。

――失礼かもしれませんけど、國保さんってけっこうハッキリとものを言うから誤解もされやすいんじゃないですか？

國保 どうなんでしょうねぇ。そこはフニャフニャ言ってもしょうがないですからね。

――それはある意味、スポークスマンとしての役割だと理解しているんですか？

國保 そうですね。少しでもわかりやすく言わなきゃいけないと思いますし、当然わかりやすく言ったがために誤解は出てくるかもしれないですけど、誰かが言わなきゃしょうがないですよね。そういう意味では賛否両論あるのはしょうがないです。言わないことには何も出てこないと思いますしね。

――今日もストレートに発言していただきたいと思ってますが、先日の『戦極～第九陣～』は年間ベスト興行とも言える内容でした！

國保 ありがとうございます。主催者としては興行時間の長さがけっこう気になったんですけどね。今回はPPVの時間枠を充分に取ってましたけど。

――そういえば、お正月の『戦極の乱』は、放映時間の都合で北岡さんのマイクが放送できなかったという珍事がありましたね（笑）。

國保 イヤなこと思い出しますねぇ（笑）。

――でも、今回は長さが気にならなかったくらいの好内容で。

國保 まあ、ホントに選手たちが頑張ってくれて。とくにフェザー級GPは3月から回数を重ねるごとに内容もよくなってきたと思います。

――GP開幕当初は無名に近い選手が多かったんですけど、そのうち選手それぞれの個性が認知されていって。

國保 ホントそうですね。レギュラーメンバーもだいぶ定着してきましたし、今後はさらに熱が生まれると思います。

――大会全体を通して気になったのは、主催者の意図どおりにならないおもしろさがあったところなんです。

國保 確かにまったく予測不能と言いますか、試合展開も含めて予測不能でしたよね。日沖（発）選手が決勝戦に出れなくなったこともそうですし。

――小見川（道太）さんは日沖さんに怒ってるみたいですけど。

國保 なんで怒ってたんですか？

――決勝を棄権したんだから閉会式や一夜明け会見には出るべきじゃないだろう！ってことみたいですけど。

國保 おそらく小見川選手からすると当日の状況がまったくわからなかったと思うんですよ。試合後の日沖選手はホントにもう手が握れないぐらいの状態だったんです。立ち上がることもできない状態で、ドクターの診断結果も試合は当然無理。酸欠状態と脳震盪のような症状で、時間が経てば回復するという診断結果で「なんとか休憩中までで判断しましょう。それまでにしっかりと回復したらやらせましょう」ということになって。で、休憩中になってもやっと上半身だけ起きれたもののやっぱり立ち上がれない。で、そういう状態から閉会式までに立ち上がれるようになったということです。その現状がわかればそういうコメントは出ないと思うんですけど。

格闘技は何が起こるかわからない!! ……とはいえ、今回の「戦極」は予想外の展開によって、格闘技が本来持つべき醍醐味が爆発したのであった しかし、海外のオンラインカジノで金原に賭けていたファンはどれくらい儲けたのか……!?

――金原選手との試合はそれくらいの激闘でしたね。

國保 あまりの素晴らしさにあの試合を観たスポンサーさんが「今回からベストバウト賞を作ろう！」って言ってくださって。それぞれに50万円ずつボーナスが出ることになったくらいですから。

――その場で決めたんですか？

國保 その場で決めました。これからも大会ごとに100万円を出すと約束してくださいました。

――歴史的な試合だったんですねぇ（笑）。で、意図しないおもしろさをどう転がすかっていうのが格闘技興行の醍醐味だと思うんですけども。國保さんは主催者として、先を見越してマッチメイクしてるところはあるわけですよね。

國保 もちろん日本人が決勝に上がってくれれば、日本で開催する以上は盛り上がりますし、アメリカでやるならアメリカ人が決勝に上がらなきゃしょうがないでしょう。そういう希望はありつつも、昨年のライト級GPのときもそうだったんですけども、ウチは強い外国人選手を出してますし、その強い外国人に勝って日本人選手が残ってきてるんですね。決して安易なマッチメイクで勝ち上がったことではないと思うんです。

――國保さんは常々「スターは作るというより生まれるもの」というスタンスですね。

國保 自然にやっていくなかで切磋琢磨して生まれていくものがスターだと思いますから。当然、日本人選手を多く出すということが、日本でやっている興行の主催者としてのバックアップだと思いますけど、あとはもうボクらが手を加えられることじゃないですから。

――今回の大会で藤田（和之）選手と中村（和裕）選手が負けたことは主催者からすれば痛いんじゃないですか？

國保 いや、これはもうどっちが勝ってもいいと思って試合をさせています。

――たとえば藤田選手が勝てば当然、石井（慧）選手との対戦機運も高まりましたよね。

國保 でも、イワノフ選手が勝てば、これからのイワノフ選手に対する期待が高まるでしょうし、今回の試合ではイワノフ選手がどれだけできるのかという判定ができずじまいというのが正直あると思うんです。1ラウンド途中で両拳を骨折してますからね。

――両拳骨折でよくあそこまで闘いましたよね。

國保 だからこの次のイワノフ選手がどこまで頑張れるのかなっていう期待感はあると思うんです。

――ただ、藤田サイドは今回の判定に相当不満なようですけど。

國保 そうでもないみたいですよ。その後いろいろやり取りをしましたけど。

――試合直後で興奮していたこともあるんですかね。

國保 結果判定ということですから、どっちがどっちということではないですけど。藤田選手もトラビス・ビュー戦は一発でノックダウンを食らっていたんで、少し打たれ弱くなってる心配もあったんですけど、あれだけ殴られても前に立ち向かっていく姿勢というのは観る者を熱くさせるものがあると思います。

――あとメインの北岡（悟）選手は試合後に引退をほのめかすような発言をされてましたけど。

國保 ボクが北岡選手に着目しだしたのは、DEEPのファブリシオ・ピットブル・モンテイロ戦からで、本当ならあの試合に勝ってPRIDEという舞台に出れるはずが出れず。それからずっと勝ち続けて『戦極』に上がりましたけど、『戦極』を盛り上げるとともに自分が所属のパンクラスを盛り上げる中で、ここで一

瞬フッと気が抜けたところはもしかしたらあるかもしれない。結果的に廣田戦はこういう結果になりましたけど、いままでも秒殺劇をやるためには非常にスタミナは消耗するし、もしかしたらその前の試合でもこう負けていた可能性はあるし、そのリスクを省みず極めにいった結果が秒殺だと思うんです。そういう意味では本人が口には出さないまでも本当にいろんなプレッシャーと闘っていたと思いますね。ここで北岡悟の第一章というか、ボクが知ってるかぎりの第一章を終えて、本人の気持ちもありますけど、これから第二章をぜひスタートさせてもらいたいと思います。

——新王者になった廣田さんの防衛戦の相手はどうお考えですか？

國保 光岡（映二）選手がお正月に（セルゲイ・）ゴリアエフに勝って、今回クレイ・フレンチに勝ったことで一歩リードしたというところはありますけど、あとは横田（一則）選手がライアン・シュルツにどんな勝ち方をしてくれるか。勝つことは必須で、どんな勝ち方をしてくれるのか。それから五味（隆典）選手がどう出てくるのか。ぜひもう一度このチャンピオン戦線に食い込んできてもらいたいと思ってますね。

——五味選手がいきなりチャンピオンシップに絡む計画はあるんですか？

國保 それはないですね。

五味vs廣田戦をやるのが興行的にも一番盛り上がると思うんですけど。

國保 光岡選手にしても横田選手にしても、実際に結果を残してきてる選手たちがいますから。五味選手が『戦極』でいま2連敗してるなかでは厳しいかなと思いますね。

——では、ミドル級王者のサンチアゴの対戦相手はどうなるんでしょうか。無期限出場停止が発動した三崎（和雄）選手が中村選手に勝ったことで挑戦者が不在ですが。

國保 9月にもう一度決定戦を組むのか、もしくはノンタイトル戦にするのか。11月の両国大会でサンチアゴには出てもらいたいと思ってます。

三崎選手が挑戦者になることはありえるんでしょうか？

國保 11月の段階ではちょっと厳しいと思いますね。

——三崎選手の処分は賛否両論ありますが、國保さんとしては苦渋の決断だったんですか？

國保 ボクではなくコミッションが決めたことですから。正直、自分で決めるとなってもなかなか難しいと思うんですよね。格闘技は世間的に注目度を浴びてきたという状況があるからこそ問題にもなるんでしょうけど、世間を騒がしたということはそれが微罪であるとかいう問題ではないのかなということもありますし。実際にコミッションが会議を行なって、いろんな意見があるなかで決定した処分ということです。当然、会議の中でもいろんな話題が飛び交ってましたから。

——國保さんはその会議に出席されたんですか？

國保 出ましたね。

——國保さんはどういう意見を述べたんですか？

國保 ボクが意見できるような場じゃないんです（笑）。ボクはお手伝い的にその場には出ました。

——國保さんは興行主ですよね。ある意味、コミッションというのは興行があるから機能する部分があるわけじゃないですか。興行側からの意見というのは出せないものなんですか？

國保 興行側としては知ってるかぎりの現状の説明するだけですね。

——でも、ある意味、看板カードだったわけですから、そこで興行側の意見が出ないのもおかしな話ですよね。

國保 簡単に言うとですね、『戦極』のコミッションは、大相撲の横綱審議委員会だと思っていただくとわかりやすいと思うんですけど。良識があって地位と名誉がある方々にやってもらってますから、なんらかの問題があれば自分たちの地位や名誉に傷がつくでしょうし、どこで何を取材されても胸が張れる結論を出してると思いますから。

——コミッションからすれば、へんな話チケットの売れ行きが下がっても、あまり関係ないっちゃあ関係ないんですかね？

國保 あまり考えてはもらえないと思いますけど。

——今回の処分は各委員の意見をまとめたものなんですか？

國保 そうですね。ファイトマネー全額没収に関しては、ファイトマネーは払うけども選手側のほうから「迷惑をかけたから何かに使ってほしい」ということで。主催者側が全額を払わないということではないですね。基本的には払った金額に対して「何かに使ってもらいたい」という申し出を飲んだということですかね。

——極端な話、國保さんの立場からすると、興行的には出場停止処分は解いてもらいたいぐらいですか？

國保 う〜ん、個人的にはそうしたいですね。

——大会翌日の会見でおっしゃってましたが、ファンから要望があれば処分解除を求める嘆願書をコミッションに提出したいというのは本心ですか？

國保 本心ですね。それはもうファンがどれだけ要望してくれるか。ただ、そのために署名運動を行なったりすることはありません。

——たとえば、コミッション側主導で今回の処分を発表するというような形式を取られてもいいのかなと思うんですけど。

國保 今後、そうする可能性はありますね。充分にあります。いまは少しでもスピーディに発表したいということで、我々が発表をしていますけど。突発的なことでコミッションからすれば、なかなか予定が取れない事情もあるんですよ。

——了解しました。話は変わってジョシュのドーピング問題が騒がれてますけど、國保さんは日本におけるドーピング問題をどうとらえていますか？

國保 一言で言えば、「甘さ」は非常にあると思います。我々でもドーピング検査をしてないわけではないんですけど、どうしてもオフィシャルドクターのもと検査をしていますが、非常に網の下を潜れるような検査であることは否めないです。じゃあ、どうすればいいのか？　と。これは外部機関に委ねざるをえないと思うんですね。

——そうしないと信用は得られないところはありますね。

國保 将来的にはJADA（日本アンチドーピング機構）との話し合いの中で検査を実行して、もしドーピング検査に引っかかるようであれば、我々のほうからではなくJADAのほうから発表するようなシステムを作りたいです。

——そこまでできたら凄いですね（笑）。ジョシュの陽性反応の件はどう思われますか？

國保 まずカリフォルニア州のアスレチックコミッションと我々とまったく相互関係がないんですね。そうすると、そこをどこまで信頼すればいいのかというのは、正直な話よくわからないとしか言えないんです。だから、まずは我々がシステムを作って、その中で違反すれば、コミッション規定に沿った罰則が与えられるということをやっていきたいです。

——それはいつ実施されるんですか？

國保 今大会から選手に指導をしていますけど、9月の大会から正式にやりたいと思ってます。

——チェックはどこの機関が行なうんですか？

國保 最終的にはアメリカで尿検査をするということになるんですけども。

——そうすると時間はかかるし、お金もかかりますね。いまそういったことをやれる団体は限られてると思うんです。少なくともDREAMと『戦極』しかできないんじゃないか、と。

一部スポーツ紙上で國保氏の「（判定結果が）イヤなら出なければいい」発言まで飛び出した藤田vsイワノフ判定問題だが、國保氏の話によれば無事に収拾したっぽい。よかったよかった

日本格闘競技連盟とは？

現在、国際オリンピック委員会（IOC）、アジア・オリンピック評議会（OCA）が開催している格闘競技の大会へは、財団法人日本オリンピック委員会（JOC）への非加盟団体は参加できないため、すでにJOCへ加盟している日本レスリング協会の福田富昭会長の音頭のもと、発足を目指しているのが日本格闘競技連盟だ。意見交換会にはMMA関係では『戦極』、パンクラス、修斗、GCM、ZSTなどの関係者が出席している

國保 これも将来的には日本格闘競技連盟の傘下団体はすべてやれるようにして

シングの団体が出席してますから。

——そうですか。話は戻りますが、今回

うとしていると同時にジョシュを上げた

いと希望するのは、ちょっと誤解を招き

からアフリクションがいろんなところと

話してるという話は聞いてましたから

E全盛期のときは「この相手はイヤだ、

いくらじゃないきゃイヤだ」って選手は

アフリクションの動きを見ると ジョシュの件は意図的なものを感じる

國保 これも将来的には日本格闘競技連盟の傘下団体はすべてやれるようにしていきたいと思ってます。

――日本格闘競技連盟は準備会合も含めてたびたび実施されてるようですが、そこには日本のプロ興行関係者は全員出席されてるんですか?

國保 もともと準備委員会の前の段階がありますけど、呼びかけた団体で出ようと思ってるところが出てますね。当然それに賛同しないという団体もあるでしょうし。

――DREAMの関係者は出席してるんですか?

國保 してないですね。私たちも呼ばれたほうですから、(不参加の)その理由はわからないですけど。

――じゃあ、格闘競技連盟がDREAMを呼んだかどうかもわからないということですね。

國保 私にはわからないですね。その場所に行って初めて会う方も多かったですから。マスコミからは松澤(=本誌・阿修羅チョロ)さんも出席されてますけど。

――DREAMの関係者が出席していないのに、競技とは無縁の『kamipro』の、しかも阿修羅チョロが呼ばれてるっていうのも凄い話なんですけど(笑)。あの~、ぶっちゃけ、その組織は反DREAM派っていう認識でよろしいですか?

國保 そんなことはないです。まったく総合とはかけ離れたムエタイであるとか、キックボクシングの団体関係者も出席してますし。基本的にはアマチュアをやってる団体や組織ということなんですかね。だからK 1ではなくキックボクシングの団体が出席してますから。

――そうですか。話は戻りますが、今回のジョシュは非常に珍しいケースで試合前に出場停止になりましたが、『戦極』としてもそういう決断を下さなきゃならないときもあると思いますか?

國保 いま相談しているシステムのなかでは、試合前の出場停止はありえないですね。試合2週間前に抜き打ち検査ができるかというと、いまのところそれはなかなか厳しい。試合前後で行なわれるのが通例にはなると思います。特別に抜き打ち検査をするという可能性はゼロじゃないですけど。

――そのジョシュ・バーネットの『戦極』出場の話も挙がってますが……。

國保 11月ぐらいに「どうでしょうか?」という話は昨日しましたけど。本人的にはやっぱり8月に試合するために身体を作ってきたので試合をしたい気持ちはあるみたいですし。

――『戦極』がドーピング問題に取り組もうとしていると同時にジョシュを上げたいと希望するのは、ちょっと誤解を招きかねないところもあると思うんですけど。

國保 うーん、ジョシュがやってるかどうかっていうのは僕らには判断できないですから。あくまでもカリフォルニア州のアスレチックコミッションの処分で我々とは相互関係はないですから。

――ジョシュ本人はもちろん「やってる」とは言ってないですけど、2回目の検査結果もクロが出て、限りなくクロに近いファイターという認識はできつつありますよね。

國保 もし仮にクロという結果でも、試合自体はカリフォルニア州以外ではできるとジョシュは言っていましたけど……。なんかいろいろあるみたいですね。詳しくはカリフォルニア州のことなのでわかりませんが。

――あとはイベント側がどう判断するかになりますね。

國保 まあ、そうですね。ただまあ、『アフリクション』もなくなって一週間も経たずにUFCのスポンサーをやるということですから。これ、一週間で決まる話じゃないですから。2ヵ月も3ヵ月も前からアフリクションがいろんなところと話してるという話は聞いてましたから。まあ、今回の件は意図的なものを感じますよね。

――『東スポ』で國保さんは「ヒョードルvsジョシュをやれるんだったらやりたい」と言われてましたけど。

國保 そうですね。ヒョードルはストライクフォースと契約しましたけど、仮に話ができるんだったらぜひやりたいですね。

――けっこうお金がかかると思うんですけど(笑)。

國保 まあ、あくまでも費用対効果として合うならば、ということですけども(笑)。

――いまって外国人選手にお金がかかる時代ですよね。

國保 でも、いまはアメリカも含めてどんどん安くなってきてると思いますよ。やはり一つ大切なことは興行が続いていくことだと思うんですよね。どんなに選手たちが頑張ってファイトマネーを上げていっても興行がなくなってしまったらゼロですから。そうなるとやっぱ興行を続けていくこと、それを大多数の選手たちが理解してきていますから。それは日本だけじゃなくてアメリカとて同じことが言えると思いますし。

――いまのファイトマネーの規準って國保さんからすると高いと思いますか?

國保 やはり昔からのトップ選手たちは高い規準のもとに出てますから。もちろん身体を張って頑張ってるのがわかるから、少しでも多く払ってあげたいという気持ちはありますけども。とにかくいまはまたちょっと昔に戻ったと思うんですよね。

――ちょっと昔と言いますと?

國保 PRIDE全盛期のもっと前にまた戻ってきたと思うんですよ。PRIDE全盛期のときは「この相手はイヤだ、いくらじゃないきゃイヤだ」って選手は言ってましたけど、いまとにかくチャンスを与えてもらいたいという。PRIDEのときも最初はみんなそんな気持ちだったと思うんですよ。「とにかく試合に出たい」って。

そう考えると、この2~3年はギャラにしてもカードにしても選手サイドの要求が通りすぎていたところはあるんですね。

國保 マッチメイクにしても「これはイヤだ」って言ってるから組めない、それで発表が遅れることもありましたからね。

――いまはどこの興行もゲート収入や放映権料だけでは賄いきれず、他の企業からのスポンサードでようやく成り立ってる状況だと思うんですけども、来年以降もその状況は変わらないと思いますか?

國保 それは格闘技の興行に限らないと思うんですよ。あらゆるエンターテインメントにスポンサーがついてますけど、スポンサーありきでやらなきゃいけないというか、スポンサーの費用をアテにしながらやるという。これはアーティストのライブにしてもそういうところは多いですよね。『戦極』も後援会ということで139社から後援を受けています。

――139社!!

國保 一部企業名はパンフレットに載ってますけど。リングの中のスポンサーだけじゃなしに、幅広く多くの人たちに応援していただいているわけです。やっぱり選手に安心して闘ってもらうためにも我々はリング外の環境をしっかり作っていかねばなりません。

――よくわかりました。次回大会も期待してます!

【09年8月8日／都内・社員不在のJ-ROCKにて収録】

賛否両論が飛び交った三崎和雄の「試合翌日から無期限出場停止処分」。本誌としては一刻も早く腕をブルンブルン回す三崎が観たい!! それが"みそぎ"になるって!

ガンツ　いやあ、大会ってなくなる
ほうがよくね？」ってことになったたみ
そんな面倒くさいことする必要ない
プリメントを摂ってるんだ！」って胸

座談会出席者

青木VSシャリオン戦から始まる
新世代興行論・技術論

K-1規模縮小、
DREAMがケージ導入へ!!

嵐の8月
マット界
座談会

ヒョードルはフリーエージェントではなく、M−1所属の契約選手

ガンツ いやあ、大会ってなくなるもんだねぇ。

橋本 ジョシュがドーピング検査に引っかかってライセンスが発行されず、ヒョードル戦どころか『アフリクション』も消滅。

——そして、のりピーばりにトム・アテンシオは失踪！ 最後のセリフは「この辱めをどうしてくれるの⁉」だそうです（笑）。

橋本 ホントかよ（笑）。

ガンツ しかし、今回の件で03年の『猪木祭り』で永田さんがヒョードル戦を受けなかったら消滅するって話を思い出しました（笑）。

橋本 でも、アフリクションの変わり身も早かったよね。あっという間にUFCのメインスポンサーに復帰してさ。

ガンツ 関係者の話を総合すると、アフリクション側は最初から負け戦だとわかっていたんだよね。まず、ヒョードルvsジョシュ戦というメチャクチャ金のかかるカードの発表が遅れてしまった。

——DREAMの基準からすると、ぜんぜん早いんですけど（笑）。

ガンツ アメリカだとPPVを売るためには数カ月には発表しなきゃ間に合わないそうで。だからチケットは売れてないし、PPVも売れるメドが立ってない。「おいおい、どうすんだ、これ！」って頭を抱えてるときに、メインイベントが吹っ飛んじゃった、と。それで「だったら、やめたほうがよくね？」ってことになったみたいだけど。

橋本 考えてみたら、ボードックがMMAから手を引くときも早かったもんね。そのへんの判断は凄くシビアだよ。アフリクションもあくまでアパレル企業だしさ。

ガンツ だから今回のスポンサー復帰の話も、MMA部門ではなく母体であるアパレル部門が主導みたいなんだよね。「それではUFCさん、興行部門もなくなりましたのでよろしくお願いします！」って感じで。だから、一部で言われてる「ジョシュが生贄になった」というのは全然違うと思う。結果的に「じゃあやめたほうがよくない？」っていう話で、大会を潰すためにジョシュを罠にハメるなんてそんな面倒くさいことする必要ないんだから。

——ジョシュの陽性は……ホントのところどうなんですかね。

橋本 そこはわからないよねぇ。本人は「やってない！」って言い張るだろうから、"陽性反応が出た"という事実だけを見るしかないよね。

ガンツ オリンピックのアスリートが陽性反応出て「やってない！」って言い張ったところで、メダル剥奪になるわけだからね。

橋本 遺伝子ドーピングとか、検査に引っかからない方法だって進化するし。永遠のイタチゴッコだよね。

ガンツ フィル・バローニの家なんて、台所の棚が全部サプリメントだったからね（笑）。

——ダハハハハ！ さすがカリフォルニア州では絶対に試合をやらないと宣言している男（笑）。

ガンツ それで「俺はこれだけのサプリメントを摂ってるんだ！」って胸を張るんだけど、「アンタ、これだけ摂っていたら何かしら引っかかるんじゃないの？」っていう（笑）。

——で、『アフリクション』が消滅したことでヒョードルの動向が注目されてましたけど。結局、UFCとの交渉は不発に終わって、ストライクフォースと契約を結びました。

橋本 UFCとの交渉で一番のネックになったのは、ヒョードルが所属するM−1グローバルとの共催問題だって言われてるよね。それはM−1が大会収益を半分寄こせっていうことなのかな。

ガンツ 要は、M−1は「UFCがやってるビジネスのかたち自体がおかしい」と主張しているわけ。ボクシングなんかだと、いろんなプロモーターが興行権を回してイベントを行なうわけでしょ。M−1側は「UFCの主催ゲームもあるけど、こっちの主催ゲームはなぜできないんだ？」と。

橋本 ボクシングもドン・キングがいたり、ゴールデンボーイプロモーションがあったりする中で、交渉次第でドリームマッチができる。UFCは「来るのはいいけど、行くのはダメ」っていうことだから"団体ビジネス"だよね。

ガンツ で、ダナの主張は「MMAっていうのはオレたちが大金を使って作った業界であり、MMAイコールUFCなんだ。ほかのヤツはオレたちが大金を使って作ったものを横取りしようとしてるだけなんだ」と。そして見落としがちなんだけど、ヒョードルってフリーエージェントの選手じゃないんだよね。あくまでもヒョードルはM−1グローバルという団体の所属選手であり、M−1の幹部でもある。それがミルコやヴァンダレイとは全然違うところだよ。

橋本 ヒョードルは団体を背負ってるわけね。

ガンツ これを日本に置き換えてわかりやすく……なのかどうかわからないけど（笑）ちょっと説明すると、はるか大昔にリングスという団体がありました。

橋本 あったね（笑）。

ガンツ そこに前田日明さんという絶対的な存在がいました。前田さんは当時のトップバリューを誇る選手であると同時に、リングスという団体の幹部です。そこにPRIDEというお金持ちのイベントが「前田さん、PRIDEでヒクソンとやってください。○億円払います。ただし3試合の独占契約です。契約期間中はリングスには出場しないでください」と持ちかけた。そうしたらリングスは「ヒクソンと前田をやらせるのはいいよ。でも1回目はPRIDE、2回目はリングスでどうでしょうか」と交渉します。す

試合後、引退をほのめかす発言をした北岡悟。いったいどうなるのか。またキモ強な入場を見せてほしい!!

座談会出席者

堀江ガンツ
本誌編集部員。変態座談会主宰者にして、UWFの再検証がライクワークだったが、いまはUFCに絶賛大夢中。"ミスター北米"の称号を高島学氏から奪取（!?）した男。

橋本宗洋
フリーライター。「kami-pro」携帯サイトでもコラムを好評連載中。それをまとめた単行本を出す計画があるが、アルマゲドン降臨のために作業中断中!?

【司会】ジャン斉藤
選手代理人間の争いになぜか巻き込まれたことをいまだに根に持つ本誌編集長。この辱めをどうしてくれるの!!

るとPRIDEは「おいおい、オレたちがせっかくヒクソンを口説いてきたのになんでリングスでやらせないといけないだ」と返答しました。

橋本　実際にそんな話はあったんだろうな（笑）。

ガンツ　それで交渉が決裂して、PRIDEは「前田はヒクソンから逃げた」と宣伝しています。前田さんは「俺はヒクソンとやるって言ってるのに、向こうが条件を譲らない」と憤慨しています。いまのUFCとヒョードルはそんな状態です（笑）。

橋本　それはPRIDEの理屈も通ってるし、リングスの理屈も通ってる。かといって前田がヒクソンから逃げたわけでは全然ないよね。

ガンツ　ヒョードルはレスナーとやることには合意してるんです。ただしM-1側が「一緒にイベントをやりましょう」ってこと。

―前にも言いましたけど、自分がヒョードルだったら「なんであそこまで言われてまで、わざわざUFCに行かなきゃなんねえのかな」って思いますよ。「シルビアもアルロフスキーも倒したし、もうさんざん強いヤツと闘ってきたじゃん、オレ」っていうさ（笑）。

橋本　ヘンな話、いまのヒョードルは最強を求める段階じゃなくてプライドを満たしたいんだろうね。「ファイターとしての自己満足だけじゃなく、M-1自体を大きくしたい」っていう気持ちにシフトしていったら、そりゃ動かないよね。金もある、名誉もある人間が動くとしたら、そこは信頼関係しかないよなあ。

ガンツ　ただ、ストライクフォースと契約したことで、ヒョードルがまた日本で観られる可能性はグッと高まったのはよしとしたい。

橋本　たぶんDREAMからすれば「共催は全然オッケーですから」って感じだろうし（笑）。

ガンツ　「もう共催じゃなくて、そちらの主催でどうですか？」って（笑）。

―さて、次は『戦極』の話題です。

橋本　三崎はたまらんね〜！

ガンツ　入場から退場まですべてが最高でしょ!!

橋本　黒一色のスパッツ以外は何も身に着けず、腕も振り回さずのシンプルな入場。顔つきすらいつもと違って見えたから。

ガンツ　凄くシンプルな顔。つぶらな瞳になっちゃって。

橋本　サンシャインに助けてもらったときのアシュラマンの顔だよ、あれ（笑）。

ガンツ　あの反省しながらの入場は北尾光司以来でしょ。北尾の場合は、全然反省してない秋山成勲っぽさがあったんだけど（笑）。

橋本　あの過剰なる反省ぶりはインパクトあったねぇ。それであそこまで圧倒的に勝つっていうのは凄い！　これで今後の三崎がどうなっていくのか凄く見ていきがいがあるよ。

―というわけで、現在は無期限出場停止中なんですね。

橋本　まあ、「試合がよかったから、公務執行妨害も許される」っていう理屈はへんだし、そんなこといったら才能があるけど犯罪によって潰れていった人たちはいくらでもいるからなあ。「才能のあるヤツは治外法権にしろ！」っていう理屈にもなってくるからね。だから今回の処分って、『戦極』なりの理屈のつけ方がヘタなんだよね。

ガンツ　ホントそうなんだよねぇ。

橋本　無期限謹慎処分スタートと同時に嘆願書の提出を言い出すこともどうかと思うし。この問題をどう回してくつもりなのかが見えない。

ガンツ　だから「ウチは処分をちゃんとします！　でも試合には出したい!!」っていう思惑が見えちゃってる。こうやって試合をさせちゃったんだからさ、どんどん試合をして騒がせたことを償っていくべきでしょう！

橋本　で、北岡はちょっとオレの不安が的中しちゃったなあ。

―今回の北岡悟は試合前から〝北岡悟〟になりきれないんじゃないかみたいな話はチラホラありましたよね。

ガンツ　まず入場してきたときの顔が違ってた。シンプルに言うと、ぜんぜんキモくないっていう（笑）。

橋本　オレは入場を観ながら「あれ、いつもどおりかなあ……オレが見慣れたからキモく感じないのかなぁ」とかいろいろ考えたりした。

ガンツ　いつもとぜんぜん違ってたよ。いままでは即行でおまわりさんに通報しなきゃいけない顔をしてたんだけど、今回は通報レベルまでいかなかった（笑）。

―今回の敗戦を受けて思ったのは、やっぱり北岡悟は常識人なんだってことなんですよね。周りの視線を気にするところが、常識人であり良い人なんだろうなって思っちゃいましたけど。

橋本　周りからどう見られるかっていうところの反応が、やっぱり一般人的ではあるよね。

UFCはスポーツとしてあたりまえの新陳代謝や生存競争が起こっている

―だからロングスパッツを脱いだときの発言にはビックリしたんですよ。「ノイズを消すため」って、そんなノイズあったんだって。アンチ北岡が「ロングスパッツを穿いてるから一本を極められるんだ」みたいなことを言うかもしれないけど、そんな声をいちいち気にしていたんだなって。

橋本　前にインタビューしたときも「いまオレがパンクラスなんですよ」って言うんだよね。で、その前提として「アンチ北岡がパンクラスファンの中にいるみたいなんですけど」って。「何を気にしてんだ」っていう。

ガンツ　もうね、そういう声は気にしなくていいでしょう。絶滅品種なんだから。

橋本　こらこら！（笑）。だからダナ・ホワイトじゃないけどさ、選手はネットは見るなって言いたいね。

―もしくは青木みたいに図太く居直ってほしいですよね（笑）。

橋本　あの男は図太いね。キックパンツの下にロングスパッツを穿くくらいだから（笑）。

―マジメな話、いままで青木や北岡以上に嫌われていたトップファイターはたくさんいたわけじゃないですか。誰とは言わないけど（笑）。でも、それはマナーとしてマスコミはそういう表現はしないっていうのがあったけども、なんか最近はそういう時代じゃなくなってきたところの象徴的ファイターが青木と北岡なのかなっていう感じはしますけどね。

橋本　北岡みたいなファイターにも、何か凄くかっこいいキャッチフレーズをムリヤリにでもつけようとしてたよね、かつてのマスコミは。

―そうしないと取材拒否されていただろうし。あ、取材拒否で思い出した。『kamipro』速報号の「青木真也よ、UFCへ向かえ！」の記事にDREAMサイドが怒ってるみたいなんだけど（笑）。

橋本　怒ってんだ。

―契約している看板選手に向かって「UFCに行け！」って煽るのは怒ると思う（笑）。それは怒るだろうなあと思いながら書いてるんですけど。

橋本　そんなこと言ったら、オレだって笹原さんに対して怒ってますよ。あと、おまえだ、ジャン斉藤！（怒）。

―え〜？

橋本　笹原さんのインタビューで「藤原あらしとかいう選手」とか「誰も知りませんよ」とか言うなよ！　そこが気になっちゃう俺みたいなのもいるんだよ。

―あれはわざと「とか」をつけたんですよ。

橋本　知ってるよ。わざとじゃなかったらもっとダメだろ！

―しかし、青木が絡むと何かしら騒動になるな。

橋本　おまえがさらに火をつけてるんだよ（笑）。こないだの記者会見も凄かったんでしょ？　笹原さんに「だから素人だって言われるんですよ！」」

って言い放って。
んー　でも良い試合します」って言わ
ルが当たると踏んだわけでしょ。で、
を重視して技術を語ろう」」とはまっ
技の存在を知らしめる」から、案外許

って言い放って。

――う～ん、笹原さんも青木もどっちも間違ってないですよね。

橋本　笹原さんが「勝敗を超えた闘い」を求めることも、充分すぎるくらいわかる。でも、どちらの意見に分があるかといえば、やっぱり青木でしょ。勝敗を超越した感動をもたらすような試合ってさ、選手が必死に勝ちにいく中で生まれるものだから。

ガンツ　「勝ち負けは気にしてません！　でも良い試合します」って言われてもね。

橋本　そんな仕事人はドン・フライだけで充分ですよ（笑）。俺はミノワマンですら勝敗にこだわってほしいんだから。

――でも、青木の試合って毎回おもしろいんですけどね。

橋本　おもしろいよ。青木vsシャオリンもおもしろかったんだけどな。青木はシャオリンを分析して、ミドルが当たると踏んだわけでしょ。で、組み技で負けない力があるからああいう戦法ができる。それに青木はしっかりKOを狙ってたよ。

――まあ、一般人はともかく、格闘技ファンにも理解されないからイラ立っているんでしょうね、青木は。あのマイクで理解されるわけがないんだけど（笑）。だからどっちも正しいし、どっちも間違ってると思うんですよ。たぶん谷川さんや笹原さんの興行論って、PRIDEフジテレビ放送打ち切り以前のものだと思うんですね。

橋本　「PRIDEでは～」って言いがちだよね。

――谷川さんも最近は何かにつけて「魔裟斗くんは～」って言いがちで、もう格闘技黄金時代の興行論。でも、あの頃だから許されたこともたくさんあったじゃないですか。

ガンツ　うん、凄くあった（笑）。イケイケだったし、「もう細かいことはいいから！」な世界だったから。

だからフジ打ち切り以降の選手とそれ以前の興行論が同居したら、ハレーションが起きるのはあたりまえなのかもしれないですね。

橋本　たとえばこないだのDREAMでいえば、マヌーフvsパウロ・フィリオ。かってはあれが「おもしろい！」と言えたかもしれないけど、あのおもしろさには先がない気がする。そこで観客が沸いたから安心してしまうっていうイベンターの心理がわかるところもジレンマなんだけど。

――あの試合は凄く「わかりやすい」ですね。でも、最初からわかってしまうものに興味を示さないのも大衆ですから。だからって「いまこそ競技性を重視して技術を語ろう！」とはまったく思わないけど。

橋本　技術論もどう広げるかが重要だと思うんだよ。「技術がわからなければ格闘技は楽しめない」って言ったら、門口を狭めるだけだからね。楽しく技術を伝えればいいわけでさ。そういう意味で青木って絶好の素材であり存在ですよ。

ガンツ　やっぱり総合格闘技っていつでもトップが引きずり降ろされる世界で、そこがダイナミズムだったりするわけでしょ。そのダイナミズムはいまはUFCに行っちゃって、スポーツとしてあたりまえの新陳代謝や生存競争がUFCで凄く起こってるんだよね。で、日本はどうなってるかというと、そうじゃないところで価値を守ろうみたいな運動が起きやすいんでしょう。

橋本　たとえば視聴率や選手の格だったり、話題性だったり。

ガンツ　それがちゃんと狙えてるならいいけど、実情は勝負しないベテランや元トップファイターとか、お茶を濁す選手のワガママを聞いてるだけにすぎないから気持ち悪いというかさ。

――ワガママを聞いて、費用対効果があればいいんですけど……。それに「お茶の間」とか「世間」とか「わかりやすさ」を求めるのは、凄く理解できるんですけど、そのキーワードをずっと追求してきたあのK-1が代々木第二に規模縮小して、テレビは1週間遅れで深夜枠になってるんですよ。

ガンツ　あのK-1がそんな状況に追い込まれてるんだからね。

K-1っていろいろ物議を醸してきましたけど、「一般視聴者に格闘技の存在を知らしめる」から、案外許されてきたところはあると思うんですよ。どれだけ意味不明な判定で選手をプロテクトしようが「大衆」「視聴率」という印籠があったからオッケーだったと思うんです、極端に言うと。だから西島vsアーツもそういう器の中でやるなら、ルールを変えようが、西島がK-1シロウトだろうが問題ないんですけど。いまは「いったい、どこへ向けてやってるんだろう？」って話じゃないですか。

ガンツ　ハッキリ言って、K-1はDREAMよりブランドに説得力がなくなってきて危ないと思う。どっちも同じ会社だろって話もあるけど（笑）。

――それに去年のK-1WGP決勝は平均視聴率16パーセント近くも獲ってるのに、フジテレビのこの冷たい扱い。ファンから反感を買ってでも「視聴率」を狙ってきた意味がないというか、「大衆」「お茶の間」を連呼しつつのこの現状はホントに心配ですよね。谷川さんはペトロシアンに文句を言って選手のせいにしてる場合じゃないと思うんだけど（笑）。

ガンツ　しかも、コアな格闘技ファンもK-1のことはあまり気にしてないでしょ。GPも誰が優勝しようがどうでもよくなってるというかさ。

―GPもやること自体が目的になっちゃってるところはありますね。

ガンツ　GPってさ、オールスターを揃えて「このなかで誰が優勝するんだろう」っていう興味と、トーナメントを勝ち上がるなかでキャラクターが出てきて物語が生まれてスターが生まれるっていう、その二つのどっちかが良いかたちだと思うんだ。

ビリビリするムードの中で「DREAM 11」でのヨアキム・ハンセンとのタイトルマッチが発表された青木。シャオリン戦のさまざまな反響から、笹原EPが「勝敗を超えた試合」をリクエストすると、青木は「だから素人だって言われるんですよ」と辛辣な発言

今回の『戦極』は後者のパターン。
――おもしろいGPって〝GP男〟が現われますよね。それはハリトーノフだったり、ジョシュだったり。
ガンツ 今回の『戦極』で言うならば、小見川だよね。スターが自然なかたちで生まれてくる。
橋本 『戦極』は一般的知名度の高くない選手が多いから、「こりゃあもう出た目を転がすしかない！」っていう、いい意味での開き直りができると思うんだ。でもFEG系はある程度の駒が揃ってるぶん、「こういう目を出したい」っていう欲が見えちゃうんだよね。
ガンツ それが一番ダメでしょう。イベントのたびに「どっちに勝たせて、次にこうしたい」っていうのが見えちゃダメだと思う。
橋本 それを狙いつつも、ハプニングを受け入れたのがPRIDEじゃなかったかと思うんだけどね。K-1だってもともとはそういう偶発性で盛り上がったんだし。
ガンツ それがいつしか、テレビ番組としてやっていくにはおなじみの人が毎回出ないとダメだみたいな感じで、本来だったら門外漢のテレビマンが言ってることなんか「はいはい」でかわしとけばいいのに、その考えがあまりにも染みつきすぎてて。
――それで興行が成り立つのであれば問題なかった。しかも競技性も高まっているのに、バブル時代の感覚で選手に勝敗を超えたものを要求する。そうやって選手が消耗するんなら、青木なんかはUFCに行ったほうがお互いに幸せになると思ったんですよね。
ガンツ そうじゃなくとも、普通に青木vsBJペンとか観たいしね(笑)。
橋本 DREAMをでっかくするため、盛り上げるために頑張るっていうのはもちろん凄く美しいことで、青木にはそれをやってもらいたいんだけどな。で、青木は実際に凄く頑張ってんのに、イベンター側に頑張ってないみたいに言われたらねえ。もちろん頑張ってるから評価しろなんてことは言わないけど。
ガンツ だからね、考えが古いんだよね。仮にアンデウソン・シウバがいまDREAMにいても「いやアンタ、視聴率が獲れないから」という理由で使わなそうでしょ？(笑)。
――「わかりにくい」とかTBSに言われて、確実に地上波には映らないですよね(笑)。
ガンツ その発想が古いというか、ぜんぜん歓迎できないんだよ。だから、こないだの修斗のJCBが凄く気持ちよくて新鮮だったわけじゃない。それはなんでかっていったら、そういうテレビ至上主義的なものがぶっ壊されて新しい格闘技興行ができそうなムードが見えたからなんだよね。『戦極』のフェザー級GPもそういうムードがちょっと見えたんだよね。
――新しい芽が見えてきた
ガンツ そうそう。だから修斗や『戦極』を踏まえて見ると、本当はDREAMが最先端のとがってることをしなくちゃいけないのに、もの凄く古臭いように見えてしまう。
――DREAMのライト級って、青木、カルバン、アルバレス、ヨアキム、川尻達也、中村大介、菊野克紀がいて、競技の違いはあるけど、たぶんUFCに全然引けをとらないと思うんですよ。べつに勝敗を超えなくても楽しめますって。いいですよ、視聴率なんて。K-1は視聴率を獲ってもテレビに相手にされてないんだからさ。
ガンツ 青木なんて、こんなムードでタイトルマッチをやるのはかわいそうだよ。こんなにみんなが乗ってないときにタイトルマッチをやらなくちゃいけないなんて。
――まあ、それって青木の好き嫌いに起因する話でもあるんですけど。それを最初に言っちゃうと座談会にならないから言わなかったけど(笑)。
ガンツ ホントにそのとおり(笑)。
橋本 興行と競技のあり方は議論するべき問題だけど、青木の確信犯的な人間性も非常にポイントだな(笑)。
――結論としては「青木真也が悪い！」ということにしておきましょう。K-1の規模縮小も青木が悪い(笑)。マジメな話、いまの興行論は微妙なところにあるし、そんな時期に青木vsシャオリン戦がはからずも問題提起してしまってるのは興味深いですけどね。
ガンツ 興行論に付随する話でいえば、10月25日の『DREAM・12』は〝ケージ〟でやるみたいだね。
橋本 オクタゴン？
ガンツ いや、オクタゴンでやるとUFCに訴えられるというから。六角形になるみたいですけど。
ガンツ ヘキサゴンね。今度はフジテレビから訴えられたりして(笑)。
橋本 ケージでやることの意味はともかく、それはある種の場面転換になるかもね。
ガンツ この際ルールも変えちゃったほうがいいと思うよ。5分3ラウンドにしたりして、どんどんマイナーチェンジしてさ。
――刺激という意味では『DREAM・11』のゴールデンタイムから導入すれば物騒だから話題になるのに。「バイオレンス性がどうの」とか言われそうだけど、だいたいTBSは逮捕前で自殺の可能性もある酒井法子の特別報道番組を大々的に放送するモラル観欠如な局ですよ(笑)。
橋本 あれで平均視聴率30パーセント近く獲ったんでしょ。もう背に腹は変えられないはずだよな、TBSは(笑)。

【09年8月某日 都内・渋谷区道玄坂にて収録】

テレビ至上主義的なものをぶち壊すムードが8・2『戦極』に見えた

新世代興行論・技術論

アーツにローを打たれても根性で前に出続けた西島洋介。谷川Pも「勇気をくれた」と絶賛するが、テレビという軸がブレ始めたいま、格闘技のあり方や見せ方への変化が問われてくるのは必至だ

"あの"藤門嘩裟が帰ってきた!! これぞ近未来の格闘技!

熱闘K-1甲子園開幕!

K—1甲子園は新しい!

K—1WGPが規模縮小で地上波での当日放映の機会にも恵まれず、K—1MAXが"大黒柱"魔裟斗の引退でその行方が危ぶまれているが、K—1甲子園は新しい興行論をもってK—1を、格闘技界を背負う可能性を秘めているのだ。

07年からスタートしたK—1甲子園は、今年はスケールアップし、代々木第二体育館で盛大に開催された。昨年は、高校生チアガールがオープニングを飾り、応援席にはバルーンスティックを持った選手の家族や友人がズラリ、さらにラウンドガールも制服を着た女子高生がボードを持ってリングに上がっていたが、今年もその光景はほぼ同じ(ちなみに、今年のオープニングは闘真会館のミュージック空手による空手演武)。もちろん試合のインターバル中には双方の応援合戦も行なわれ、アナウンサーが家族にマイクを向けてリング上の選手に声援を送るという独特のスタイルが大会を盛り上げた。

通常、後楽園ホール規模の大会では選手の知人が一部の客席を占め、大会を楽しむというより、どこか"身内興行"的な空気が漂いがちだが、K—1甲子園はむしろその先を突き進んでいる。言うなれば、全国規模で"身内興行"が行なわれているようなものなのだ!

その興行スタイル同様、K—1甲子園という試みもまた斬新である。底辺拡大というと言葉は簡単だが、「高校生立ち技最強を決める」という設定を作ることで、格闘家を目指す少年にとってはグッとK—1が身近なものになる。つまり、啓蒙活動になるというわけだ。

若年層への啓蒙活動といえば、近年の若者のクルマ離れを危惧するトヨタ自動車が、小学生を対象にクルマを体感・学習してもらうために小学校で授業を開催したというのが話題になった。これも将来のクルマ市場の土台を作るための活動といえるが、ジャンルは違えどK—1甲子園が目指すものもまた同じなのである。

こうして行なわれたK—1甲子園、今年は参加者が増加したために70キロ以下と62キロ以下の2階級で試合が行なわれ、昨年以上の白熱ぶりを見せた。安全面を考慮して装着が義務づけられたヘッドギアやスネパッドで威力が半減するせいか、昨年は判定決着ばかりが目立ったが、今年は強烈な打撃でダウンを奪い、KO決着になる試合も多数。

そんな中でも一番の注目したいのは、やっぱり藤門嘩裟の復活だ!

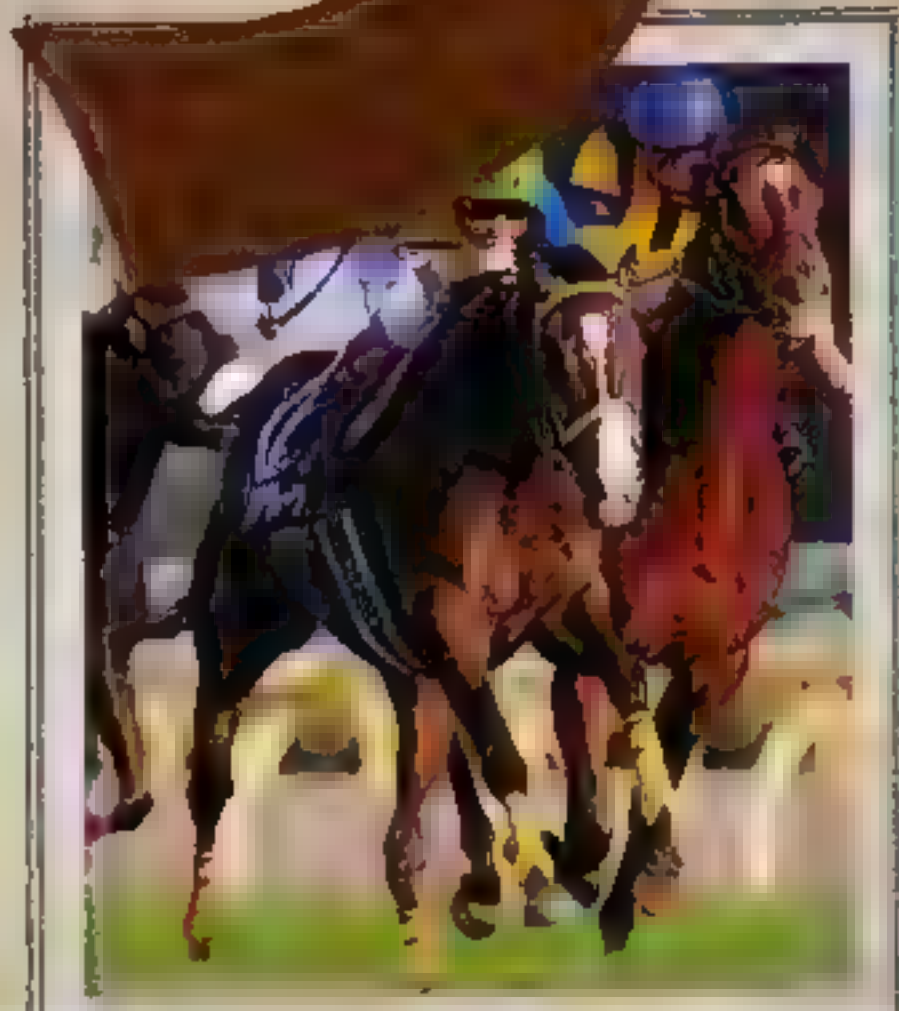
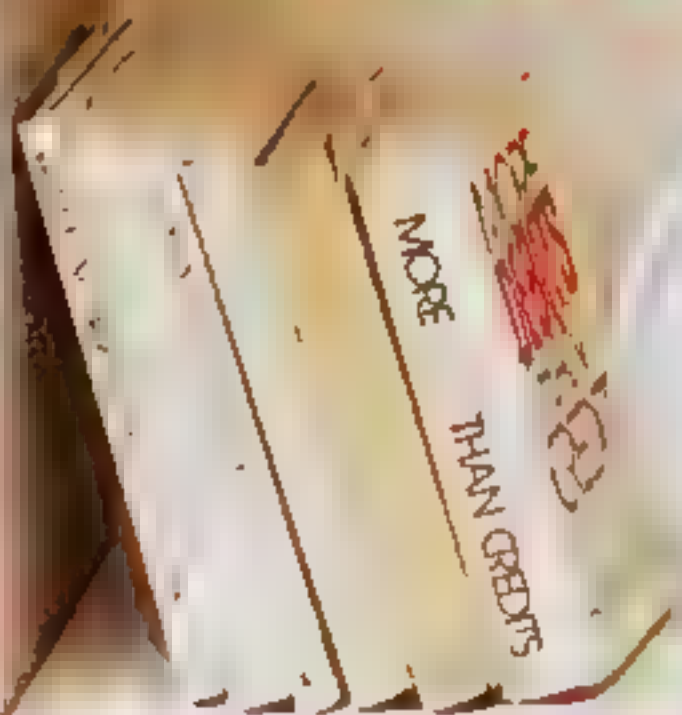
08年はライバルHIROYA戦に敗れて以降、再起を狙うK—1甲子園ではまさかの初戦敗退。さらに、今年3月に行なわれたJ—NETWORKでも延長の末、判定負けを喫し、手痛い3連敗を負っていた。そんな藤門嘩裟なだけに、今年はFINAL16からトーナメントに参加できる主催者推薦枠を得られず、なんと関東地区予選からジワジワと這い上がってきたのだった。

そして、今年は得意の前蹴りがバンバン炸裂し、2ダウンのTKO勝ちでFINAL16を突破。10・26K—1MAX横浜アリーナ大会でFINAL8を闘う切符を手に入れたのだ。

かつてライバルHIROYAの印象を記者陣に聞かれたときに、即答で「ないです!」と殺気を漂わせながら答える藤門嘩裟の姿は、周囲を凍りつかせると同時に色気たっぷりだった。その片鱗が、今大会のマイワールドな入場や勝利後の写真撮影で垣間みられた気がする。

こういった逸材が飛び出し、周囲を巻き込んでいく姿を見るのもK—1甲子園の魅力の一つ。プロ以上に必死な光景がそこにはあるのだ。

というわけで、近未来の格闘技を語るのならば、K—1甲子園から目を離すな!!

(構成 松下ミワ)

このプレゼントどうしてくれるの!?

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2009年9月25日(金)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦いまブロック・レスナーと闘ってほしい選手は?⑧あなたがいま最も応援している選手は誰ですか?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「碧いうさぎと緑のたぬき」係まで

※応募締切は2009年9月15日(火)当日消印有効

PRESENT*01

2名様

廣田瑞人サイン色紙

[戦極／非売品]

8.2『戦極〜第九陣〜』で北岡悟を撃破、第2代戦極ライト級"チャンポン"になった廣田瑞人のサインをプレゼント!

PRESENT*02

2名様

金原正徳サイン色紙

[戦極／非売品]

日沖発、小見川道大との大勝負2連戦をフルラウンド闘い抜いた"ZST最強の男"金原正徳のサイン色紙をプレゼント!

戦極オフィシャルサイト■http://www.sengoku-official.com/pc/

PRESENT*03

2名様

ダン・ホーンバックルサイン色紙

[戦極／非売品]

郷野聡寛に衝撃的なハイキックでKO勝利を収めた"恐怖! 人間ユンボ"ことダン・ホーンバックルのサインも放出! 近日中にkamipro.comでインタビュー公開予定!!

戦極オフィシャルサイト■http://www.sengoku-official.com/pc/

PRESENT*04

1名様

猪木vsアリ大会チケット

[闘道館]

プロレス、格闘技のお宝グッズが山のようにある東京・水道橋のショップ「闘道館」より76年6月26日、猪木vsアリ戦の未使用チケットをプレゼント!!

格闘技・プロレスショップ闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT*05

1名様

FRONT / BACK

7.11『DEEP-X』大会記念Tシャツ

[ブルテリア／3,500円(税込)]

柔術衣、パンツなど格闘技ウェアがなんでも揃うブルテリアから、7月11日に開催された「DEEP-X」の記念Tシャツをプレゼント!! サイズはMです。

ブルテリア■http://www.b-j-j.com/

PRESENT*06

1名様

FRONT / BACK

長野美香『SNIPER M TEE』

[リバーサル／5,040円(税込)]

プロレスデビューもはたすビジュアル系女子格闘家・長野美香のTシャツに、非売品のブロマイドもつけてプレゼント!! サイズはSです。

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*07

1名様

単行本

『ミスター・デンジャー 松永光弘 最後のデスマッチ』

[長崎出版／¥1,680(税込)]

"ミスター・デンジャー"松永光弘と親交の深い元『月刊プロレスファン』編集長・伊藤健史氏が、至近距離で見た松永光弘の姿に肉薄!! 絶賛発売中!!

長崎出版■http://www.doremifa.net/nagasaki-books/top.html

PRESENT*08

1名様

DVD プロレス・スーパースター列伝

『バロン・フォン・ラシク&アル・コステロ』

[クエスト／¥5,040(税込)]

アメリカンプロレスの個性あふれるスターレスラーの姿を往年の名勝負、現在の姿、インタビューなどで構成した感動のドキュメンタリー第3弾。

クエスト■http://www.queststation.com/

PRESENT*09

1名様

DVD 芦原會館

『芦原カラテ 基本』

[クエスト／¥5,880(税込)]

"ケンカ十段"故・芦原英幸先代館長が、一つ一つの技を実戦に役立つよう工夫、改良した基本稽古を芦原英典館長が実演!!

PRESENT*10

1名様

DVD

『CAGE FORCE II』

[クエスト／¥5,880(税込)]

廣田瑞人、星野勇二、水垣偉弥、吉田善行ら、いま世界を相手に活躍する人材を数多く輩出している「ケージフォース」ダイジェスト第2弾!!

PRESENT*11

1名様

DVD 田中光四郎

『日子流小太刀』

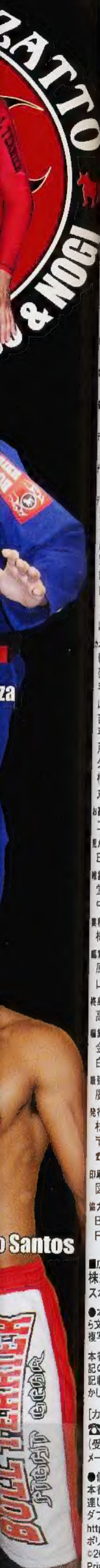
[クエスト／¥5,880(税込)]

1980年代、アフガンゲリラ"ムジャヒディン"とともに旧ソ連軍に立ち向かい、敢然と闘った日本人・田中光四郎が教える究極の実戦武術・日子流護身術。

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro138 応募券
夢冒険

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.138
2009年9月5日 発行

行人
浜村弘一
集人
斉藤慎一
集統括本部長
ジャン斉藤
集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎（波待ちのため非番）
身名誉バイザー
吉田 豪
っ人
ジャイ子
集次長（エア夏休み）
松林 貴
ザインGM
出田さん（TwoThree）
ザイニングマネージャー
金井ヒサくん（TwoThree）
ザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鎌田やっちゃん
白木みのる（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）
メラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
勘定
工藤ちゃん
た目よりも若いんです
BJ入江.com（TwoThree）
誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
務部
櫛本"ミランダ"義之
集庶務
原 正典
山内ユリコ
身名誉編集庶務
高木由美子
集チアガール
金川"ナツコ"奈津子
白倉"クララ"明子
強マダム
廣橋久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）
印刷
図書印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
(受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00)
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

「次にお目にかかれるのは
秋の声が聞こえる頃でしょう」

出るか！"紅のバックファイヤー"
『kamipro』にも

キングRIKI降臨!?

NEXT ISSUE

9.23『戦極～第十陣～』ド直前情報から、
10月のDREAM、2大会のとっておき情報も満載!!

No.139は9月23日（水・祝）発売予定！

※ここだけの話、地域によっては多少発売が遅れることがありますからね。